

松 戸 市

総合計画後期基本計画づくりのための市民ニーズ調査

— 報告書 —

平成21年3月

松 戸 市

目次

I 調査の概要	1
II 質問と回答（単純集計結果）	11
III 調査結果の分析	27
1. 松戸市全体の分析	27
(1) 松戸市の良さ、強み	29
(2) まちづくりの方向性	36
(3) 行政サービスの提供のあり方として相応しい方法	44
(4) 地域活動やボランティアへの参加状況と参加意向	52
(5) 現状評価と重要度	68
(6) 重点的に投資すべき都市基盤整備	88
(7) 教育の役割分担	92
(8) 住みやすさ	107
(9) 定住意向	108
(9) - 1 定住理由	109
(9) - 2 転出理由	110
(10) 地域情報の入手手段	111
2. 地区別の分析	115
(1) 松戸市の良さ、強み	117
(2) まちづくりの方向性	119
(3) 行政サービスの提供のあり方として相応しい方法	120
(4) 地域活動やボランティアへの参加状況と参加意向	122
(5) 現状評価と重要度	124
(6) 重点的に投資すべき都市基盤整備	135
(7) 住みやすさ	136
(8) 定住意向	137
(8) - 1 定住理由	138
(8) - 2 転出理由	139
IV 自由記入	141
付録 調査票	215

I 調査の概要

■調査趣旨

平成 23～32 年度を期間とする松戸市後期基本計画は、「松戸の強みを活かした将来ビジョン」、「市民との目標共有と役割分担」、「選択と集中を明確にした戦略的な実施計画の策定」、「社会経済環境などの市民との共通認識」の 4 つの基本方針をもとに策定することとしている。本調査は、「まちづくりの方向性」等の市民のニーズを的確に把握し、上記の基本方針に沿った計画を策定するための基礎データを取得するために実施したものである。

なお、調査は 2 回に分けて行い、第 1 回調査では松戸市全体のニーズを把握することを目的とし、第 2 回調査では松戸市全体のニーズを把握するとともに、市内 9 地区の情報を取得して地区別の市民ニーズの把握を目的とした。「Ⅲ 調査結果の分析」では、「1. 松戸市全体の分析」において、第 1 回調査と第 2 回調査の結果を合わせて調査分析を行い、「2. 地区別の分析」では、第 2 回調査の結果から地区別の調査分析を行った。

■調査対象者

第 1 回調査 平成 20 年 12 月 15 日現在の住民基本台帳から無作為抽出した 3,000 人

第 2 回調査 平成 21 年 2 月 4 日現在の住民基本台帳から無作為抽出した 3,000 人

■調査方法

郵送配布—郵送回収（お礼兼督促はがき 1 回）

■調査期間

第 1 回調査 平成 21 年 1 月 21 日（水）～2 月 10 日（火）の 21 日間

第 2 回調査 平成 21 年 2 月 18 日（水）～3 月 10 日（月）の 21 日間

■調査の枠組み

説明変数群	
<p>A 属性</p> <p>F 性別 F 年齢 F 職業（勤務地・通学地） F 居住年数 F 家族構成 S F 高齢者の有無 S F 子どもの有無</p> <p>※地区別</p>	<p>B ライフスタイル</p> <p>L 日常のお出かけ範囲 L 交通手段 L 地域情報の入手方法 L 住みごころ L 永住意向 S L 永住の理由 S L 転出の理由</p>

被説明変数群	
<p>政策の優先順位</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>C 政策の重要度・現状評価</p> <p>Q 地域の目指す姿の現状評価 Q 地域の目指す姿の今後の重要度</p> <p>※24 政策ごとの目指す地域の姿 +都市基盤のメンテナンス</p> </div>	<p>ビジョンの検証</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>D ビジョンの検証</p> <p>Q まちづくりの方向性 Q 松戸市の良さ・強み Q 協働意欲 Q 行政サービスの提供のあり方</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>E その他</p> <p>Q 重点投資すべき都市基盤 Q 教育における学校・家庭 ・地域の役割</p> </div>

■回収状況

	母数	サンプル	有効回収数	有効回収率
1回目調査	375,913	3,000	1,534	51.1%
2回目調査	376,071	3,000	1,440	48.0%
合計	(376,071)	6,000	2,974	49.6%

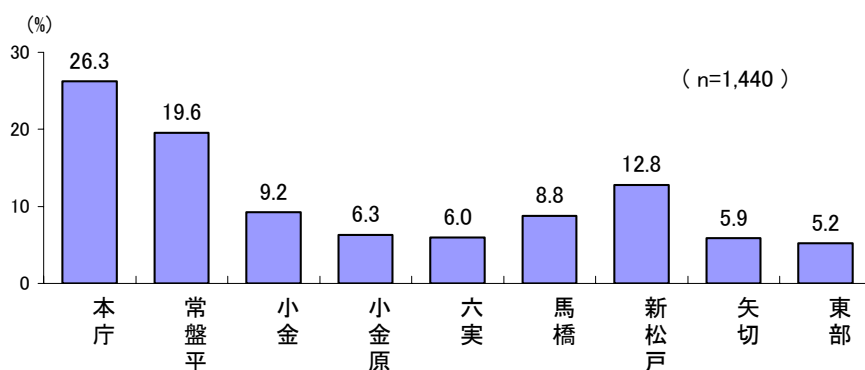
<調査回収結果>

回収欄の上段は有効回収数、下段は有効回収率（％）

1回目調査結果における年齢不明者は54名、2回目は60名。地区別内訳は下表の最下段に掲載。

		1回目 合計	2回目 合計	本庁	常盤平	小金	小金原	六実	馬橋	新松戸	矢切	東部
20歳 ～ 24歳	男性	111	95	31	17	7	6	6	7	16	3	2
	女性	95	106	30	22	10	5	6	9	13	4	7
	計	206	201	61	39	17	11	12	16	29	7	9
	回収	68 33.0	47 23.4	13 21.3	8 20.5	6 35.3	3 27.3	4 33.3	6 37.5	3 10.3	1 14.3	3 33.3
25歳 ～ 29歳	男性	126	114	33	22	11	7	3	7	19	9	3
	女性	118	118	34	18	13	8	6	9	16	6	8
	計	244	232	67	40	24	15	9	16	35	15	11
	回収	81 33.2	68 29.3	19 28.4	9 22.5	8 33.3	2 13.3	6 66.7	3 18.8	3 37.1	5 33.3	3 27.3
30歳 ～ 34歳	男性	153	178	49	35	17	4	11	19	19	12	12
	女性	146	135	41	22	13	3	6	13	21	5	11
	計	299	313	90	57	30	7	17	32	40	17	23
	回収	130 43.5	128 40.9	30 33.3	20 35.1	13 43.3	3 42.9	9 52.9	13 40.6	24 60.0	7 41.2	9 39.1
35歳 ～ 39歳	男性	191	193	41	34	16	18	11	24	22	14	13
	女性	166	185	50	31	23	7	14	13	20	11	16
	計	357	378	91	65	39	25	25	37	42	25	29
	回収	121 33.9	151 39.9	42 46.2	26 40.0	17 43.6	10 40.0	7 28.0	14 37.8	15 35.7	7 28.0	13 44.8
40歳 ～ 44歳	男性	157	150	38	27	11	12	8	14	26	8	6
	女性	147	131	37	17	12	8	8	12	18	13	6
	計	304	281	75	44	23	20	16	26	44	21	12
	回収	123 40.5	119 42.3	32 42.7	21 47.7	11 47.8	6 30.0	6 37.5	10 38.5	16 36.4	7 33.3	10 83.3
45歳 ～ 49歳	男性	108	126	37	22	11	6	8	9	14	8	11
	女性	104	113	30	24	14	8	10	7	14	4	2
	計	212	239	67	46	25	14	18	16	28	12	13
	回収	105 49.5	109 45.6	30 44.8	21 45.7	11 44.0	6 42.9	9 50.0	8 50.0	18 64.3	3 25.0	3 23.1
50歳 ～ 54歳	男性	114	97	19	22	9	6	7	8	10	5	11
	女性	116	121	33	22	10	12	8	5	15	12	4
	計	230	218	52	44	19	18	15	13	25	17	15
	回収	106 46.1	96 44.0	20 38.5	21 47.7	4 21.1	9 50.0	6 40.0	7 53.8	15 60.0	11 64.7	3 20.0
55歳 ～ 59歳	男性	128	124	36	24	13	9	4	3	19	9	7
	女性	149	140	45	22	15	9	7	7	19	6	10
	計	277	264	81	46	28	18	11	10	38	15	17
	回収	150 54.2	132 50.0	37 45.7	23 50.0	14 50.0	9 50.0	9 81.8	6 60.0	18 47.4	7 46.7	9 52.9
60歳 ～ 64歳	男性	151	128	28	25	7	11	9	12	22	8	6
	女性	141	152	42	34	16	7	9	17	18	3	6
	計	292	280	70	59	23	18	18	29	40	11	12
	回収	169 57.9	166 59.3	40 57.1	31 52.5	12 52.2	10 55.6	6 33.3	23 79.3	28 70.0	8 72.7	8 66.7
65歳 ～	男性	261	292	72	61	22	26	14	24	33	25	15
	女性	318	302	100	77	20	26	11	22	20	14	12
	計	579	594	172	138	42	52	25	46	53	39	27
	回収	427 73.7	364 61.3	100 58.1	88 63.8	24 57.1	28 53.8	21 84.0	32 69.6	31 58.5	27 69.2	13 48.1
計	男性	1,500	1,497	384	289	124	105	81	127	200	101	86
	女性	1,500	1,503	442	289	146	93	85	114	174	78	82
	計	3,000	3,000	826	578	270	198	166	241	374	179	168
	回収	1,534 51.1	1,440 48.0	378 45.8	282 48.8	133 49.3	91 46.0	86 51.8	126 52.3	184 49.2	85 47.5	75 44.6
(内：年齢不明)		(54)	(60)	(15)	(14)	(13)	(5)	(3)	(4)	(3)	(2)	(1)

■回答者の地区別構成（第2回調査）



■報告書を見る際の留意点

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、比率の合計は100%を上下することがある。
- (2) 1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる設問（複数回答）では、比率の合計が100%を上回ることがある。
- (3) Nは、比率算出の基数であり（Number of Cases の略）、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (4) クロス集計の結果うち、調査回答者の少ないものは分析ではふれていない。図表の数字は参考としてみる必要がある。
- (5) クロス集計を図示したものについて、() 内の数字はNを示す。

■標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$b = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad (\text{信頼度 95\%の場合})$$

※ b = 標本誤差・N = 母集団数 (376,071^{*1})・n = 回答者数・P = 回答の比率(%)

今回の調査結果の標本誤差は下記のようになる。

回答の比率（P） 回答数（n）	10%又は 90%前後	20%又は 80%前後	30%又は 70%前後	40%又は 60%前後	50%前後
（第1・2回調査合計） 2,974	± 1.1%	± 1.4%	± 1.6%	± 1.8%	± 1.8%
（参考） 2,000	± 1.3%	± 1.7%	± 2.0%	± 2.1%	± 2.2%
（第1回調査） 1,534	± 1.5%	± 2.0%	± 2.3%	± 2.4%	± 2.5%
（第2回調査・地区別集計） 1,440	± 1.5%	± 2.1%	± 2.4%	± 2.5%	± 2.6%
（参考） 1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.8%	± 3.0%	± 3.1%

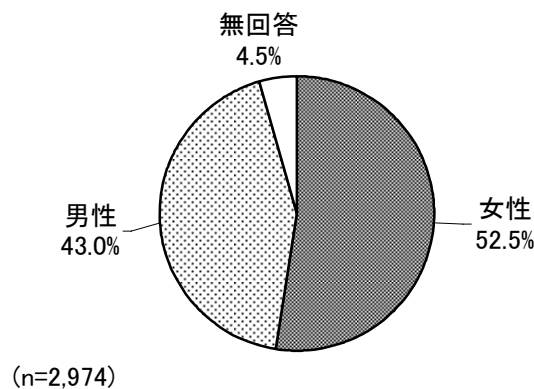
●この表の見方

『ある設問の回答者が2,974人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%である場合』その回答比率の誤差範囲は、最高でも±1.8%以内（58.2～61.8%）である」とみることができる。

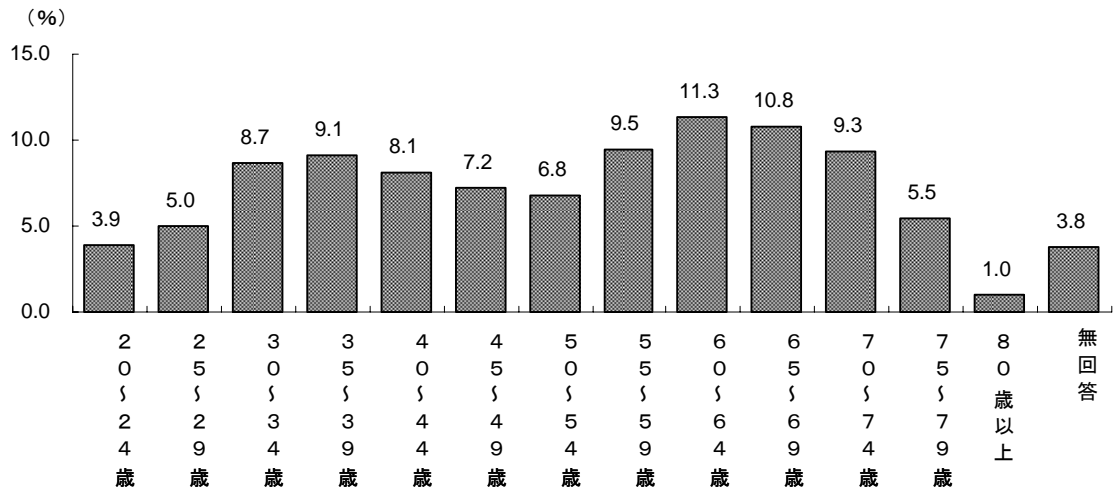
*1 母集団数は、第1回調査時375,913人と第2回調査時376,071人であったが、標本誤差がより大きく算出される第2回調査時の母集団数を共通に採用した。

■回答者の属性

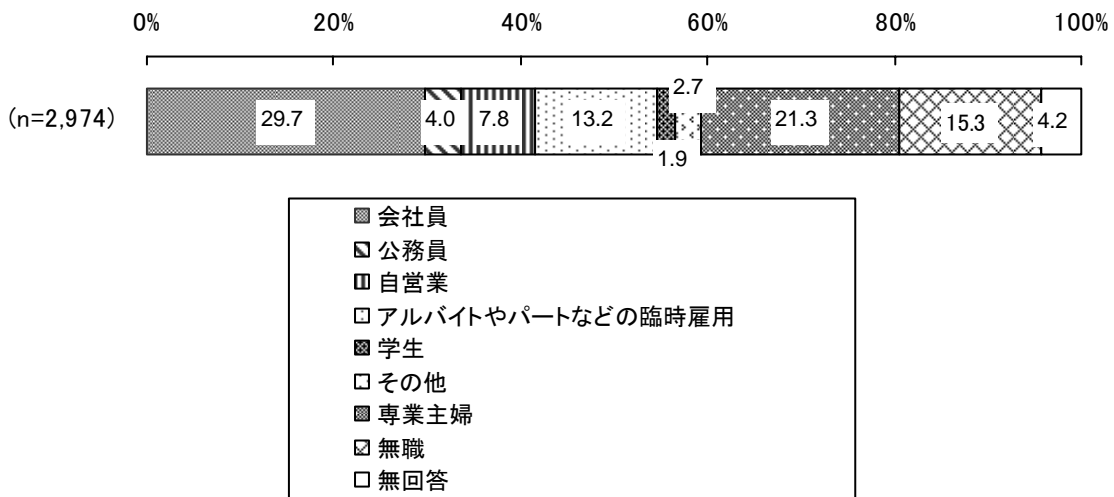
1. 性別（F1）



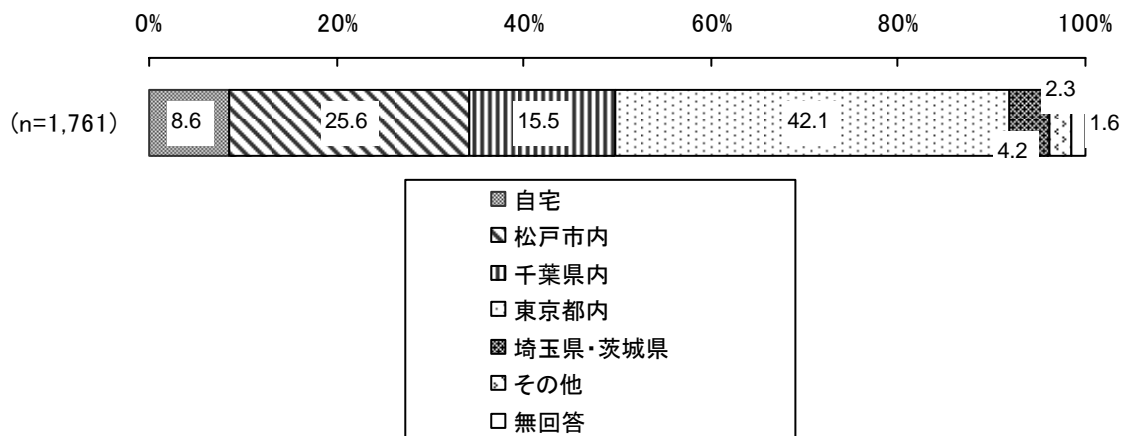
2. 年齢 (F 2)



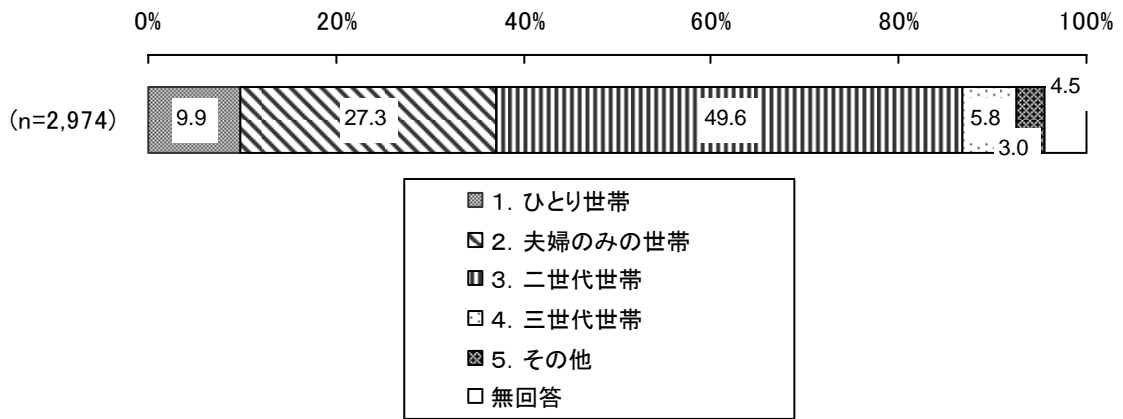
3. 職業 (F 3)



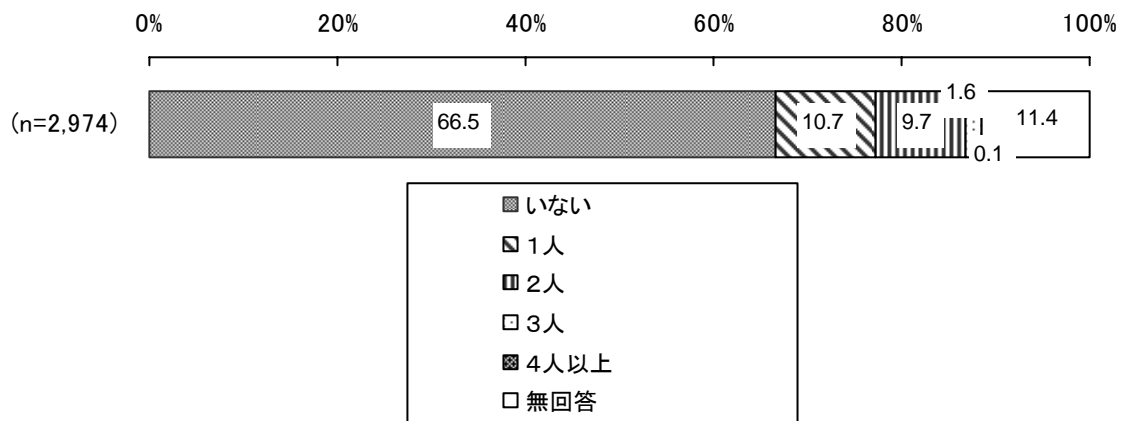
4. 勤務地・通学先 (F 3-1)



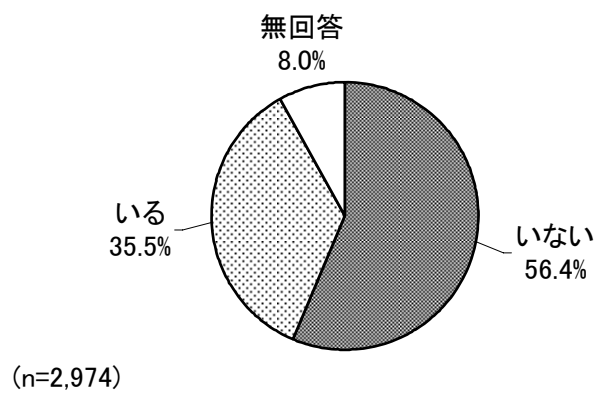
5. 家族構成 (F 4)



6. 中学生以下の子ども数 (F 5)



7. 65才以上の高齢者の有無 (F 6)



Ⅱ 質問と回答（単純集計結果）

問1 松戸市にお住まいになって通算何年になりますか。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 生まれてからずっと松戸市に住んでいる	218	7.3
2. 1年未満	83	2.8
3. 1～5年未満	248	8.3
4. 5～10年未満	273	9.2
5. 10～15年未満	244	8.2
6. 15～20年未満	227	7.6
7. 20年以上	1,668	56.1
無回答	13	0.4
全体	2,974	100.0

問2 あなたが通勤・通学以外で日常的にお出かけになる範囲について、お答えください。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 隣近所	99	3.3
2. 町会程度	33	1.1
3. 近隣町会程度	163	5.5
4. 松戸市内程度	1,112	37.4
5. 千葉県内	736	24.7
6. 東京都内	693	23.3
7. その他	112	3.8
無回答	26	0.9
全体	2,974	100.0

問3 あなたの通勤・通学を含め、お出かけのときに利用する主な交通手段は何ですか。(○は2つまで)

	回答数	構成比
1. 電車	2,020	67.9
2. バス	411	13.8
3. タクシー	38	1.3
4. 自家用車	1,280	43.0
5. オートバイ・スクーター	84	2.8
6. 自転車	624	21.0
7. 徒歩	490	16.5
8. その他	18	0.6
無回答	15	0.5
回答数合計	4,980	167.5
全体	2,974	100.0

問4 あなたは、松戸市の地域の情報を主に何によって入手していますか。(○は2つまで)

	回答数	構成比
1. テレビ・ラジオ	350	11.8
2. 新聞・雑誌・ミニコミ誌	972	32.7
3. 広報誌(広報まつど)	1,955	65.7
4. ホームページ	181	6.1
5. 回覧板など各種パンフレット	868	29.2
6. 市が主催する説明会など	9	0.3
7. 町会などでの集会や会合	106	3.6
8. 近所の人や親戚の人との会話	305	10.3
9. その他	75	2.5
10. 特になし	265	8.9
無回答	9	0.3
回答数合計	5,095	171.3
全体	2,974	100.0

問5 平成10(1998)年のNPO法(特定非営利活動促進法)の施行後、NPO法人は増加し、市内で活動するNPOは、114団体になります(平成20年12月現在)。人口減少社会における市民の多様化するニーズに対応するためには、市役所などの行政がサービスを全てまかなうのではなく、市民の助け合いやNPOなどの活動によってニーズを充足させていくことが期待されています。

あなたは、普段の仕事や家事、育児のほかに、町会などの地域活動やNPOなどのボランティア活動に、どの程度、参加していますか。また、今後参加してみたいと考えていますか。(○は、現在・今後とも、アとイ、それぞれ1つずつ)

■現在

		よく参加している	参加したことがある	参加したことはない	無回答	全体
(ア) 町会やPTA活動などの地域活動	回答数	252	1,117	1,554	51	2,974
	構成比	8.5	37.6	52.3	1.7	100.0
(イ) NPOなどのボランティア活動	回答数	94	230	2,514	136	2,974
	構成比	3.2	7.7	84.5	4.6	100.0

■今後

		ぜひ参加したい	条件が合えば参加したい	参加する予定はない	無回答	全体
(ア) 町会やPTA活動などの地域活動	回答数	149	1,410	1,328	87	2,974
	構成比	5.0	47.4	44.7	2.9	100.0
(イ) NPOなどのボランティア活動	回答数	135	1,312	1,406	121	2,974
	構成比	4.5	44.1	47.3	4.1	100.0

問6 松戸市は、水戸街道の宿場町として、また舟運交通の要衝として栄えてきました。市制を施行した昭和18年の人口は4万人程度であり、昭和30年代の半ばまでは農業主体のまちとして緩やかな人口の増加傾向をたどってきました。

その後、平成の初めまでは、首都東京の住宅需要の受け皿として、新しい市民が全国各地から移り住み、激しい人口移動と増加を繰り返してきました。今日では、人口の増加も落ち着き、人口約48万人を擁し、市内にJR、私鉄合わせて23の駅を持つ全国でも有数の生活都市として成熟期を迎えつつあります。

あなたが感じている松戸市の良さ、強みとは、どのような点でしょうか。(〇はいくつでも)

	回答数	構成比
1. 首都東京に近く、利便性が高い	1,769	59.5
2. 緑と水が多く、のんびりでき、癒される空間が多い	1,470	49.4
3. 市内のどこに居住しても、日常生活の利便性が高い	1,179	39.6
4. 幹線道路が整備され、快適に移動できる	413	13.9
5. 公共施設が市内各所に整備されている	441	14.8
6. 子育てしやすい	361	12.1
7. 医療や介護が必要になっても安心していられる	359	12.1
8. 行政サービスの水準が高い	1,151	38.7
9. 歴史的、文化的に価値が高く、市外の人に誇れるものがある	741	24.9
10. 適度な近隣関係が築けている	615	20.7
11. イベントが多い	227	7.6
12. 防災体制も整備され、安心して生活できる	694	23.3
13. 自治会がしっかりして、安心して暮らすことができる	382	12.8
14. 安心して食を楽しめる	690	23.2
15. 様々な人材が住んでいる	123	4.1
16. 市民が主体的にまちづくりに参加している	157	5.3
17. その他	151	5.1
無回答	66	2.2
回答数全体	10,989	369.5
全体	2,974	100.0

問7 問6でお答えいただいた松戸市の良さ・強みを活かしたときに、どのようなまちづくりを目指すべきとお考えですか。(〇は3つまで)

	回答数	構成比
1. 緑花清流のまちづくり	1,196	40.2
2. コミュニティを活かしたまちづくり	410	13.8
3. 学園都市をめざしたまちづくり	247	8.3
4. ITコミュニケーション機能を高めたまちづくり	136	4.6
5. 優雅で知的な感性を感じるまちづくり	601	20.2
6. バリアフリーなまちづくり	1,148	38.6
7. 安心して医療が受けられるまちづくり	1,834	61.7
8. 企業城下町的なまちづくり	239	8.0
9. 子どもが元気なまちづくり	841	28.3
10. 常に賑わいのあるまちづくり	229	7.7
11. 環境に配慮したまちづくり	313	10.5
12. 文化の香りのするまちづくり	276	9.3
13. 地産地消のまちづくり	549	18.5
14. その他	78	2.6
無回答	51	1.7
回答数全体	8,148	274.0
全体	2,974	100.0

問8 平成17(2005)年は、出生数が死亡数を下回り、日本全体の人口が減少していく人口減少社会が想定より早く到来しました。これからの社会では、「税や公的保険料を負担する人が少なくなるが、税などでまかなわれる市役所のサービスを必要とする人が増える」ことが予想され、その結果、「一人ひとりが市役所から受けられるサービスが減る」ことが考えられます。

また、助け合いや支え合いができる地域社会が維持できなくなったり、経済活動を支える年齢層が希薄になり、平均的に生活水準が低下することも考えられます。

このような社会情勢の下での市役所など行政サービスの提供のあり方として、どのような方法が相応しいと考えますか。

なお、市役所などが行う行政サービスは、十分効率的に行われているものとしてお考えください。(〇は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える	220	7.4
2. 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える	605	20.3
3. 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する	674	22.7
4. 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する	1,098	36.9
5. その他	223	7.5
無回答	154	5.2
全体	2,974	100.0

問9 少子高齢化が進み、社会保障関係に必要となる経費が年々増えており、それ以外に活用できる経費は、限られてきています。

今後の松戸市の都市基盤について、限られた財源の中で、どのようなところに重点的に投資すべきだと思いますか。(〇は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 学校、市民センター、図書館等の公共施設の耐震などを含めたメンテナンス	1,039	34.9
2. 新たな公共施設の建設	94	3.2
3. 日常、通勤・通学・買い物などに行くときに利用する生活道路の整備	665	22.4
4. 車でスムーズに移動するための幹線道路の整備	141	4.7
5. 水と親しめる河川環境の整備	118	4.0
6. 街路樹や公園などの整備	240	8.1
7. 既存の樹林地など緑地の保全	347	11.7
8. その他	243	8.2
無回答	87	2.9
全体	2,974	100.0

問 10 松戸市が今後も発展し続けていくためには、社会・経済環境などの様々な「環境の変化」に的確に対応し、市民の皆さまのニーズが増えているところに重点的に資源配分していくことが重要と考えられます。そこで、松戸市がこうなっているとよいと思われる状態を次のように整理しました。

あなたは、それぞれの項目について、現状をどのように評価し（現状評価）、今後取り組むことがどのくらい重要（今後の重要度）だとお考えですか。松戸市に税金を納める立場として、どのようなことに税金が使われるべきかという観点でお答えください。

項目ごとに現状評価と重要度について、あなたのお考えに一番近い番号を「1～4」の中から、それぞれ1つ選んで、番号に○印をつけてください。

選 択 項 目		現状評価						
		十分な状態である	まあまあ の状態である	やや 不十分な 状態である	不 十分な 状態 である	無 回 答	全 体	
(ア)	市民と行政との協働のルールが確立されている	回答数	45	1,341	950	342	296	2,974
		構成比	1.5	45.1	31.9	11.5	10.0	100.0
(イ)	一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会になっている	回答数	76	1,392	968	284	254	2,974
		構成比	2.6	46.8	32.5	9.5	8.5	100.0
(ウ)	自らの健康に関心を持ちながら行動できる市民が多数いる	回答数	105	1,546	865	193	265	2,974
		構成比	3.5	52.0	29.1	6.5	8.9	100.0
(エ)	高齢者や障害を持つ人など生活支援が必要な市民が、地域の支え合いの中で自立した生活を送れるようになっている	回答数	49	873	1,302	541	209	2,974
		構成比	1.6	29.4	43.8	18.2	7.0	100.0
(オ)	次の世代を担う子どもたちが、地域の支え合いの中で健やかに生まれ育っている	回答数	70	1,414	951	327	212	2,974
		構成比	2.4	47.5	32.0	11.0	7.1	100.0
(カ)	地域の医療機関と役割分担し、市立病院が救命救急医療や小児医療などの充実を図っている	回答数	125	1,334	940	380	195	2,974
		構成比	4.2	44.9	31.6	12.8	6.6	100.0
(キ)	家庭、地域、学校の連携により、子どもたちが将来の目標を持てるように、一人ひとりにあった学習環境が用意されている	回答数	44	1,036	1,182	436	276	2,974
		構成比	1.5	34.8	39.7	14.7	9.3	100.0
(ク)	生涯学習やスポーツが、手軽に始められるようになっている	回答数	97	1,190	1,091	374	222	2,974
		構成比	3.3	40.0	36.7	12.6	7.5	100.0
(ケ)	市内の身近なところで、松戸の歴史や文化が感じられるようになっている	回答数	231	1,563	723	271	186	2,974
		構成比	7.8	52.6	24.3	9.1	6.3	100.0
(コ)	市民一人ひとりが、災害発生時における自らの役割を自覚し、被害の軽減や復旧に向けての行動がとれるようになっている	回答数	22	503	1,435	820	194	2,974
		構成比	0.7	16.9	48.3	27.6	6.5	100.0
(サ)	地域社会の連携と協働により、火災等の災害による被害が軽減されている	回答数	42	1,050	1,150	449	283	2,974
		構成比	1.4	35.3	38.7	15.1	9.5	100.0
(シ)	より適切な救急救命処置ができるようになっている	回答数	64	989	1,151	483	287	2,974
		構成比	2.2	33.3	38.7	16.2	9.7	100.0

選 択 項 目			現状評価					
			十分な状態である	まあまあの状態である	やや不十分な状態である	不十分な状態である	無回答	全体
(ス)	もったいない精神が浸透し、自分のできる範囲で、環境にやさしい取り組みをしている	回答数	101	1,175	1,105	394	199	2,974
		構成比	3.4	39.5	37.2	13.2	6.7	100.0
(セ)	「自分のまちは自分たちで守る」という意識のもと、安全で快適なまちにするための助け合いをしている	回答数	37	880	1,292	556	209	2,974
		構成比	1.2	29.6	43.4	18.7	7.0	100.0
(ソ)	緑が保全され、身近な緑と花が増えている	回答数	227	1,544	747	267	189	2,974
		構成比	7.6	51.9	25.1	9.0	6.4	100.0
(タ)	地域産業が活性化し、市内で働く人が増えている	回答数	15	540	1,431	680	308	2,974
		構成比	0.5	18.2	48.1	22.9	10.4	100.0
(チ)	多様な職場が用意され、働きたい人が、働けるようになっている	回答数	16	376	1,324	969	289	2,974
		構成比	0.5	12.6	44.5	32.6	9.7	100.0
(ツ)	安全でゆとりのある住宅に住んでいる人が多数いる	回答数	60	1,162	1,063	441	248	2,974
		構成比	2.0	39.1	35.7	14.8	8.3	100.0
(テ)	公共交通機関と道路のバリアフリー化が進み、誰もが気軽に外出できる街並みが増えている	回答数	47	764	1,222	750	191	2,974
		構成比	1.6	25.7	41.1	25.2	6.4	100.0
(ト)	身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている	回答数	64	890	1,178	617	225	2,974
		構成比	2.2	29.9	39.6	20.7	7.6	100.0
(ナ)	いつでも安心して水道水が使えるようにする	回答数	695	1,531	410	151	187	2,974
		構成比	23.4	51.5	13.8	5.1	6.3	100.0
(ニ)	既存の都市基盤の維持管理や緑地や水辺など環境の保全が行われている	回答数	122	1,540	875	193	244	2,974
		構成比	4.1	51.8	29.4	6.5	8.2	100.0
(ヌ)	行政は市民ニーズを把握し、わかりやすい目標をたて、効率的でより良いサービスを提供している	回答数	57	975	1,242	480	220	2,974
		構成比	1.9	32.8	41.8	16.1	7.4	100.0
(ネ)	中・長期的な展望に立った健全財政が維持されている	回答数	24	894	1,203	546	307	2,974
		構成比	0.8	30.1	40.5	18.4	10.3	100.0

選 択 項 目		今後の重要度						
		重要である	まあ重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答	全体	
(ア)	市民と行政との協働のルールが確立されている	回答数	802	1,592	249	21	310	2,974
		構成比	27.0	53.5	8.4	0.7	10.4	100.0
(イ)	一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会になっている	回答数	802	1,599	291	18	264	2,974
		構成比	27.0	53.8	9.8	0.6	8.9	100.0
(ウ)	自らの健康に関心を持ちながら行動できる市民が多数いる	回答数	1,022	1,419	237	33	263	2,974
		構成比	34.4	47.7	8.0	1.1	8.8	100.0
(エ)	高齢者や障害を持つ人など生活支援が必要な市民が、地域の支え合いの中で自立した生活を送れるようになっている	回答数	1,615	1,074	74	10	201	2,974
		構成比	54.3	36.1	2.5	0.3	6.8	100.0
(オ)	次の世代を担う子どもたちが、地域の支え合いの中で健やかに生まれ育っている	回答数	1,761	944	50	8	211	2,974
		構成比	59.2	31.7	1.7	0.3	7.1	100.0
(カ)	地域の医療機関と役割分担し、市立病院が救命救急医療や小児医療などの充実を図っている	回答数	2,210	555	32	4	173	2,974
		構成比	74.3	18.7	1.1	0.1	5.8	100.0
(キ)	家庭、地域、学校の連携により、子どもたちが将来の目標を持てるように、一人ひとりにあった学習環境が用意されている	回答数	1,310	1,265	137	15	247	2,974
		構成比	44.0	42.5	4.6	0.5	8.3	100.0
(ク)	生涯学習やスポーツが、手軽に始められるようになっている	回答数	434	1,681	567	60	232	2,974
		構成比	14.6	56.5	19.1	2.0	7.8	100.0
(ケ)	市内の身近なところで、松戸の歴史や文化が感じられるようになっている	回答数	312	1,525	821	115	201	2,974
		構成比	10.5	51.3	27.6	3.9	6.8	100.0
(コ)	市民一人ひとりが、災害発生時における自らの役割を自覚し、被害の軽減や復旧に向けての行動がとれるようになっている	回答数	1,669	1,069	45	6	185	2,974
		構成比	56.1	35.9	1.5	0.2	6.2	100.0
(サ)	地域社会の連携と協働により、火災等の災害による被害が軽減されている	回答数	1,337	1,309	85	4	239	2,974
		構成比	45.0	44.0	2.9	0.1	8.0	100.0
(シ)	より適切な救急救命処置ができるようになっている	回答数	1,718	961	51	6	238	2,974
		構成比	57.8	32.3	1.7	0.2	8.0	100.0
(ス)	もったいない精神が浸透し、自分のできる範囲で、環境にやさしい取り組みをしている	回答数	1,057	1,494	213	18	192	2,974
		構成比	35.5	50.2	7.2	0.6	6.5	100.0
(セ)	「自分のまちは自分たちで守る」という意識のもと、安全で快適なまちにするための助け合いをしている	回答数	996	1,588	163	15	212	2,974
		構成比	33.5	53.4	5.5	0.5	7.1	100.0
(ソ)	緑が保全され、身近な緑と花が増えている	回答数	772	1,727	259	22	194	2,974
		構成比	26.0	58.1	8.7	0.7	6.5	100.0
(タ)	地域産業が活性化し、市内で働く人が増えている	回答数	751	1,551	362	33	277	2,974
		構成比	25.3	52.2	12.2	1.1	9.3	100.0
(チ)	多様な職場が用意され、働きたい人が、働けるようになっている	回答数	1,052	1,367	264	26	265	2,974
		構成比	35.4	46.0	8.9	0.9	8.9	100.0
(ツ)	安全でゆとりのある住宅に住んでいる人が多数いる	回答数	744	1,637	324	23	246	2,974
		構成比	25.0	55.0	10.9	0.8	8.3	100.0
(テ)	公共交通機関と道路のバリアフリー化が進み、誰もが気軽に外出できる街並みが増えている	回答数	1,321	1,341	112	11	189	2,974
		構成比	44.4	45.1	3.8	0.4	6.4	100.0

選 択 項 目		今後の重要度						
		重要である	まあ重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答	全体	
(ト)	身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている	回答数	641	1,671	395	38	229	2,974
		構成比	21.6	56.2	13.3	1.3	7.7	100.0
(ナ)	いつでも安心して水道水が使えるようにする	回答数	1,881	841	71	7	174	2,974
		構成比	63.2	28.3	2.4	0.2	5.9	100.0
(ニ)	既存の都市基盤の維持管理や緑地や水辺など環境の保全が行われている	回答数	810	1,692	214	14	244	2,974
		構成比	27.2	56.9	7.2	0.5	8.2	100.0
(ヌ)	行政は市民ニーズを把握し、わかりやすい目標をたて、効率的でより良いサービスを提供している	回答数	1,232	1,364	142	19	217	2,974
		構成比	41.4	45.9	4.8	0.6	7.3	100.0
(ネ)	中・長期的な展望に立った健全財政が維持されている	回答数	1,594	1,035	81	15	249	2,974
		構成比	53.6	34.8	2.7	0.5	8.4	100.0

問 11 子どもを取り巻く環境が複雑化、多様化している現在、子どもの教育は、学校・家庭・地域が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要であると言われてい
ます。子どもの成長に必要と思われる項目を次のように整理しました。

全ての項目について、学校・家庭・地域のそれぞれが一定の役割を担うものとは思いますが、
あなたは、それぞれの選択項目について、学校・家庭・地域のうち最も重要な役割を担うべき主体
は、どこだとお考えですか。

項目ごとに、あなたのお考えに一番近い番号を「1～3」の中から、それぞれ1つ選んで、番
号に○印をつけてください。

選 択 項 目			担学	担家	担地	無	全
			う校	う庭	う域	回	体
			う校	う庭	う域	回	体
			べが	べが	べが	答	
			き主	き主	き主		
			に	に	に		
(ア)	基礎基本（読み、書き、計算など）の定着を始めたとした確かな学力を身につけること	回答数	2,555	290	9	120	2,974
		構成比	85.9	9.8	0.3	4.0	100.0
(イ)	集団生活を営むために必要なルールを身につけること	回答数	1,716	871	269	118	2,974
		構成比	57.7	29.3	9.0	4.0	100.0
(ウ)	生涯にわたって自分で学んでいくために必要な学習の仕方や意欲を身につけること	回答数	1,257	1,411	172	134	2,974
		構成比	42.3	47.4	5.8	4.5	100.0
(エ)	自らの心身の健康を育むための知識や方法を身につけること	回答数	376	2,251	204	143	2,974
		構成比	12.6	75.7	6.9	4.8	100.0
(オ)	生活習慣や善悪の判断など規範意識の基盤をつくること	回答数	187	2,529	129	129	2,974
		構成比	6.3	85.0	4.3	4.3	100.0
(カ)	社会生活を営み、人との交流を広げるために必要な態度やコミュニケーション能力を身につけること	回答数	910	794	1,141	129	2,974
		構成比	30.6	26.7	38.4	4.3	100.0
(キ)	放課後や休日に、子どもたちが安心して活動できる安全な居場所を見つけること	回答数	236	343	2,265	130	2,974
		構成比	7.9	11.5	76.2	4.4	100.0
(ク)	通常の教育カリキュラムの他に、様々な年齢や性別、国籍の人などと多様な体験をすること	回答数	822	189	1,814	149	2,974
		構成比	27.6	6.4	61.0	5.0	100.0

問 12 あなたにとって、松戸市は住みやすいですか。（○は1つだけ）

	回答数	構成比
1. 大変住みやすい	438	14.7
2. どちらかといえば、住みやすい	2,091	70.3
3. どちらかといえば、住みにくい	305	10.3
4. 大変住みにくい	40	1.3
無回答	100	3.4
全体	2,974	100.0

問 13 あなたは、今後も松戸市にお住みになりたいですか。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 今の場所に住み続けたい	1,782	59.9
2. 松戸市内の別の場所で住み続けたい	256	8.6
3. 松戸市内に住み続けたいが、市外に移る予定である	119	4.0
4. 市外に移りたい、または移る予定である	228	7.7
5. わからない	397	13.3
無回答	192	6.5
全体	2,974	100.0

(問 13 で「1. 今の場所に住み続けたい」とお答えの方に)

問 13-1 今の場所に住み続けたい理由は何ですか。(○は3つまで)

	回答数	構成比
1. 親の代から住んでいるまちだから	323	18.1
2. 隣近所との付き合いを失いたくないから	391	21.9
3. 通勤や通学に便利だから	662	37.1
4. 自然災害の心配が少ないから	495	27.8
5. 下水道や道路などの基盤が整備されているから	216	12.1
6. 緑が多く、静かな住環境に満足しているから	639	35.9
7. 医療環境や介護サービスなどの福祉環境に満足しているから	126	7.1
8. 子育てや教育などの環境が充実しているから	31	1.7
9. 子どもの学校が変わることが困るから	124	7.0
10. 治安や防犯の心配が少ないから	151	8.5
11. 買い物や娯楽に便利なまちだから	330	18.5
12. 東京に近いから	611	34.3
13. 商売や事業を続けているため	78	4.4
14. 家賃などが安いから	80	4.5
15. 経済的な理由など、仕方がないから	253	14.2
16. その他	107	6.0
無回答	3	0.2
回答数合計	4,620	259.3
全体	1,782	100.0

(問 13 で 2～4 のいずれかをお答えの方に)

問 13-2 別の場所に移りたい、または移る予定の理由は何ですか。(○は3つまで)

	回答数	構成比
1. 住宅や土地の価格・広さに満足できないから	124	20.6
2. 通勤や通学に不便だから	128	21.2
3. 自然災害への備え(防災)が心配だから	33	5.5
4. 下水道道路などの基盤整備が遅れているから	62	10.3
5. 騒音などの生活環境に満足できないから	53	8.8
6. 医療環境や介護サービスなどの福祉環境に満足できないから	89	14.8
7. 子育てや教育などの環境に満足できないから	80	13.3
8. 近所付き合いなどがわずらわしいから	33	5.5
9. 治安や防犯などが心配だから	88	14.6
10. 買い物や娯楽を楽しめる環境ではないから	121	20.1
11. もっと自然の多い土地で暮らしたいから	78	12.9
12. 商売や事業を行いやすい環境ではないから	9	1.5
13. もっと家賃や土地の価格が安いところで暮らしたいから	61	10.1
14. 仕事、学校、家族の都合でやむをえない理由があるから	129	21.4
15. その他	86	14.3
無回答	40	6.6
回答数合計	1,214	201.3
全体	603	100.0

F 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 女性	1,562	52.5
2. 男性	1,278	43.0
無回答	134	4.5
全体	2,974	100.0

F 2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 20～24歳	115	3.9
2. 25～29歳	149	5.0
3. 30～34歳	258	8.7
4. 35～39歳	272	9.1
5. 40～44歳	242	8.1
6. 45～49歳	214	7.2
7. 50～54歳	202	6.8
8. 55～59歳	282	9.5
9. 60～64歳	335	11.3
10. 65～69歳	320	10.8
11. 70～74歳	276	9.3
12. 75～79歳	165	5.5
13. 80歳以上	30	1.0
無回答	114	3.8
全体	2,974	100.0

F 3 あなたの主な職業をお答えください。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 会社員	882	29.7
2. 公務員	118	4.0
3. 自営業	233	7.8
4. アルバイトやパートなどの臨時雇用	392	13.2
5. 学生	57	1.9
6. その他	79	2.7
7. 専業主婦	632	21.3
8. 無職	456	15.3
無回答	125	4.2
全体	2,974	100.0

(F 3で1～6のいずれかをお答えの方に)

F 3-1 あなたの勤務地または通学地をお答えください。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. 自宅	152	8.6
2. 松戸市内	451	25.6
3. 千葉県内	273	15.5
4. 東京都内	741	42.1
5. 埼玉県・茨城県	74	4.2
6. その他	41	2.3
無回答	29	1.6
全体	1,761	100.0

F 4 あなたの家族構成をお答えください。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. ひとり世帯	293	9.9
2. 夫婦のみの世帯	812	27.3
3. 二世帯世帯	1,474	49.6
4. 三世帯世帯	172	5.8
5. その他	89	3.0
無回答	134	4.5
全体	2,974	100.0

F 5 同居家族のなかに中学生以下の子どもは何人いますか。(○は1つだけ)

	回答数	構成比
1. いない	1,978	66.5
2. 1人	318	10.7
3. 2人	287	9.7
4. 3人	49	1.6
5. 4人以上	4	0.1
無回答	338	11.4
全体	2,974	100.0

F 6 同居家族のなかに（自身を含む）65歳以上の方はいますか。（○は1つだけ）

	回答数	構成比
1. いない	1,678	56.4
2. いる	1,057	35.5
無回答	239	8.0
全体	2,974	100.0

Ⅲ 調査結果の分析

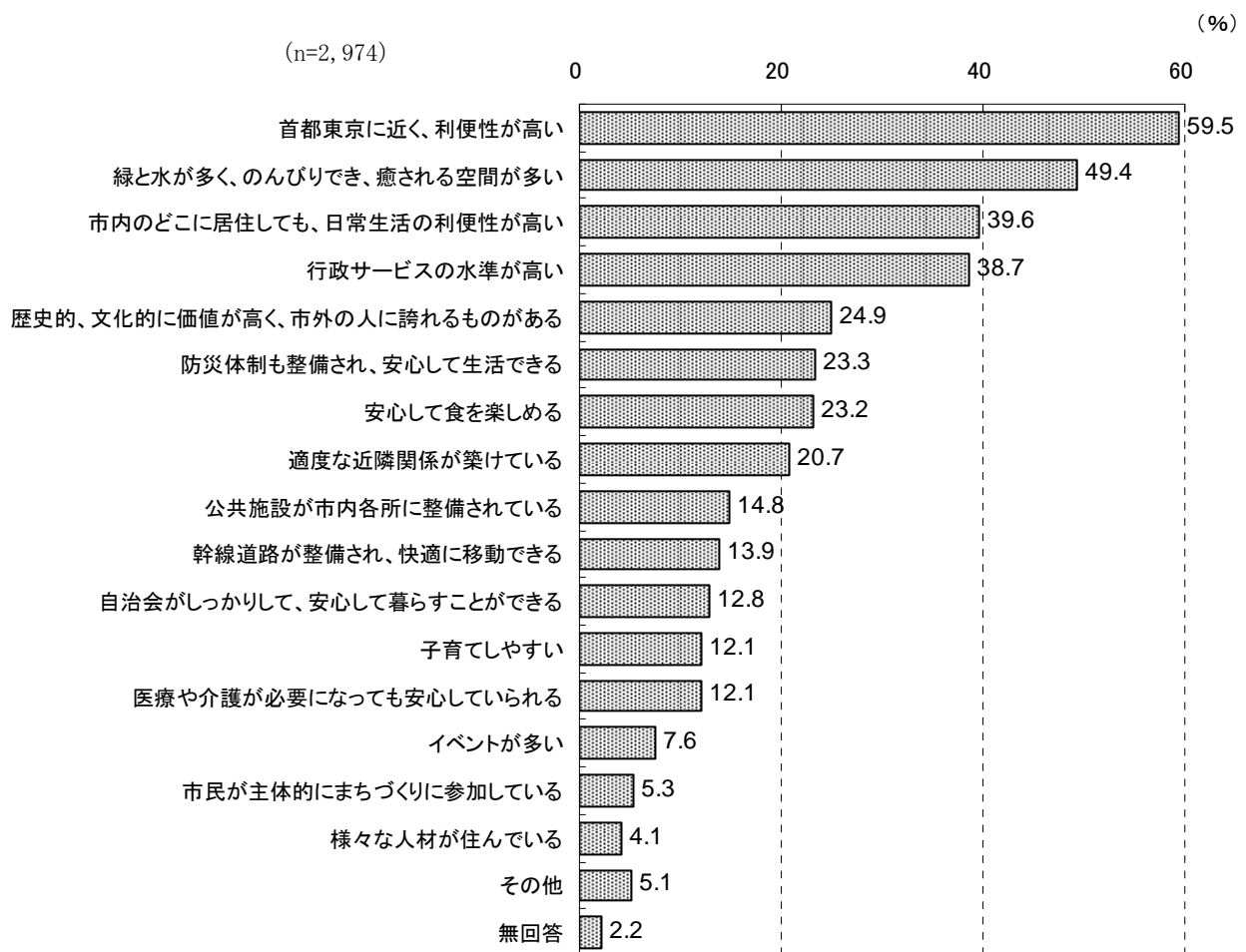
1. 松戸市全体の分析

問6 松戸市は、水戸街道の宿場町として、また舟運交通の要衝として栄えてきました。市制を施行した昭和18年の人口は4万人程度であり、昭和30年代の半ばまでは農業主体のまちとして緩やかな人口の増加傾向をたどってきました。

その後、平成の初めまでは、首都東京の住宅需要の受け皿として、新しい市民が全国各地から移り住み、激しい人口移動と増加を繰り返してきました。今日では、人口の増加も落ち着き、人口約48万人を擁し、市内にJR、私鉄合わせて23の駅を持つ全国でも有数の生活都市として成熟期を迎えつつあります。

あなたが感じている松戸市の良さ、強みとは、どのような点でしょうか。(〇はいくつでも)

図1-1-1



松戸市民が感じている松戸市の良さ、強みは、「首都東京に近く、利便性が高い」が最も多く59.5%となっており、次いで「緑と水が多く、のんびりでき、癒される空間が多い」が49.4%、「市内のどこに居住しても、日常生活の利便性が高い」が39.6%、「行政サービスの水準が高い」が38.7%となっている。

逆に、割合が低いものとしては、「様々な人材が住んでいる」4.1%、「市民が主体的にまちづくりに参加している」が5.3%、「イベントが多い」が7.6%となっている。

性別でみると、「安心して食を楽しめる」「適度な近隣関係が築けている」において、女性のほうが男性よりもそれぞれ6.1ポイント、6.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「首都東京に近く、利便性が高い」では20、30歳代の女性の割合が高くなっており、「行政サービスの水準が高い」では、男女とも30歳代が高くなっている。また、「緑と水が多く、のんびりでき、癒される空間が多い」「歴史的、文化的に価値が高く、市外の人に誇れるものがある」は、概ね年齢が高くなるほど割合も高くなっている。

図1-1-2 性別、性・年代別

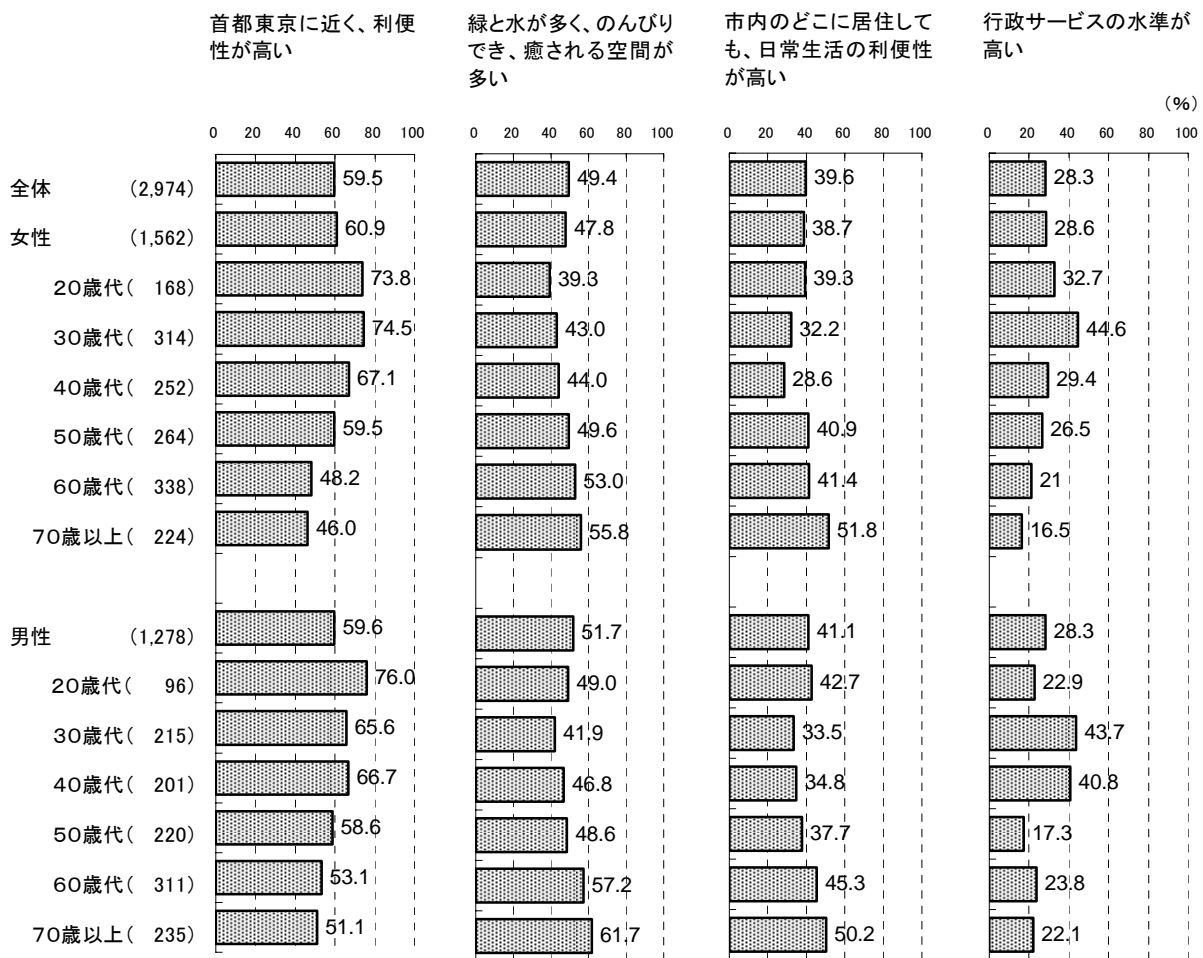
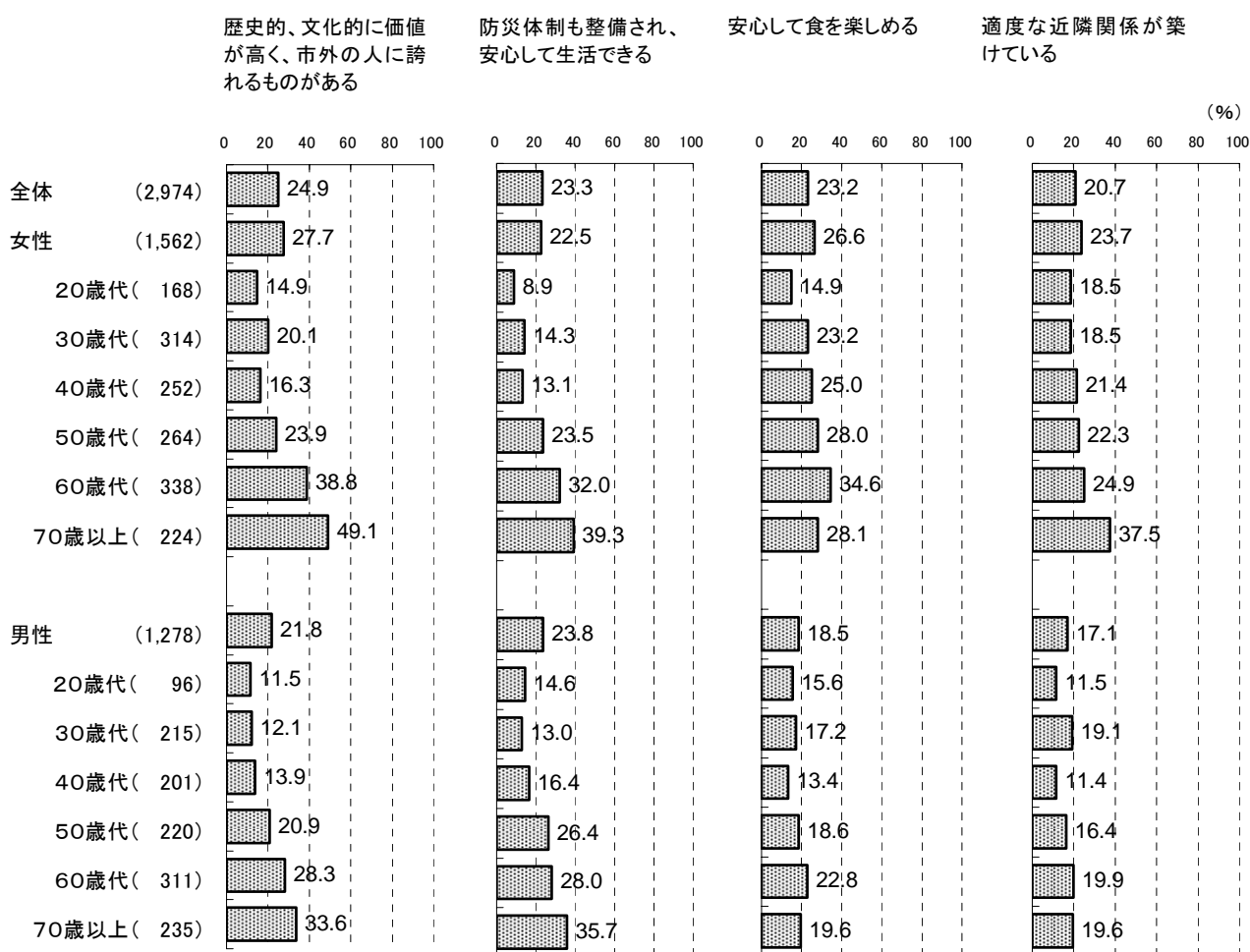
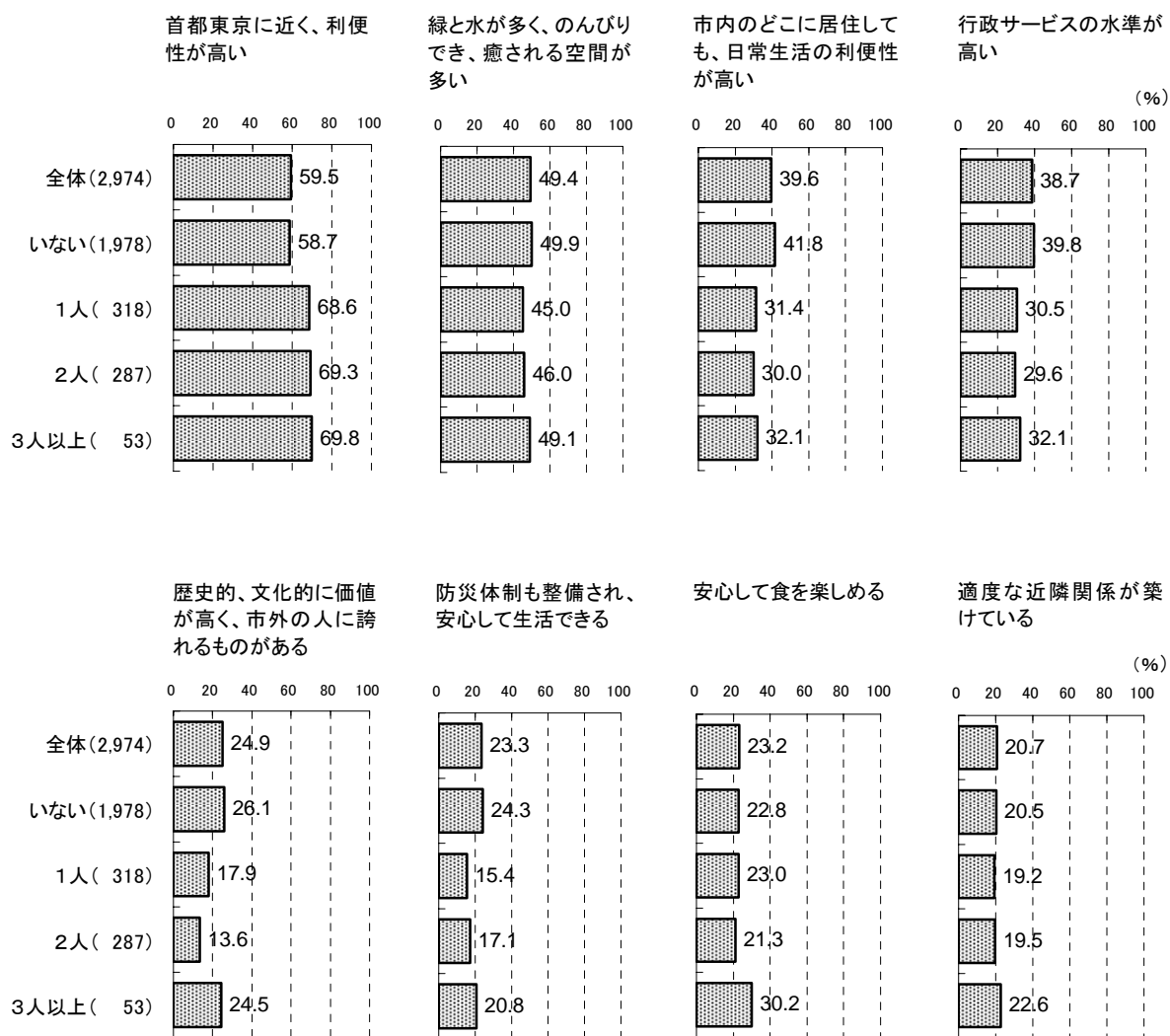


図1-1-3 性別、性・年代別（続き）



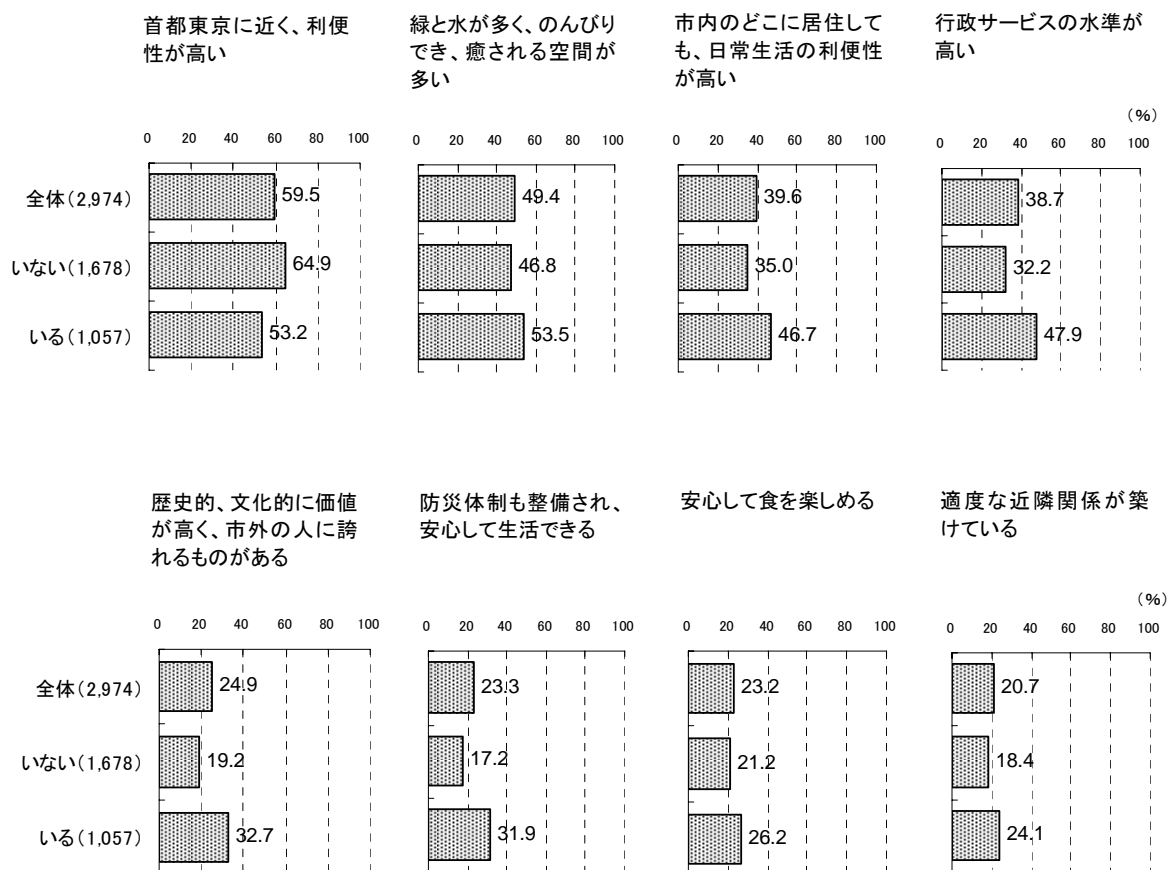
中学生以下の子ども的人数別でみると、「首都東京に近く、利便性が高い」では、子どものいない人よりも、いる人のほうが 10 ポイントほど高くなっている。逆に、「行政サービスの水準が高い」では、子どもがいる人のほうが、いない人よりも低くなっている。

図 1-1-4 中学生以下の子ども的人数別



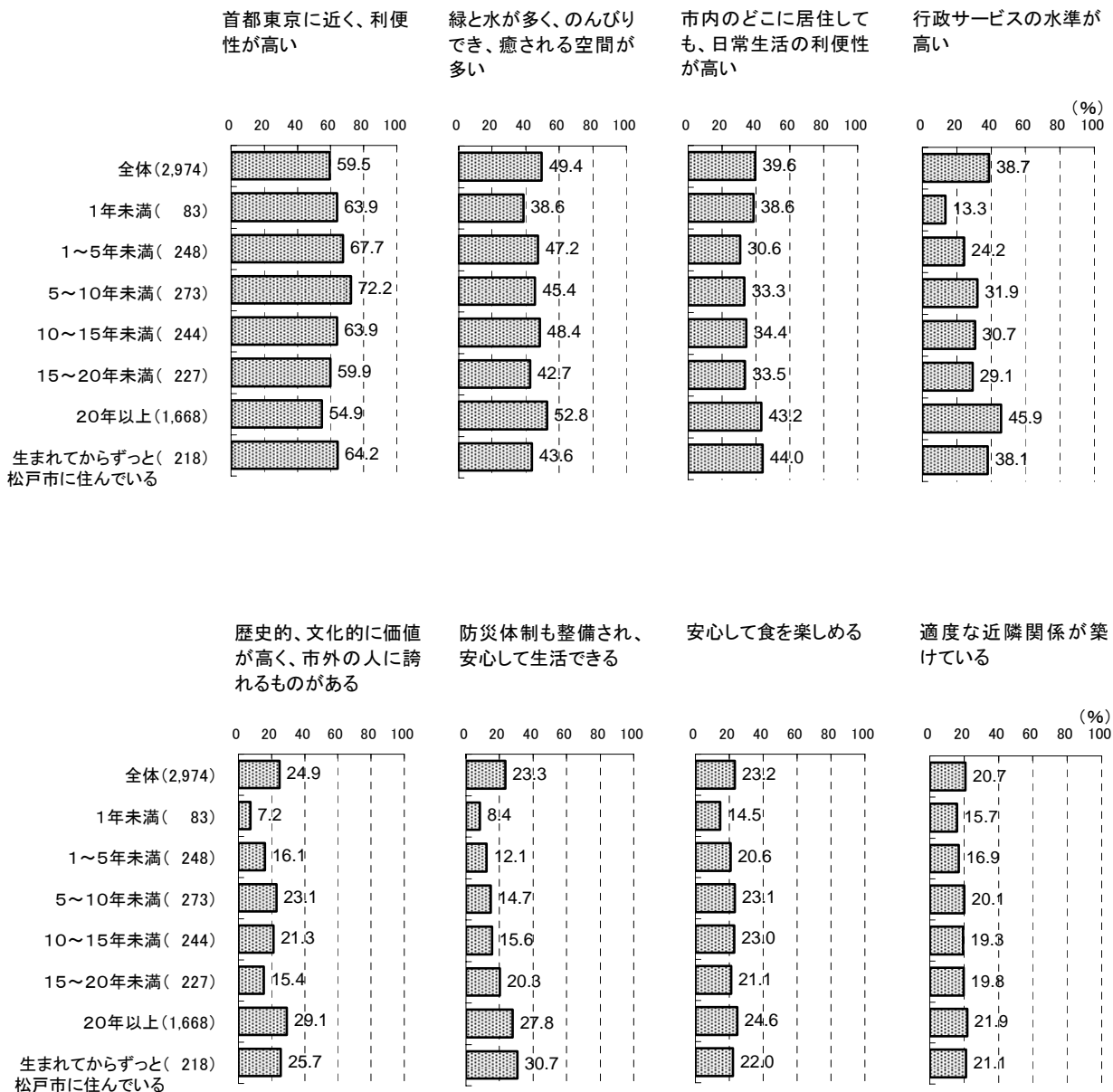
同居の高齢者の有無別にみると、「市内のどこに居住しても、日常生活の利便性が高い」「行政サービスの水準が高い」「歴史的、文化的に価値が高く、市外の人に誇れるものがある」「防災体制も整備され、安心して生活できる」で、〈いる〉層のほうが〈いない〉層よりもそれぞれ、11.7ポイント、15.7ポイント、13.5ポイント、14.7ポイント高くなっている。一方、「首都東京に近く、利便性が高い」では、同居の高齢者が〈いない〉層のほうが〈いる〉層よりも11.7ポイント高くなっている。

図1-1-5 65歳以上の高齢者の有無別



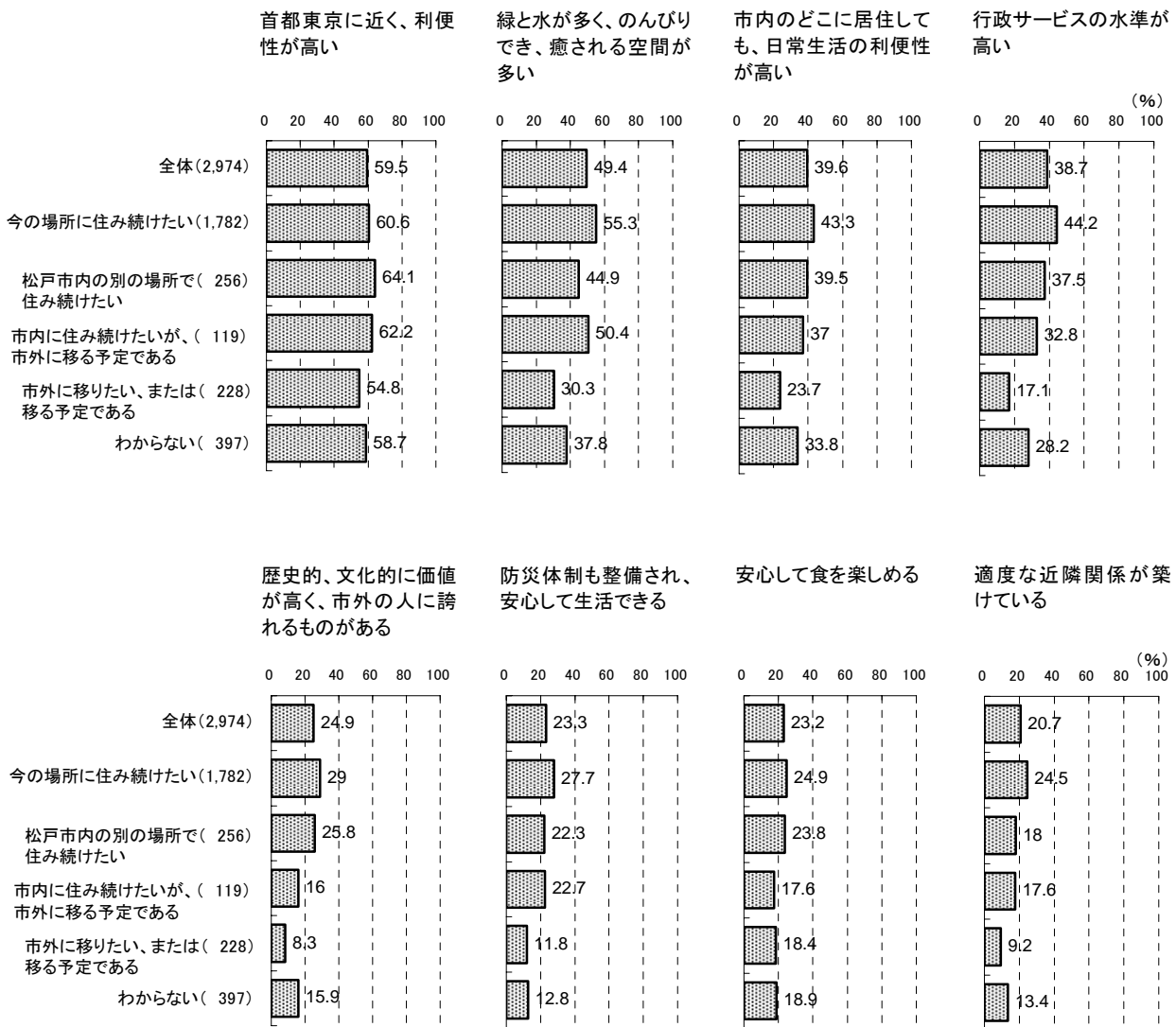
居住年数別でみると、「行政サービスの水準が高い」では「1年未満」が13.3%であるのに対し、5～20年未満では30%前後、「20年以上」では45.9%となっており、居住年数が長くなるほど割合が高くなる傾向となっている。「防災体制も整備され、安心して生活できる」でも、居住年数が長くなるほど割合が高くなっており、「1年未満」が8.4%であるのに対し、「20年以上」では27.8%となっている。

図1-1-6 居住年数別



定住意向別にみると、ほぼそれぞれの項目において〈市外に移りたい、または移る予定〉の層での割合が低くなっているが、「首都東京に近く、利便性が高い」では大きな差はない。「緑と水が多く、のんびりでき、癒される空間が多い」「行政サービスの水準が高い」では、全体平均と〈市外に移りたい、または移る予定〉の層との差は約 20 ポイントとなっている。

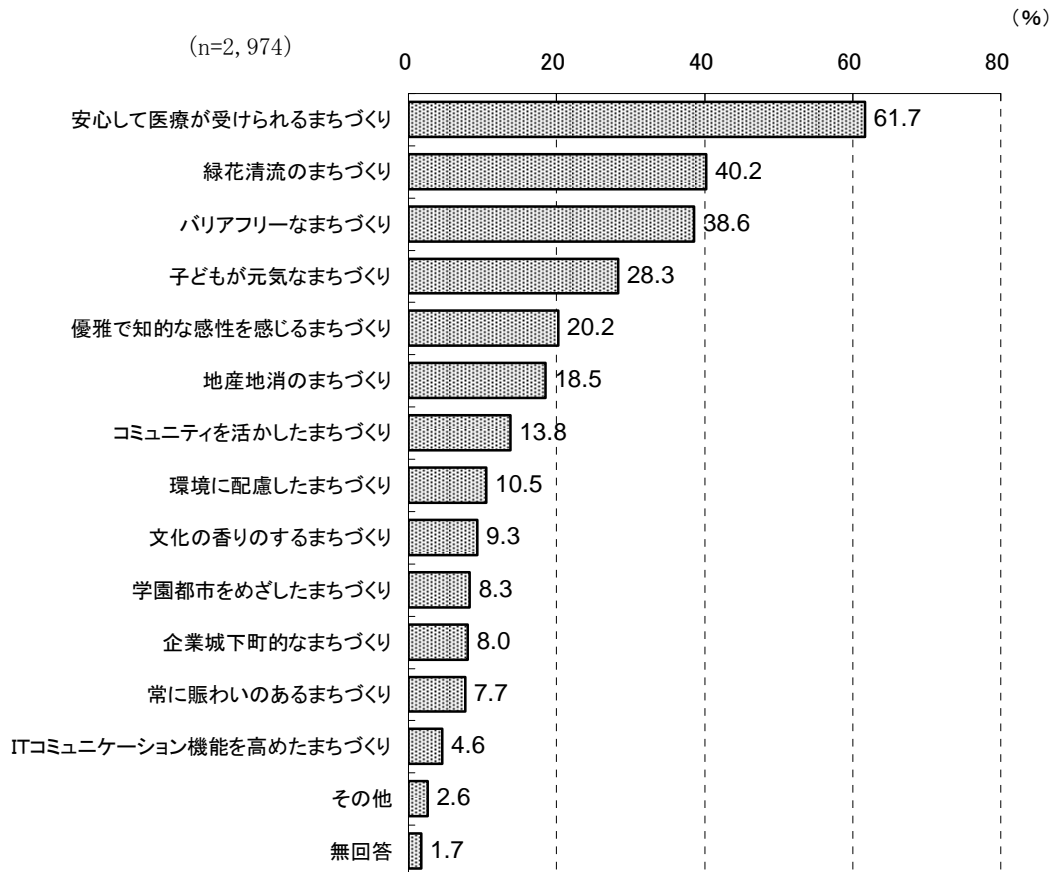
図 1-1-7 定住意向別



(2) ま ち づ く り の 方 向 性

問7 問6でお答えいただいた松戸市の良さ・強みを活かしたときに、どのようなまちづくりを目指すべきとお考えですか。(〇は3つまで)

図 1 - 2 - 1

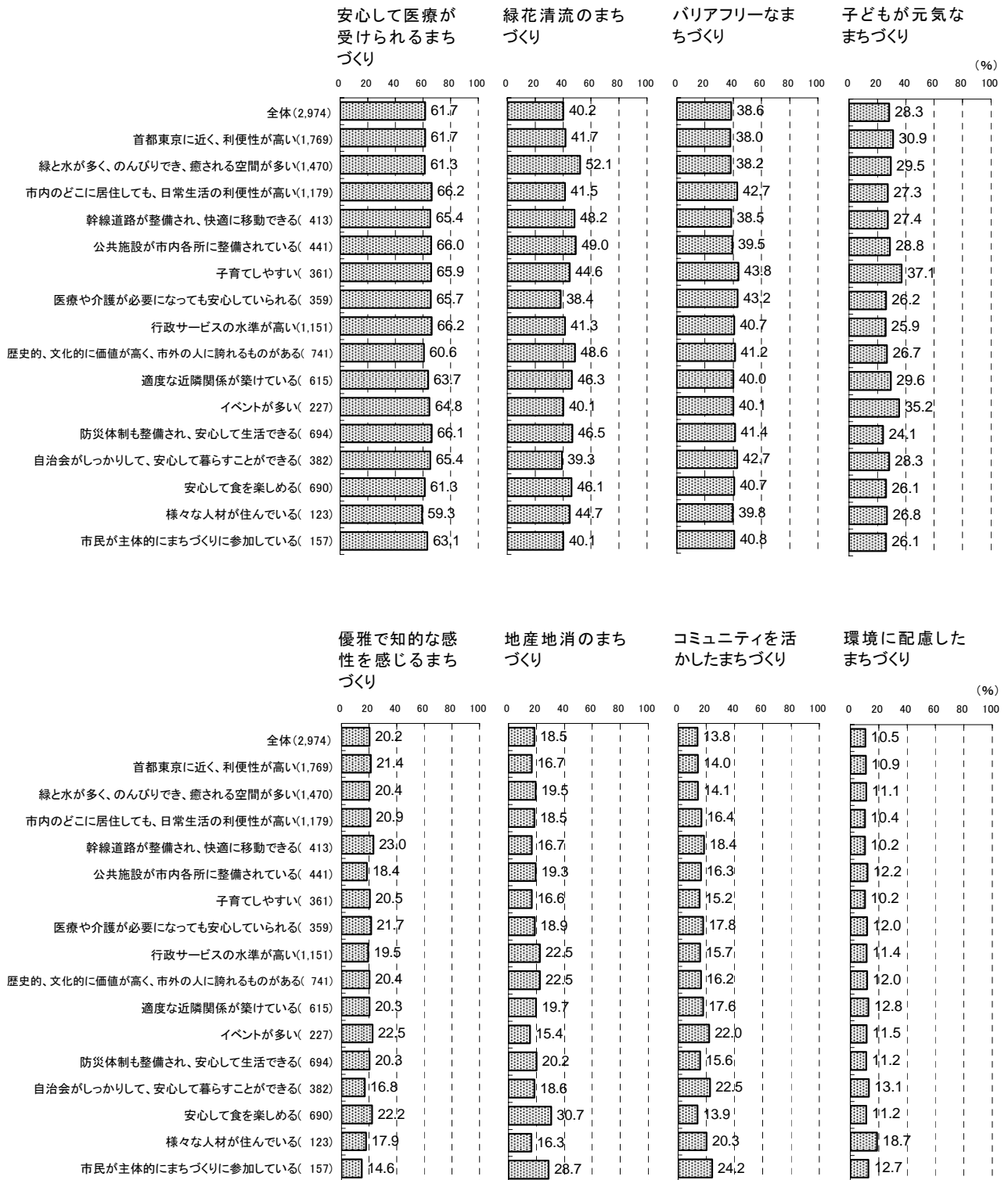


松戸市の良さ・強みを活かし、どのようなまちづくりを目指すべきかを聞いたところ、「安心して医療が受けられるまちづくり」が 61.7%で最も多く、次いで「緑花清流のまちづくり」が 40.2%、「バリアフリーなまちづくり」が 38.6%、「子どもが元気なまちづくり」が 28.3%で続いている。

逆に、割合が低いものとしては、「ITコミュニケーション機能を高めたまちづくり」4.6%、「常に賑わいのあるまちづくり」7.7%、「企業城下町的なまちづくり」8.0%などとなっている。

松戸市の良さ、強み別でみると、「安心して医療が受けられるまちづくり」、「バリアフリーなまちづくり」では、大きな差はない。「子どもが元気なまちづくり」では、子育てしやすい、イベントが多い、などの割合が高くなっている。

図1-2-2 松戸市の良さ、強み別



性別、性・年代別でみると、「安心して医療が受けられるまちづくり」では年代が高くなるにしたがって割合も高くなる傾向があり、「子どもが元気なまちづくり」では、子育て世代と考えられる30歳代男女と40歳代男性の割合が高くなっている。また、「優雅で知的な感性を感じるまちづくり」では20歳代男性が32.3%と全体平均より12.1ポイント高くなっており、「地産地消のまちづくり」では60、70歳代女性の割合の高さが目立っている。

図1-2-3 性別、性・年代別

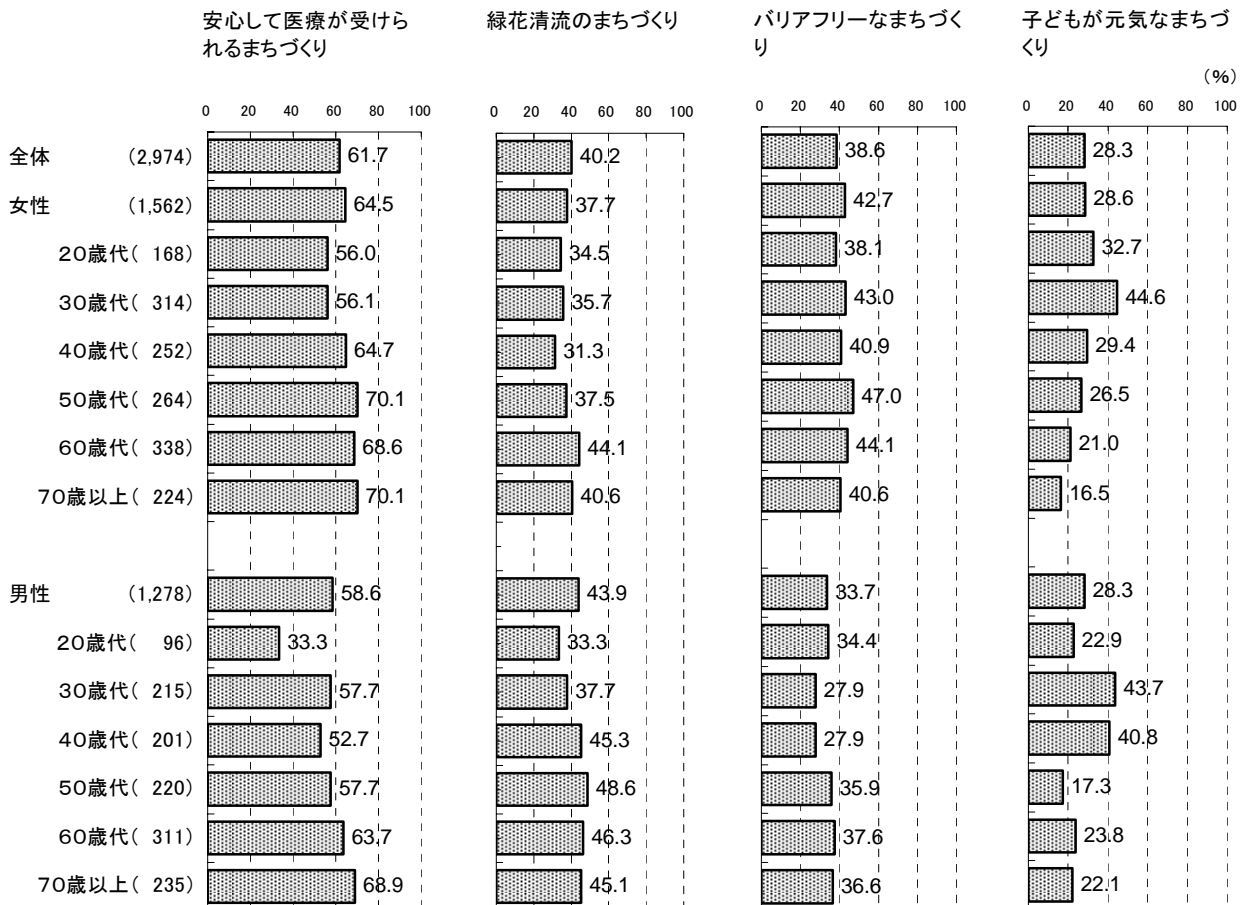
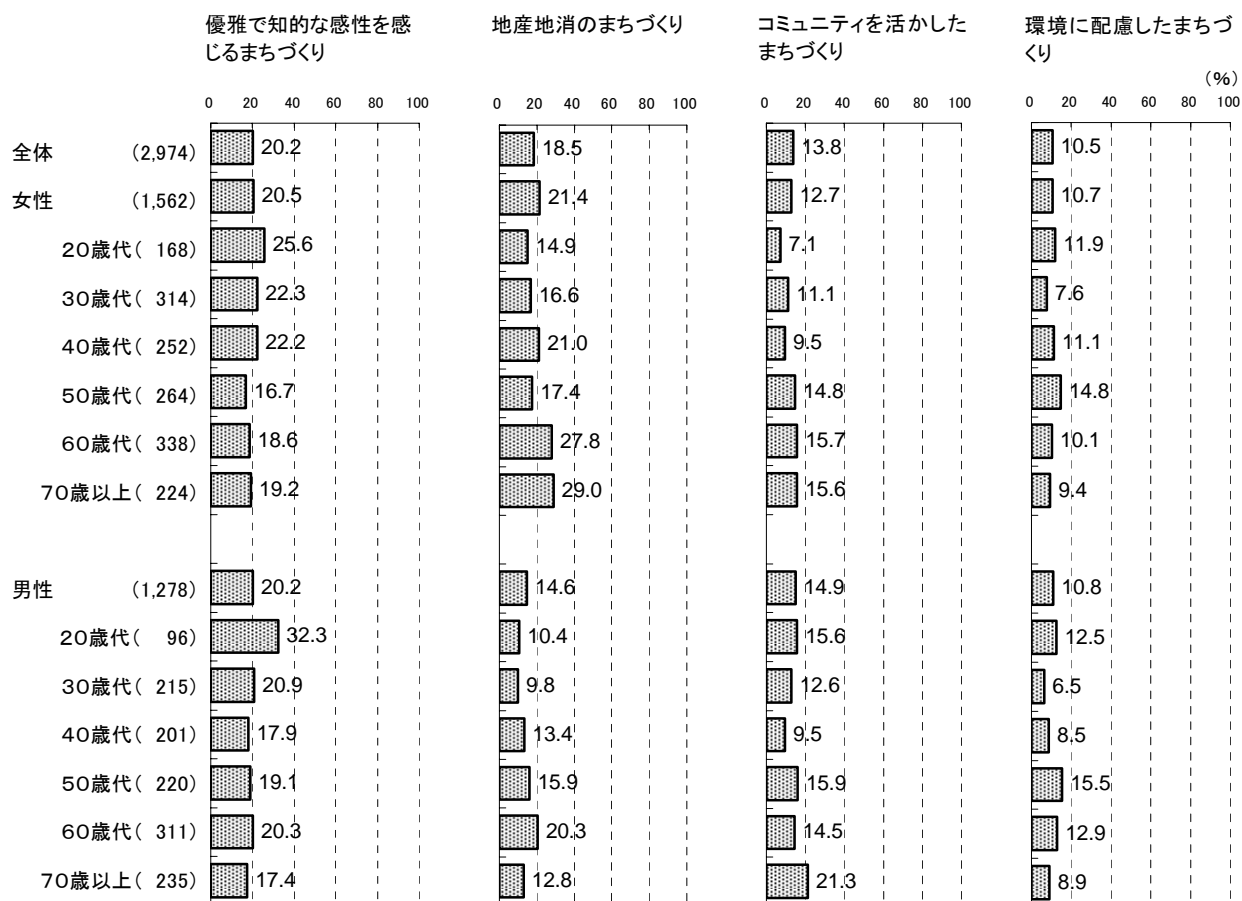
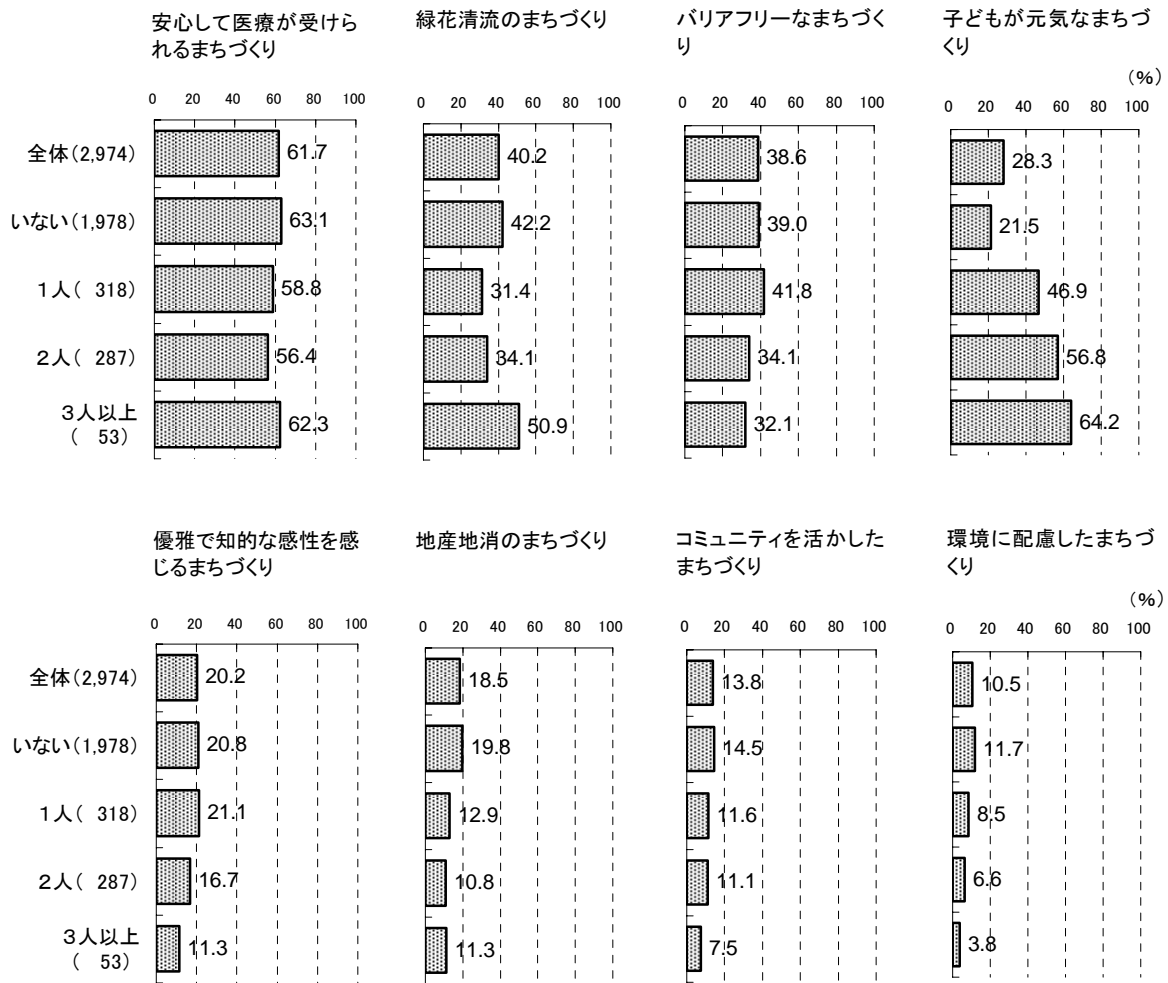


図1-2-4 性別、性・年代別（続き）



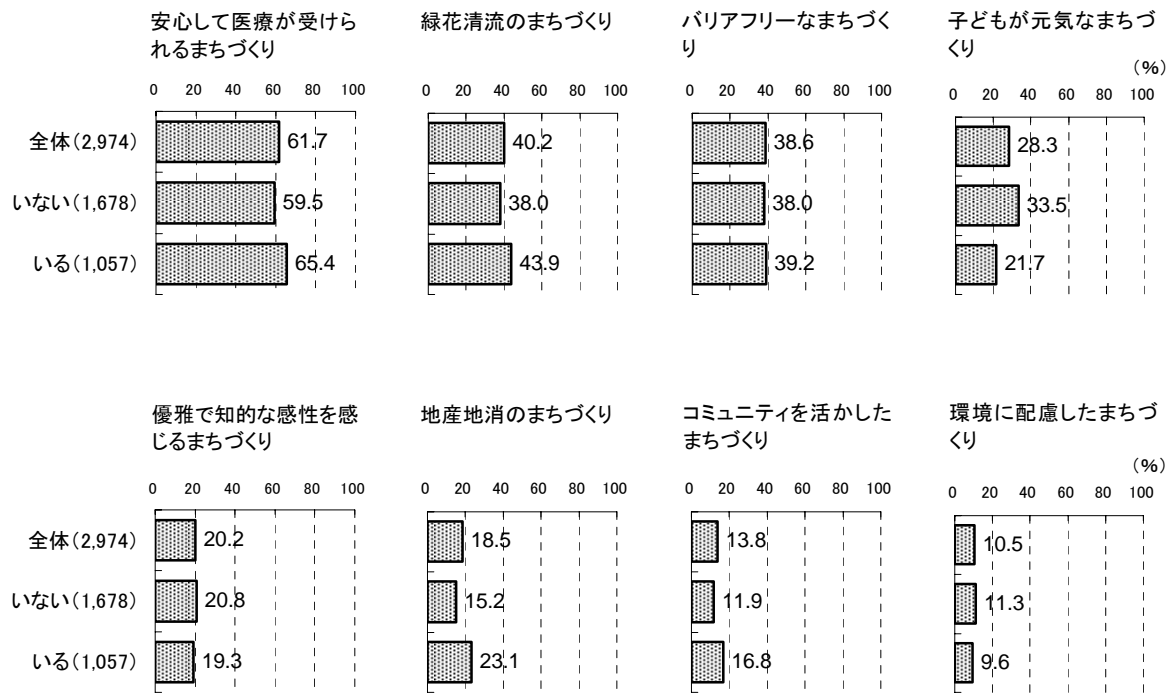
同居の中学生以下の子どもの人数別にみると、「子どもが元気なまちづくり」では子どもの人数が多くなるほど割合が高くなる傾向となっている。「緑花清流のまちづくり」においても、子どもの人数が多いほど概ね割合も高くなっているが、子どものいない人の割合は全体平均より2ポイント高くなっている。

図1-2-5 中学生以下の子どもの人数別



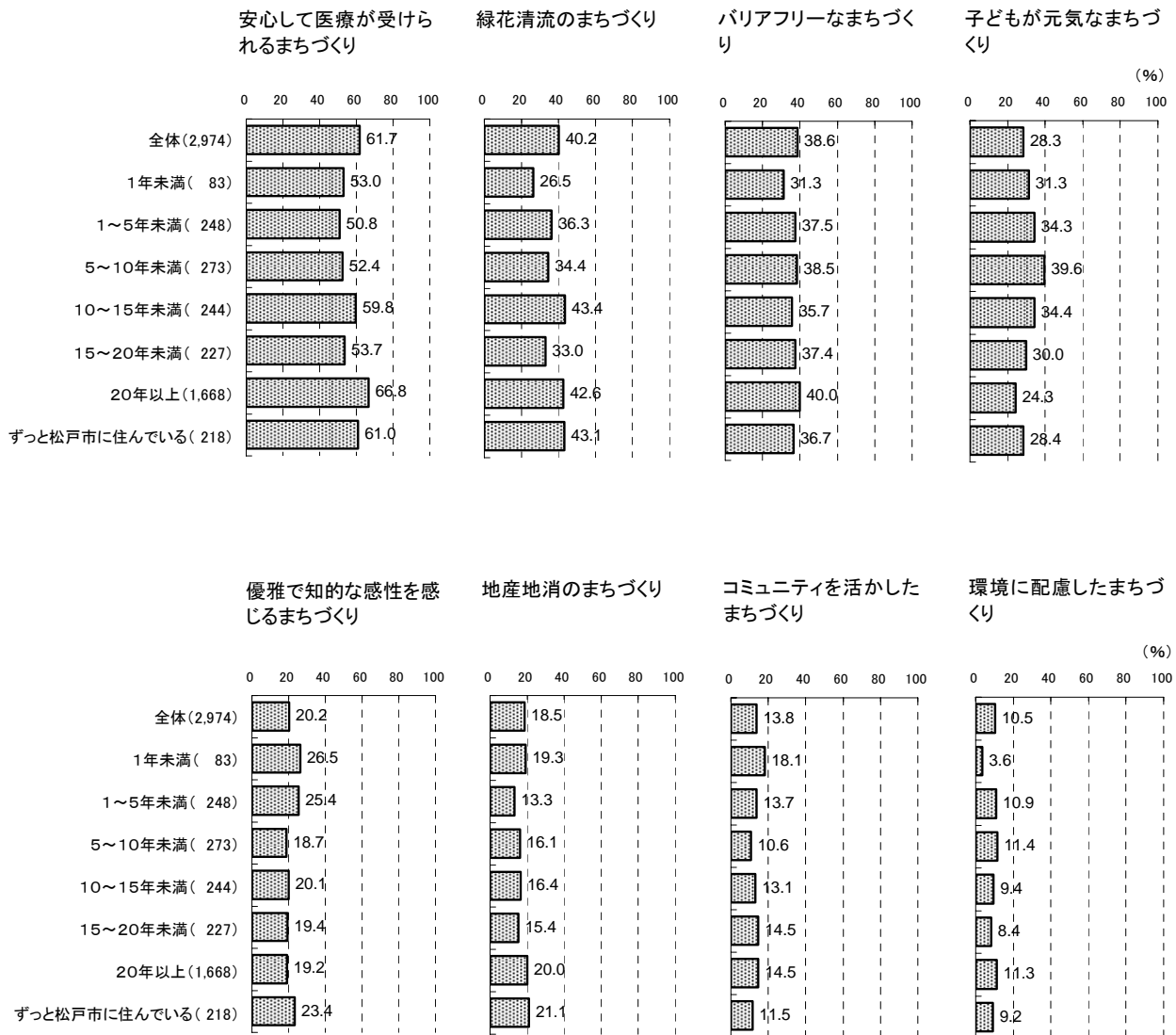
同居の高齢者の有無別にみると、「安心して医療が受けられるまちづくり」「緑花清流のまちづくり」「地産地消のまちづくり」で、〈いる〉層のほうが〈いない〉層よりもそれぞれ、5.9ポイント、5.9ポイント、7.9ポイント高くなっている。一方、「子どもが元気なまちづくり」では、同居の高齢者が〈いる〉層のほうが〈いない〉層よりも11.8ポイント低くなっている。

図1-2-6 65歳以上の高齢者の有無別



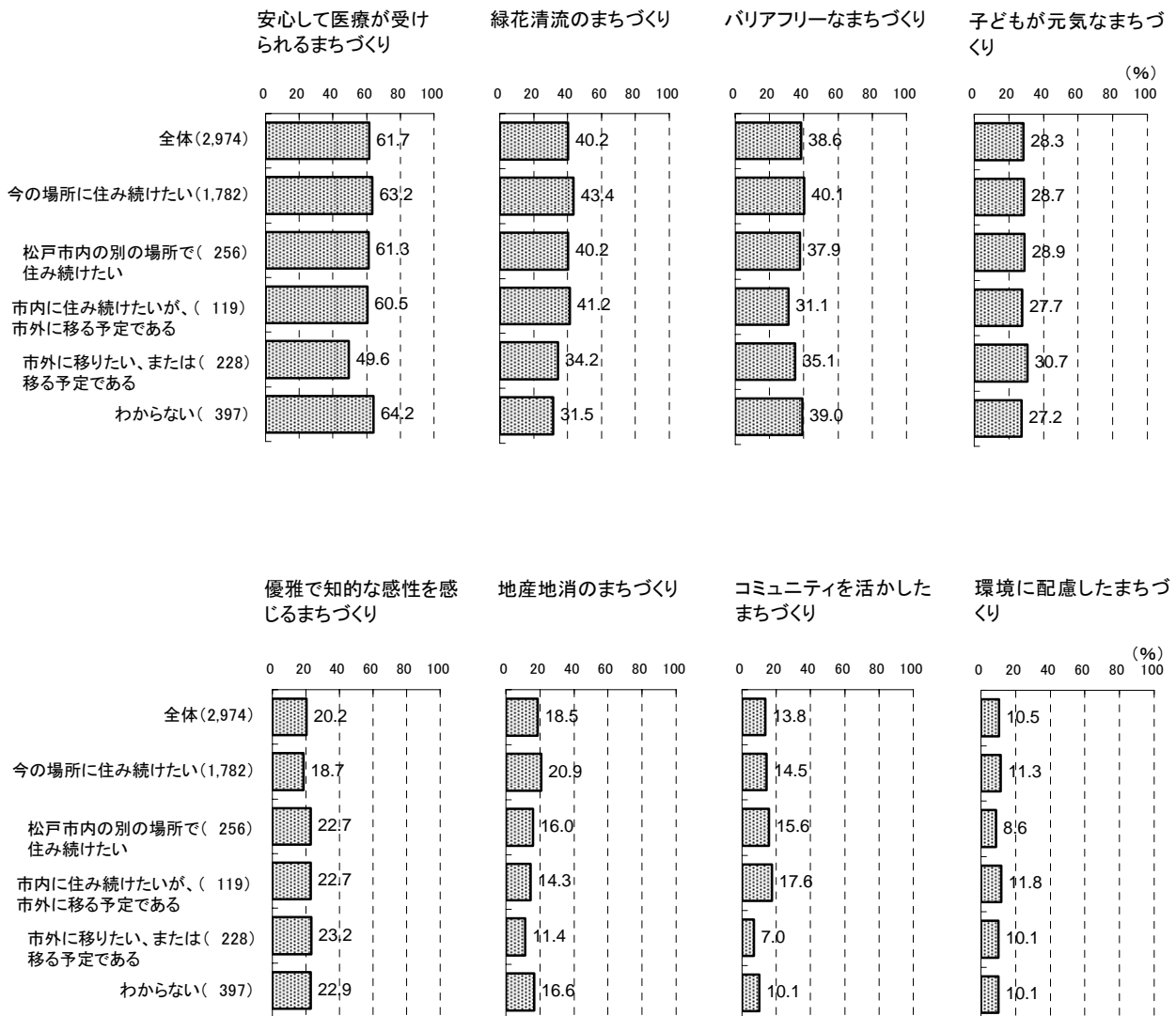
居住年数別にみると、「子どもが元気なまちづくり」では「5～10年未満」が最も多くなっている。その他の各選択肢では、大きな差はあまり見られない。

図1-2-7 居住年数別



定住意向別でみると、「安心して医療が受けられるまちづくり」では「市外に移りたい、または移る予定である」人の割合が全体平均より 12.1 ポイント低い 49.6%であった。他の選択肢は、定住意向による差はあまりみられなかった。

図 1-2-8 定住意向別



(3) 行政サービスの提供のあり方として相応しい方法

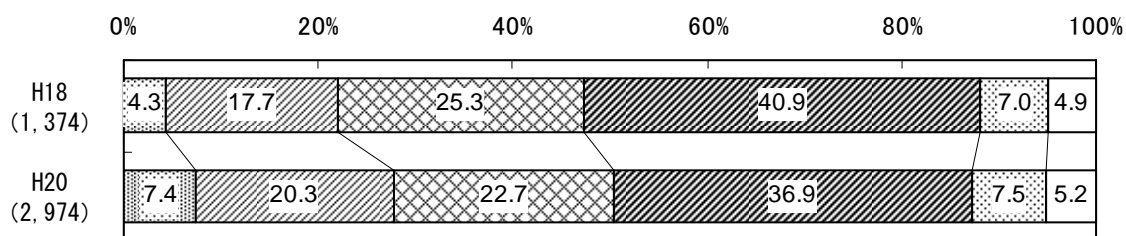
問8 平成 17(2005)年は、出生数が死亡数を下回り、日本全体の人口が減少していく人口減少社会が想定より早く到来しました。これからの社会では、「税や公的保険料を負担する人が少なくなるが、税などでまかなわれる市役所のサービスを必要とする人が増える」ことが予想され、その結果、「一人ひとりが市役所から受けられるサービスが減る」ことが考えられます。

また、助け合いや支え合いができる地域社会が維持できなくなったり、経済活動を支える年齢層が希薄になり、平均的に生活水準が低下することも考えられます。

このような社会情勢の下での市役所など行政サービスの提供のあり方として、どのような方法が相応しいと考えますか。

なお、市役所などが行う行政サービスは、十分効率的に行われているものとしてお考えください。(〇は1つだけ)

図 1-3-1



- 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- その他
- 無回答

■ 調査票での選択肢

1. 高齢者などが増えることによりニーズが増えるのだから、市役所などが提供する行政サービスは拡大すべきであり、税や公的保険料の市民負担は大きく増やしても仕方がない
2. 市役所などが提供する行政サービスは現状を維持すべきであり、人口減少社会において労働人口は減るのだから、一人あたりの市民負担がその分だけ増えることは仕方がない
3. 税や公的保険料の市民負担は現状水準を維持すべきであり、労働人口が減ることによる市役所などの減収は仕方がない。市役所などが提供する行政サービスは減少させ、減少分は、市民の助け合いや、別にお金を払って、NPO・企業などの提供するサービスを購入するようにすればよい
4. 市役所などが提供する行政サービスは必要最低限とし、税や公的保険料の市民負担はできるだけ軽減すべきである。必要最低限を超える部分は、市民の助け合いや、別にお金を払って、NPO・企業などの提供するサービスを購入するようにすればよい
5. その他

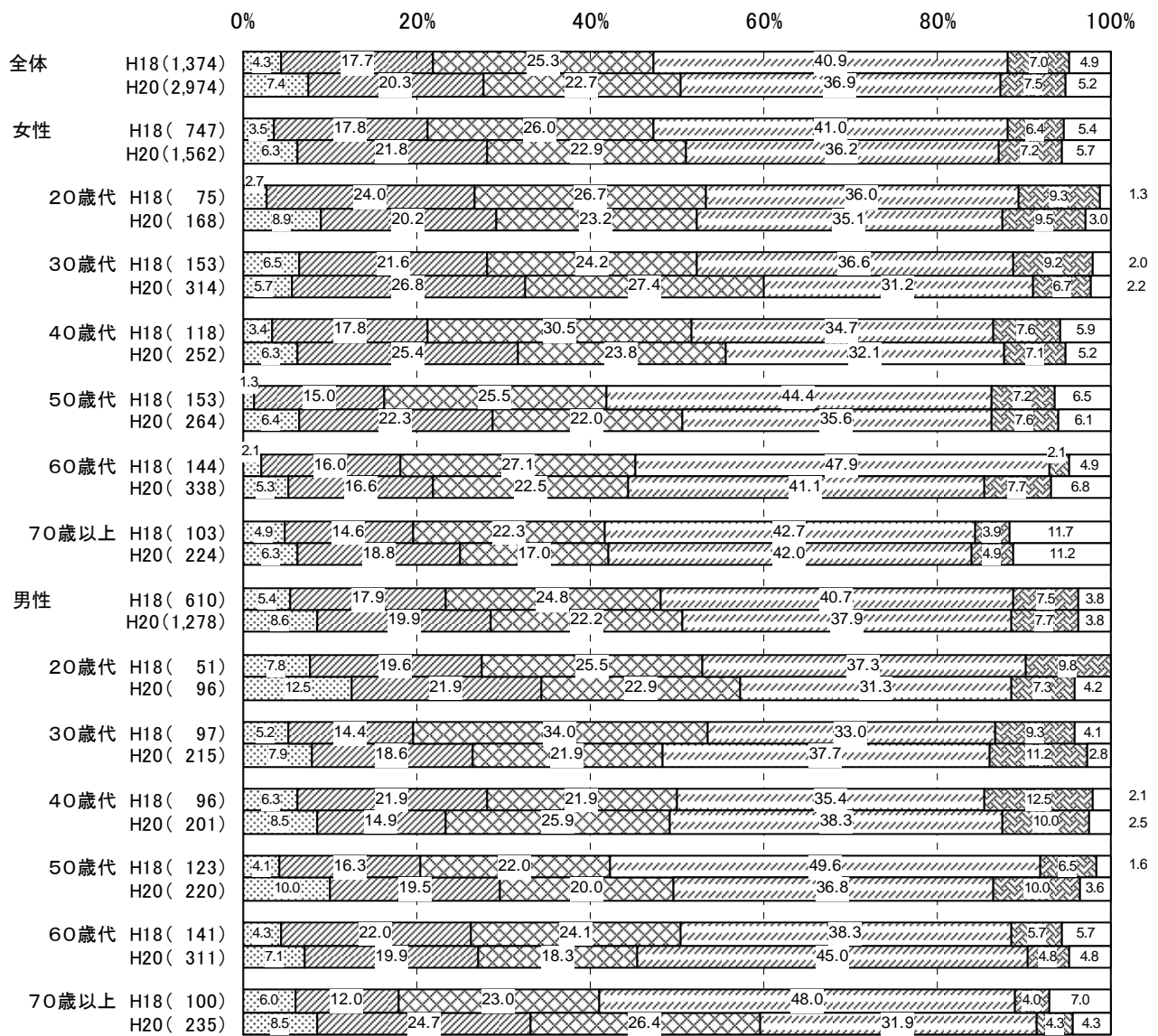
行政サービスの提供のあり方として相応しい方法としては、「行政サービスは必要最小限、市民負担はできるだけ軽減」が 36.9%で最も多く、次いで「行政サービスは減少、市民負担は現状水準」が 22.7%、「行政サービスは現状を維持、市民負担は労働人口減の分だけ増える」が 20.3%で続いている。「行政サービスは拡大、市民負担を大きく増やしても仕方がない」は 7.4%であった。

前回調査と比較して差が大きかったのは、「行政サービスは必要最小限、市民負担はできるだけ軽減」で、前回調査の 40.9%から 4.0 ポイント少なくなっている。また、「行政サービスは拡大、市民負担を大きく増やしても仕方がない」は、前回調査の 4.3%から 3.1 ポイント増加している。

行政サービスの提供のあり方として相応しい方法を性別、性・年代別でみると、男女の差はほとんどない。「行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する」では、60歳代男女、70歳以上女性の割合がやや高い。

そして、20歳代男性が31.3%であるのに対し、60歳代男性は45.0%、70歳代31.9%、また、20歳代女性は35.1%であるのに対し、60歳代女性は41.1%、70歳代42.0%となっている。

図1-3-2 性別、性・年代別

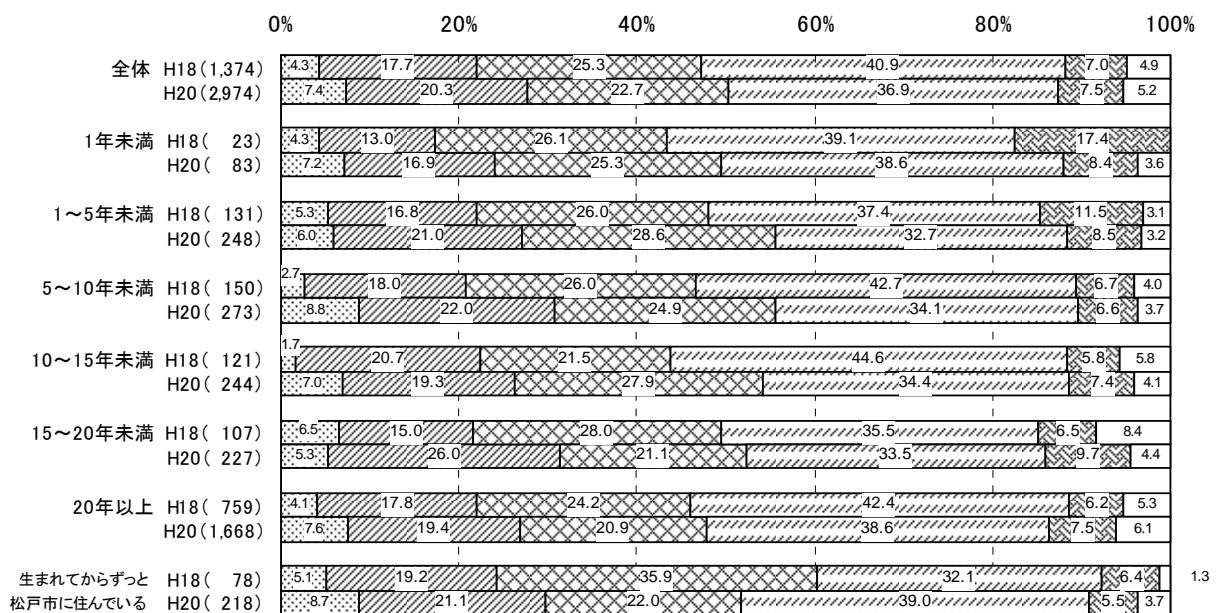


- ☑ 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- ☑ 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- ☑ 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- ☑ 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- ☑ その他
- 無回答

居住年数別にみると、「行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える」では「5～10年未満」が8.8%で最も多く、「行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える」では「15～20年未満」が26.0%で最も多い。

また、「行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する」では「1年未満」が38.6%、「20年以上」が38.6%、「生まれてからずっと松戸市に住んでいる」が39.0%と、居住年数による差はほとんどみられなかった。

図1-3-3 居住年数別



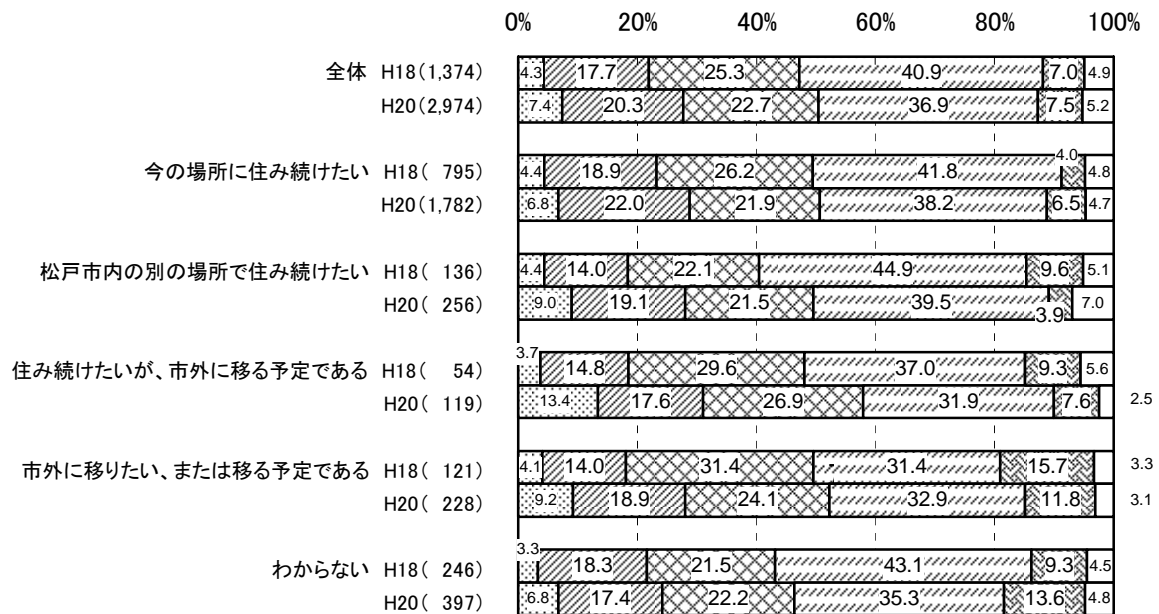
1.3

- 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- その他
- 無回答

定住意向別でみると、「行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する」では「今の場所に住み続けたい」38.2%、「松戸市の別の場所で住み続けたい」39.5%であるのに対し、「住み続けたいが、市外に移る予定である」31.9%、「市外に移りたい、または移る予定である」32.9%となっており、『松戸市に住み続けたい』人のほうがやや高い割合となっている。

H18年度と比べると、「行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える」が定住意向に関わらず増えている。

図1-3-4 定住意向別

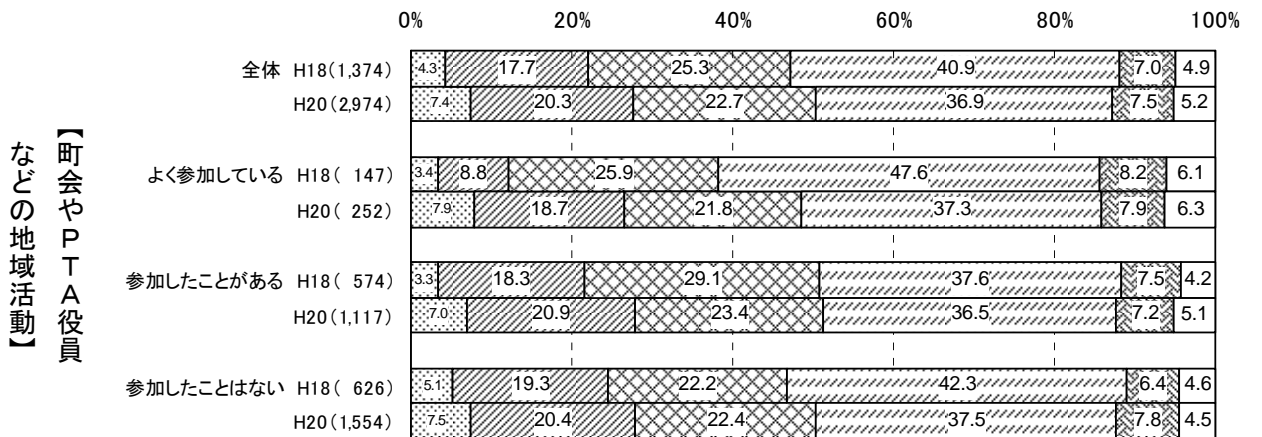


- 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- ▣ 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- ▤ 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- ▥ 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- その他

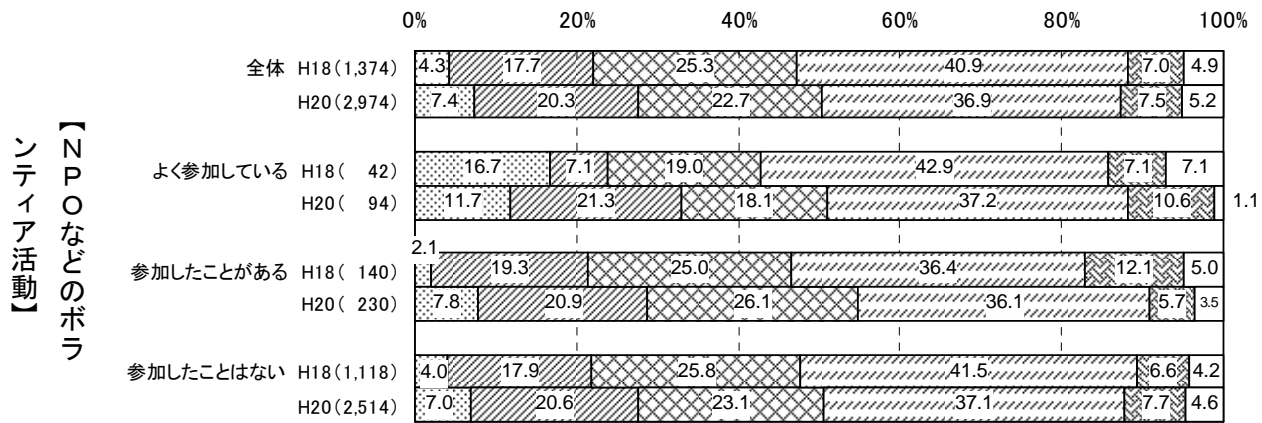
地域活動やボランティア活動等への現在の参加状況別でみると、町会やPTA役員などの地域活動に〈よく参加している〉層では、「行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減」が37.3%、〈参加したことがある〉が36.5%、〈参加したことはない〉が37.5%となっている。

一方、NPO活動などのボランティア活動に〈よく参加している〉層では、「行政サービスは拡大、市民負担を大きく増やしても仕方がない」が11.7%と最も多くなっている。

図1-3-5 地域活動やボランティア等への現在の参加状況別



- ☒ 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- ☒ 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- ☒ 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- ☒ 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- ☒ その他
- ☐ 無回答

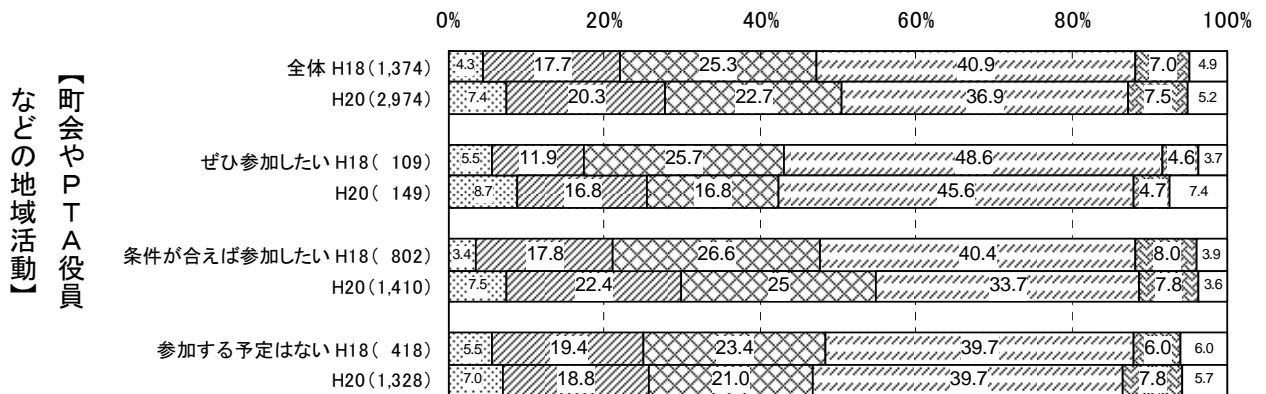


- ☒ 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- ☒ 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- ☒ 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- ☒ 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- ☒ その他
- ☐ 無回答

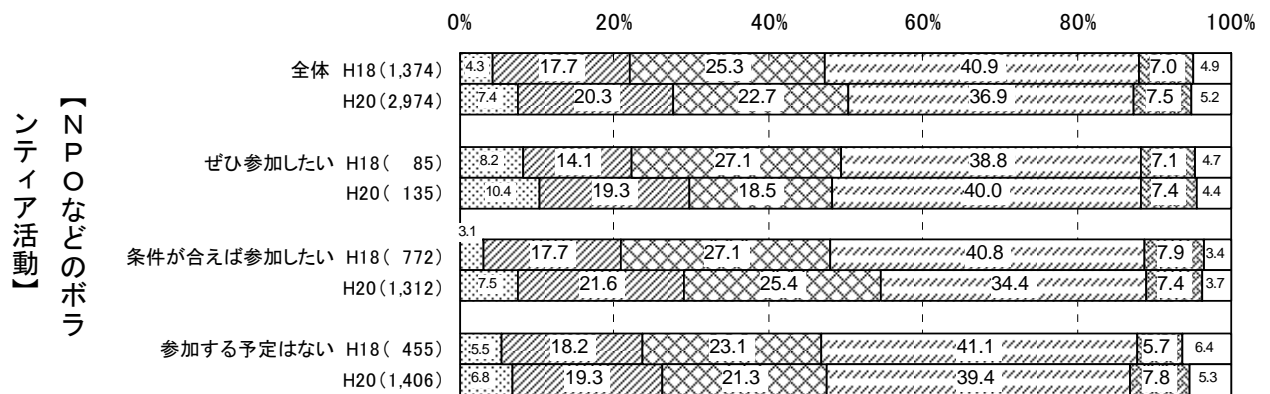
地域活動やボランティア活動等への今後の参加意向別でみると、町会はPTA役員などの地域活動に〈ぜひ参加したい〉層では、「行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減」が45.6%、〈条件が合えば参加したい〉が33.7%、〈参加する予定はない〉が39.7%となっている。

一方、NPO活動などのボランティア活動に〈ぜひ参加したい〉層では、「行政サービスは拡大、市民負担を大きく増やしても仕方がない」が10.4%と最も多くなっている。

図1-3-6 地域活動やボランティア等への今後の参加意向別



- 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- その他
- 無回答



- 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- その他
- 無回答

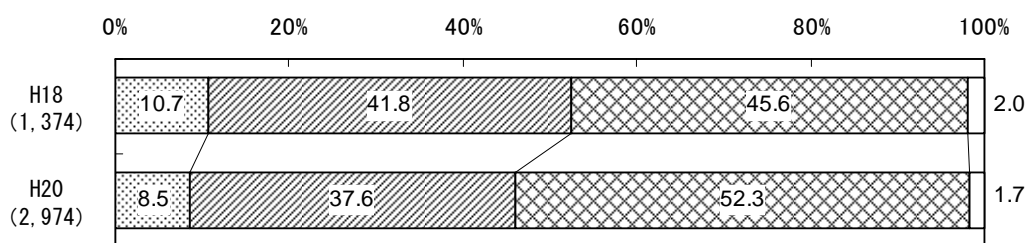
(4) 地域活動やボランティアへの参加状況と参加意向

問5 平成10(1998)年のNPO法(特定非営利活動促進法)の施行後、NPO法人は増加し、市内で活動するNPOは、114団体になります(平成20年12月現在)。人口減少社会における市民の多様化するニーズに対応するためには、市役所などの行政がサービスを全てまかなうのではなく、市民の助け合いやNPOなどの活動によってニーズを充足させていくことが期待されています。

あなたは、普段の仕事や家事、育児のほかに、町会などの地域活動やNPOなどのボランティア活動に、どの程度、参加していますか。また、今後参加してみたいと考えていますか。(〇は、現在・今後とも、アとイ、それぞれ1つずつ)

図1-4-1 現在の参加状況

(ア) 町会やPTA役員などの地域活動



(イ) NPOなどのボランティア活動

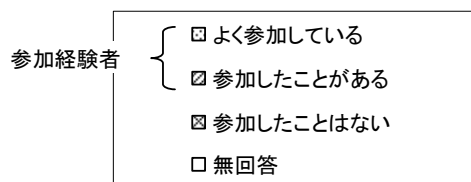
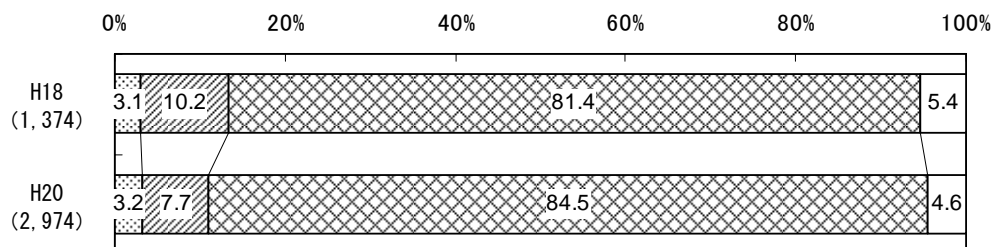
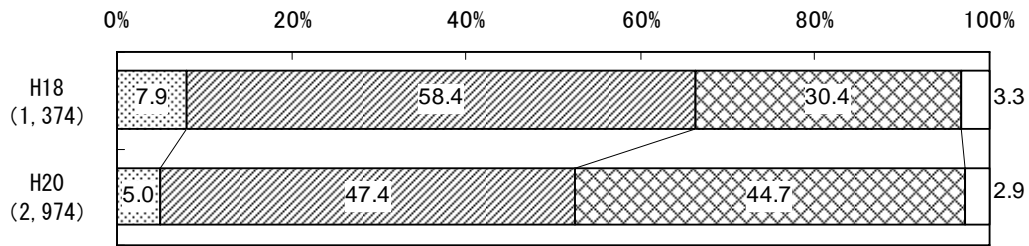
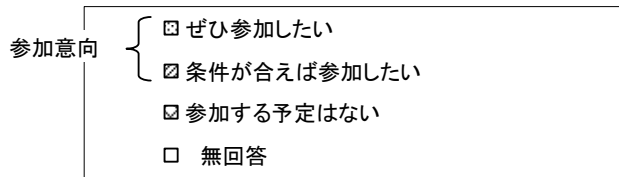
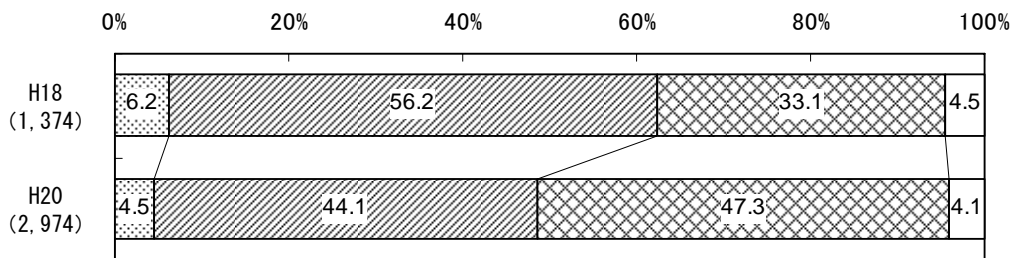


図 1-4-2 今後の参加意向

(ア) 町会やPTA役員などの地域活動



(イ) NPOなどのボランティア活動



地域活動やボランティアへの参加状況を見ると、〈町会やPTA役員などの地域活動〉に「よく参加している」人は8.5%で、「参加したことがある」人は37.6%となっている。H18年度調査に比べ、それぞれ2.2ポイント、4.2ポイント少なくなっている。

〈NPOなどのボランティア活動〉に「よく参加している」人は3.2%、「参加したことがある」人は7.7%である。H18年度調査に比べ、「よく参加している」人は0.1ポイント多くなり、「参加したことがある」人は2.5ポイント少なくなっている。

また、それぞれの今後の参加意向をみると、〈町会やPTA役員などの地域活動〉については、「ぜひ参加したい」がH18年度より2.9ポイント少ない5.0%、「条件が合えば参加したい」がH18年度より11.0ポイント少ない47.4%と、それぞれ割合が低くなっている。

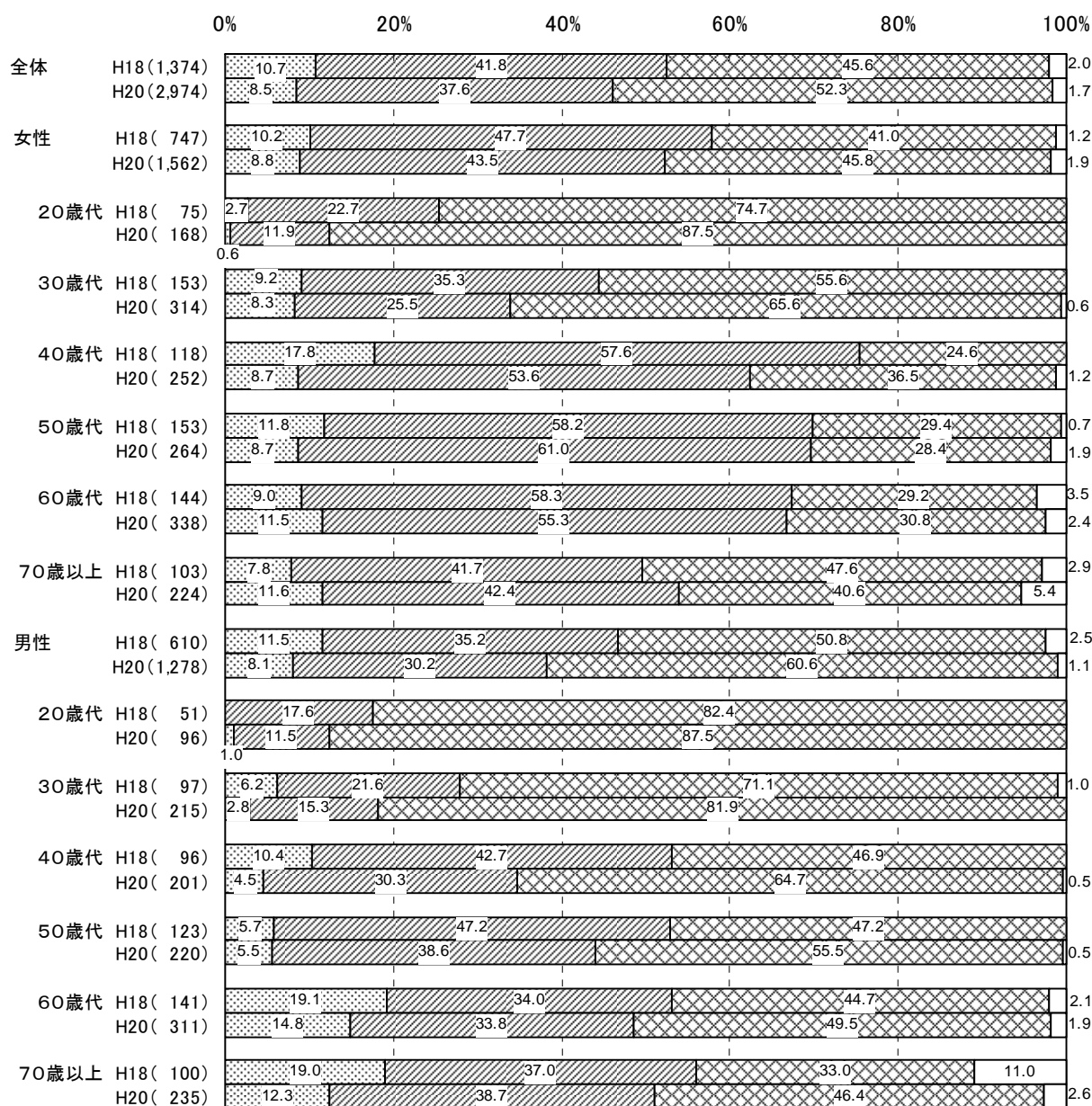
〈NPOなどのボランティア活動〉に「ぜひ参加したい」はH18年度より1.7ポイント少ない4.5%、「条件が合えば参加したい」がH18年度より12.1ポイント少ない44.1%となっており、ともに割合が低くなっている。

現在の参加状況を性別、性・年代別でみると、〈町会やPTA役員などの地域活動〉に「よく参加している人は、女性が8.8%、男性が8.1%とほとんど差がないのに対し、「参加したことがある」人は女性が43.5%、男性が30.2%と差が大きくなっている。

女性の『参加経験者』が最も多い年代は40歳代で、75.4%となっており、男性の『参加経験者』が最も多い年代も40歳代、53.1%となっている。

図1-4-3 性別、性・年代別 現在の参加状況

【町会やPTA役員などの地域活動】



参加経験者 {

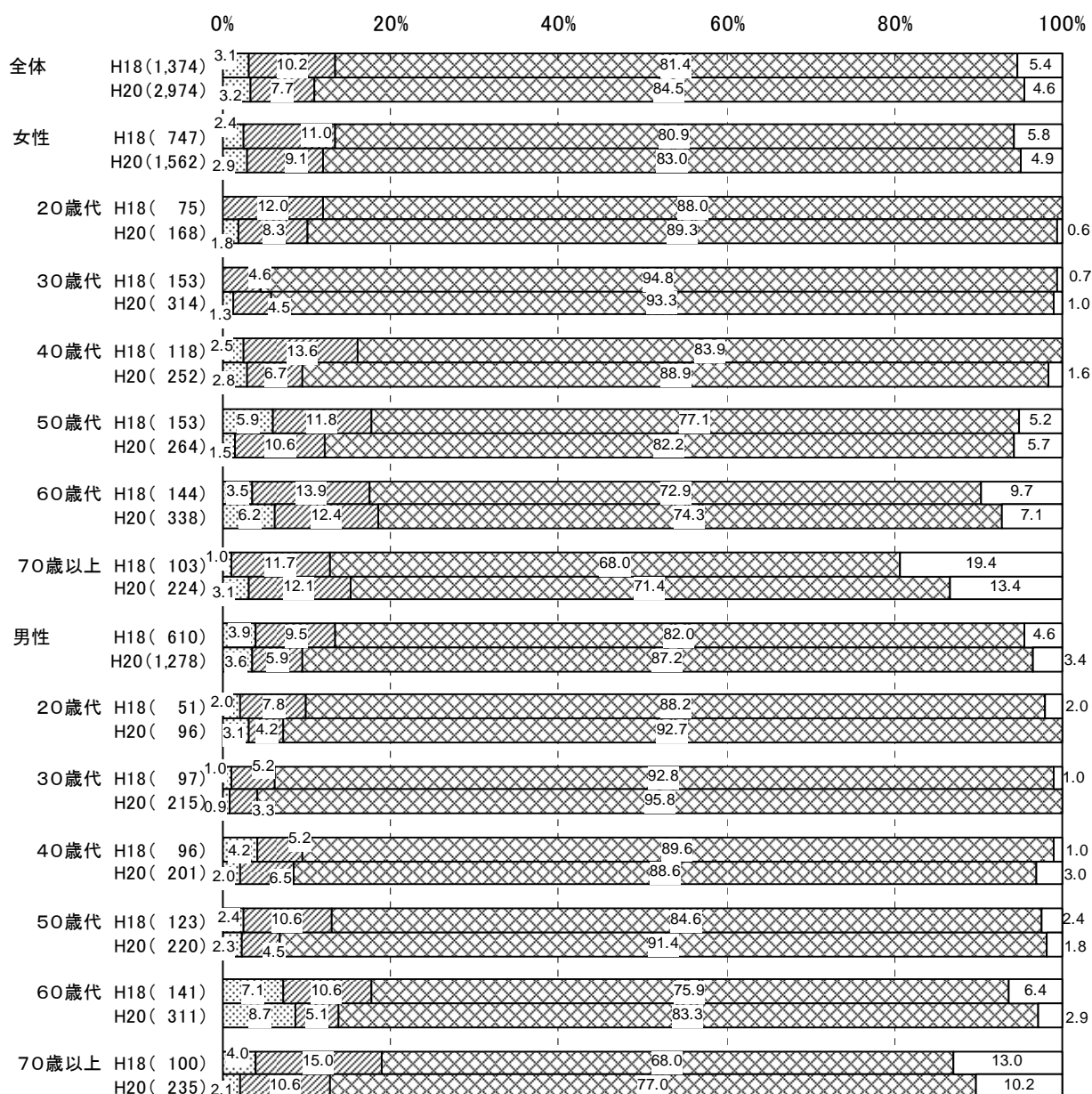
- よく参加している
- 参加したことがある
- 参加したことはない
- 無回答

〈NPOなどのボランティア活動〉は、「よく参加している」人が女性 2.9%、男性 3.6%、「参加したことがある」人が女性 9.1%、男性 5.9%となっている。

参加経験者が最も多い年代は、男女とも 60 歳代で、それぞれ 13.8%、18.6%となっている。

図 1-4-4 性別、性・年代別 現在の参加状況

【NPOなどのボランティア活動】

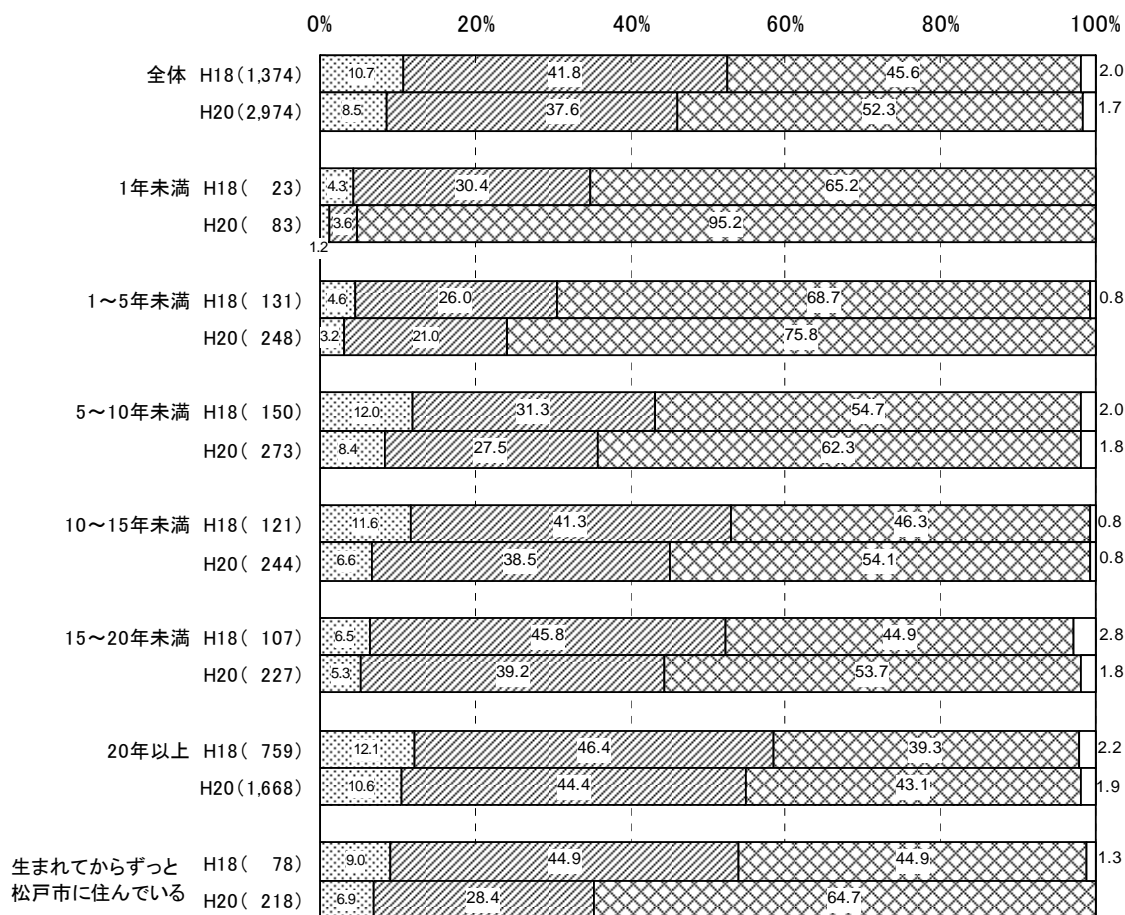


参加経験者 {
 よく参加している
 参加したことがある
 参加したことはない
 無回答

居住年数別にみた現在の参加状況は、〈町会やPTA役員などの地域活動〉では参加経験者が最も多いのが「20年以上」で55.0%となっている。居住年数が多いほど、概して参加経験者は多くなっている。

図1-4-5 居住年数別 現在の参加状況

【町会やPTA役員などの地域活動】

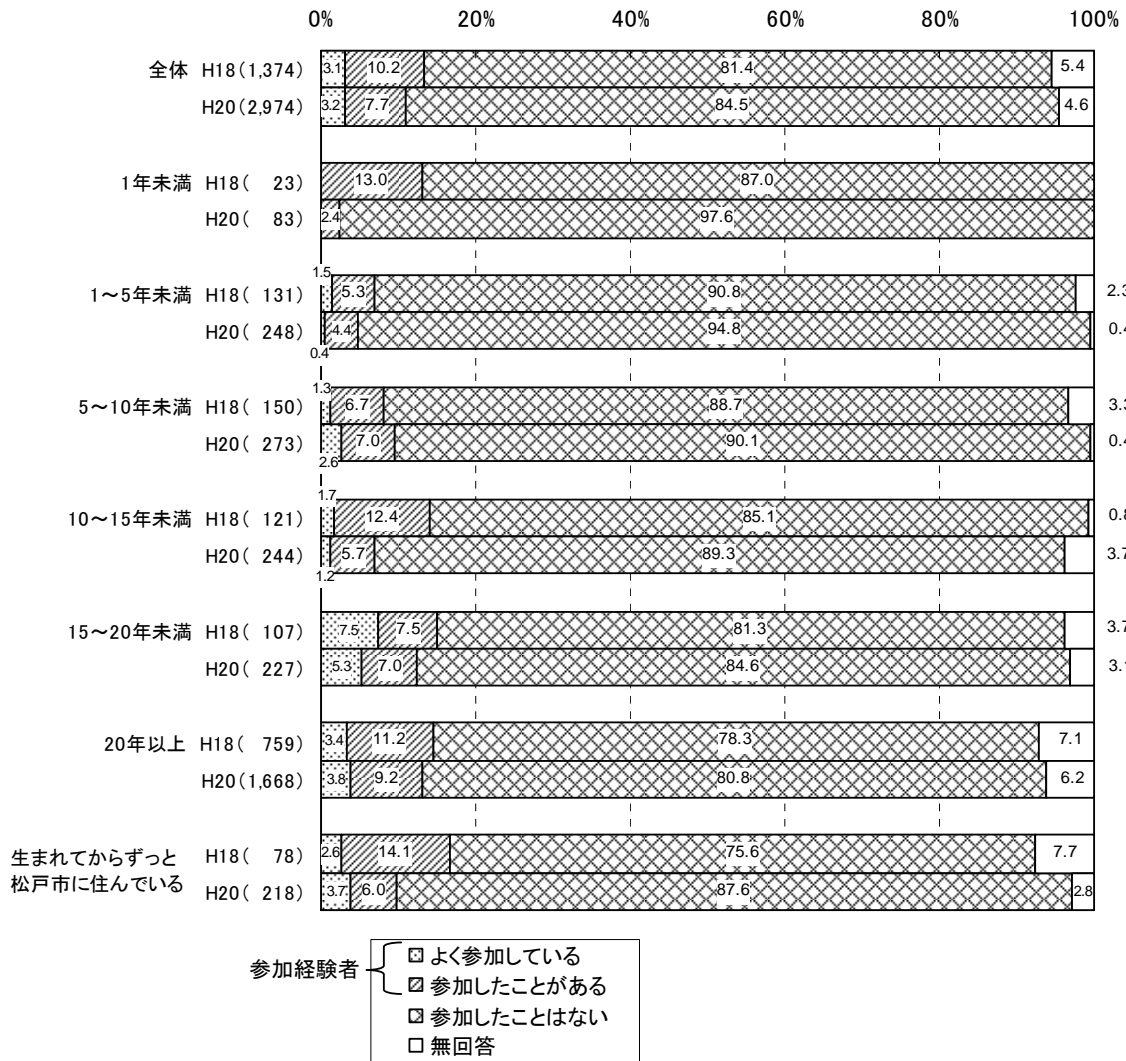


参加経験者 {
 よく参加している
 参加したことがある
 参加したことはない
 無回答

〈NPOなどのボランティア活動〉では、参加経験者が最も多いのが「20年以上」で13.0%となっている。「1年未満」では、参加経験者はわずか2.4%にとどまっている。

図1-4-6 居住年数別 現在の参加状況

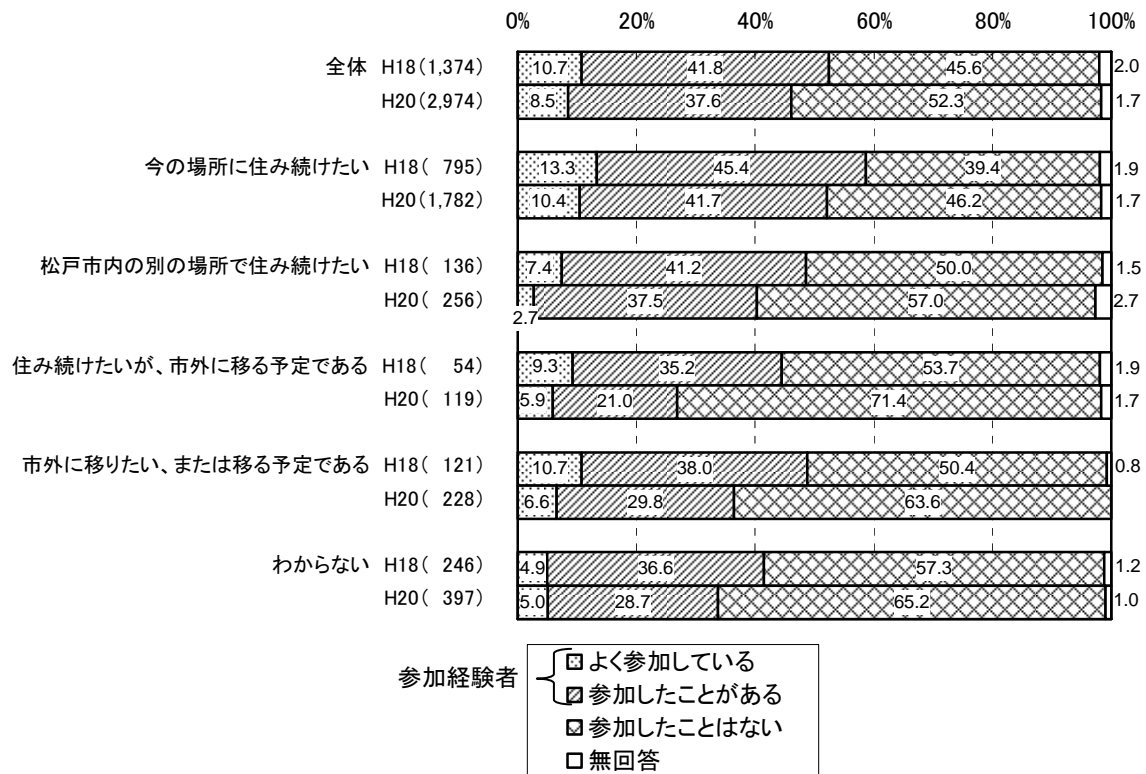
【NPOなどのボランティア活動】



〈町会やPTA役員などの地域活動〉について、「今の場所に住み続けたい」人の『参加経験者』は52.1%で最も多くなっている。

図1-4-7 定住意向別 現在の参加状況

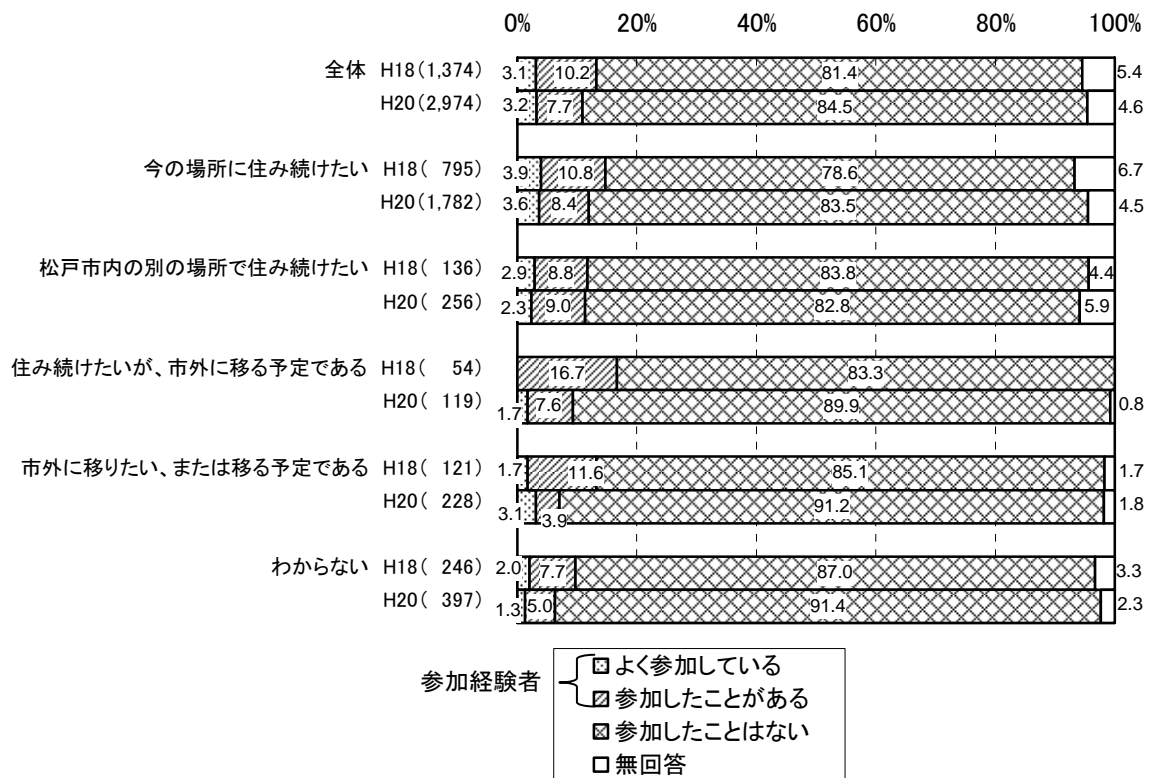
【町会やPTA役員などの地域活動】



〈NPOなどのボランティア活動〉について、「今の場所に住み続けたい」人の『参加経験者』は12.0%、次いで「松戸市内の別の場所で住み続けたい」が11.3%で続いている。

図1-4-8 定住意向別 現在の参加状況

【NPOなどのボランティア活動】

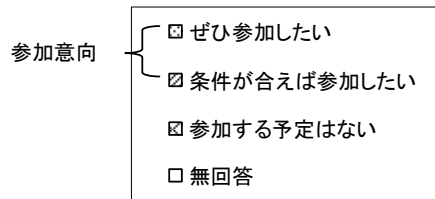
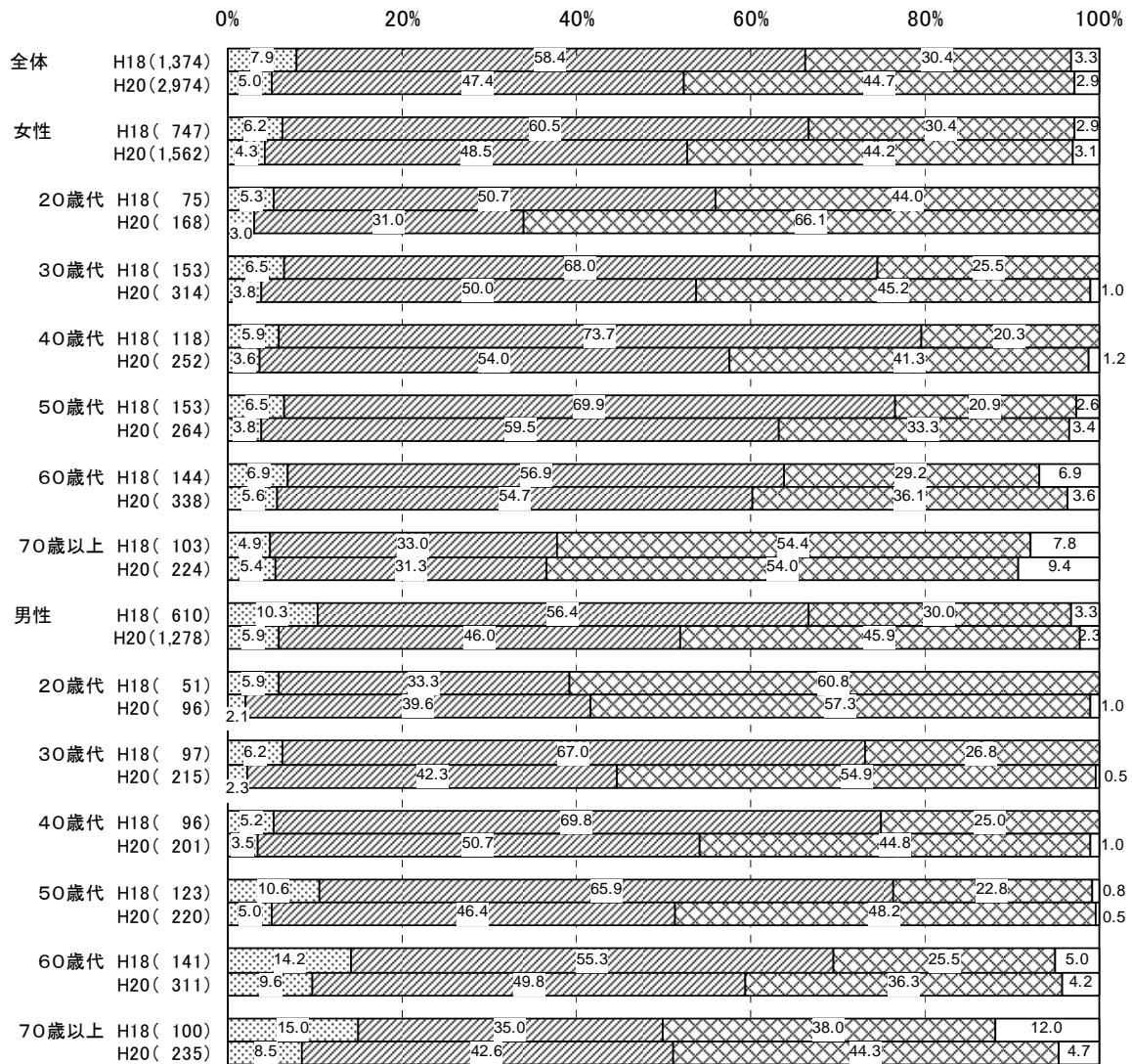


今後の参加意向を、性別、性・年代別でみると、〈町会やPTA役員などの地域活動〉に「ぜひ参加したい」が女性 4.3%、男性 5.9%、『参加意向』は女性 52.8%、男性 51.9%とほぼ同じ割合となっている。

また、H18 年度調査と比べ、『参加意向』は概ね各年代で減少しているが、20 歳代と 70 歳以上の男性が増加している。

図 1-4-9 性別、性・年代別 今後の参加意向

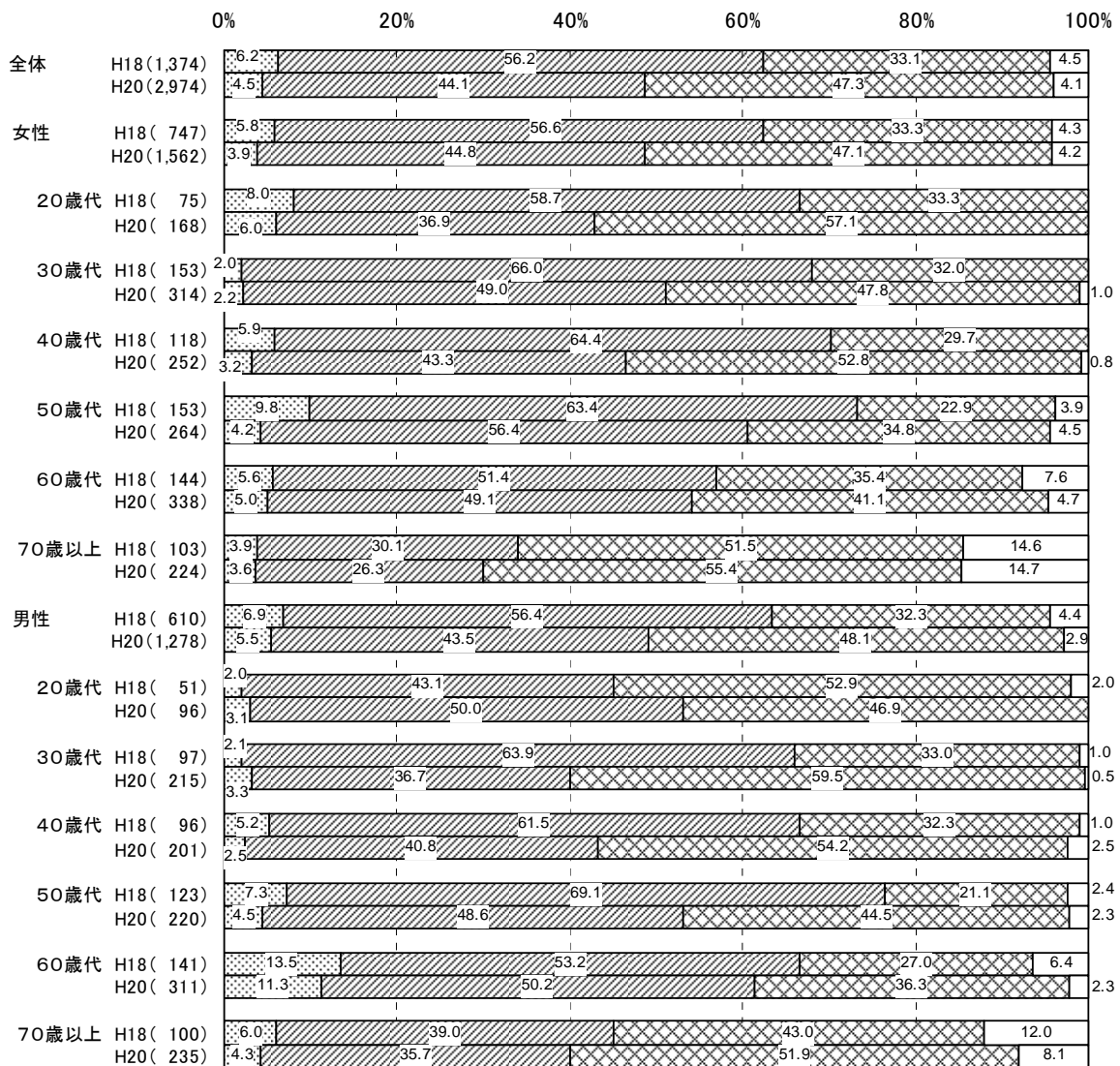
【町会やPTA役員などの地域活動】



〈NPOなどのボランティア活動〉は、「ぜひ参加したい」が女性 3.9%、男性 5.5%、『参加意向』は女性 48.7%、男性 49.0%とほぼ同じ割合となっている。『参加意向』は女性では50歳代が最も多く60.6%、男性は60歳代で61.5%となっている。また、平成18年度調査と比べ、『参加意向』はほぼ全ての年代で減少しているが、唯一、20歳代男性のみ増加している。

図1-4-10 性別、性・年代別 今後の参加意向

【NPOなどのボランティア活動】



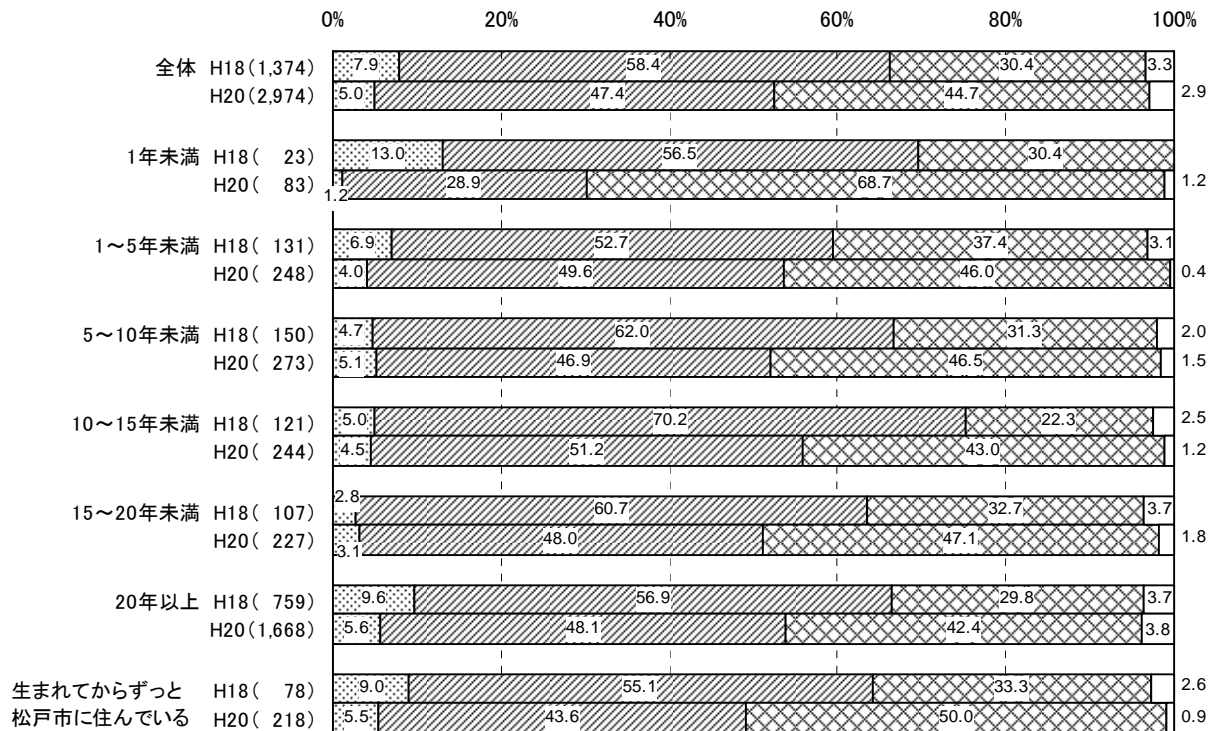
参加意向

- ☑ ぜひ参加したい
- ☑ 条件が合えば参加したい
- ☐ 参加する予定はない
- ☐ 無回答

居住年数別でみると、〈町会やPTA活動などの地域活動〉では、『参加意向』の割合は「1年未満」を除いて、それぞれ50%台となっている。

図1-4-11 居住年数別 今後の参加意向

【町会やPTA役員などの地域活動】

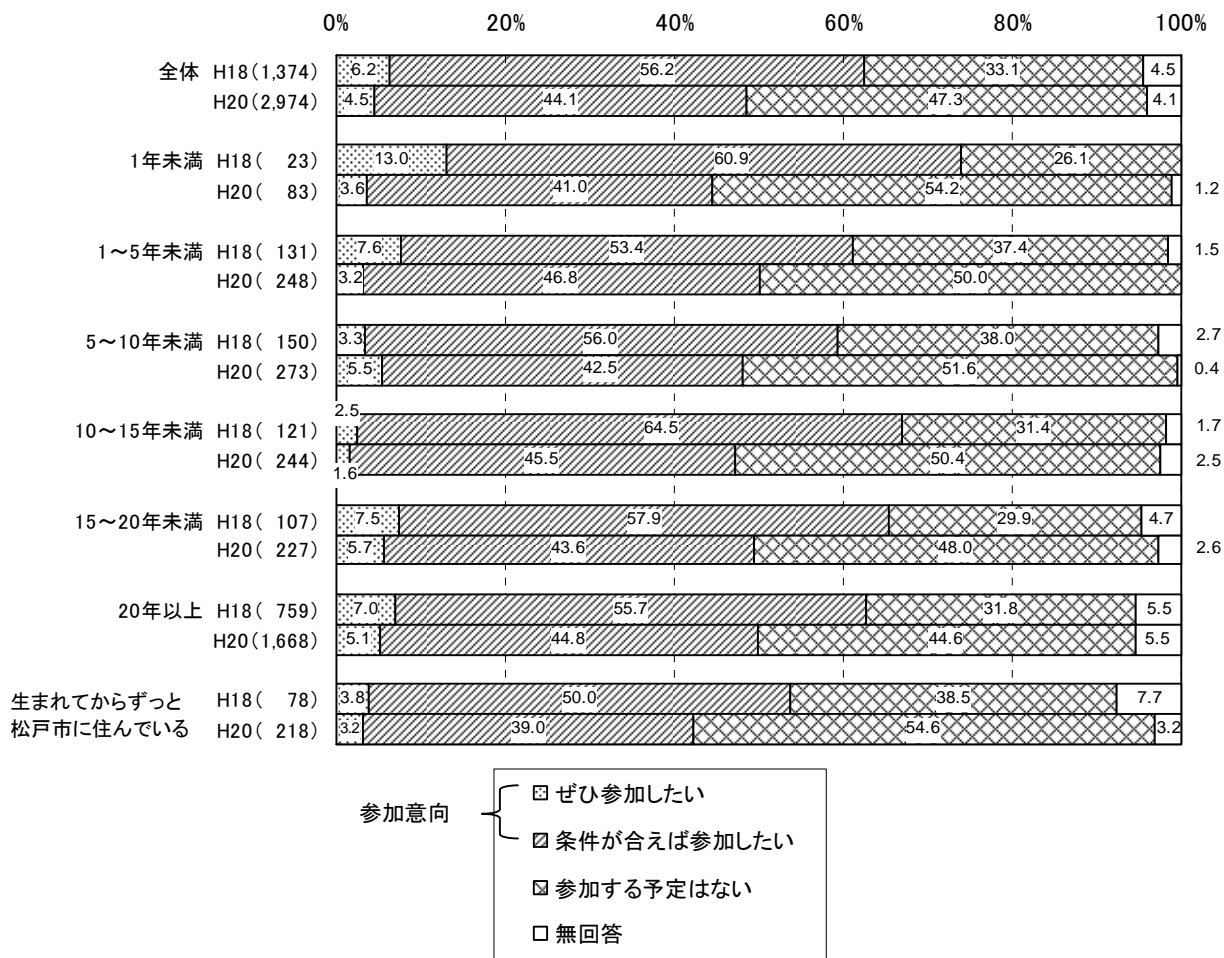


- 参加意向
- ぜひ参加したい
 - 条件が合えば参加したい
 - 参加する予定はない
 - 無回答

〈NPOなどのボランティア活動〉の『参加意向』をみると、「1年未満」が44.6%、「1～5年未満」が50.0%、「20年以上」が49.9%となっており、居住年数が長くなっても割合はあまり変わっていない。

図1-4-12 居住年数別 今後の参加意向

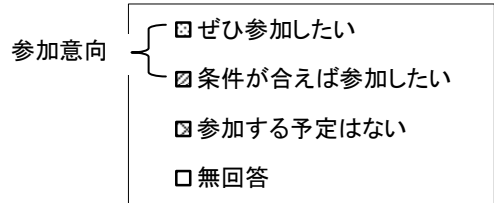
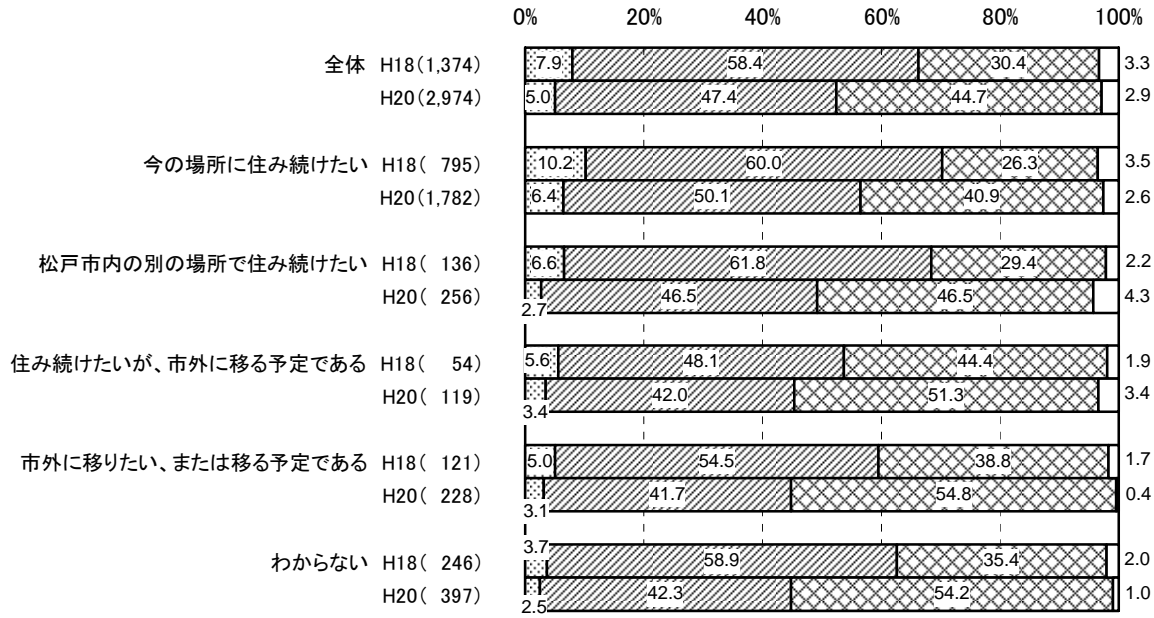
【NPOなどのボランティア活動】



定住意向別でみると、〈町会やPTA役員などの地域活動〉については、「今の場所に住み続けたい」人が56.5%で最も『参加意向』が多くなっている。

図1-4-13 定住意向別 今後の参加意向

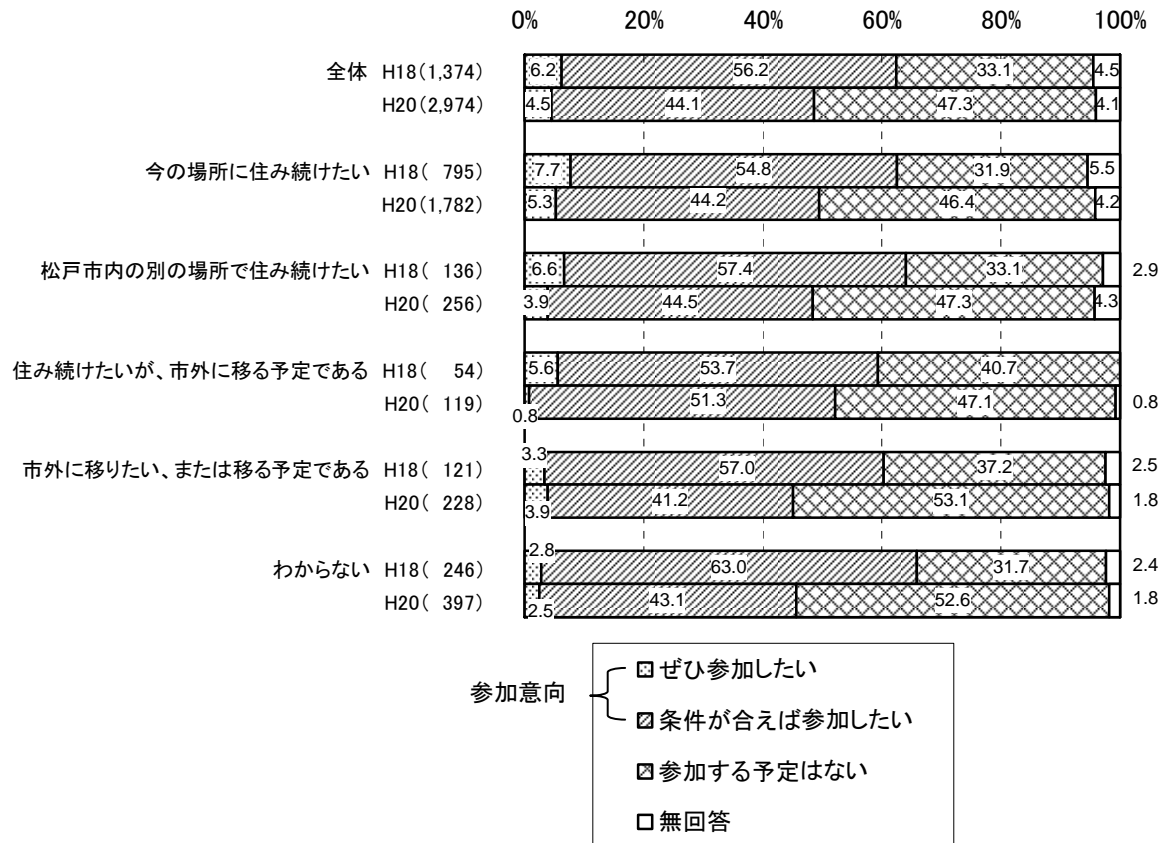
【町会やPTA役員などの地域活動】



〈NPOなどのボランティア活動〉は、「ぜひ参加したい」をみると、今の場所に住み続けたい人が5.3%でやや多くなっている。『参加意向』をみると、定住意向による差はあまりみられない。

図1-4-14 定住意向別 今後の参加意向

【NPOなどのボランティア活動】

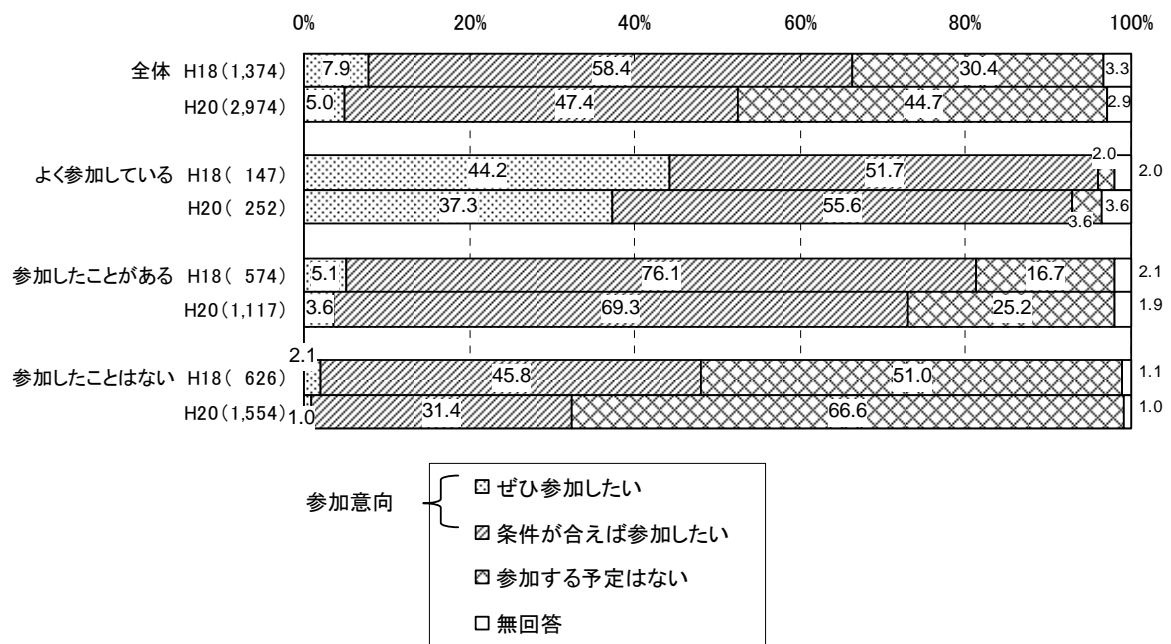


町会やPTA役員などの地域活動への、現在の参加状況別で今後の参加意向をみると、よく参加している層は「ぜひ参加したい」人の割合が、他の層よりも圧倒的に多くなっている。

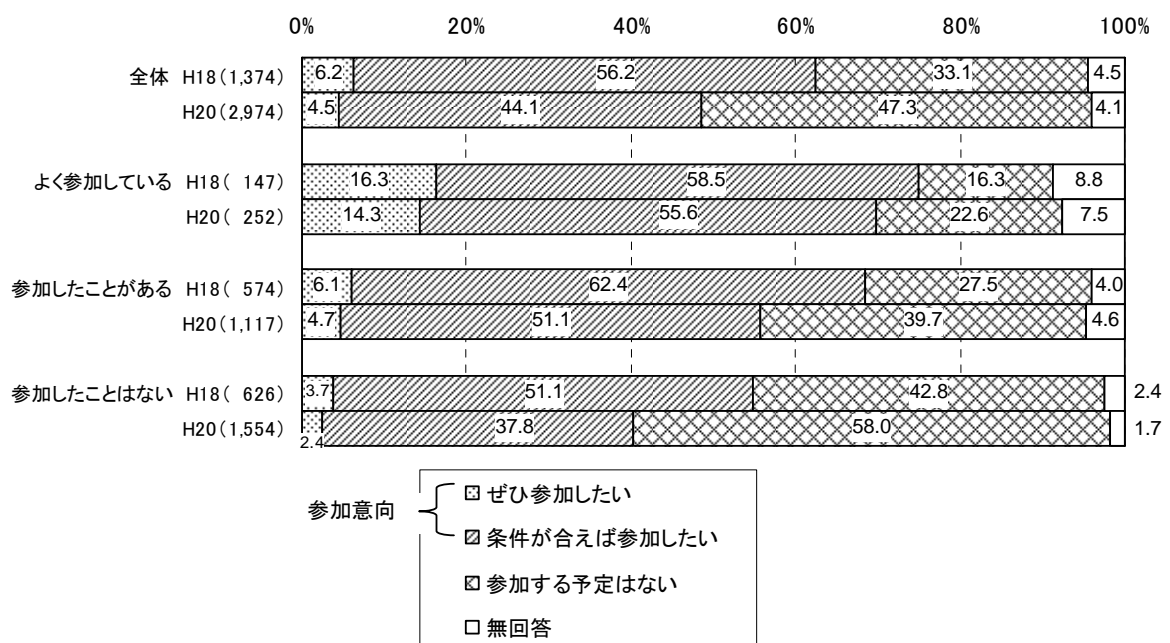
NPOなどのボランティア活動への参加意向についても、よく参加している層の「ぜひ参加したい」人の割合は高くなっている。

図1-4-15 町会やPTA役員などの地域活動への現在の参加状況別 今後の参加意向

【町会やPTA役員などの地域活動】



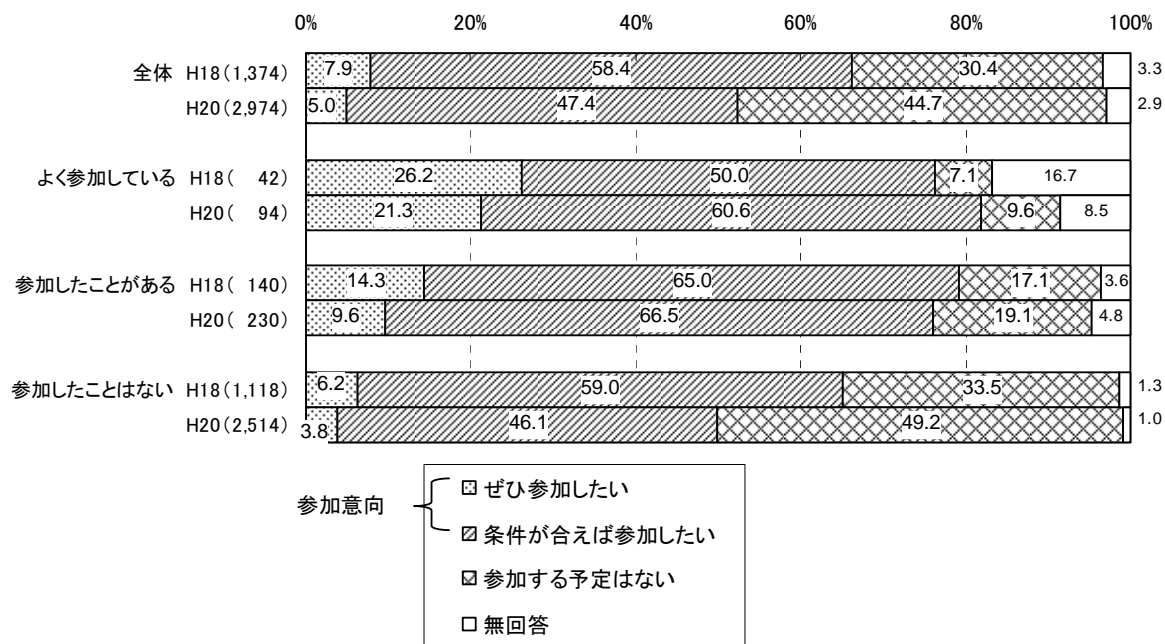
【NPOなどのボランティア活動】



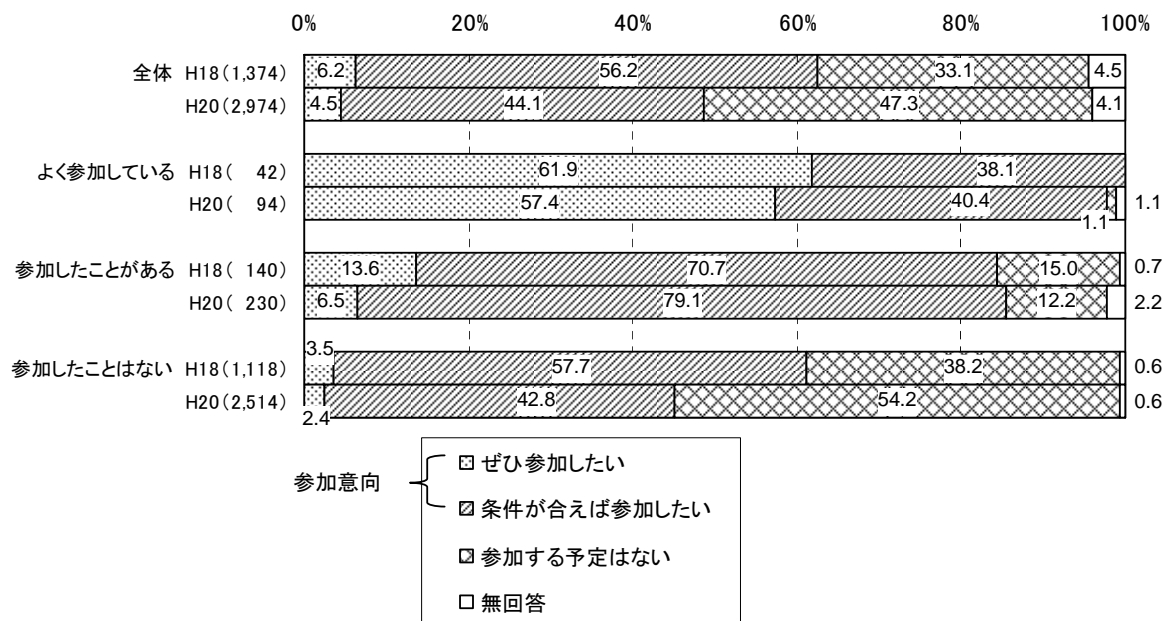
また、NPOなどのボランティア活動への現在の参加状況別でみると、よく参加している層ではNPOなどのボランティア活動に今後も「ぜひ参加したい」人の割合が圧倒的に高いことはもちろん、地域活動へ「ぜひ参加したい」人の割合も21.3%と高くなっている。

図1-4-16 NPOなどのボランティア活動への現在の参加状況別 今後の参加意向

【町会やPTA役員などの地域活動】



【NPOなどのボランティア活動】



(5) 現状評価と重要度

問 10 松戸市が今後も発展し続けていくためには、社会・経済環境などの様々な「環境の変化」に的確に対応し、市民の皆さまのニーズが増えているところに重点的に資源配分していくことが重要と考えられます。そこで、松戸市がこうなっているとよいと思われる状態を次のように整理しました。

あなたは、それぞれの項目について、現状をどのように評価し(現状評価)、今後取り組むことがどのくらい重要(今後の重要度)だとお考えですか。松戸市に税金を納める立場として、どのようなことに税金が使われるべきかという観点でお答えください。

項目ごとに現状評価と重要度について、あなたのお考えに一番近い番号を「1~4」の中から、それぞれ1つ選んで、番号に○印をつけてください。

(1) 現状評価について

24 政策等の満足度は、最も高い「いつでも安心して水道水が使えるようにする」の 1.59 から「多様な職場が用意され、働きたい人が、働けるようになっている」の -2.13 まで分布しており、マイナス評価は 18 項目となっている。

高い評価としては他に、「市内の身近なところで、松戸の歴史や文化が感じられるようになっている」が 0.55、「緑が保全され、身近な緑と花が増えている」が 0.51、低い評価としては「市民一人ひとりが、災害発生時における自らの役割を自覚し、被害の軽減や復旧に向けての行動がとれるようになっている」が -1.82、「地域産業が活性化し、市内で働く人が増えている」が -1.67 となっている。

H18 年度調査よりも評価が上がっているのが 21 項目、下がっているのが 3 項目となっている。最も評価が上がったのは「いつでも安心して水道水が使えるようにする」で 0.81 ポイントアップ、次いで「身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている」が 0.71 ポイントアップ、「次の世代を担う子どもたちが、地域の支え合いの中で健やかに生まれ育っている」が 0.64 ポイントアップとなっている。一方、評価の下がった項目は「より適切な救急救命処置ができるようになっている」の 0.47 ポイントダウンなどがある。

(2) 重要度について

24 政策等の重要度は、最も高い「地域の医療機関と役割分担し、市立病院が救命救急医療や小児医療などの充実を図っている」の 3.52 から「市内の身近なところで、松戸の歴史や文化が感じられるようになっている」の 0.79 まで分布しており、すべてプラスとなっている。

重要度が高いものとしては他に、「いつでも安心して水道水が使えるようにする」が 3.23、「次の世代を担う子どもたちが、地域の支え合いの中で健やかに生まれ育っている」が 3.18、重要度が低いものとしては「生涯学習やスポーツが、手軽に始められるようになっている」が 1.36、「身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている」が 1.81 となっている。

H18 年度調査よりも重要度が上がっているのが 9 項目、下がっているのが 15 項目となっている。最も重要度が上がったのは「地域産業が活性化し、市内で働く人が増えている」で 0.16 ポイントアップ、次いで「地域の医療機関と役割分担し、市立病院が救命救急医療や小児医療などの充実を図っている」が 0.15 ポイントアップとなっている。一方、評価の下がった項目は「身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている」の 0.31 ポイントダウンなどがある。

評価点は、「十分な状態である（重要である）」を4点、「まあまあ状態である（まあまあ重要である）」を2点、「やや不十分な状態である（あまり重要ではない）」を-2点、「不十分な状態である（重要ではない）」を-4点として、各選択肢の回答者数に乘じ、無回答を除く回答者数で除したものである。回答者全員が満足（重要）であれば、平均4点、回答者全員が不満（重要でない）であれば平均-4点となる。

図 1 - 5 - 1 現状評価

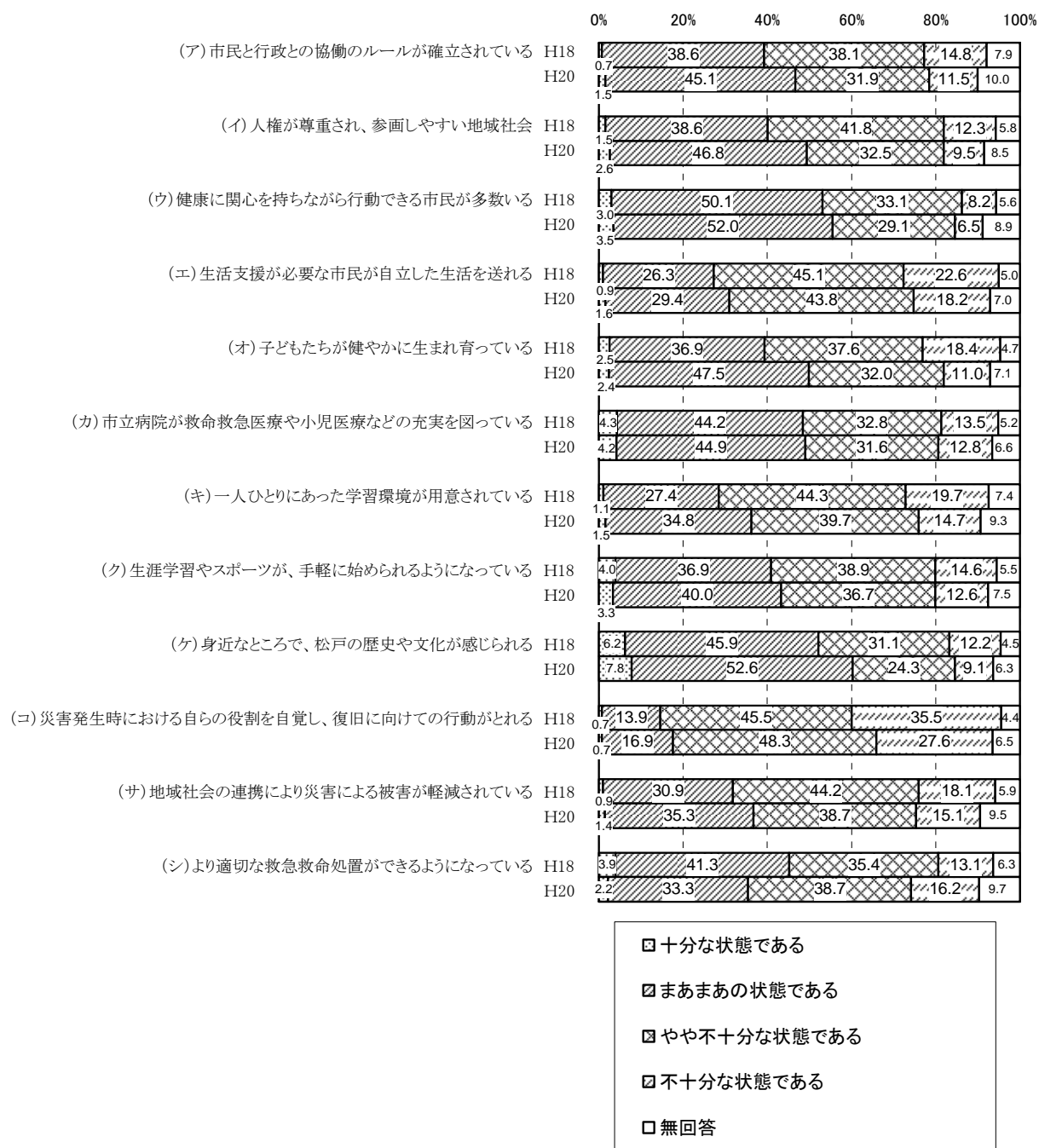


図 1-5-2 現状評価 (続き)

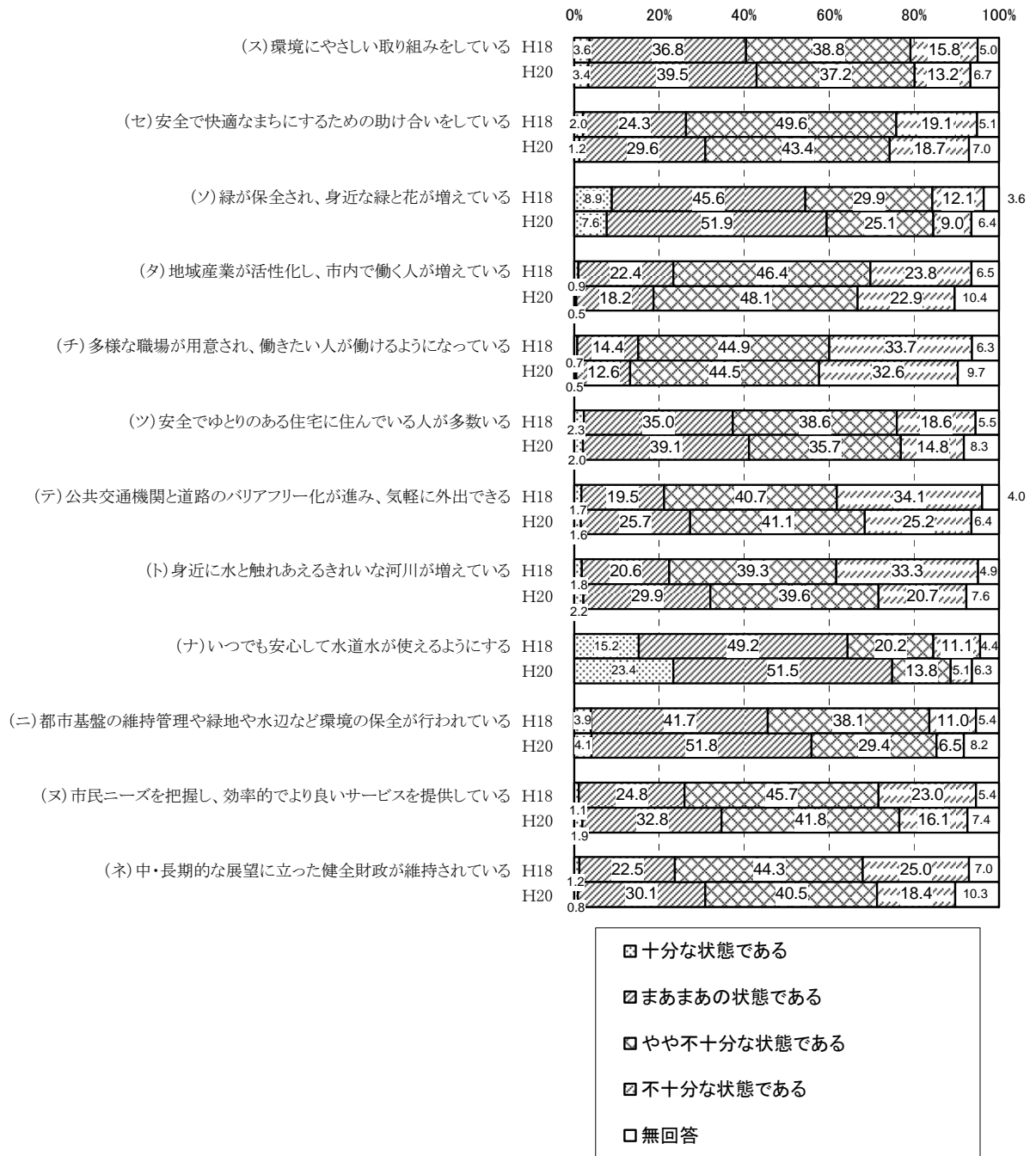


表 1-5-1 現状評価点

		① 評価点 (H 2 0)	② 評価点 (H 1 8)	(① - ②)
(ア)	市民と行政との協働のルールが確立されている	△ 0.15	△ 0.60	0.45
(イ)	一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会になっている	0.01	△ 0.53	0.54
(ウ)	自らの健康に関心を持ちながら行動できる市民が多数いる	0.37	0.14	0.23
(エ)	高齢者や障害を持つ人など生活支援が必要な市民が、地域の支え合いの中で自立した生活を送れるようになっている	△ 1.02	△ 1.31	0.29
(オ)	次の世代を担う子どもたちが、地域の支え合いの中で健やかに生まれ育っている	△ 0.04	△ 0.68	0.64
(カ)	地域の医療機関と役割分担し、市立病院が救命救急医療や小児医療などの充実を図っている	△ 0.08	△ 0.15	0.07
(キ)	家庭、地域、学校の連携により、子どもたちが将来の目標を持てるように、一人ひとりにあった学習環境が用意されている	△ 0.69	△ 1.17	0.48
(ク)	生涯学習やスポーツが、手軽に始められるようになっている	△ 0.33	△ 0.49	0.16
(ケ)	市内の身近なところで、松戸の歴史や文化が感じられるようになっている	0.55	0.06	0.49
(コ)	市民一人ひとりが、災害発生時における自らの役割を自覚し、被害の軽減や復旧に向けての行動がとれるようになっている	△ 1.82	△ 2.12	0.30
(サ)	地域社会の連携と協働により、火災等の災害による被害が軽減されている	△ 0.68	△ 1.01	0.33
(シ)	より適切な救急救命処置ができるようになっている	△ 0.74	△ 0.27	△ 0.47
(ス)	もったいない精神が浸透し、自分のできる範囲で、環境にやさしい取り組みをしている	△ 0.37	△ 0.55	0.18
(セ)	「自分のまちは自分たちで守る」という意識のもと、安全で快適なまちにするための助け合いをしている	△ 1.05	△ 1.25	0.20
(ソ)	緑が保全され、身近な緑と花が増えている	0.51	0.19	0.32
(タ)	地域産業が活性化し、市内で働く人が増えている	△ 1.67	△ 1.49	△ 0.18
(チ)	多様な職場が用意され、働きたい人が、働けるようになっている	△ 2.13	△ 2.06	△ 0.07
(ツ)	安全でゆとりのある住宅に住んでいる人が多数いる	△ 0.49	△ 0.77	0.28
(テ)	公共交通機関と道路のバリアフリー化が進み、誰もが気軽に外出できる街並みが増えている	△ 1.34	△ 1.79	0.45
(ト)	身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている	△ 1.01	△ 1.72	0.71
(ナ)	いつでも安心して水道水が使えるようにする	1.59	0.78	0.81
(ニ)	既存の都市基盤の維持管理や緑地や水辺など環境の保全が行われている	0.38	△ 0.22	0.60
(ヌ)	行政は市民ニーズを把握し、わかりやすい目標をたて、効率的でより良いサービスを提供している	△ 0.81	△ 1.37	0.56
(ネ)	中・長期的な展望に立った健全財政が維持されている	△ 1.01	△ 1.50	0.49

図 1-5-3 今後の重要度

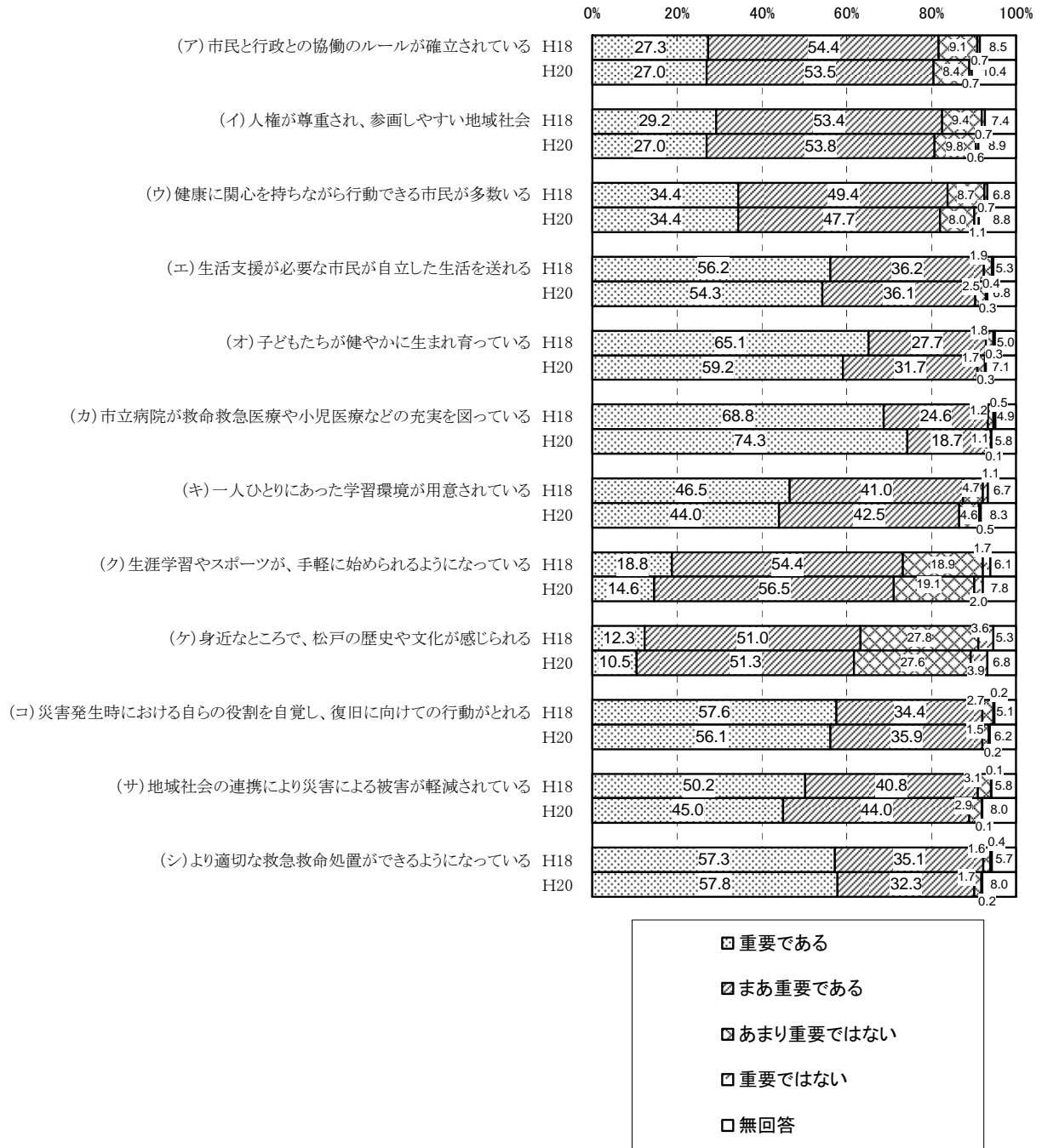


図 1-5-4 今後の重要度 (続き)

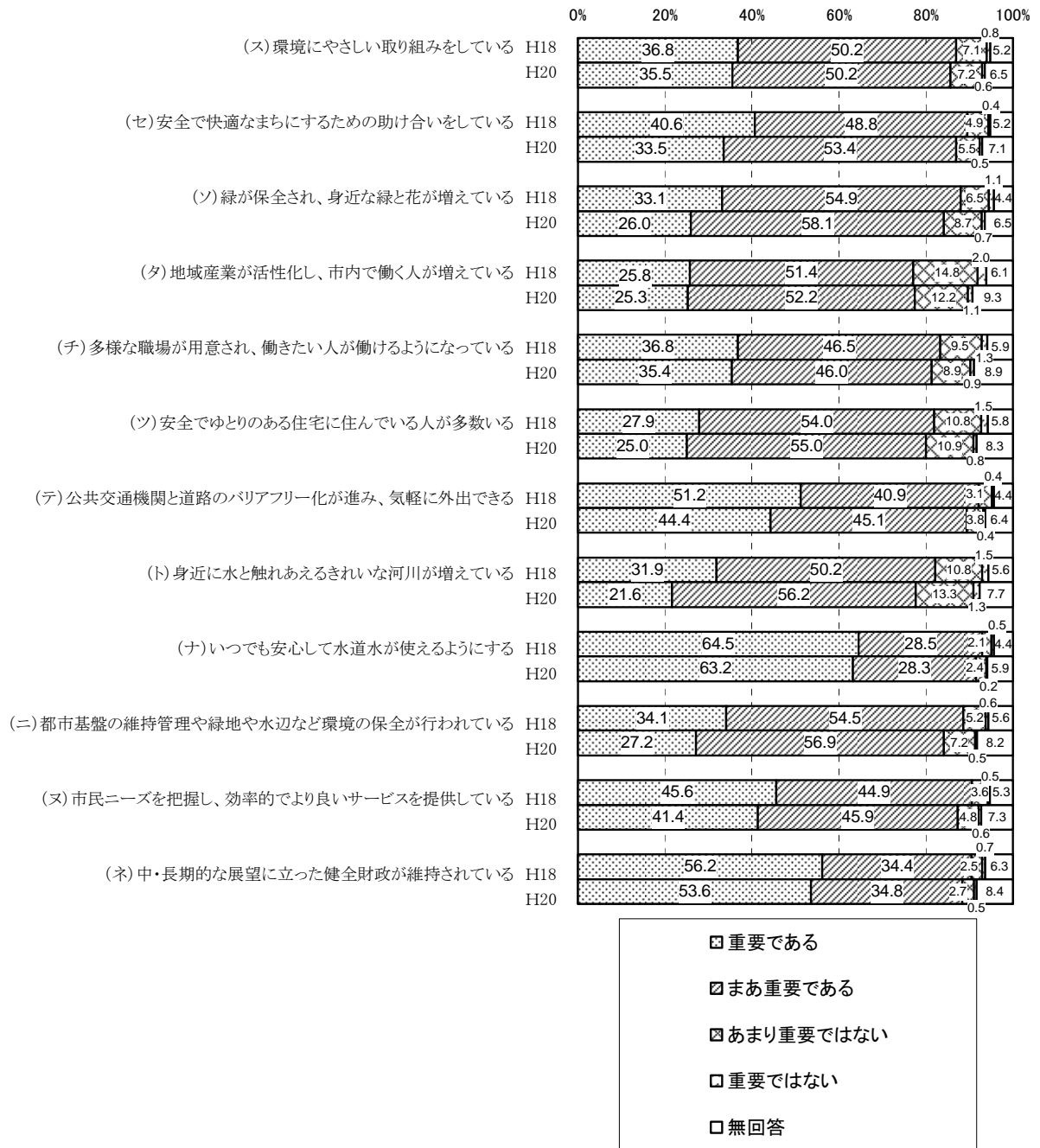


表 1-5-2 重要度評価点

		① 評価点 (H 2 0)	② 評価点 (H 1 8)	(① - ②)
(ア)	市民と行政との協働のルールが確立されている	2.18	2.16	0.02
(イ)	一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会になっている	2.12	2.18	△ 0.06
(ウ)	自らの健康に関心を持ちながら行動できる市民が多数いる	2.33	2.33	0.00
(エ)	高齢者や障害を持つ人など生活支援が必要な市民が、地域の支え合いの中で自立した生活を送れるようになっている	3.04	3.08	△ 0.04
(オ)	次の世代を担う子どもたちが、地域の支え合いの中で健やかに生まれ育っている	3.18	3.28	△ 0.10
(カ)	地域の医療機関と役割分担し、市立病院が救命救急医療や小児医療などの充実を図っている	3.52	3.37	0.15
(キ)	家庭、地域、学校の連携により、子どもたちが将来の目標を持てるように、一人ひとりにあった学習環境が用意されている	2.73	2.73	0.00
(ク)	生涯学習やスポーツが、手軽に始められるようになっている	1.36	1.48	△ 0.12
(ケ)	市内の身近なところで、松戸の歴史や文化が感じられるようになっている	0.79	0.86	△ 0.07
(コ)	市民一人ひとりが、災害発生時における自らの役割を自覚し、被害の軽減や復旧に向けての行動がとれるようになっている	3.12	3.09	0.03
(サ)	地域社会の連携と協働により、火災等の災害による被害が軽減されている	2.84	2.93	△ 0.09
(シ)	より適切な救急救命処置ができるようになっている	3.17	3.12	0.05
(ス)	もったいない精神が浸透し、自分のできる範囲で、環境にやさしい取り組みをしている	2.41	2.43	△ 0.02
(セ)	「自分のまちは自分たちで守る」という意識のもと、安全で快適なまちにするための助け合いをしている	2.45	2.62	△ 0.17
(ソ)	緑が保全され、身近な緑と花が増えている	2.14	2.35	△ 0.21
(タ)	地域産業が活性化し、市内で働く人が増えている	1.95	1.79	0.16
(チ)	多様な職場が用意され、働きたい人が、働けるようになっている	2.33	2.29	0.04
(ツ)	安全でゆとりのある住宅に住んでいる人が多数いる	2.02	2.04	△ 0.02
(テ)	公共交通機関と道路のバリアフリー化が進み、誰もが気軽に外出できる街並みが増えている	2.76	2.92	△ 0.16
(ト)	身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている	1.81	2.12	△ 0.31
(ナ)	いつでも安心して水道水が使えるようにする	3.23	3.23	0.00
(ニ)	既存の都市基盤の維持管理や緑地や水辺など環境の保全が行われている	2.25	2.46	△ 0.21
(ヌ)	行政は市民ニーズを把握し、わかりやすい目標をたて、効率的でより良いサービスを提供している	2.65	2.78	△ 0.13
(ネ)	中・長期的な展望に立った健全財政が維持されている	3.02	3.05	△ 0.03

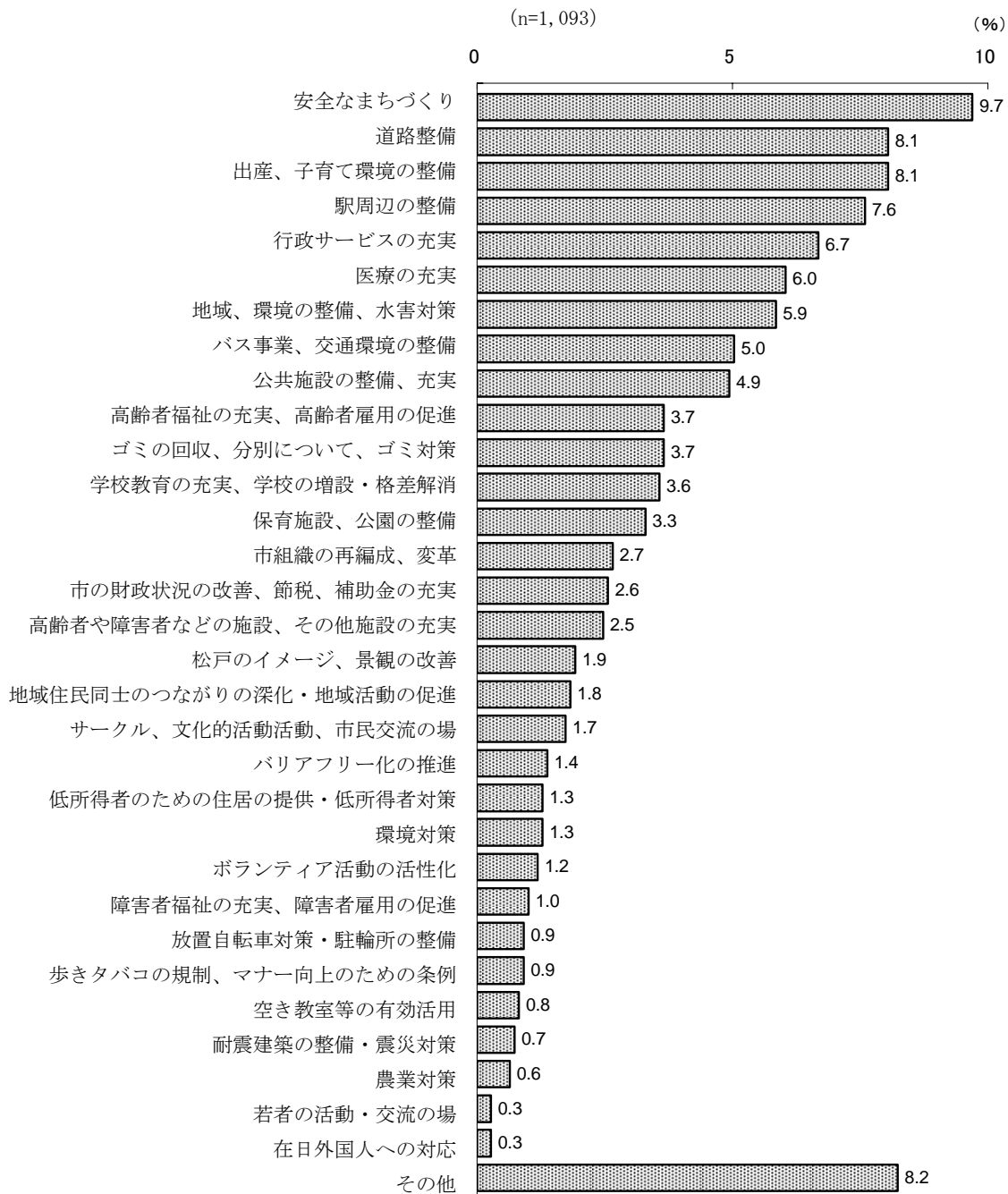
◇ 追加記入欄 ◇

項目	回答数	構成比	現状 評価点	重要度 評価点
安全なまちづくり	106	9.7	△ 2.68	3.79
道路整備	88	8.1	△ 3.66	3.64
出産、子育て環境の整備	88	8.1	△ 3.09	3.91
駅周辺の整備	83	7.6	△ 3.59	3.57
行政サービスの充実	73	6.7	△ 3.01	3.64
医療の充実	66	6.0	△ 2.64	3.94
地域、環境の整備、水害対策	64	5.9	△ 3.13	3.59
バス事業、交通環境の整備	55	5.0	△ 3.49	3.49
公共施設の整備、充実	54	4.9	△ 3.41	3.56
高齢者福祉の充実、高齢者雇用の促進	40	3.7	△ 3.00	3.80
ゴミの回収、分別について、ゴミ対策	40	3.7	△ 2.51	3.80
学校教育の充実、学校の増設・格差解消	39	3.6	△ 2.97	3.79
保育施設、公園の整備	36	3.3	△ 3.39	3.61
市組織の再編成、変革	29	2.7	△ 3.24	3.59
市の財政状況の改善、節税、補助金の充実	28	2.6	△ 2.36	4.00
高齢者や障害者などの施設、その他施設の充実	27	2.5	△ 2.96	3.70
松戸のイメージ、景観の改善	21	1.9	△ 3.52	3.52
地域住民同士のつながりの深化・地域活動の促進	20	1.8	△ 2.80	3.90
サークル、文化的活動活動、市民交流の場	19	1.7	△ 3.37	3.47
バリアフリー化の推進	15	1.4	△ 3.87	3.87
低所得者のための住居の提供・低所得者対策	14	1.3	△ 3.43	3.86
環境対策	14	1.3	△ 3.29	4.00
ボランティア活動の活性化	13	1.2	△ 3.85	4.00
障害者福祉の充実、障害者雇用の促進	11	1.0	△ 3.45	3.09
放置自転車対策・駐輪所の整備	10	0.9	△ 3.00	3.20
歩きタバコの規制、マナー向上のための条例	10	0.9	△ 3.20	3.80
空き教室等の有効活用	9	0.8	△ 3.11	2.89
耐震建築の整備・震災対策	8	0.7	△ 3.75	3.75
農業対策	7	0.6	△ 3.43	3.71
若者の活動・交流の場	3	0.3	△ 3.33	4.00
在日外国人への対応	3	0.3	△ 2.67	3.33
その他	90	8.2	△ 3.09	3.53
合計	1093	100.0	-	-

追加記入欄には、〈安全なまちづくり〉（追加記入総数の 9.7%）、〈道路整備〉（同 8.1%）、〈出産、子育て環境の整備〉（同 8.1%）、〈駅周辺の整備〉（同 7.6%）などがあげられている。

また、回答数上位 10 位の範囲で、現状評価が低かったものは、〈道路整備〉が-3.66、〈駅周辺の整備〉が-3.59、〈バス事業、交通環境の整備〉が-3.49 であった。重要度が高かったものとしては、〈医療の充実〉が 3.94、〈出産、子育て環境の整備〉が 3.91、〈高齢者福祉の充実、高齢者雇用の促進〉、〈ゴミの回収、分別について、ゴミ対策〉が 3.80 となっている。

図 1-5-5 問 10 の追加記入で挙げられたもの



(3) 現状評価・重要度の散布図の分析

各施策の分布状況については、現状評価を横軸に、重要度を縦軸にとり、24項目を相対的に評価するため、各平均値を境として、4つの領域に分類した。

また、スペースの関係で、図中の項目は省略した表記を用いているが、調査票上の表記は下記のとおりである。

調査票上の選択肢		図中
(ア)	市民と行政との協働のルールが確立されている	協働
(イ)	一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会になっている	人権
(ウ)	自らの健康に関心を持ちながら行動できる市民が多数いる	健康
(エ)	高齢者や障害を持つ人など生活支援が必要な市民が、地域の支え合いの中で自立した生活を送れるようになっている	生活支援〈福祉〉
(オ)	次の世代を担う子どもたちが、地域の支え合いの中で健やかに生まれ育っている	子育て
(カ)	地域の医療機関と役割分担し、市立病院が救命救急医療や小児医療などの充実を図っている	市立病院
(キ)	家庭、地域、学校の連携により、子どもたちが将来の目標を持てるように、一人ひとりにあった学習環境が用意されている	学校教育
(ク)	生涯学習やスポーツが、手軽に始められるようになっている	生涯学習・スポーツ
(ケ)	市内の身近なところで、松戸の歴史や文化が感じられるようになっている	歴史・文化
(コ)	市民一人ひとりが、災害発生時における自らの役割を自覚し、被害の軽減や復旧に向けての行動がとれるようになっている	防災
(サ)	地域社会の連携と協働により、火災等の災害による被害が軽減されている	火災対策
(シ)	より適切な救急救命処置ができるようになっている	救急救命
(ス)	もったいない精神が浸透し、自分のできる範囲で、環境にやさしい取り組みをしている	環境対策
(セ)	「自分のまちは自分たちで守る」という意識のもと、安全で快適なまちにするための助け合いをしている	安全・安心
(ソ)	緑が保全され、身近な緑と花が増えている	緑花
(タ)	地域産業が活性化し、市内で働く人が増えている	産業振興
(チ)	多様な職場が用意され、働きたい人が、働けるようになっている	就業支援
(ツ)	安全でゆとりのある住宅に住んでいる人が多数いる	住宅環境
(テ)	公共交通機関と道路のバリアフリー化が進み、誰もが気軽に外出できる街並みが増えている	交通
(ト)	身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている	河川
(ナ)	いつでも安心して水道水が使えるようにする	水道
(ニ)	既存の都市基盤の維持管理や緑地や水辺など環境の保全が行われている	都市の維持
(ヌ)	行政は市民ニーズを把握し、わかりやすい目標をたて、効率的でより良いサービスを提供している	行政サービス
(ネ)	中・長期的な展望に立った健全財政が維持されている	健全財政

全 体

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」、「(テ) 交通」が高いが、H18年度より現状評価は上がり、重要度は下がっている。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(カ) 市立病院」は、H18年度より現状評価、重要度ともに下がっている。

C：現状評価も重要度も低い項目

「(ト) 河川」はH18年度より現状評価、重要度ともに下がっており、「(タ) 産業振興」、「(チ) 就業支援」はほとんど変わっていない。

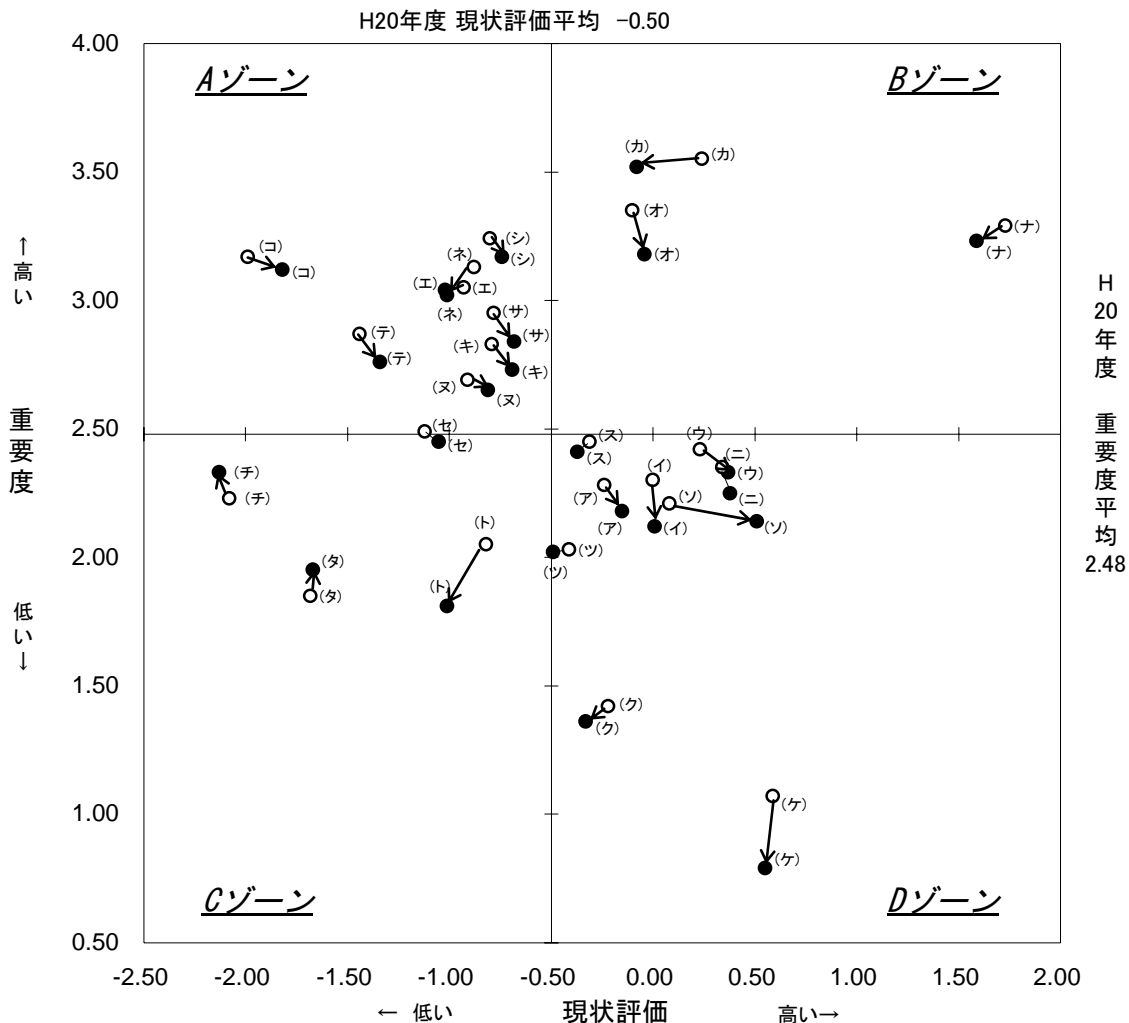
D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」はH18年度より重要度が下がっており、「(ソ) 緑花」は現状評価が上がっている。

図 1-5-6 全体

※ ○はH18年度調査結果、●はH20年度調査結果

(ア) 協働	(キ) 学校教育	(ス) 環境対策	(テ) 交通
(イ) 人権	(ク) 生涯学習・スポーツ	(セ) 安全・安心	(ト) 河川
(ウ) 健康	(ケ) 歴史・文化	(ソ) 緑花	(ナ) 水道
(エ) 生活支援	(コ) 防災	(タ) 産業振興	(ニ) 都市の維持
(オ) 子育て	(サ) 火災対策	(チ) 就業支援	(ヌ) 行政サービス
(カ) 市立病院	(シ) 救命救急	(ツ) 住宅環境	(ネ) 健全財政



行政サービスのあり方別（問8）

行政サービスのあり方（問8）別でみると、「(チ) 就業支援」では、「行政サービスは必要最小限」が他よりやや現状評価が低く、重要度は高くなっている。また、「行政サービスが拡大」の現状評価平均は-0.47、重要度平均は2.50、一方「行政サービスは必要最小限」の現状評価平均は-0.50、重要度平均は2.47となっており、ほとんど差はみられない。

図1-5-7 行政サービスのあり方別／①行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える

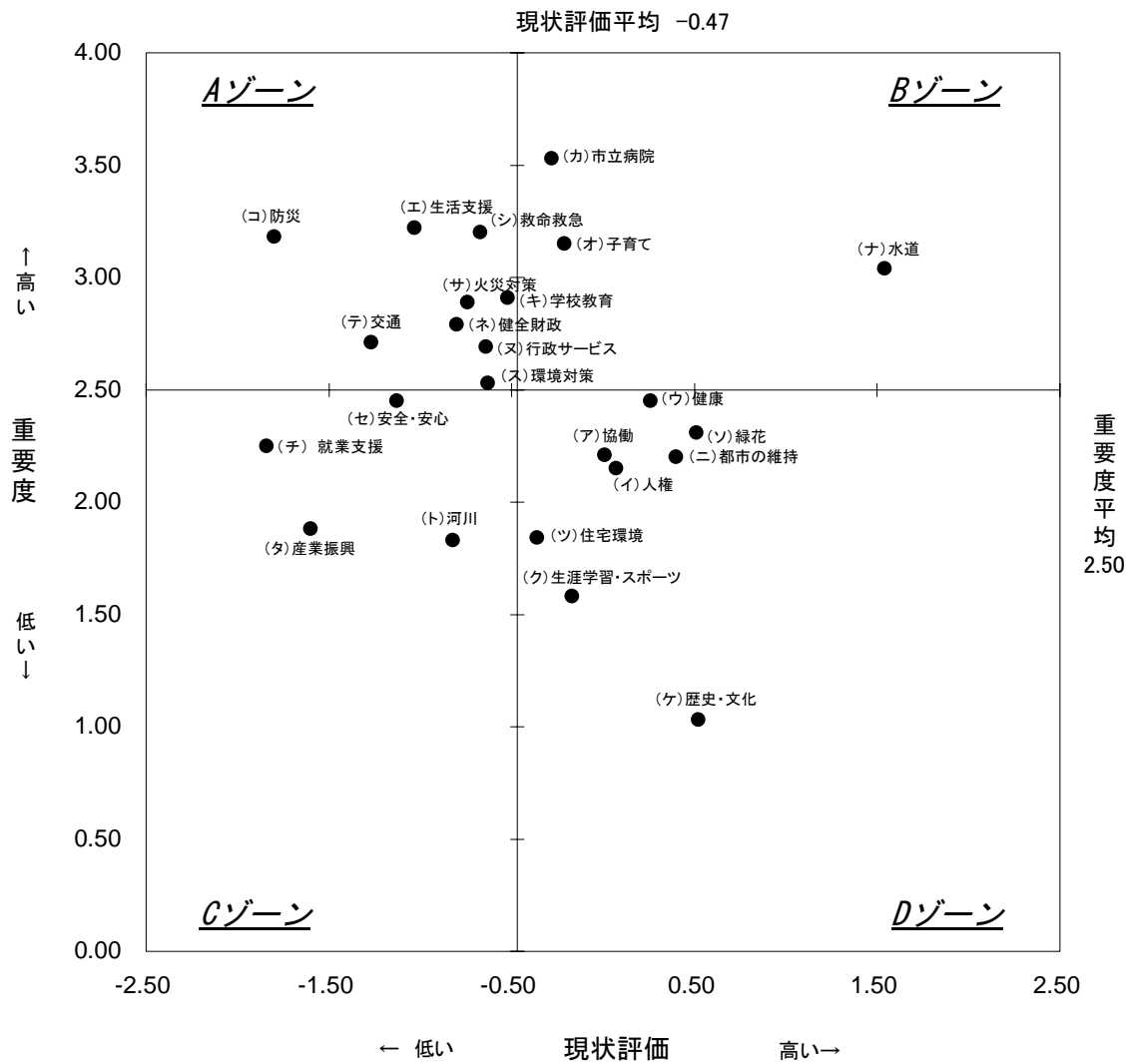


図 1-5-8 行政サービスのあり方別／②行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える

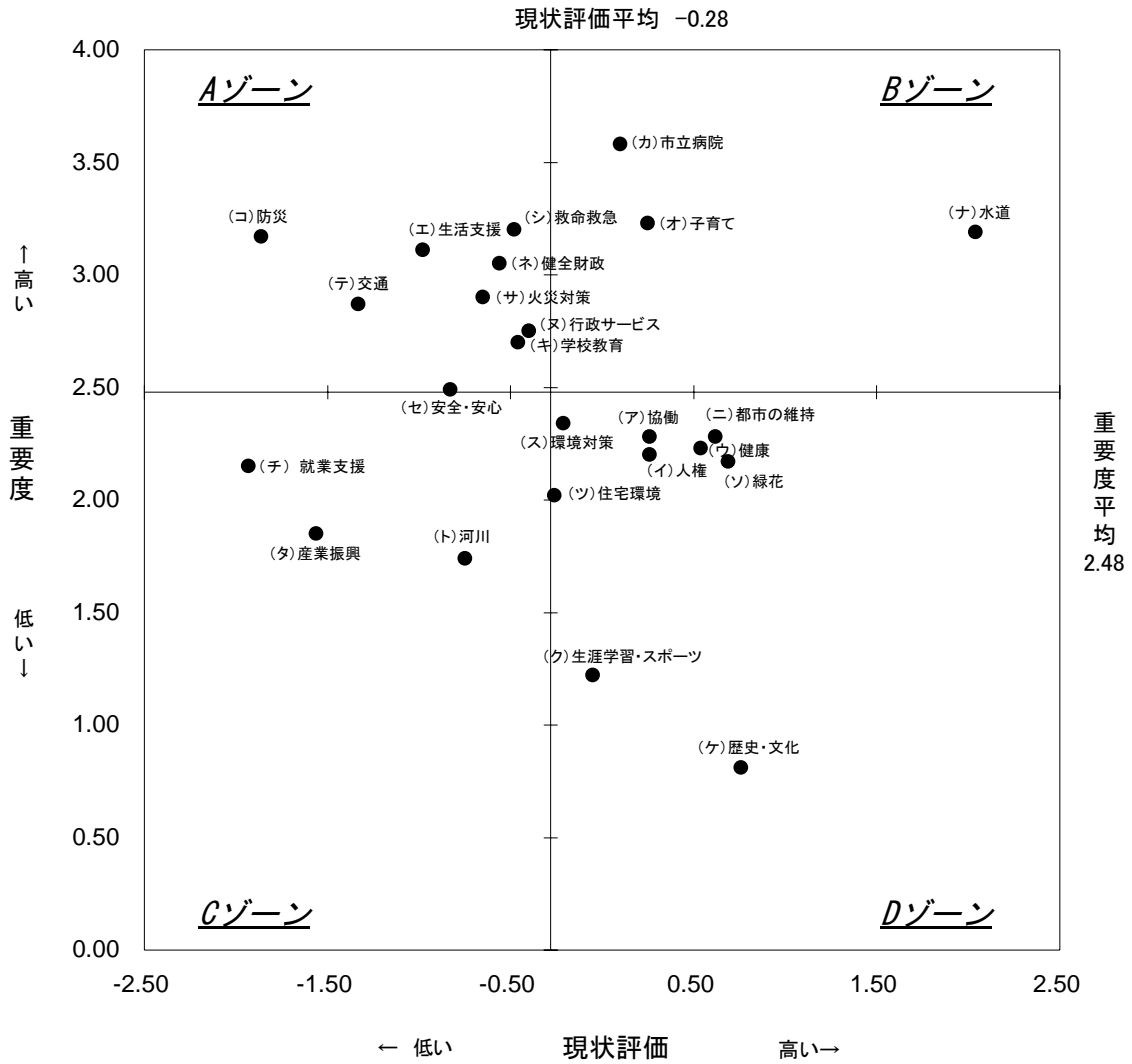


図1-5-9 行政サービスのあり方別／③市民負担は現状水準、行政サービスは減少する

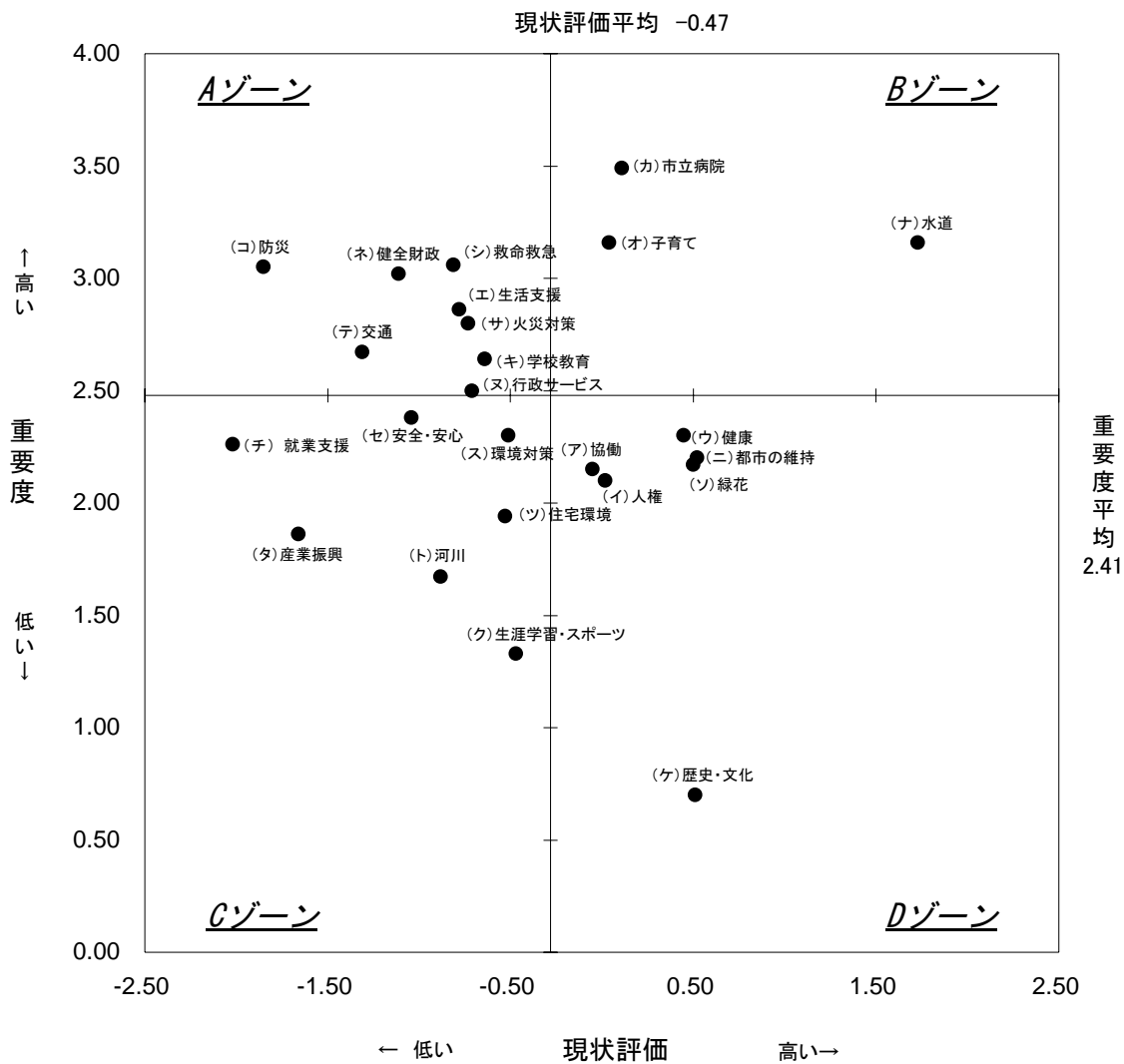
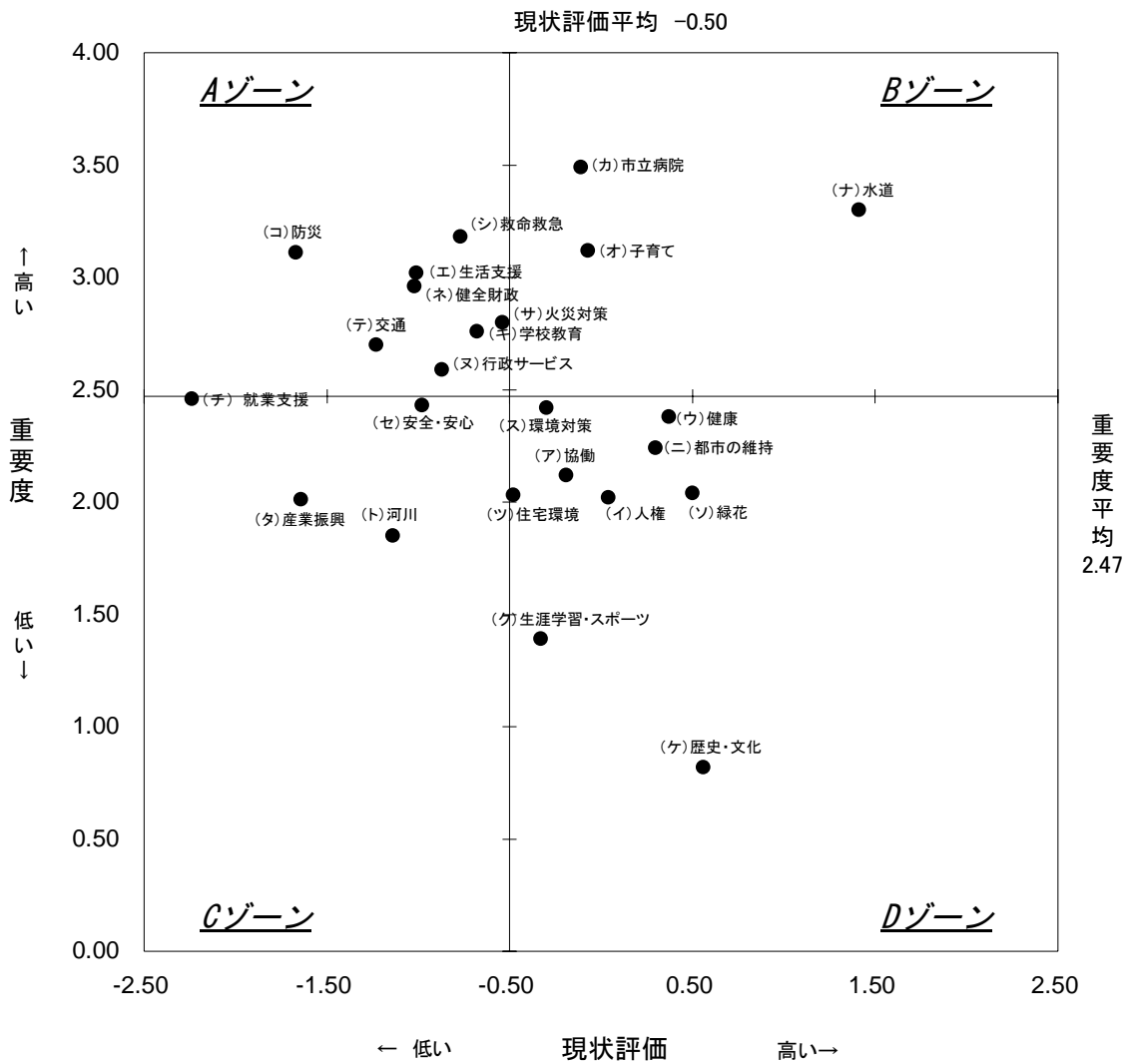


図 1-5-10 行政サービスのあり方別／④行政サービスは必要最低限、
市民負担はできるだけ軽減する



定住意向別（問 13）

定住意向別（問 13）別にみると、「①今の場所に住み続けたい」の現状評価点 -0.35 、「②松戸市内の別の場所で住み続けたい」 -0.55 、「③松戸市内に住み続けたいが、市外に移る予定である」 -0.51 、「④市外に移りたい、または移る予定である」 -1.16 となっており、ほぼ①から④にかけて評価点が低くなっている。また、重要度では、「①今の場所に住み続けたい」 2.54 、「②松戸市内の別の場所で住み続けたい」 2.49 、「③松戸市内に住み続けたいが、市外に移る予定である」 2.33 、「④市外に移りたい、または移る予定である」 2.23 となっており、①から④にかけて重要度は低くなっている。

図 1-5-11 定住意向別／①今の場所に住み続けたい

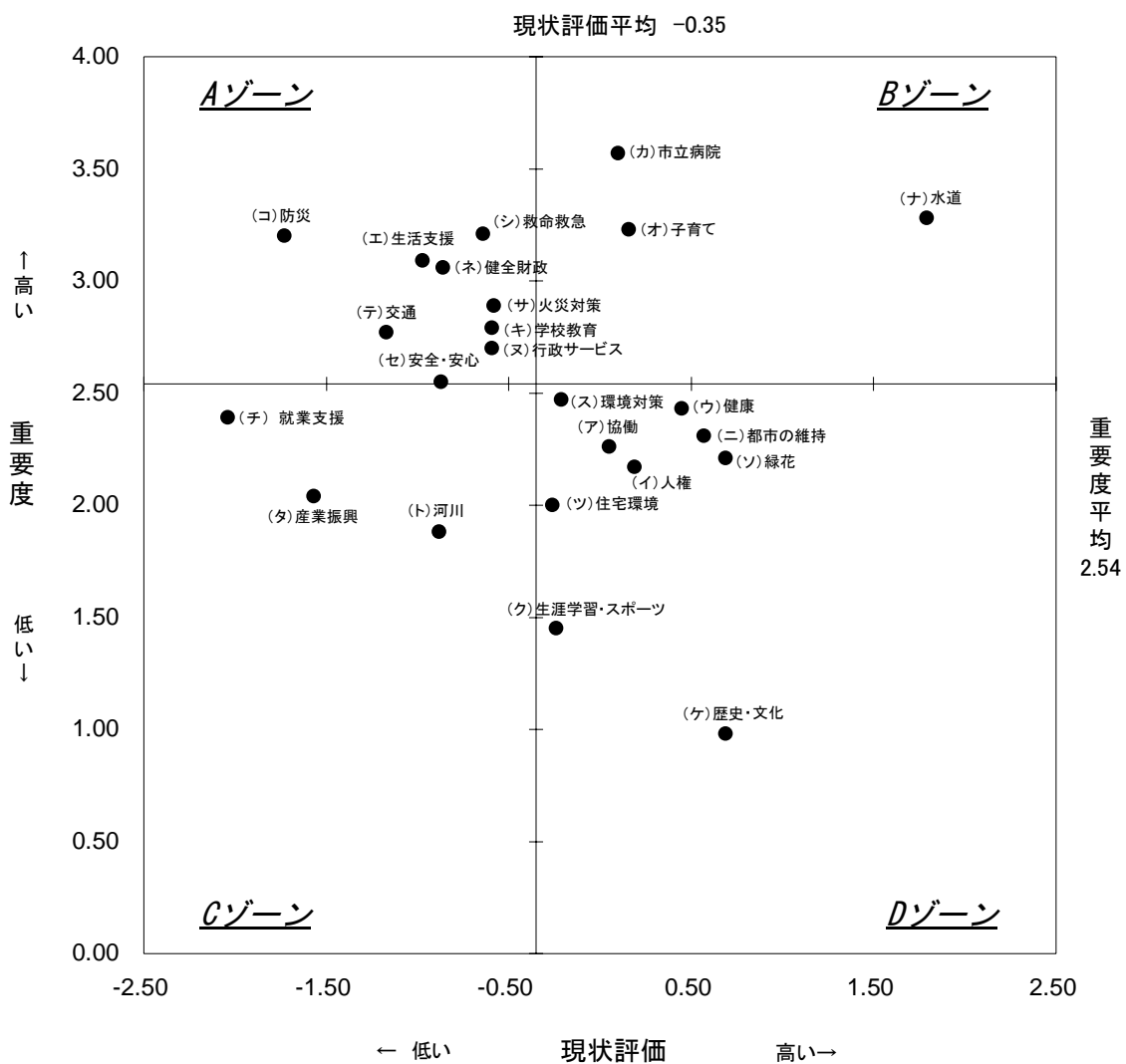


図 1-5-12 定住意向別／②松戸市内の別の場所で住み続けたい

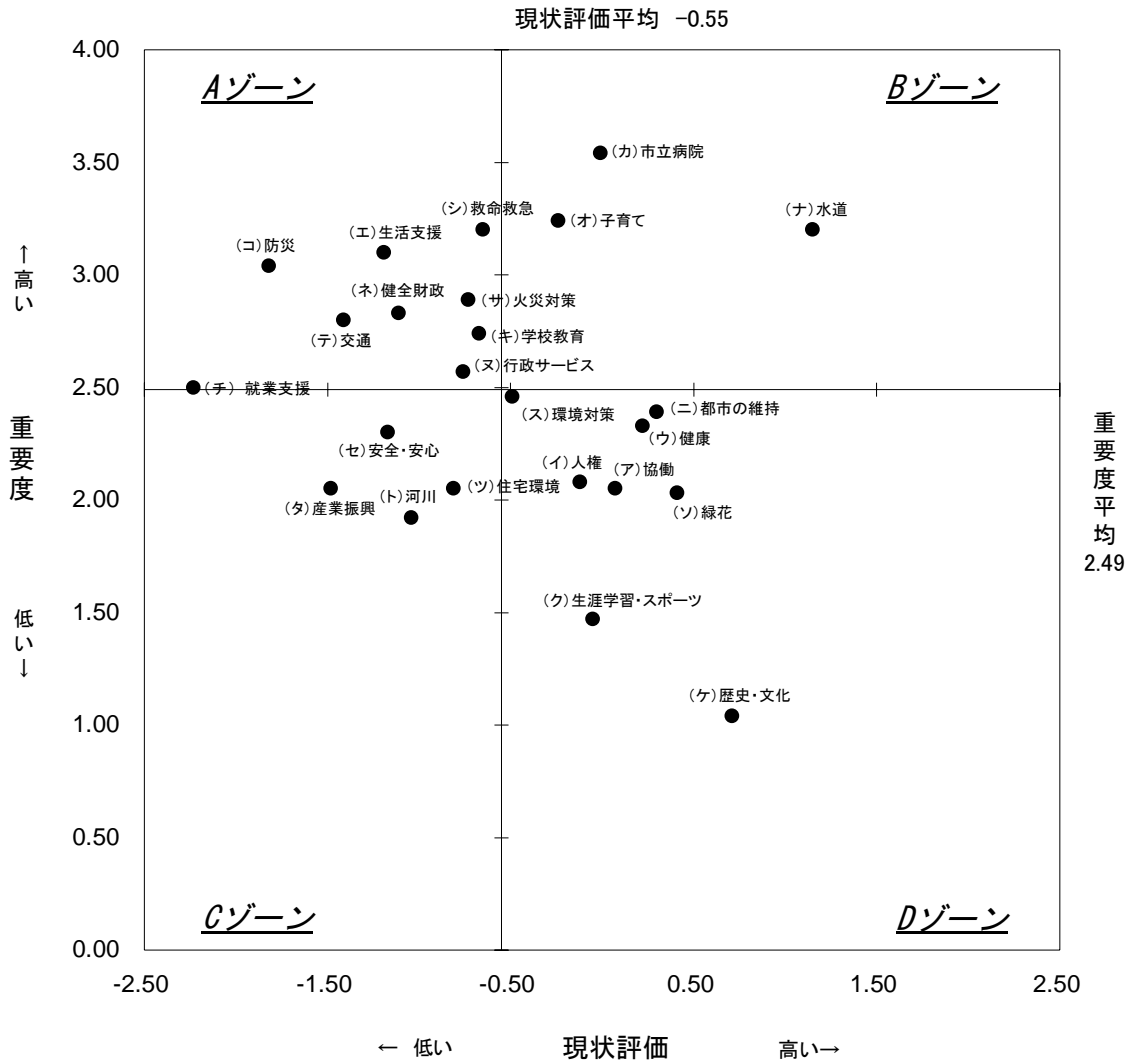


図 1-5-13 定住意向別／③松戸市内に住み続けたいが、市外に移る予定である

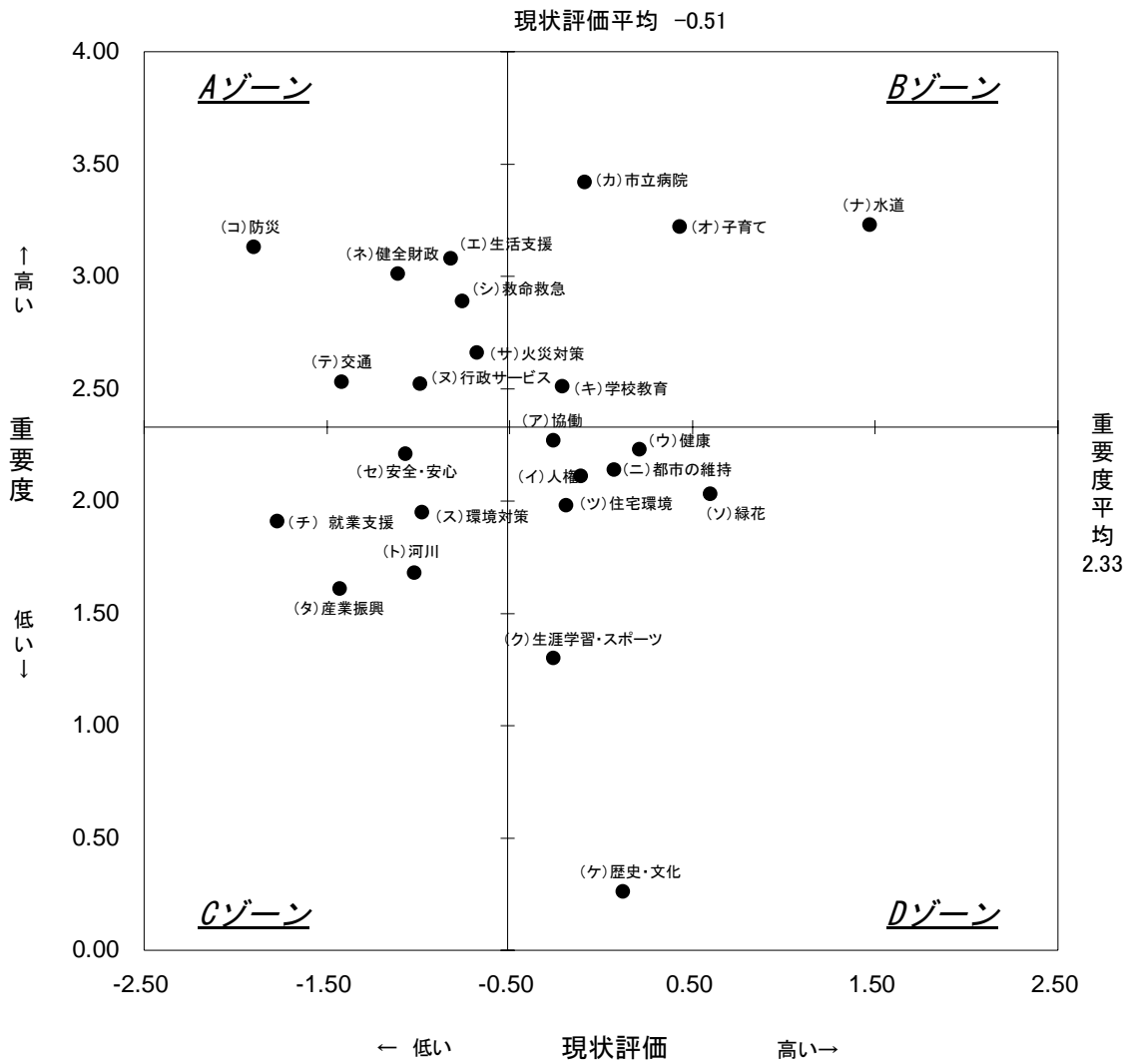
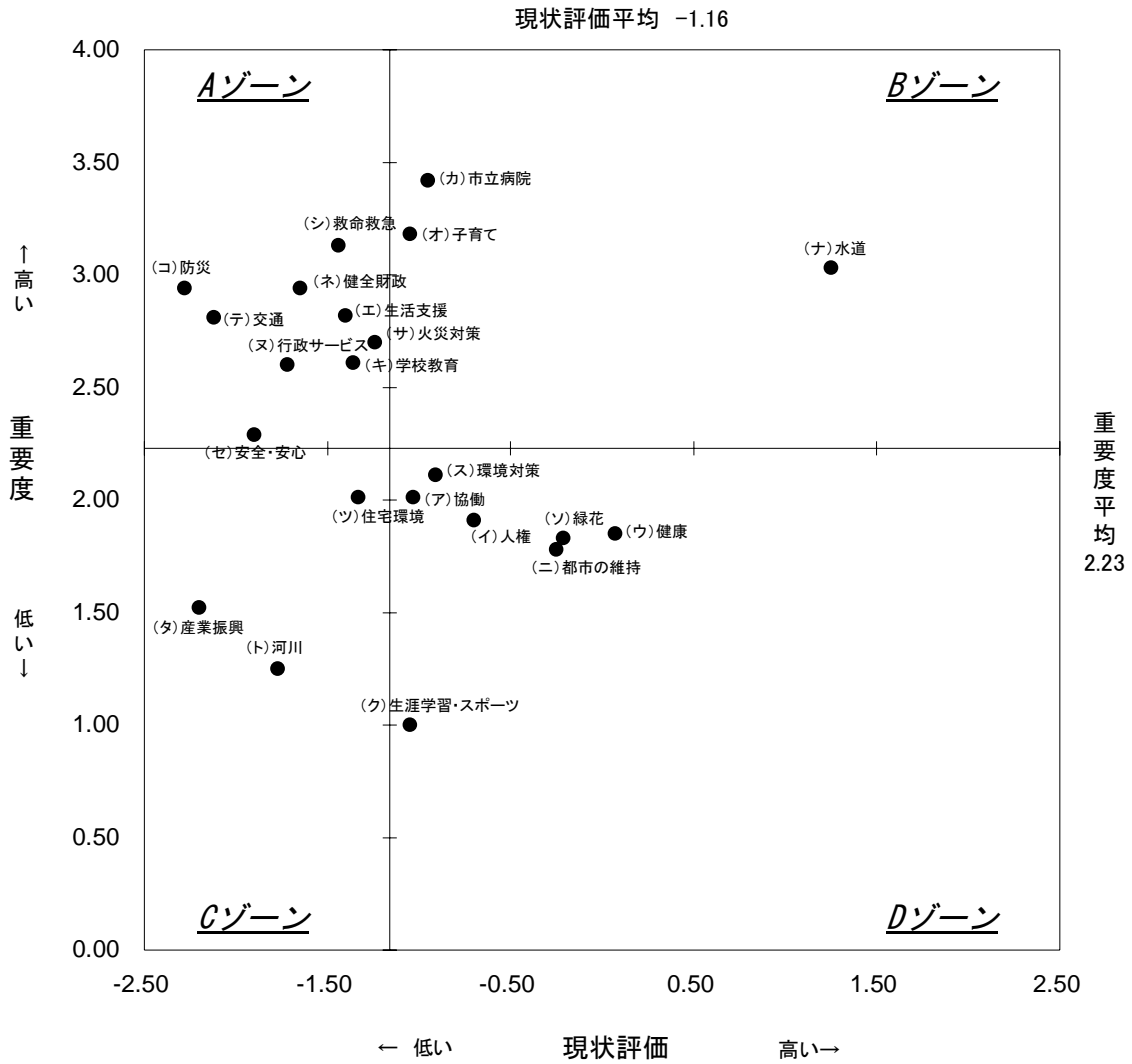


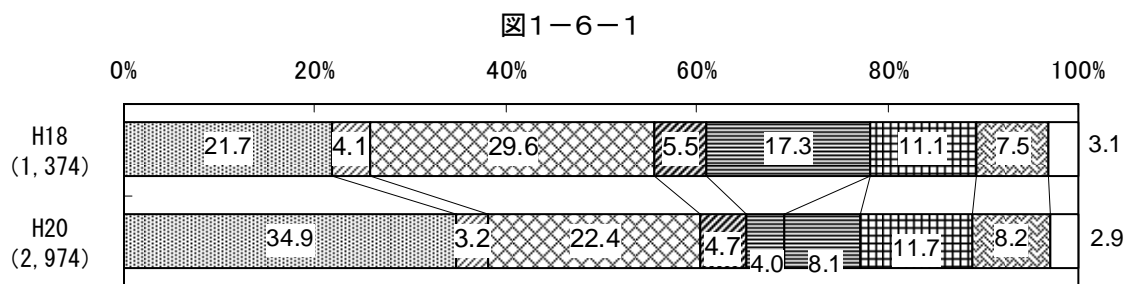
図 1-5-14 定住意向別／④市外に移りたい、または移る予定である



(6) 重点的に投資すべき都市基盤整備

問9 少子高齢化が進み、社会保障関係に必要な経費が年々増えており、それ以外に活用できる経費は、限られてきています。

今後の松戸市の都市基盤について、限られた財源の中で、どのようなところに重点的に投資すべきだと思いますか。(○は1つだけ)



- 学校、市民センター、図書館等の公共施設の耐震などを含めたメンテナンス
- 新たな公共施設の建設
- 日常、通勤・通学・買い物などに行くときに利用する生活道路の整備
- 車でスムーズに移動するための幹線道路の整備
- 水と親しめる河川環境の整備
- 街路樹や公園などの整備
- 既存の樹林地など緑地の保全
- その他
- 無回答

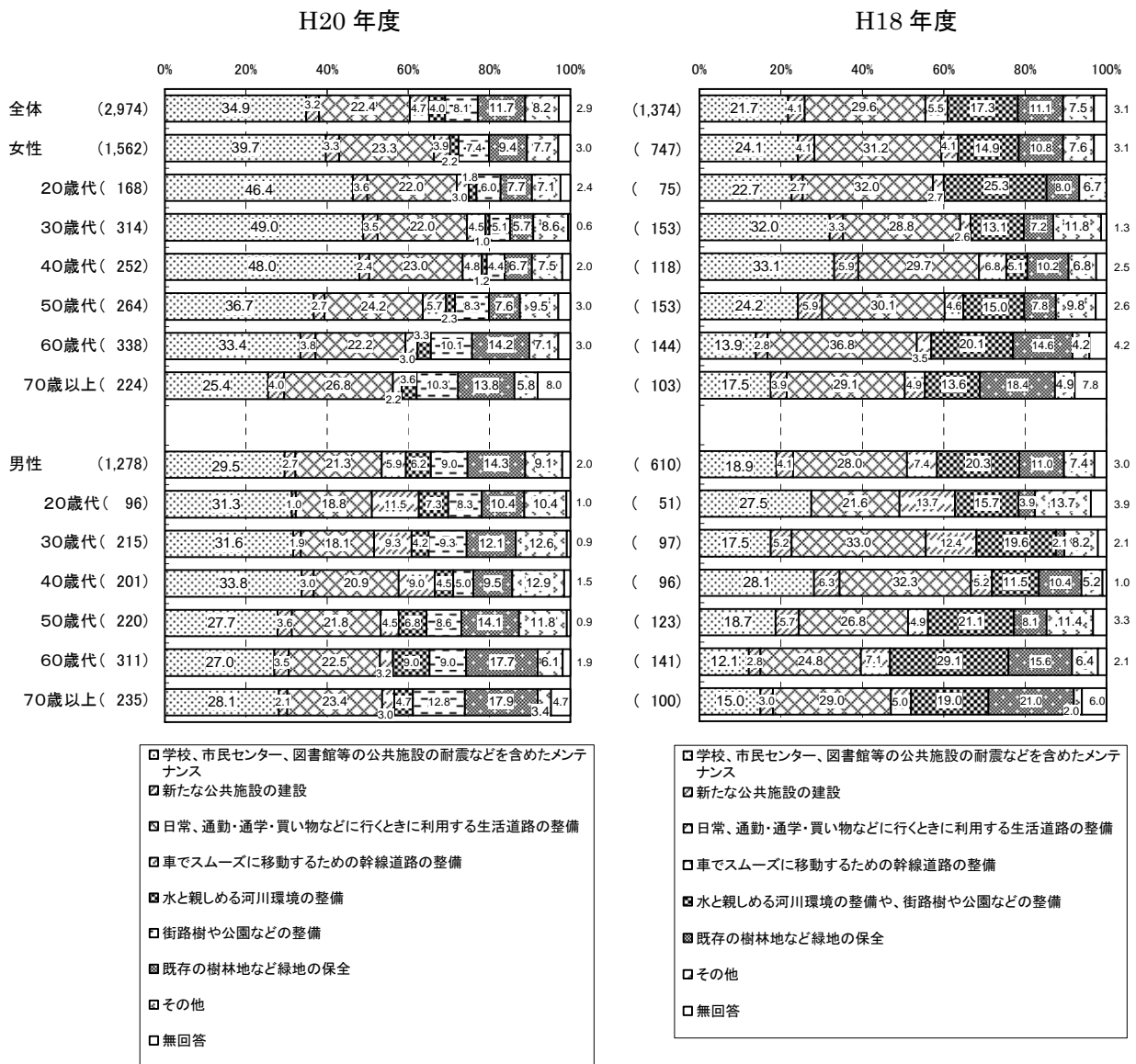
注：H18年度の選択肢「水と親しめる河川環境の整備や、街路樹や公園などの整備」は、H20年度では、「水と親しめる河川環境の整備」と「街路樹や公園などの整備」の二つの選択肢に分けている。

都市基盤について、限られた財源のなかで、重点的に投資すべき施設・設備としては、「公共施設の耐震などを含めたメンテナンス」が最も多く34.9%となっており、H18年度と比べて13.2ポイントも多くなっている。次いで、「日常、通勤・通学・買い物などに行くときに利用する生活道路の整備」が22.4%で、H18年度より7.2ポイント少なくなっている。

性別でみると、「公共施設の耐震などを含めたメンテナンス」では女性（39.7%）のほうが男性よりも10.2ポイント高くなっている。特に、30歳代女性、40歳代女性、20歳代女性がそれぞれ49.0%、48.0%、46.4%と、他の世代よりも割合が高くなっている。

また、「既存の樹林地などの緑地の保全」は男女ともに年代が上がるほど、概して割合が高い。20歳代女性、60歳代女性、70歳代女性の割合はそれぞれ、7.7%、14.2%、13.8%、20歳代男性、60歳代男性、70歳代男性の割合はそれぞれ、10.4%、17.7%、17.9%となっている。

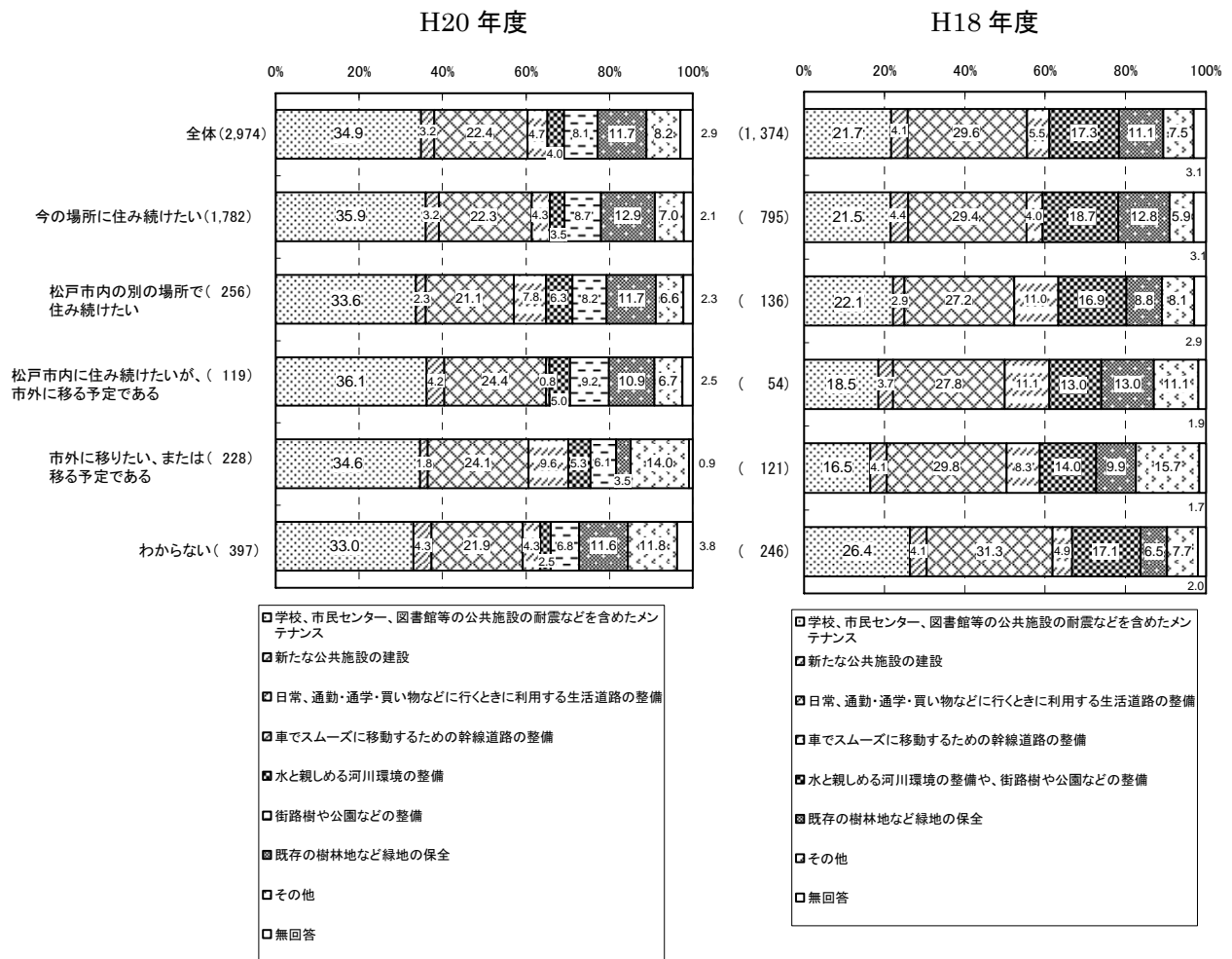
図1-6-2 性別、性・年代別



定住意向別でみると、今の場所に住み続けたい人では「公共施設の耐震などを含めたメンテナンス」が35.9%で最も多く、次いで「生活道路の整備」が22.3%、「緑地の保全」が12.9%が続いている。

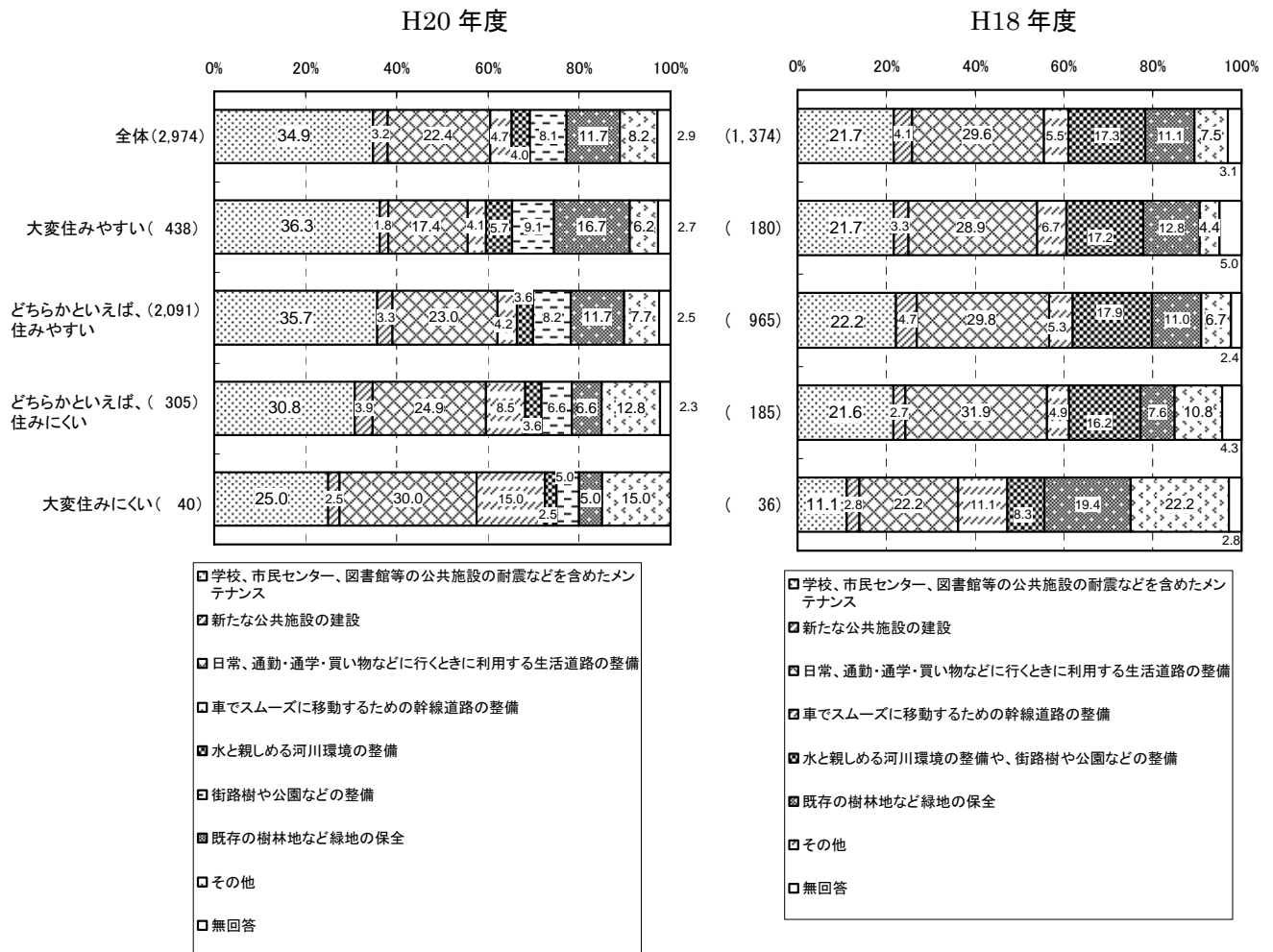
市外に移りたい、または移る予定の人では「緑地の整備」が3.5%と全体平均よりも8.2ポイント低くなっているのに対して、「生活道路の整備」は9.6%で全体平均よりも4.9ポイント高くなっている。

図1-6-3 定住意向別



住みやすさ別でみると、大変住みやすいという層では、「公共施設の耐震などを含めたメンテナンス」が36.3%で最も割合が高くなっているのに対して、大変住みにくいという層では「生活道路の整備」が30.0%で最も高く、「幹線道路の整備」も15.0%と高くなっている。

図1-6-4 住みやすさ別



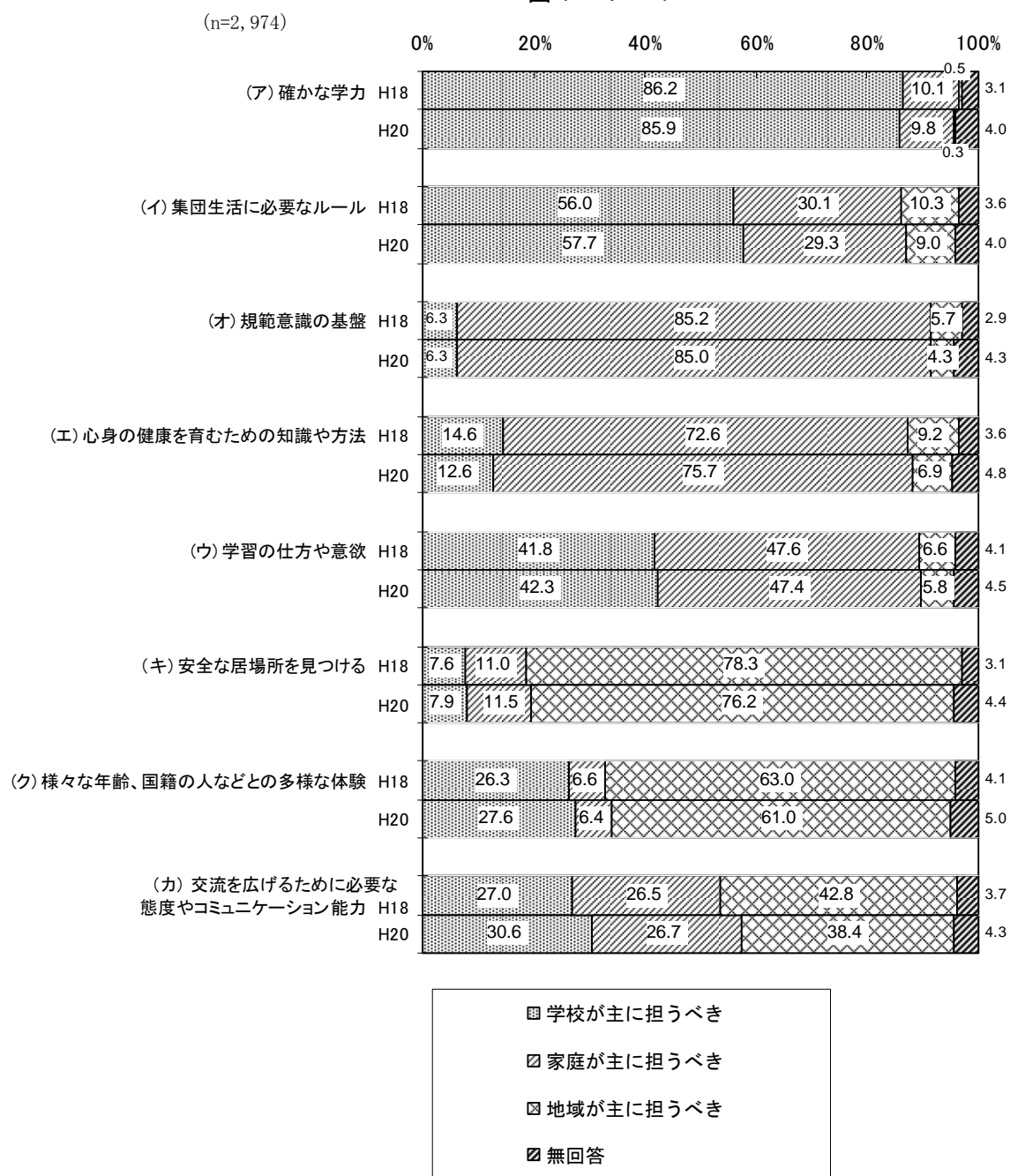
(7) 教育の役割分担

問 11 子どもを取り巻く環境が複雑化、多様化している現在、子どもの教育は、学校・家庭・地域が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要であると言われています。子どもの成長に必要と思われる項目を次のように整理しました。

全ての項目について、学校・家庭・地域のそれぞれが一定の役割を担うものとは思いますが、あなたは、それぞれの選択項目について、学校・家庭・地域のうち最も重要な役割を担うべき主体は、どこだとお考えですか。

項目ごとに、あなたのお考えに一番近い番号を「1～3」の中から、それぞれ1つ選んで、番号に○印をつけてください。

図 1-7-1



■調査票での項目

(ア) 基礎基本（読み、書き、計算など）の定着を始めとした確かな学力を身につけること
(イ) 集団生活を営むために必要なルールを身につけること
(ウ) 生涯にわたって自分で学んでいくために必要な学習の仕方や意欲を身につけること
(エ) 自らの心身の健康を育むための知識や方法を身につけること
(オ) 生活習慣や善悪の判断など規範意識の基盤をつくること
(カ) 社会生活を営み、人との交流を広げるために必要な態度やコミュニケーション能力を身につけること
(キ) 放課後や休日に、子どもたちが安心して活動できる安全な居場所を見つけること
(ク) 通常の教育カリキュラムの他に、様々な年齢や性別、国籍の人などと多様な体験をすること

学校・家庭・地域の教育における役割分担をみると、「学校が主に担うべき」が多いものとしては、〈(ア) 確かな学力〉が 85.9%と最も高くなっており、次いで〈(イ) 集団生活に必要なルール〉57.7%となっている。

また、「家族が主に担うべき」が多いものをみると、〈(オ) 規範意識の基盤〉が 85.0%で最も多く、次いで〈(エ) 心身の健康を育むための知識や方法〉75.7%となっている。

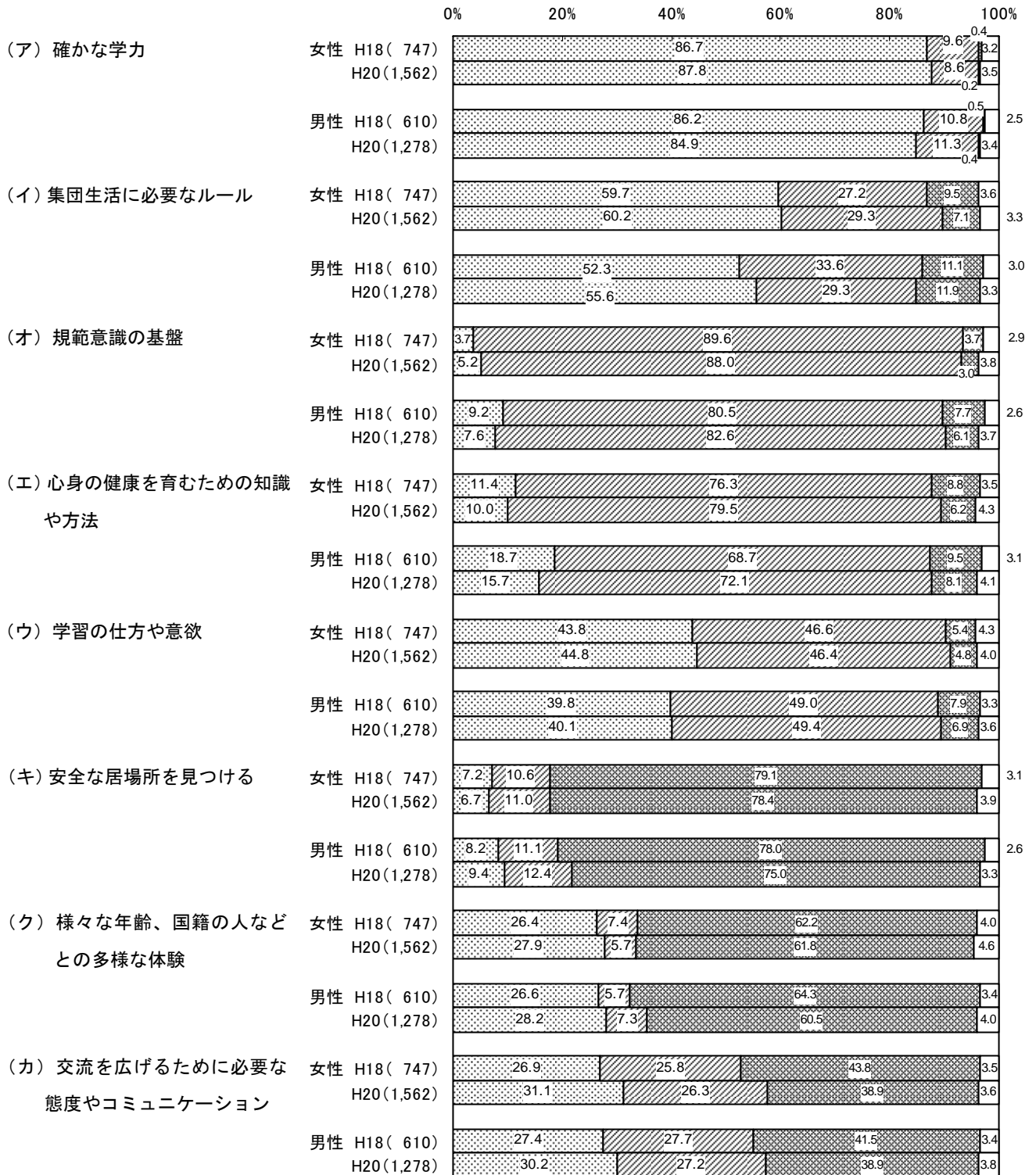
「地域が主に担うべき」が多いものでは、〈(キ) 安全な居場所を見つける〉が 76.2%、〈(ク) 様々な年齢、国籍の人などの多様な体験〉61.0%、〈(カ) 交流を広げるために必要な態度やコミュニケーション能力〉が 38.4%となっている。

なお、〈(ウ) 学習の仕方や意欲〉については、「家庭が主に担うべき」(47.4%)が「学校が主に担うべき」(42.3%)をやや上回っている。

H18 年度調査と H20 年度調査を比較すると、〈(カ) 交流を広げるために必要な態度やコミュニケーション能力〉を「学校が主に担うべき」と答えた人は H18 年度 27.0%、H20 年度 30.6%で 3.6 ポイント多くなっており、他方、「地域が主に担うべき」は H18 年度 42.8%、H20 年度 38.4%で 4.4 ポイント少なくなっている。

性別でみると、男女差はさほどみられないが、〈(オ) 規範意識の基盤〉、〈(エ) 心身の健康を育むための知識や方法〉、〈(キ) 安全な居場所を見つける〉、〈(ク) 様々な年齢、国籍の人などとの多様な体験〉では男性のほうが、「学校が主に担うべき」の割合が高くなっている。

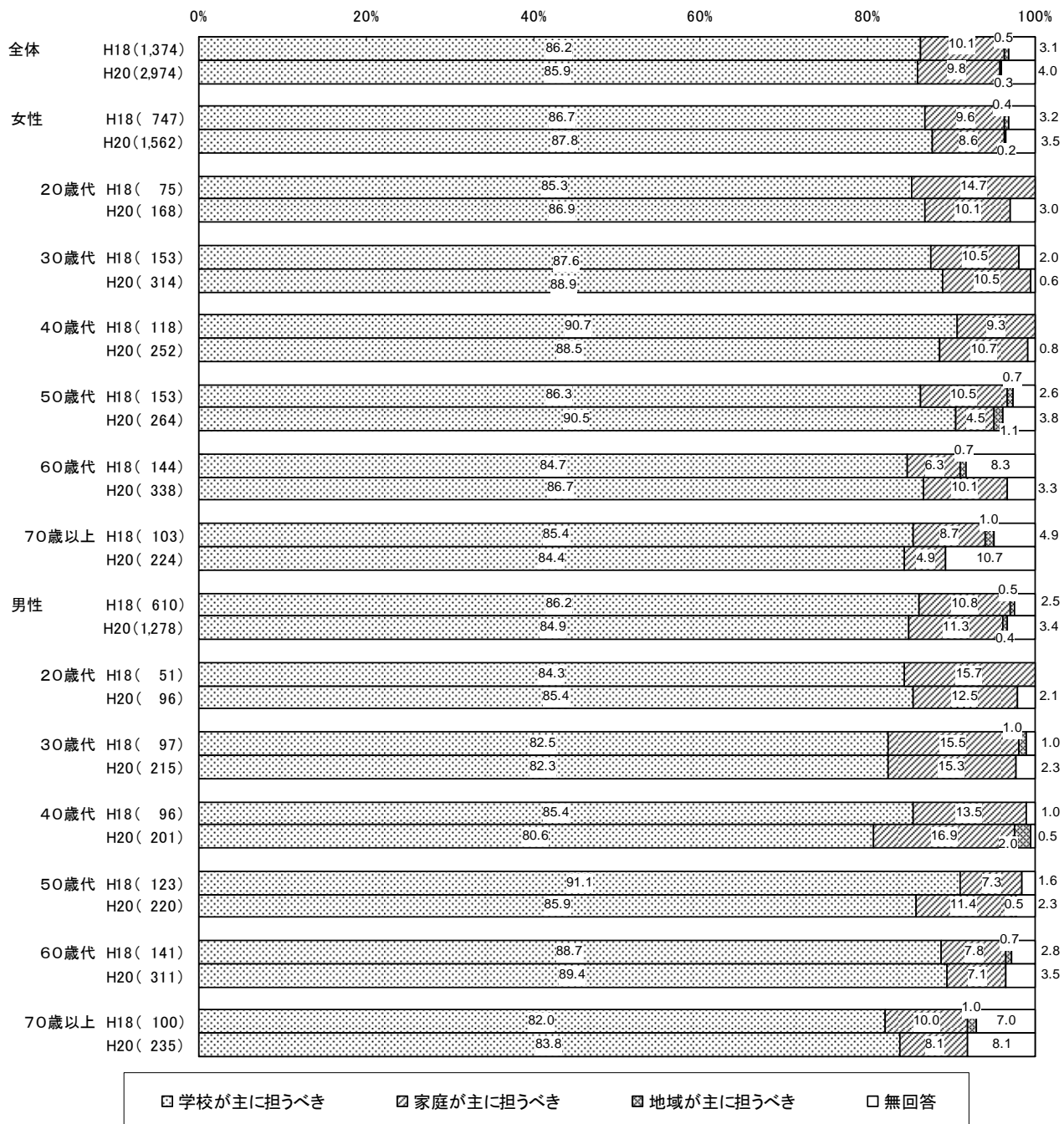
図 1-7-2 性別



□ 学校が主に担うべき ▨ 家庭が主に担うべき ▩ 地域が主に担うべき ○ 無回答

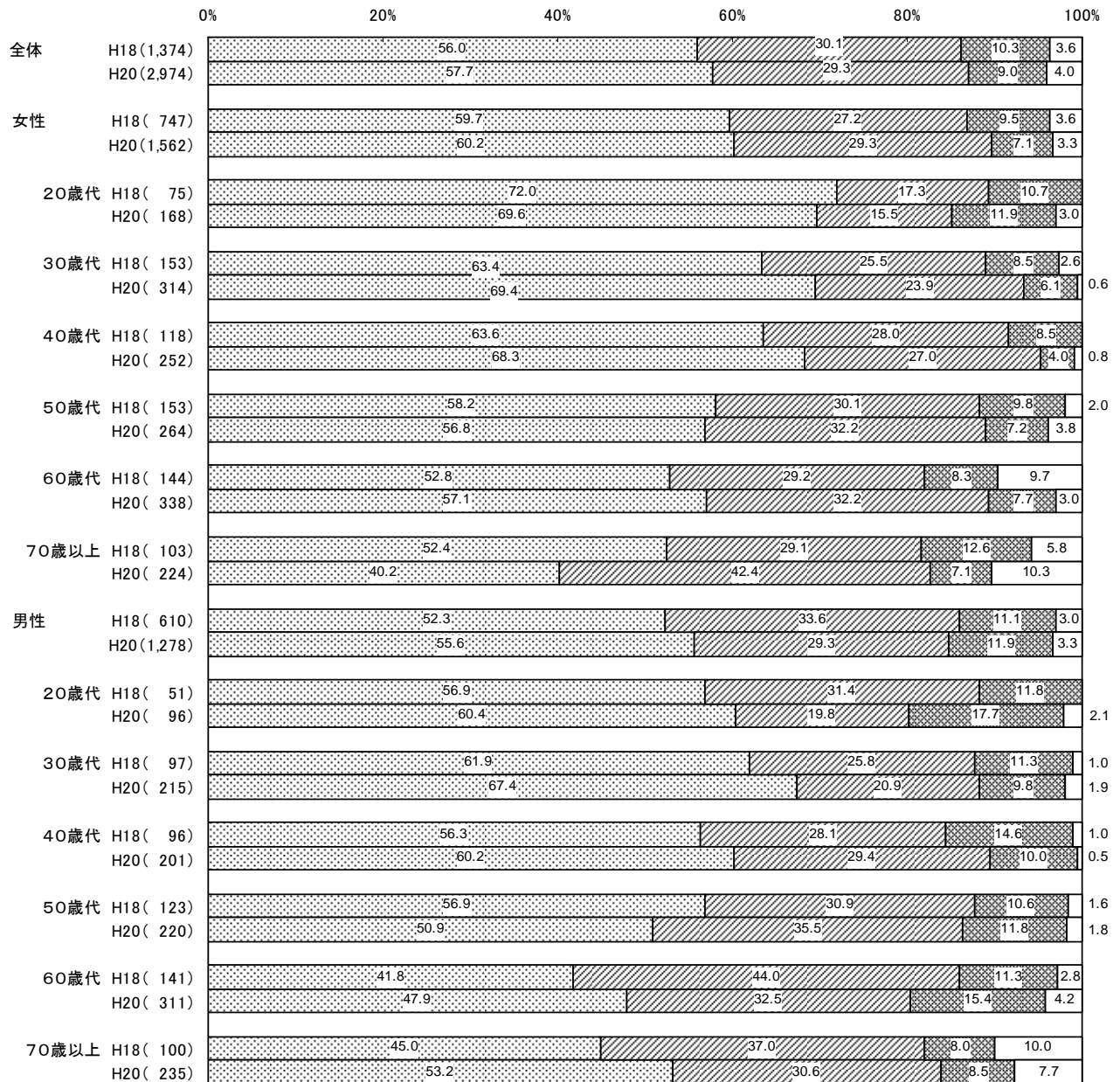
〈(ア) 基礎基本（読み、書き、計算など）の定着を始めとした確かな学力を身につけること〉について性別で見ると、「学校が主に担うべき」が女性 87.8%、男性が 84.9%となっている。「学校が主に担うべき」の割合が最も高かったのが 60 歳代男性で 89.4%、最も低かったのが 40 歳代男性で 80.6%である。

図 1-7-3 性別、性・年代別 (ア) 確かな学力



〈(イ) 集団生活を営むために必要なルールを身につけること〉について性別でみると、「学校が主に担うべき」が女性 60.2%、男性 55.6%となっている。「学校が主に担うべき」の割合が最も高かったのが 20 歳代女性で 69.6%、最も低かったのが 70 歳以上女性で 40.2%である。

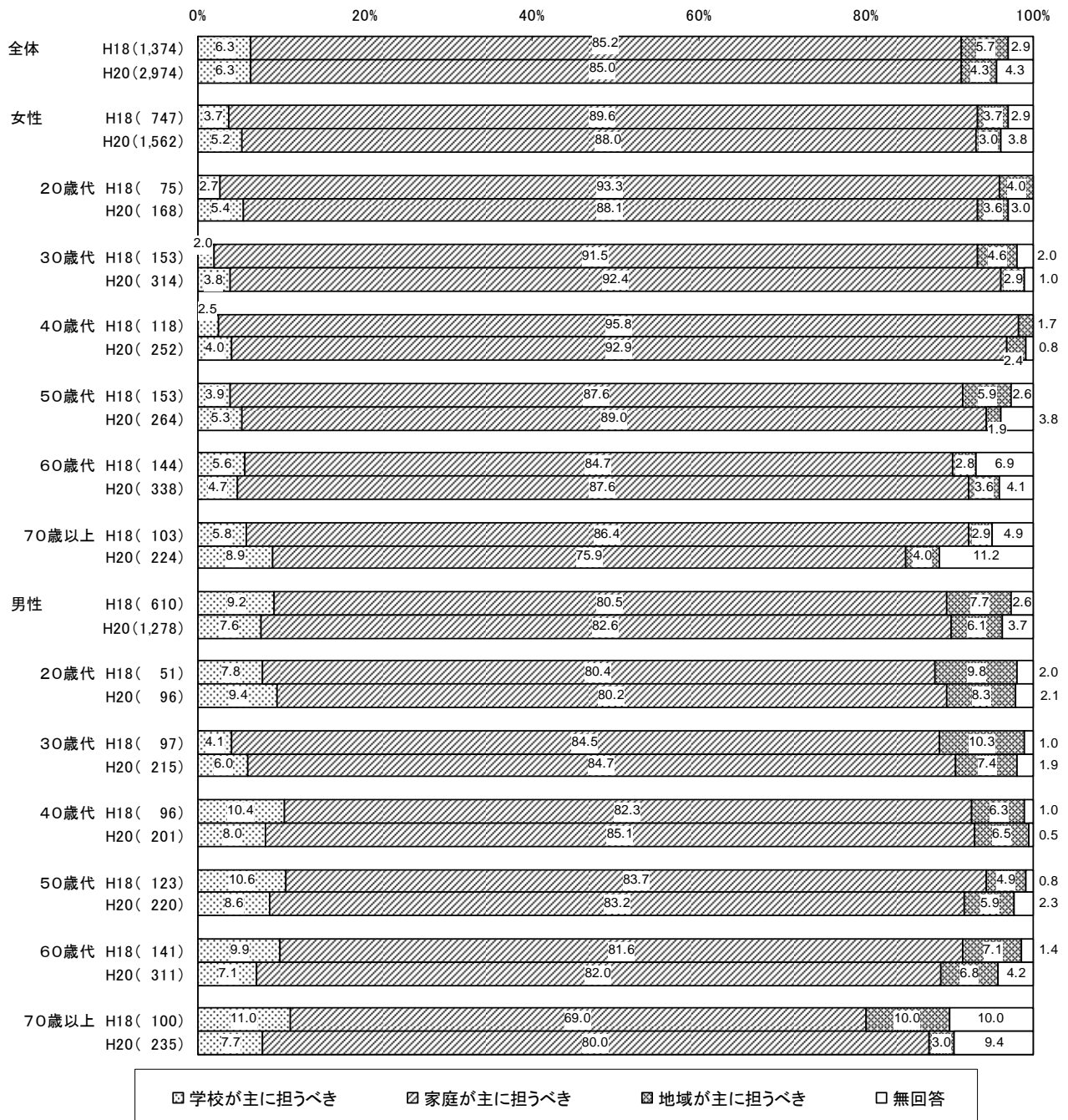
図 1-7-4 性別、性・年代別 (イ) 集団生活に必要なルール



学校が主に担うべき
 家庭が主に担うべき
 地域が主に担うべき
 無回答

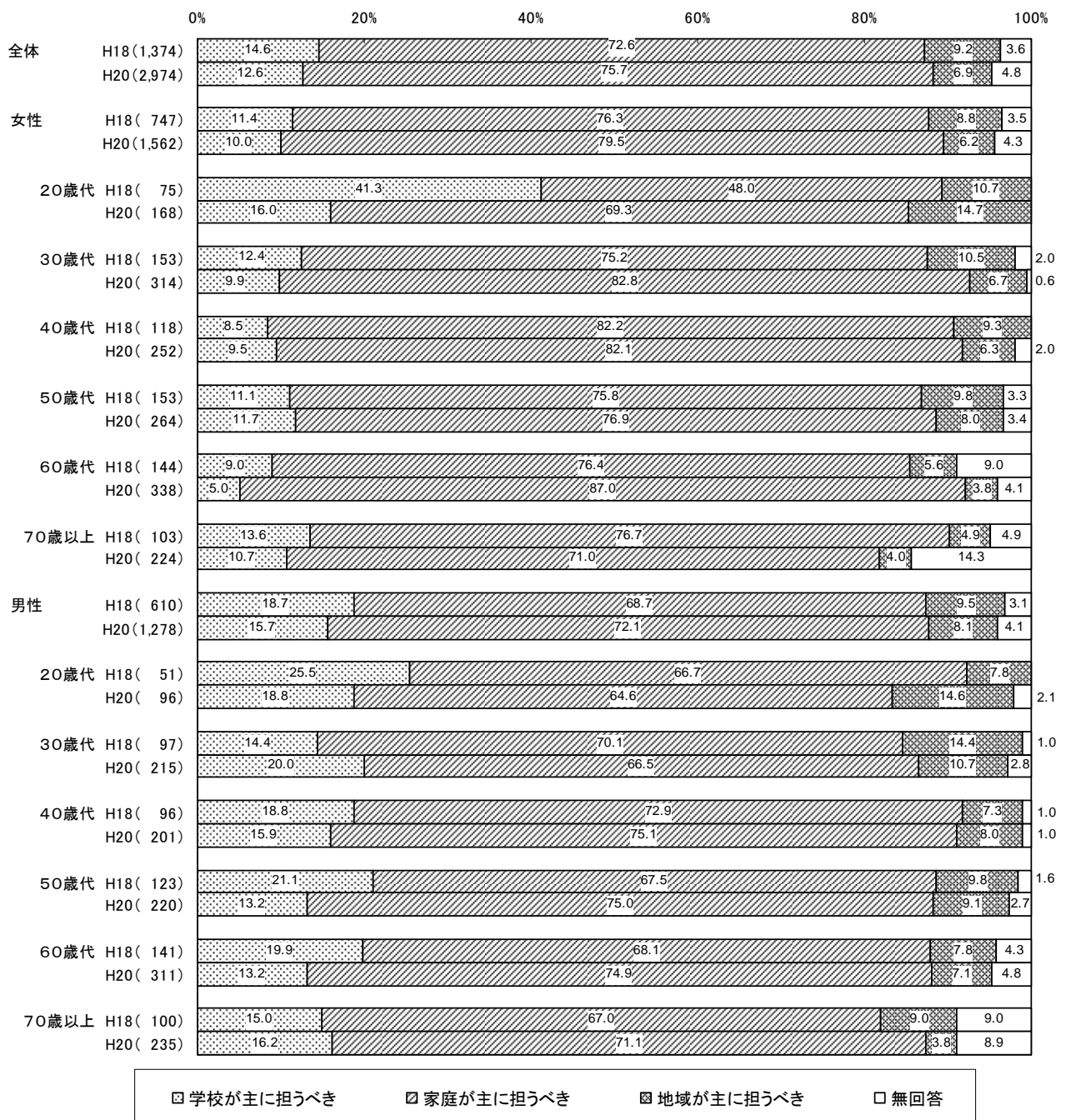
〈(オ) 生活習慣や善悪の判断など規範意識の基盤をつくること〉では、どの性・年代別ともに「家庭が主に担うべき」が圧倒的に多くなっている。

図1-7-5 性別、性・年代別 (オ) 規範意識の基盤



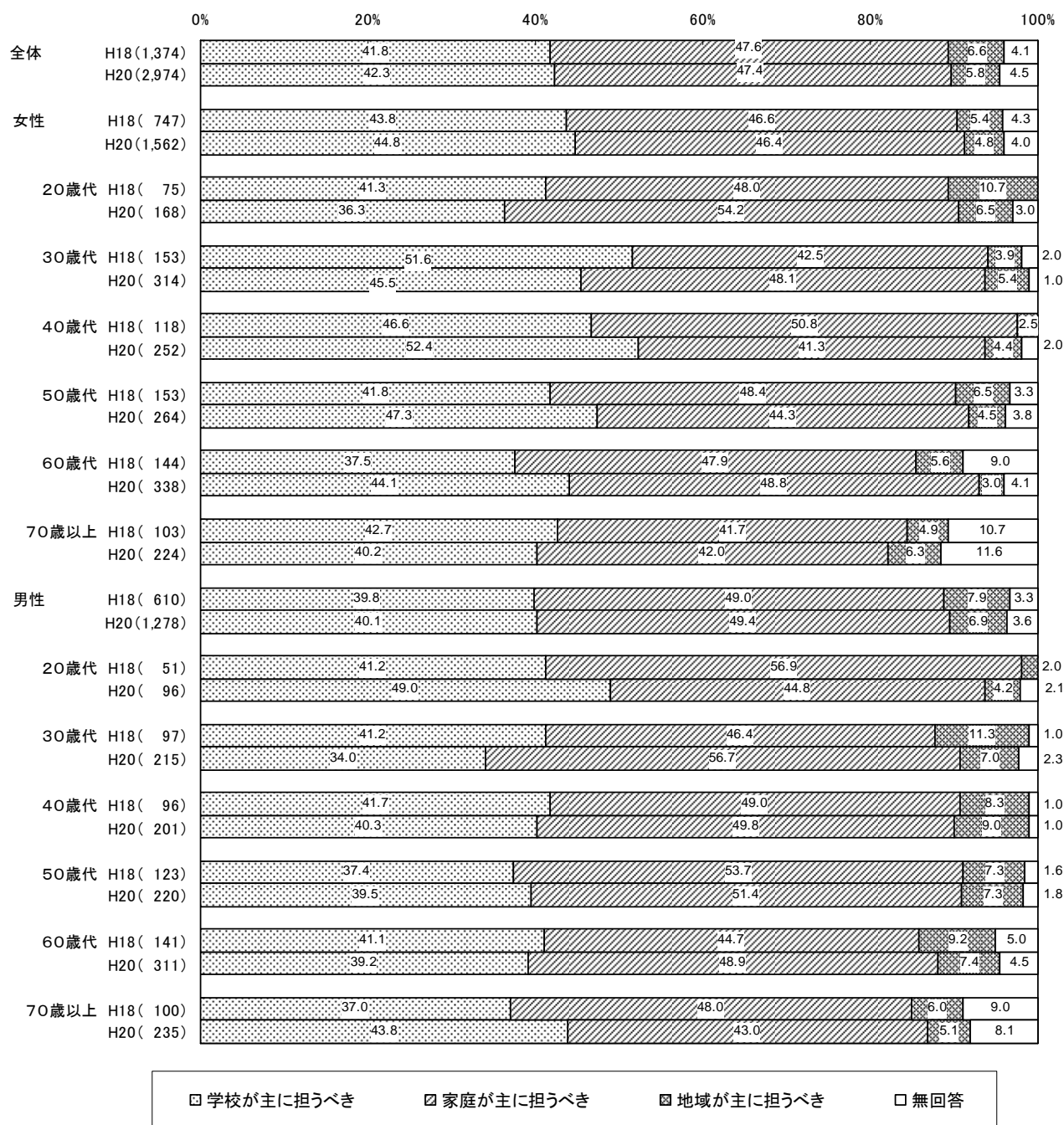
〈(エ) 自らの心身の健康を育むための知識や方法を身につけること〉においても、どの性・年代別ともに「家庭が主に担うべき」が多数を占めている。

図 1-7-6 性別、性・年代別 (エ) 心身の健康を育むための知識や方法



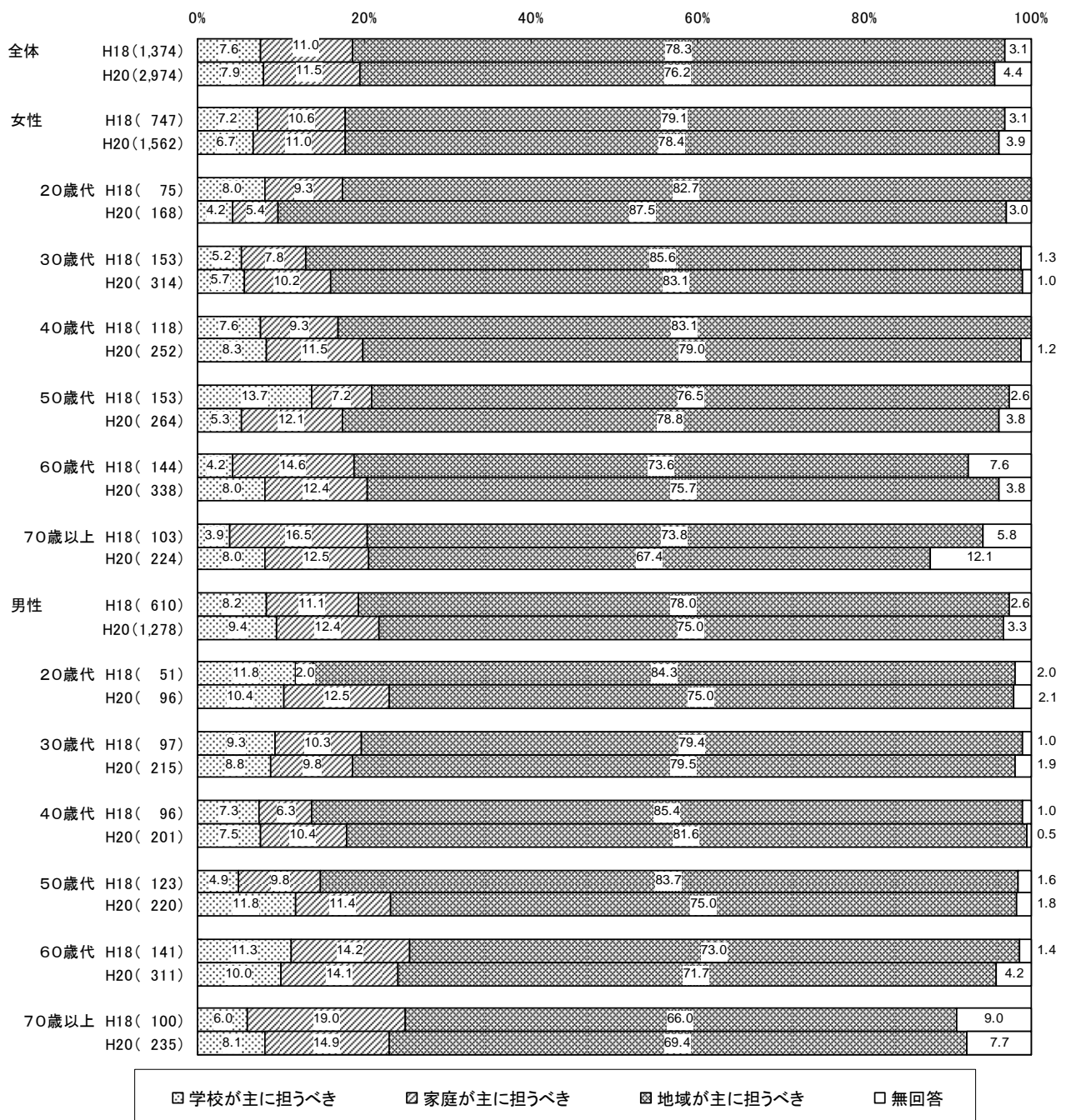
〈(ウ) 生涯にわたって自分で学んでいくために必要な学習の仕方や意欲を身につけること〉において、「学校が主に担うべき」では女性 44.8%、男性 40.1%で、「家庭が主に担うべき」では女性 46.4%、男性 49.4%となっており、男女による差はほとんどみられない。40 歳代、50 歳代女性、20 歳代、70 歳以上男性では、「学校が主に担うべき」が「家庭が主に担うべき」を上回っている。

図 1-7-7 性別、性・年代別 (ウ) 学習の仕方や意欲



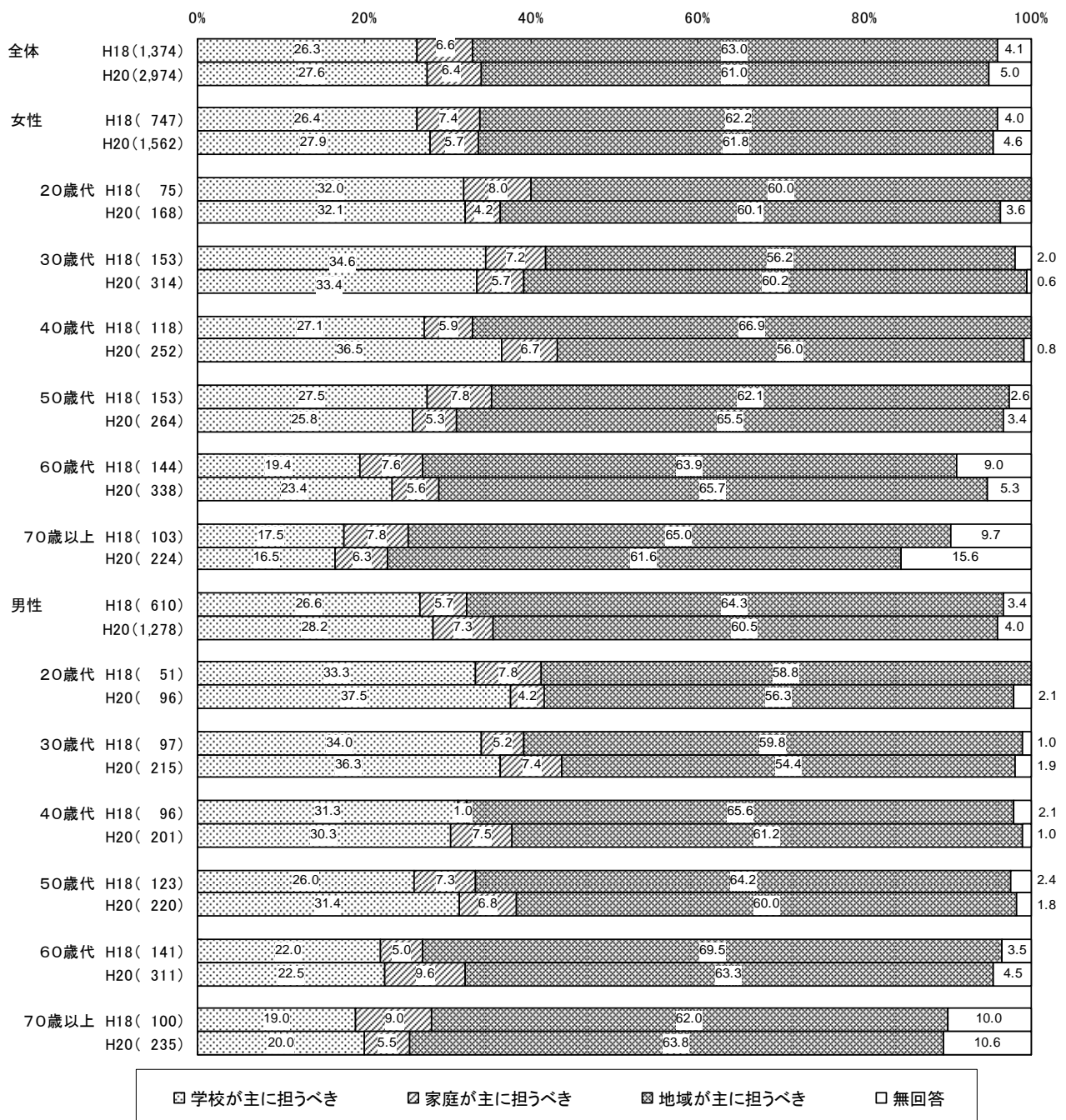
〈(キ) 放課後や休日に、子どもたちが安心して活動できる安全な居場所を見つけること〉において、どの性・年代別ともに、「地域が主に担うべき」が多くなっている。年代別でみると、女性は20歳代87.5%、60歳代75.7%、70歳以上67.4%、また男性では20歳代75.0%、60歳代71.7%、70歳以上69.4%となっており、男女とも年代が高いほどやや割合が低くなっている。

図1-7-8 性別、性・年代別 (キ) 安全な居場所を見つける



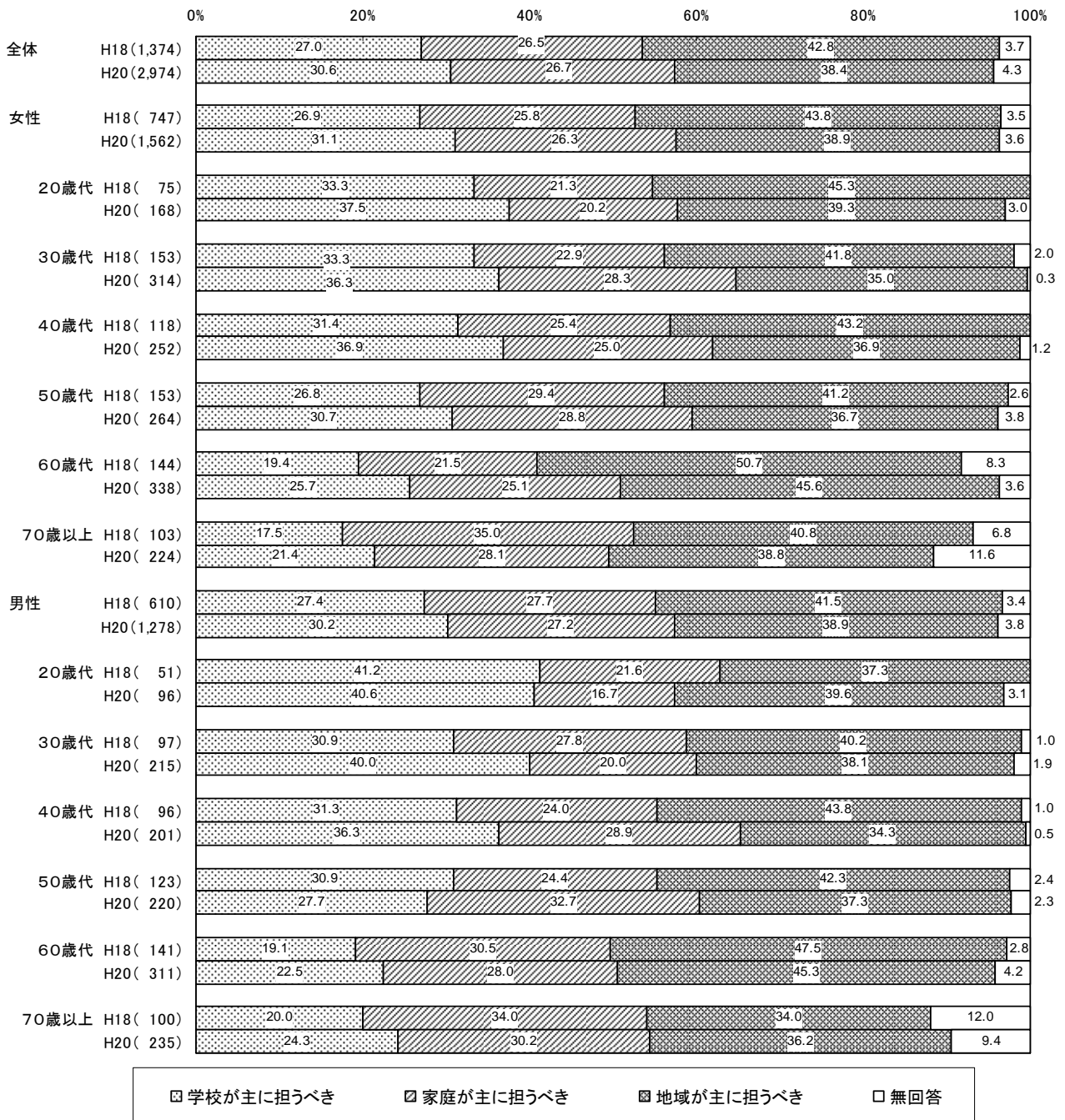
〈(ク) 通常の教育カリキュラムの他に、様々な年齢や性別、国籍の人などと多様な体験をすること〉において、「学校が主に担うべき」を年代別でみると、女性は20歳代32.1%、30歳代33.4%、60歳代23.4%、70歳以上16.5%、また男性では20歳代37.5%、30歳代36.3%、60歳代22.5%、70歳以上20.0%となっており、男女とも年代が低いほど概して割合が高くなっている。

図1-7-9 性別、性・年代別 (ク) 様々な年齢、国籍などとの多様な体験



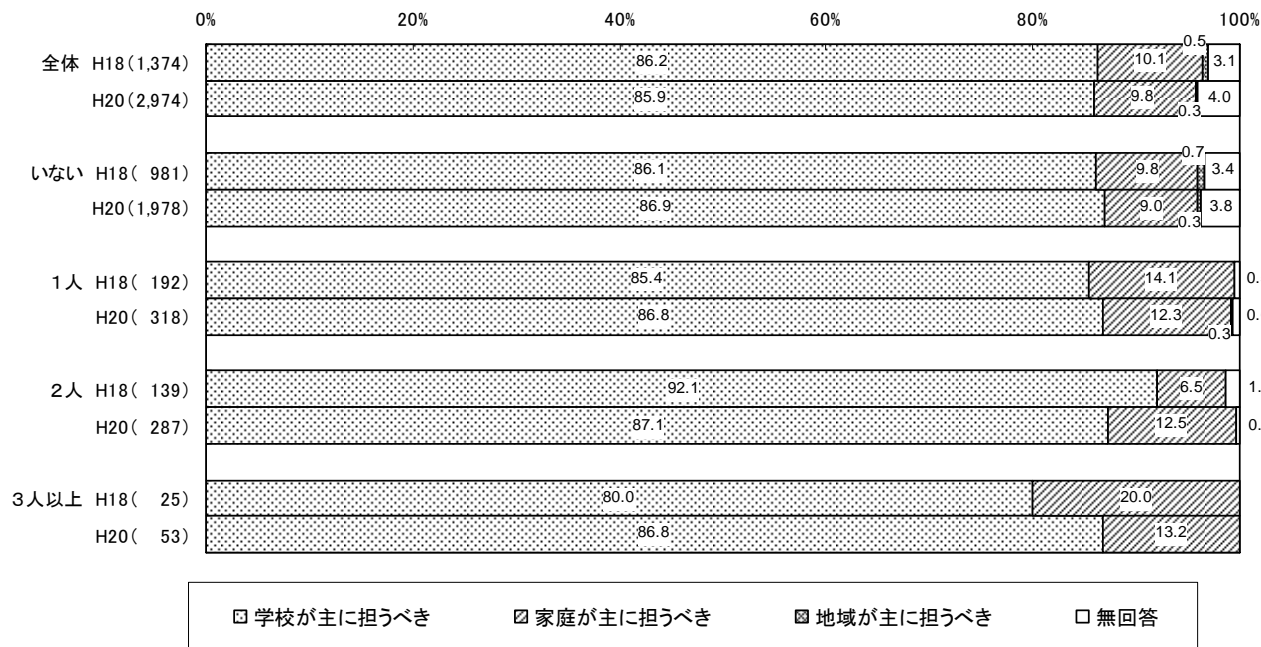
〈(カ) 社会生活を営み、人との交流を広げるために必要な態度やコミュニケーション能力を身につけること〉においては、どの性・年代別でも「地域が主に担うべき」の割合は高い。とくに、60歳代は女性45.6%、男性45.3%と他の年代よりも高くなっており、全体平均よりもそれぞれ7.2ポイント、6.9ポイント高くなっている。H18年度調査と比べると、「学校が主に担うべき」がほぼすべての年代で増えている。

図1-7-10 性別、性・年代別 (カ) 交流を広げるために必要な態度やコミュニケーション能力



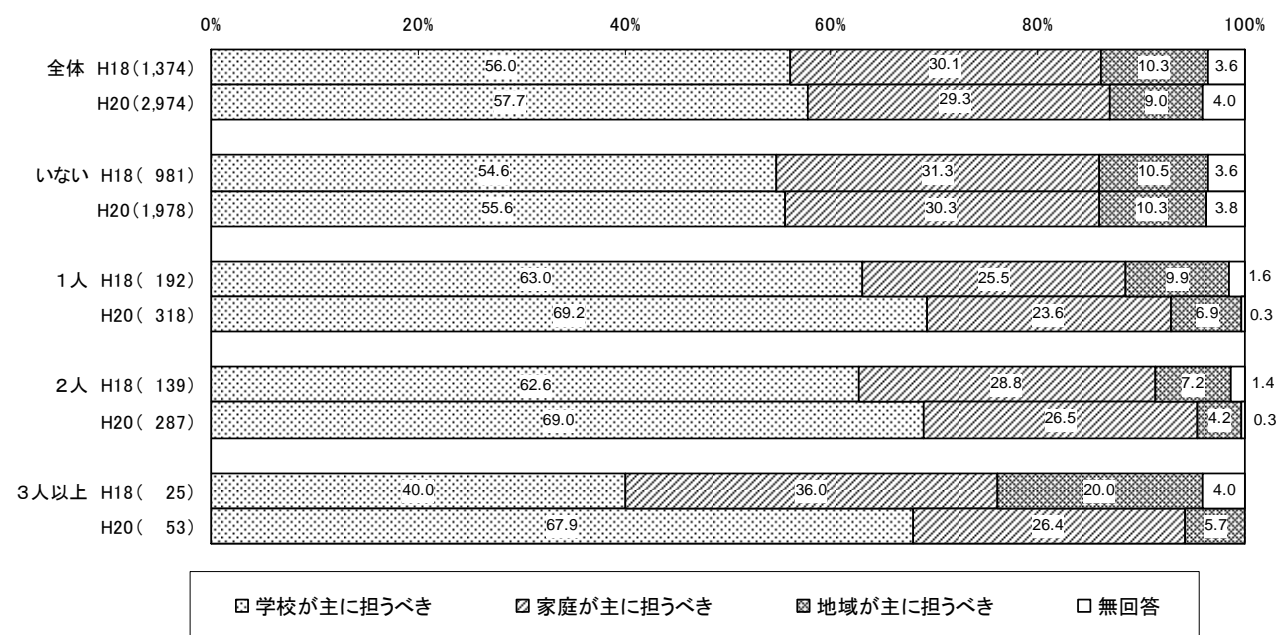
中学生以下の子ども的人数別でみると、〈確かな学力〉については、子ども的人数による差はほとんどない。

図 1-7-11 中学生以下の子ども的人数別 (ア) 確かな学力



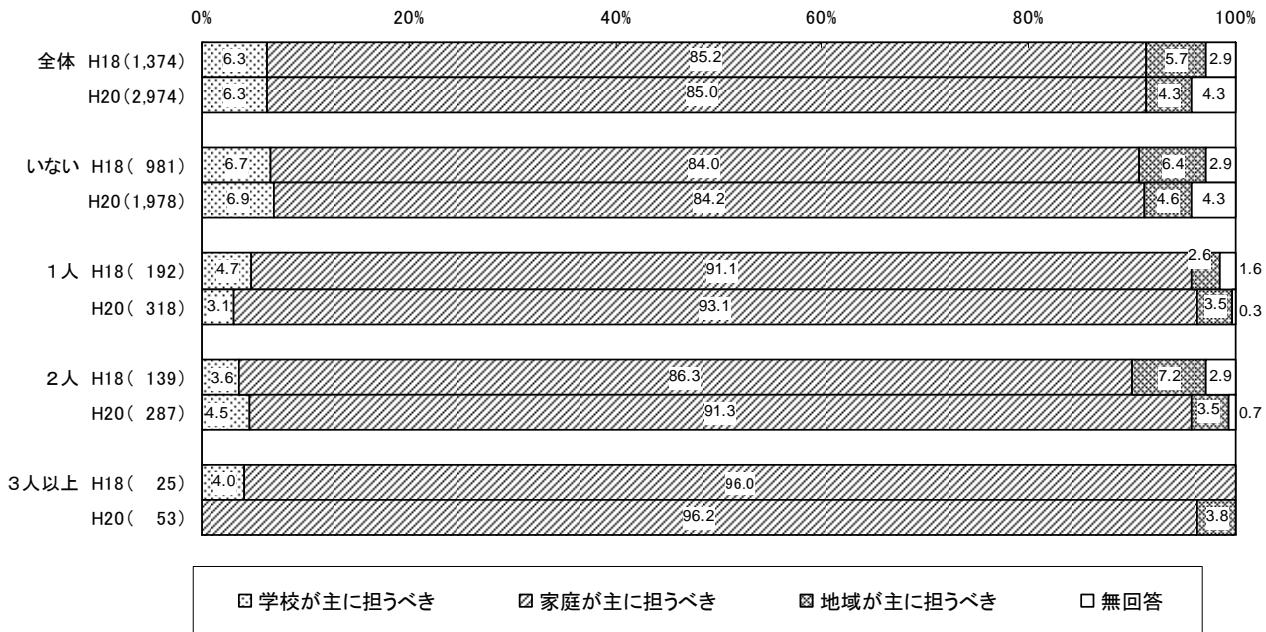
〈集団生活に必要なルール〉については、いない層よりもいる層のほうが 10 ポイント以上、割合が高くなっている。

図 1-7-12 中学生以下の子ども的人数別 (イ) 集団生活に必要なルール



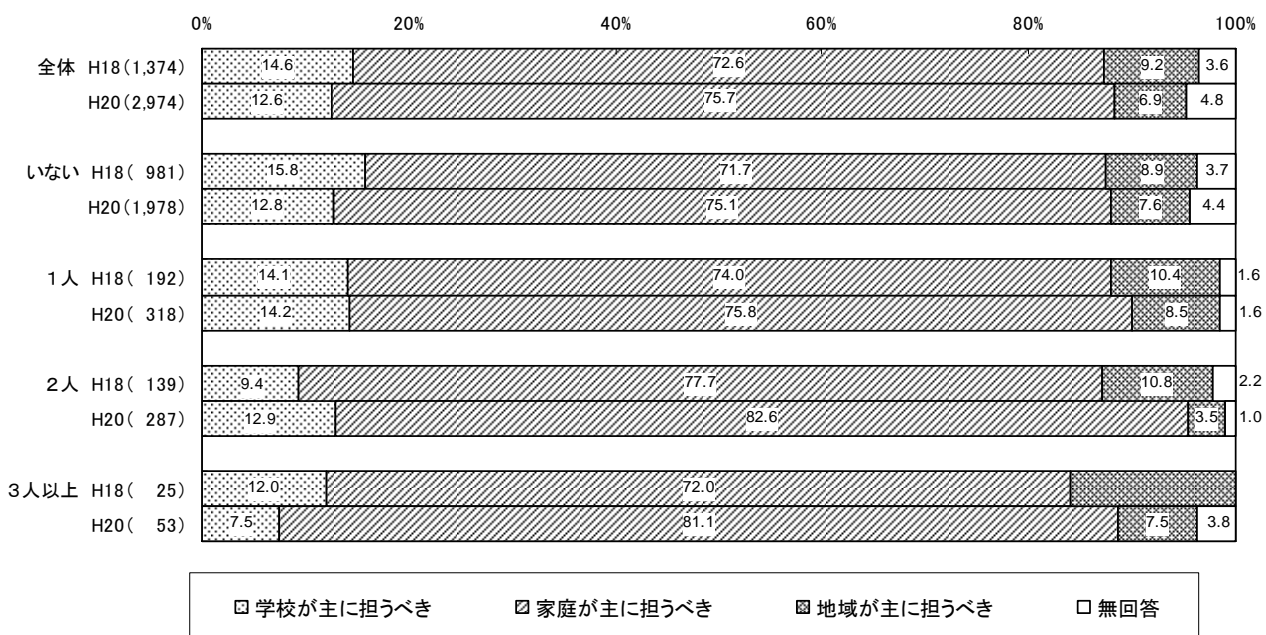
〈規範意識の基盤〉については、いない層のほうがいる層よりも「学校が主に担うべき」と答えた割合が若干高くなっている。

図 1-7-13 中学生以下の子どもの人数別 (オ) 規範意識の基盤



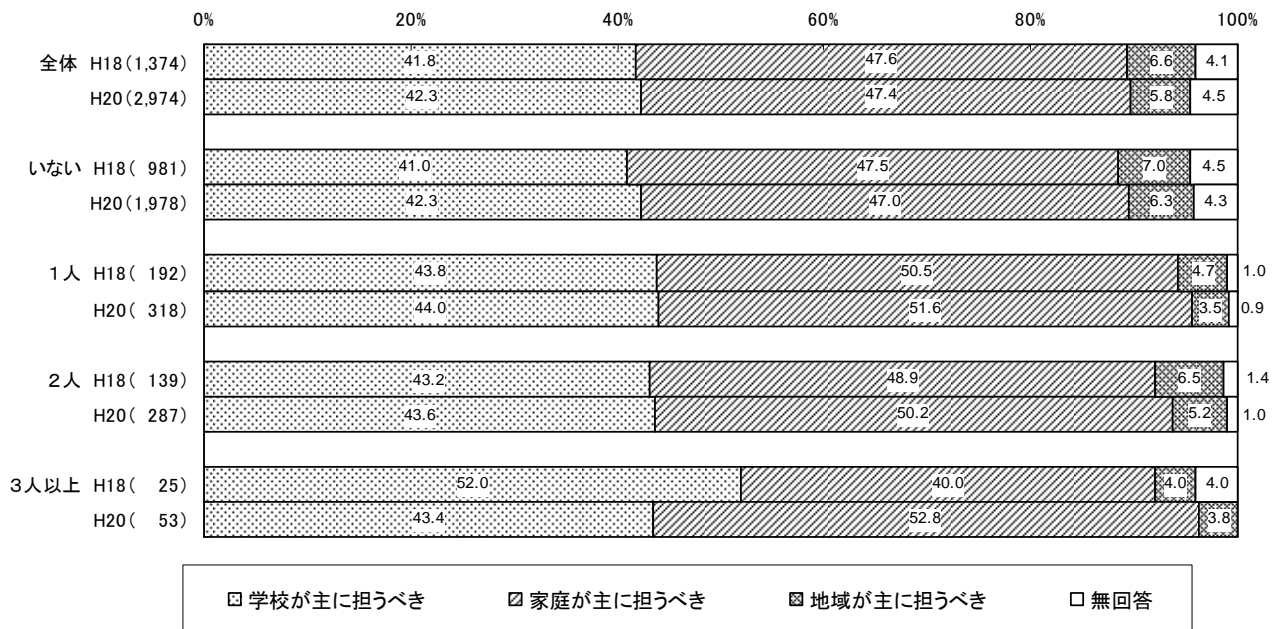
〈心身の健康を育むための知識や方法〉については、「いない」、「1人」よりも「2人」、「3人」のほうが、「家庭が担うべき」と答えた割合がやや高くなっている。

図 1-7-14 中学生以下の子どもの人数別 (エ) 心身の健康を育むための知識や方法



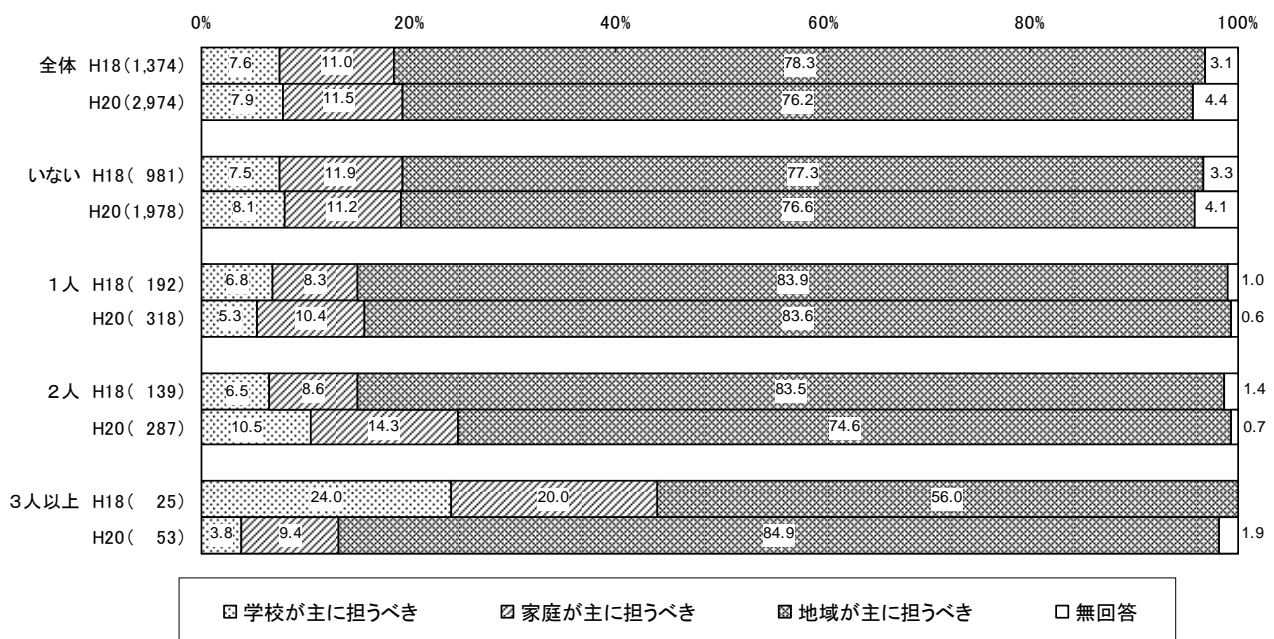
〈学習の仕方や意欲〉については、それぞれ、「学校が主に担うべき」と「家庭が主に担うべき」が4、5割前後で拮抗している。

図 1-7-15 中学生以下の子ども的人数別 (ウ) 学習の仕方や意欲



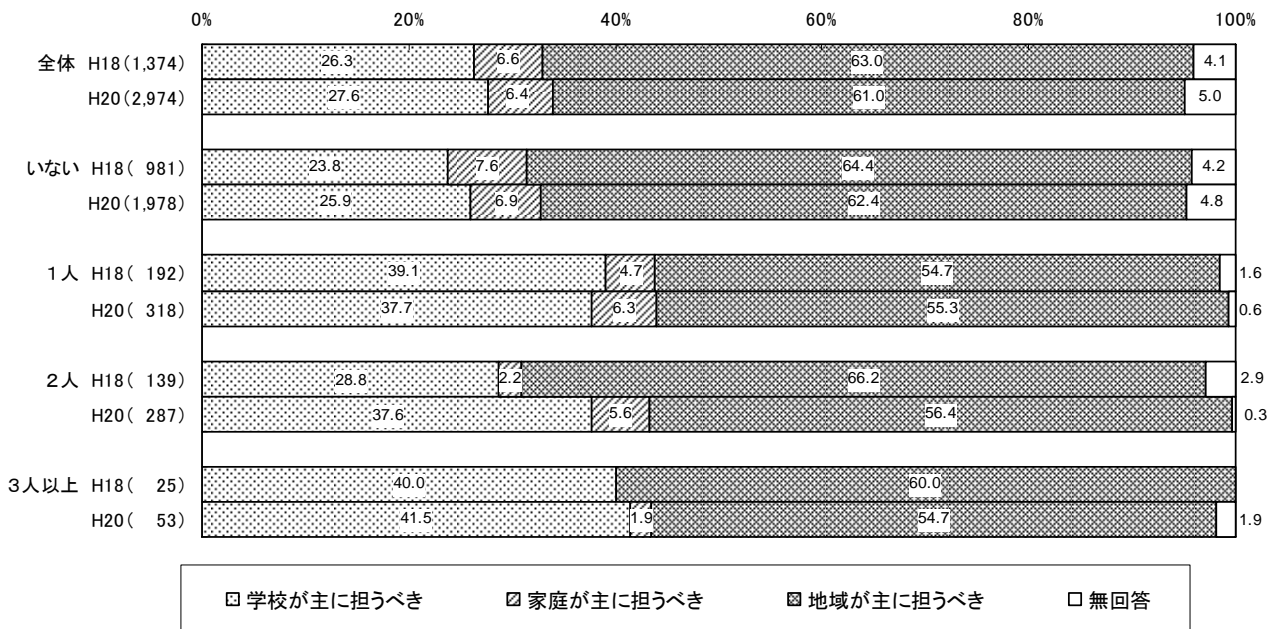
〈安全な居場所を見つける〉については、子どもの有無、数による大きな差は見られず、それぞれ「地域が主に担うべき」と答えた割合が高くなっている。

図 1-7-16 中学生以下の子ども的人数別 (キ) 安全な居場所を見つける



〈様々な年齢、国籍の人などとの多様な体験〉については、「いない」人のほうが『1人以上いる』人よりも「学校が主に担うべき」と答えた割合が若干低くなっている。

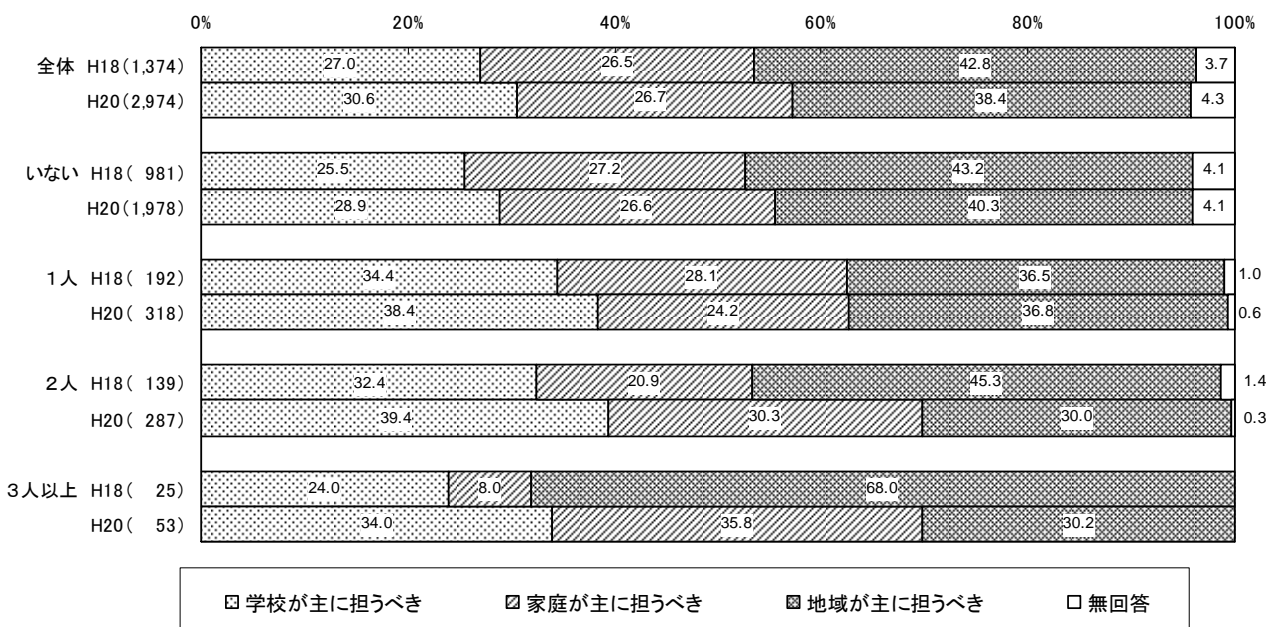
図 1-7-17 中学生以下の子ども的人数別 (ク) 様々な年齢、国籍などとの多様な体験



〈交流を広げるために必要な態度やコミュニケーション能力〉については、「いない」よりも「1人」、「2人」のほうが「学校が主に担うべき」と答えた割合が10ポイントほど高くなっている。

図 1-7-18 中学生以下の子ども的人数別

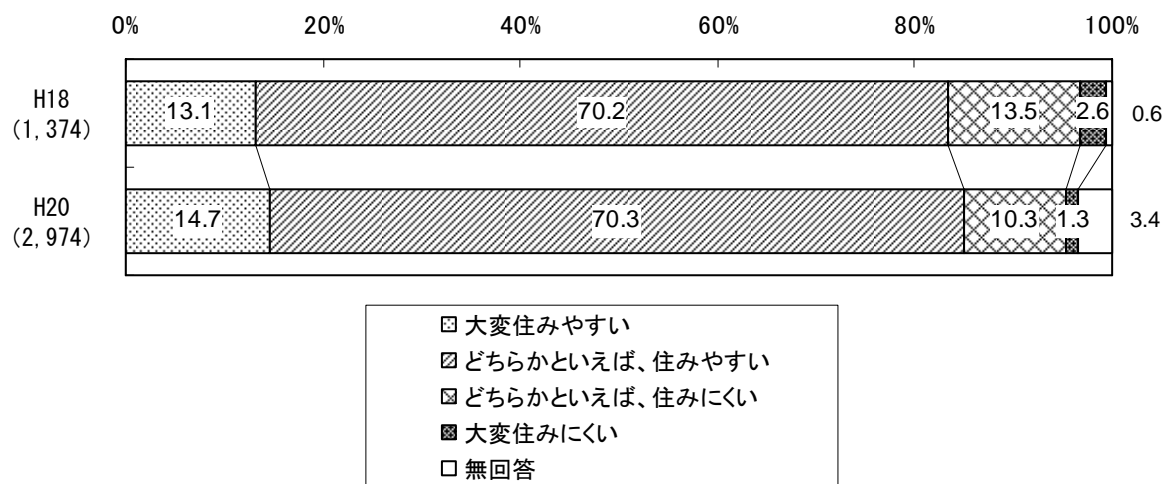
(カ) 交流を広げるために必要な態度やコミュニケーション能力



(8) 住みやすさ

問 12 あなたにとって、松戸市は住みやすいですか。(○は1つだけ)

図 1 - 8 - 1



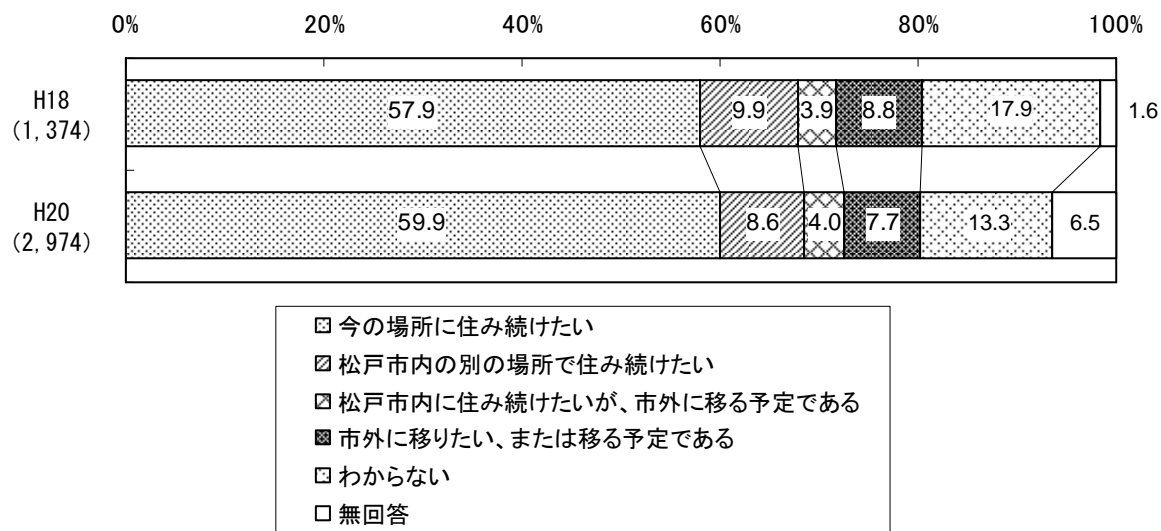
松戸市について、「大変住みやすい」が14.7%となっており、「どちらかといえば住みやすい」(70.3%)を足すと85.0%となる。また、「どちらかといえば、住みにくい」は10.3%、「大変住みにくい」は1.3%であった。

H18年度と比較すると、「大変住みやすい」と答えた割合が若干(1.6ポイント)増えている。

(9) 定住意向

問 13 あなたは、今後も松戸市にお住みになりたいですか。(○は1つだけ)

図 1 - 9 - 1



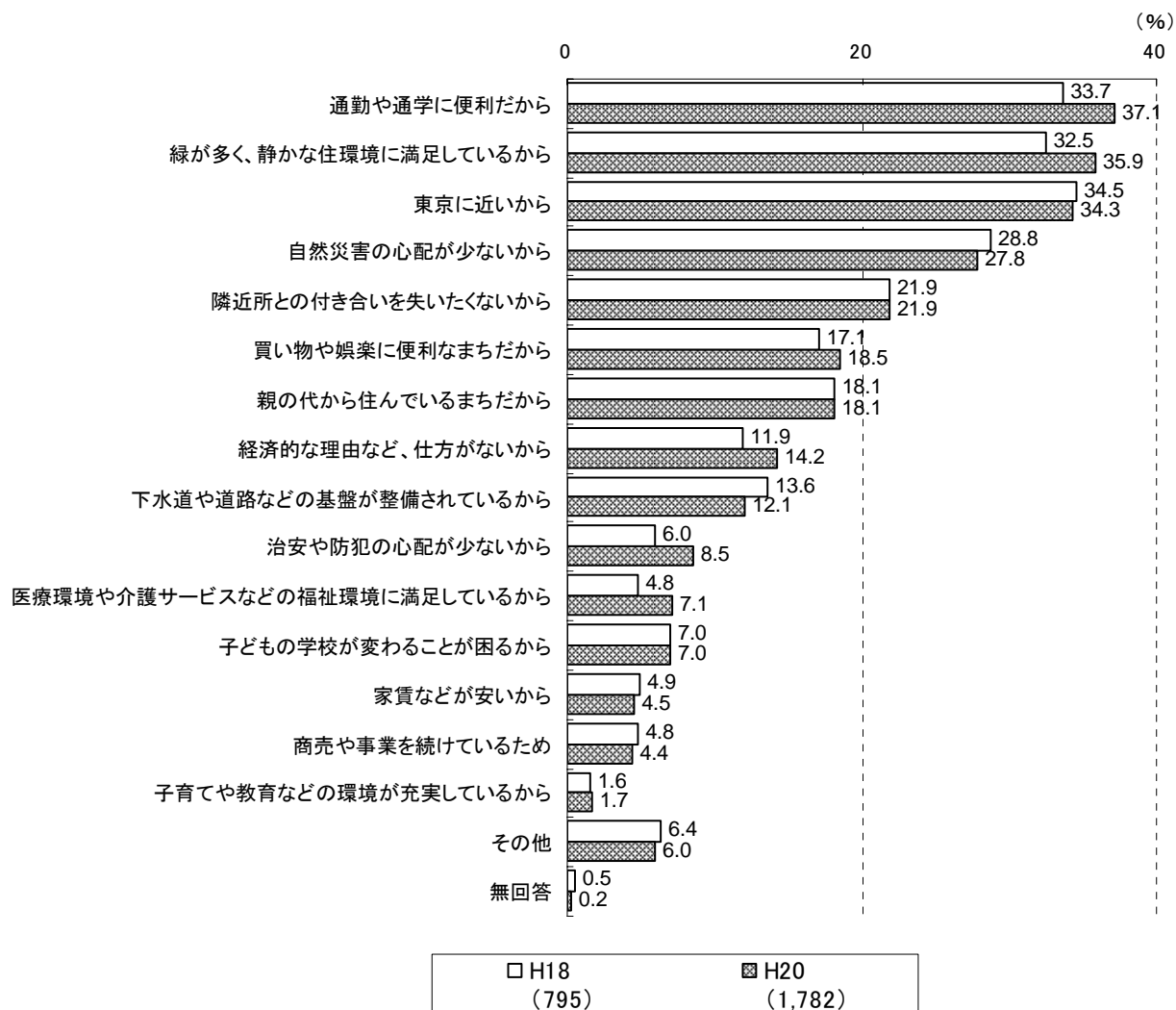
松戸市について、「今の場所に住み続けたい」と答えた割合は 59.9%となっており、H18 年度調査に比べて 2.0 ポイント高くなっている。

(9) - 1 定住理由

(問 13 で「1. 今の場所に住み続けたい」とお答えの方に)

問 13-1 今の場所に住み続けたい理由は何ですか。(○は3つまで)

図 1-10-1



松戸市への定住理由としては、「通勤や通学に便利だから」が最も多く 37.1%となっており、次いで「緑が多く、静かな住環境に満足しているから」が 35.9%、「東京に近いから」が 34.3%となっている。

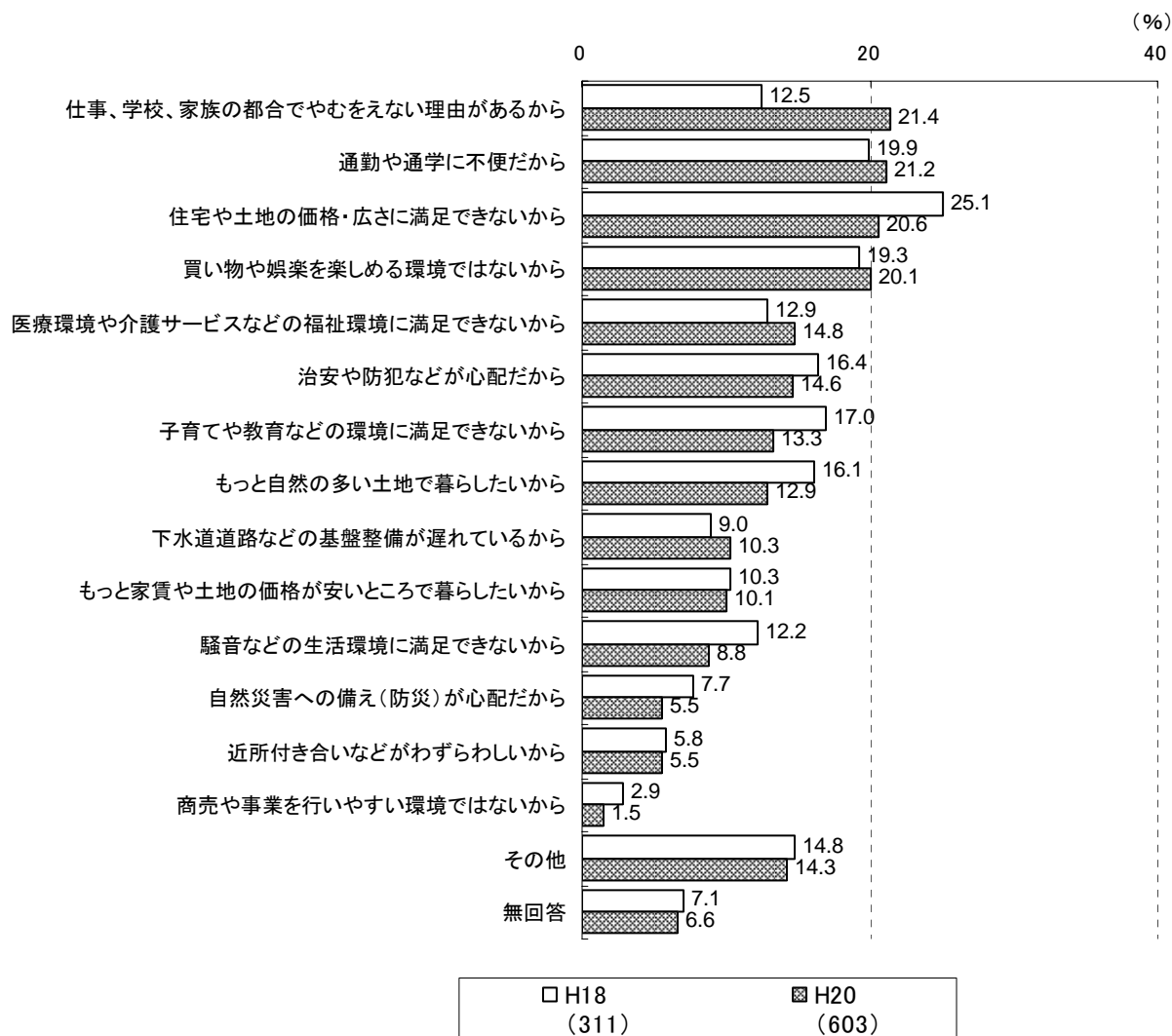
H18 年度調査と比較して割合が高くなったものとしては、「通勤や通学に便利だから」は 3.4 ポイントアップ、「緑が多く、静かな住環境に満足しているから」が 3.4 ポイントアップとなっている。また、「医療環境や介護サービスなどの福祉環境に満足しているから」は 2.3 ポイントアップして 7.1%となっている。

(9) - 2 転出理由

(問 13 で2~4のいずれかをお答えの方に)

問 13-2 別の場所に移りたい、または移る予定の理由は何ですか。(〇は3つまで)

図 1-11-1



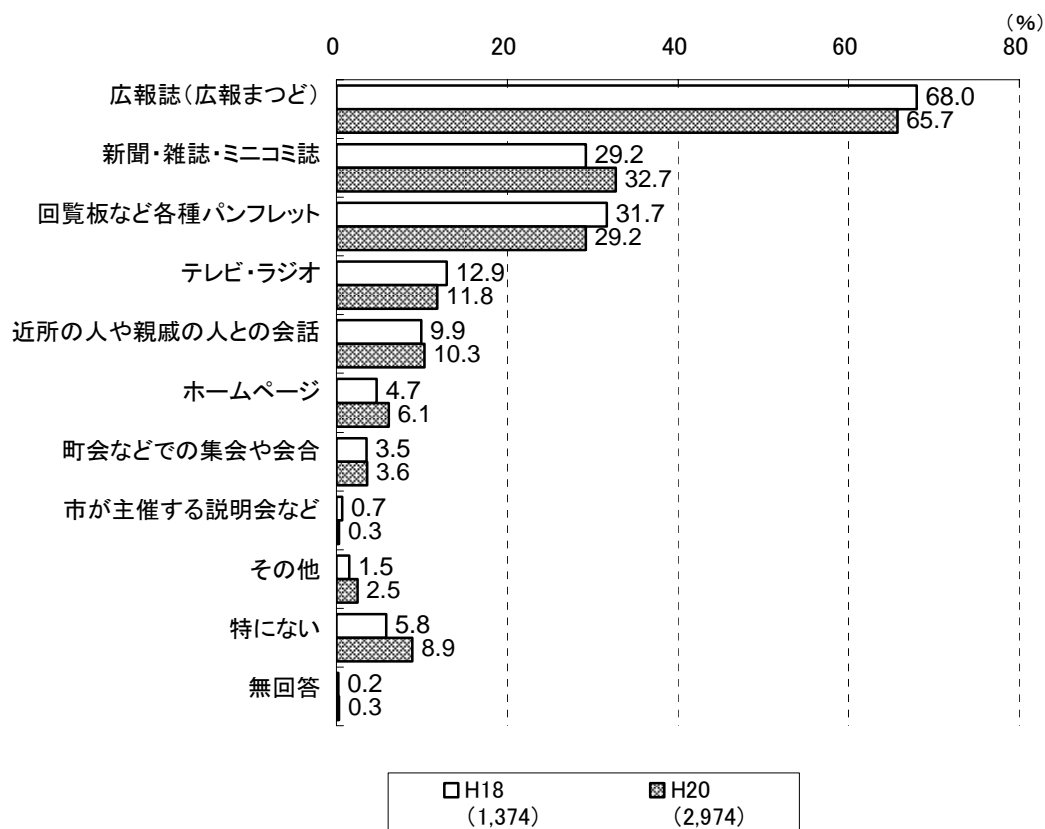
転出理由は、「仕事、学校、家族の都合でやむをえない理由があるから」が 21.4%で最も高く、次いで「通勤や通学に不便だから」21.2%、「住宅や土地の価格・広さに満足できないから」20.6%、「買い物や娯楽を楽しめる環境ではないから」20.1%と続いている。

H18 年度調査と比較して割合が高くなったものとしては、「仕事、学校、家族の都合でやむをえない理由があるから」が 8.9 ポイントアップとなっており、割合が低くなったものとしては、「住宅や土地の価格・広さに満足できないから」が 4.5 ポイントダウン、「子育てや教育などの環境に満足できないから」が 3.7 ポイントダウンとなっている。

(10) 地域情報の入手手段

問4 あなたは、松戸市の地域の情報を主に何によって入手していますか。(〇は2つまで)

図 1-12-1



松戸市の情報入手媒体としては、「広報誌 (広報まつど)」が 65.7% で最も多く、次いで「新聞・雑誌・ミニコミ誌」 32.7%、「回覧板などの各種パンフレット」 29.2% が続いている。

H18 年度調査と比べて、「広報誌 (広報まつど)」、「回覧板などの各種パンフレット」は若干ポイントが下がっている一方、「新聞・雑誌・ミニコミ誌」が 3.5 ポイント上がっている。

性・年代別でみると、「広報誌（広報まつど）」は50歳代、60歳代が男女ともに割合が高く、20歳代は低くなっている。新聞・雑誌・ミニコミは、性別、年代の差があまりない。

図1-12-2 性・年代別

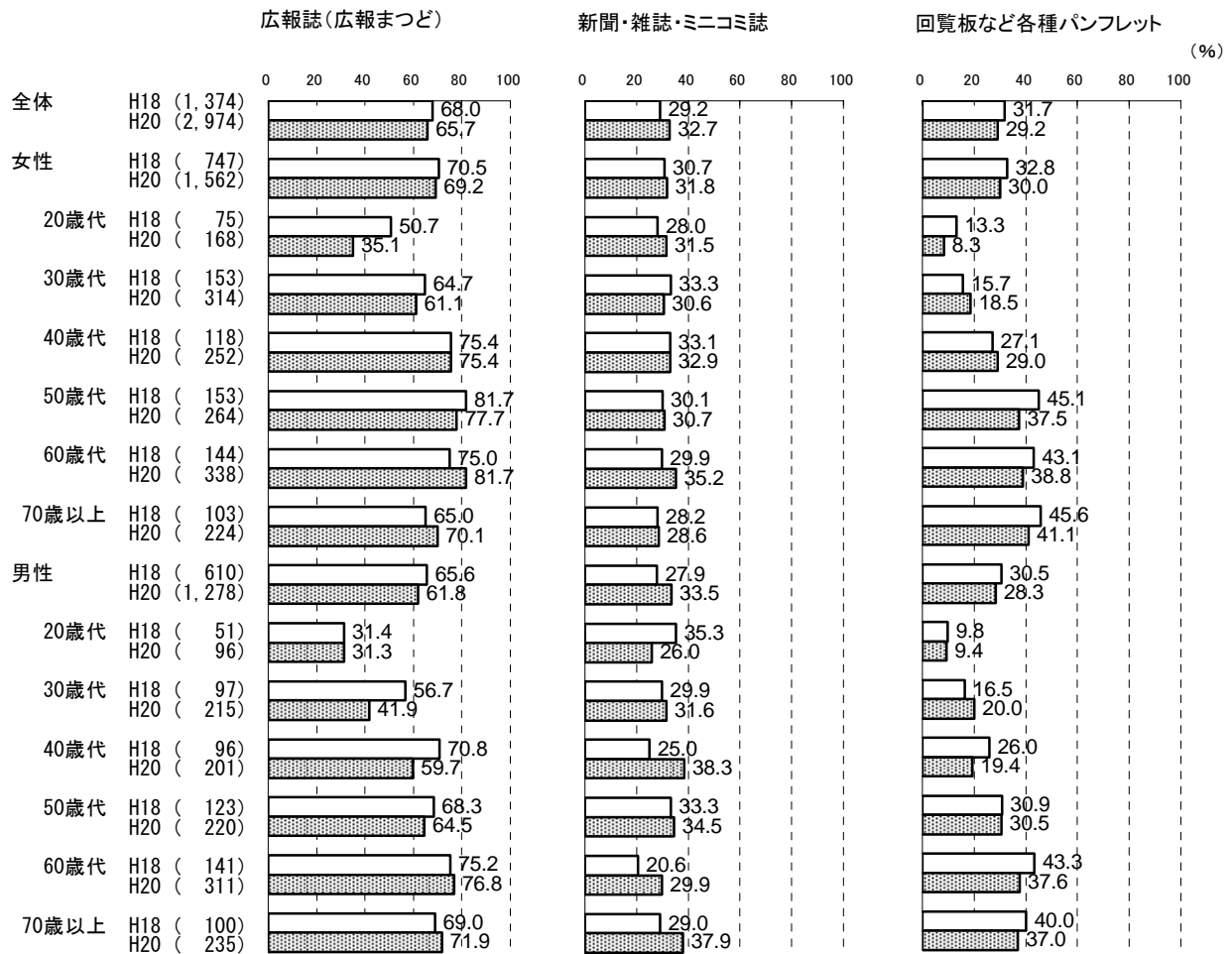


図 1-12-3 性・年代別（続き）



Ⅲ 調査結果の分析

2 地区別の分析

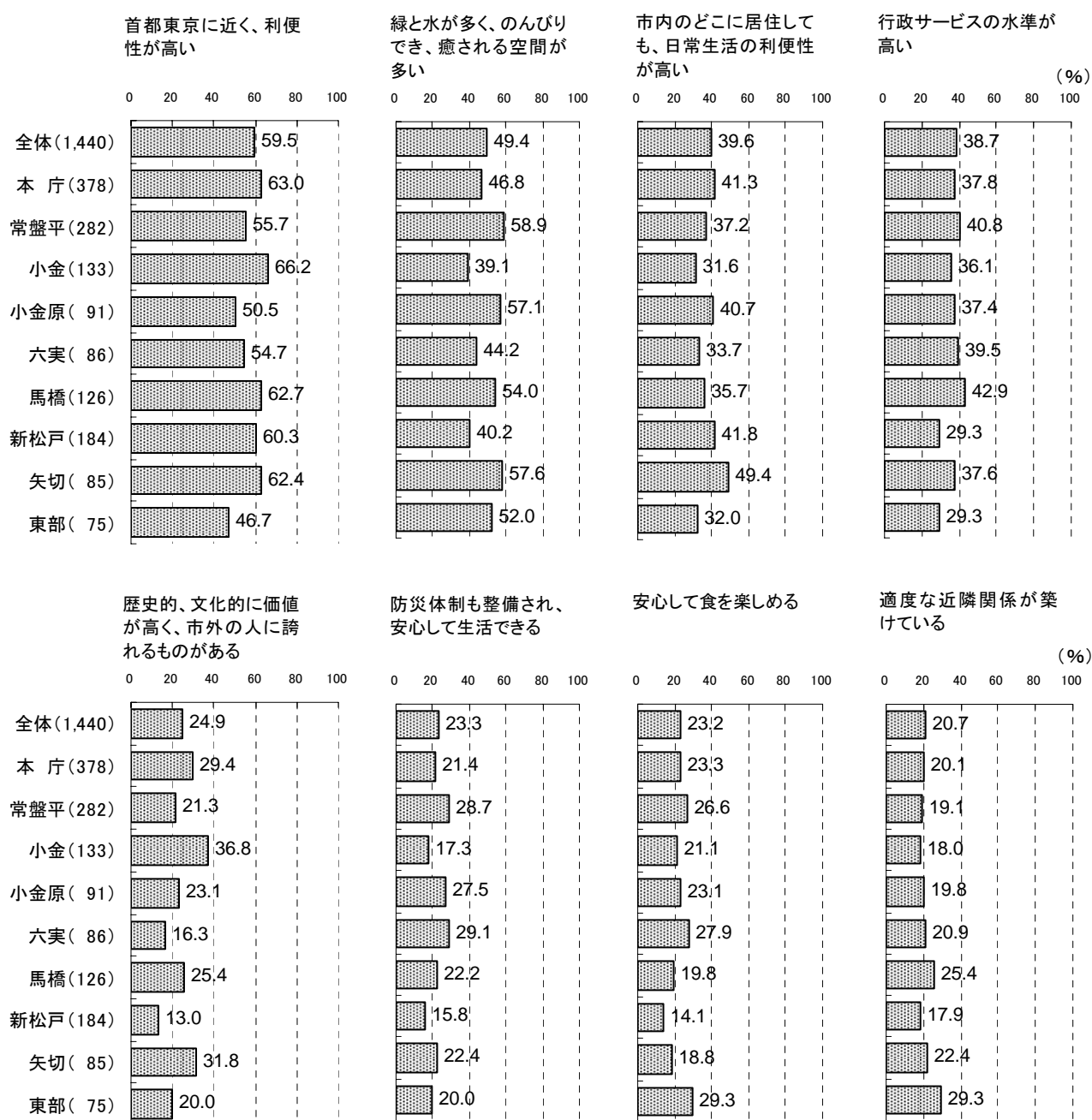
(1) 松戸市の良さ、強み

問6 松戸市は、水戸街道の宿場町として、また舟運交通の要衝として栄えてきました。市制を施行した昭和18年の人口は4万人程度であり、昭和30年代の半ばまでは農業主体のまちとして緩やかな人口の増加傾向をたどってきました。

その後、平成の初めまでは、首都東京の住宅需要の受け皿として、新しい市民が全国各地から移り住み、激しい人口移動と増加を繰り返してきました。今日では、人口の増加も落ち着き、人口約48万人を擁し、市内にJR、私鉄合わせて23の駅を持つ全国でも有数の生活都市として成熟期を迎えつつあります。

あなたが感じている松戸市の良さ、強みとは、どのような点でしょうか。(〇はいくつでも)

図2-1-1

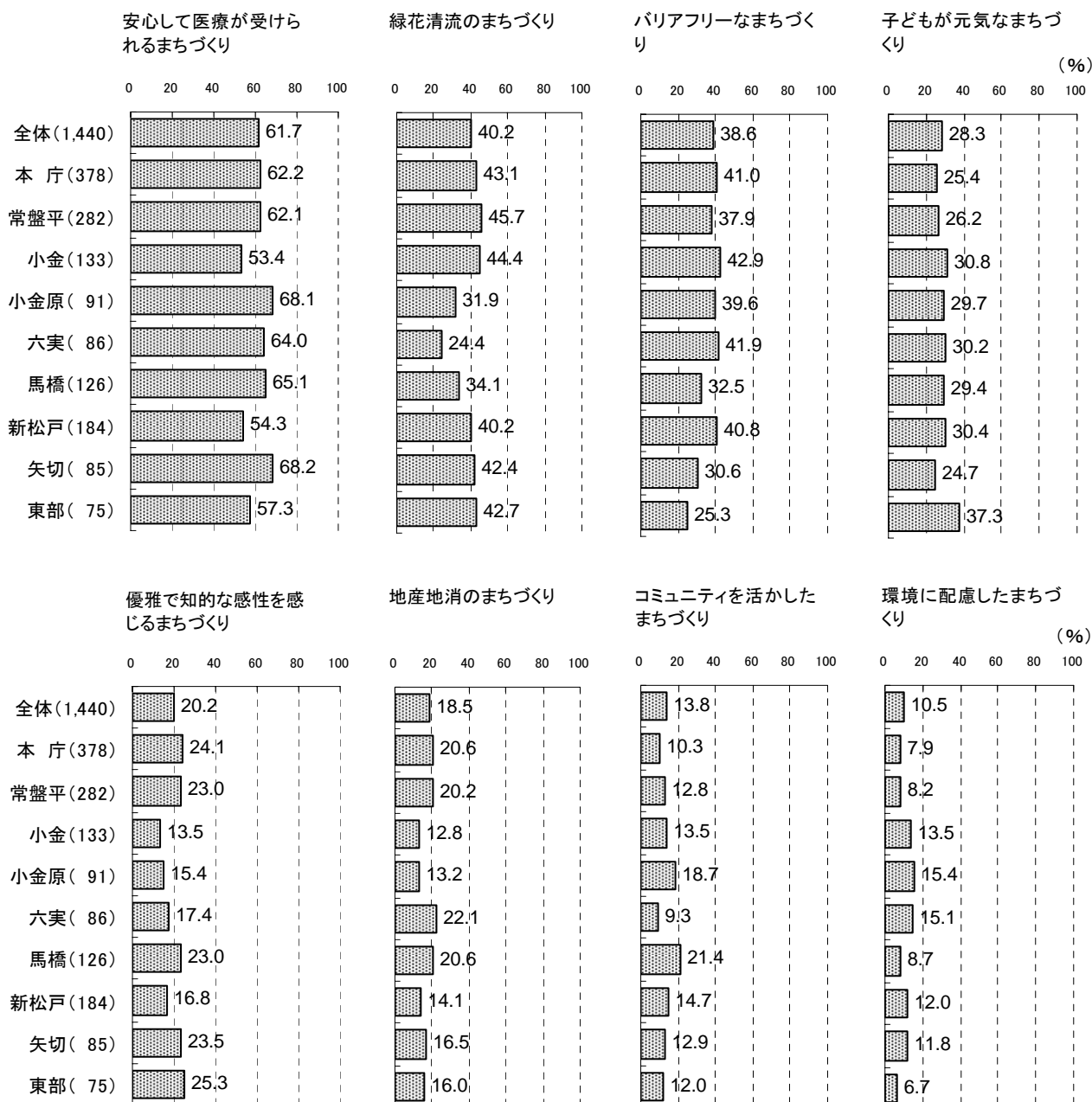


「首都東京に近く、利便性が高い」では、小金地区が 66.2%で最も高く、次いで本庁地区が 63.0%となっている。「緑と水が多く、のんびりでき、癒される空間が多い」は常盤平地区、矢切地区、小金原地区で高い割合となっている。また、「歴史的、文化的に価値が高く、市外の人に誇れるものがある」では、小金地区の 36.8%、矢切地区の 31.8%が高い割合となっている。

(2) まちづくりの方向性

問7 問6でお答えいただいた松戸市の良さ・強みを活かしたときに、どのようなまちづくりを目指すべきとお考えですか。(〇は3つまで)

図 2 - 2 - 1



松戸市の良さ・強みを活かし、どのようなまちづくりを目指すべきかを聞いたところ、「安心して医療が受けられるまちづくり」では矢切地区（68.2%）、小金原地区（68.1%）が高くなっており、「緑花清流のまちづくり」では、六実地区が低くなっている。また、「子どもが元気なまちづくり」では、東部地区が37.3%で最も高くなっている。

(3) 行政サービスの提供のあり方として相応しい方法

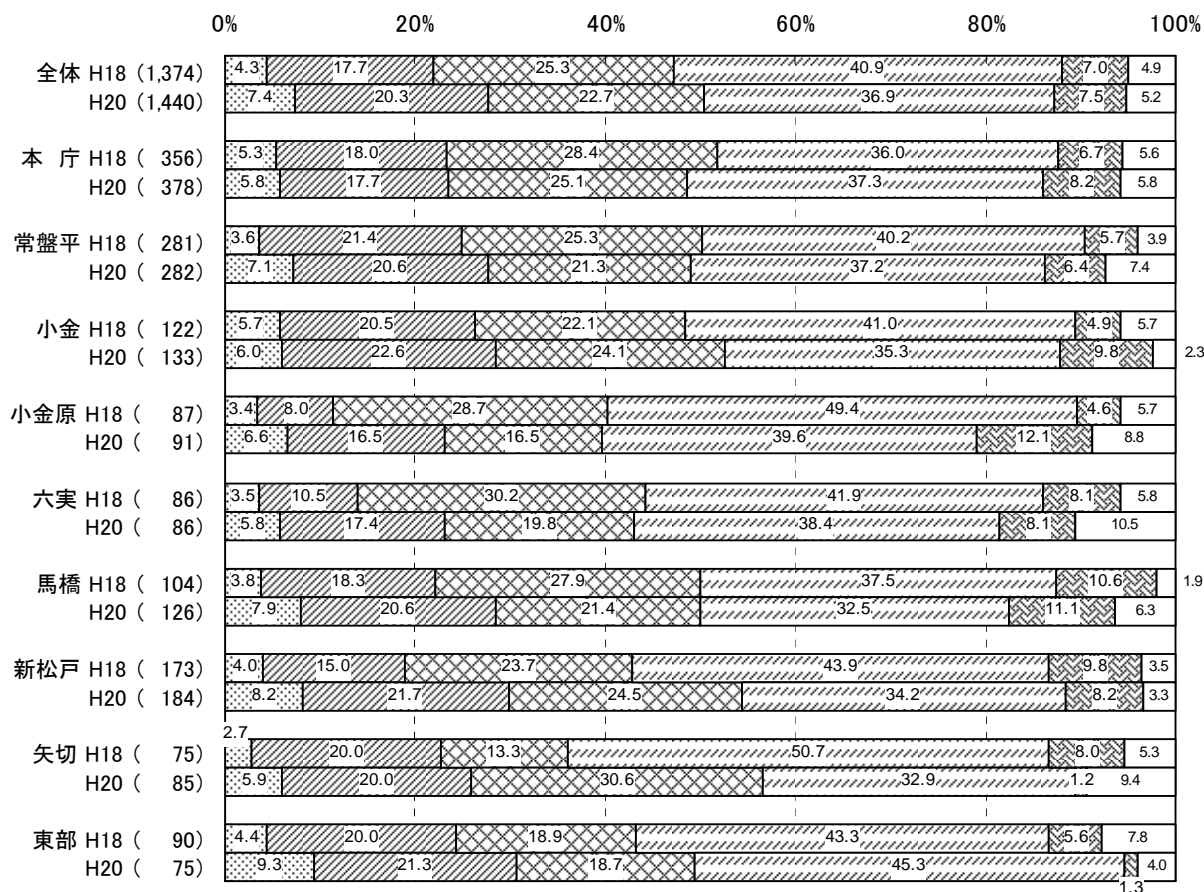
問8 平成 17(2005)年は、出生数が死亡数を下回り、日本全体の人口が減少していく人口減少社会が想定より早く到来しました。これからの社会では、「税や公的保険料を負担する人が少なくなるが、税などでまかなわれる市役所のサービスを必要とする人が増える」ことが予想され、その結果、「一人ひとりが市役所から受けられるサービスが減る」ことが考えられます。

また、助け合いや支え合いができる地域社会が維持できなくなったり、経済活動を支える年齢層が希薄になり、平均的に生活水準が低下することも考えられます。

このような社会情勢の下での市役所など行政サービスの提供のあり方として、どのような方法が相応しいと考えますか。

なお、市役所などが行う行政サービスは、十分効率的に行われているものとしてお考えください。(〇は1つだけ)

図 2-3-1



- 行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える
- 行政サービスは現状を維持、市民負担がその分だけ増える
- 市民負担は現状水準、行政サービスは減少する
- 行政サービスは必要最低限、市民負担はできるだけ軽減する
- その他
- 無回答

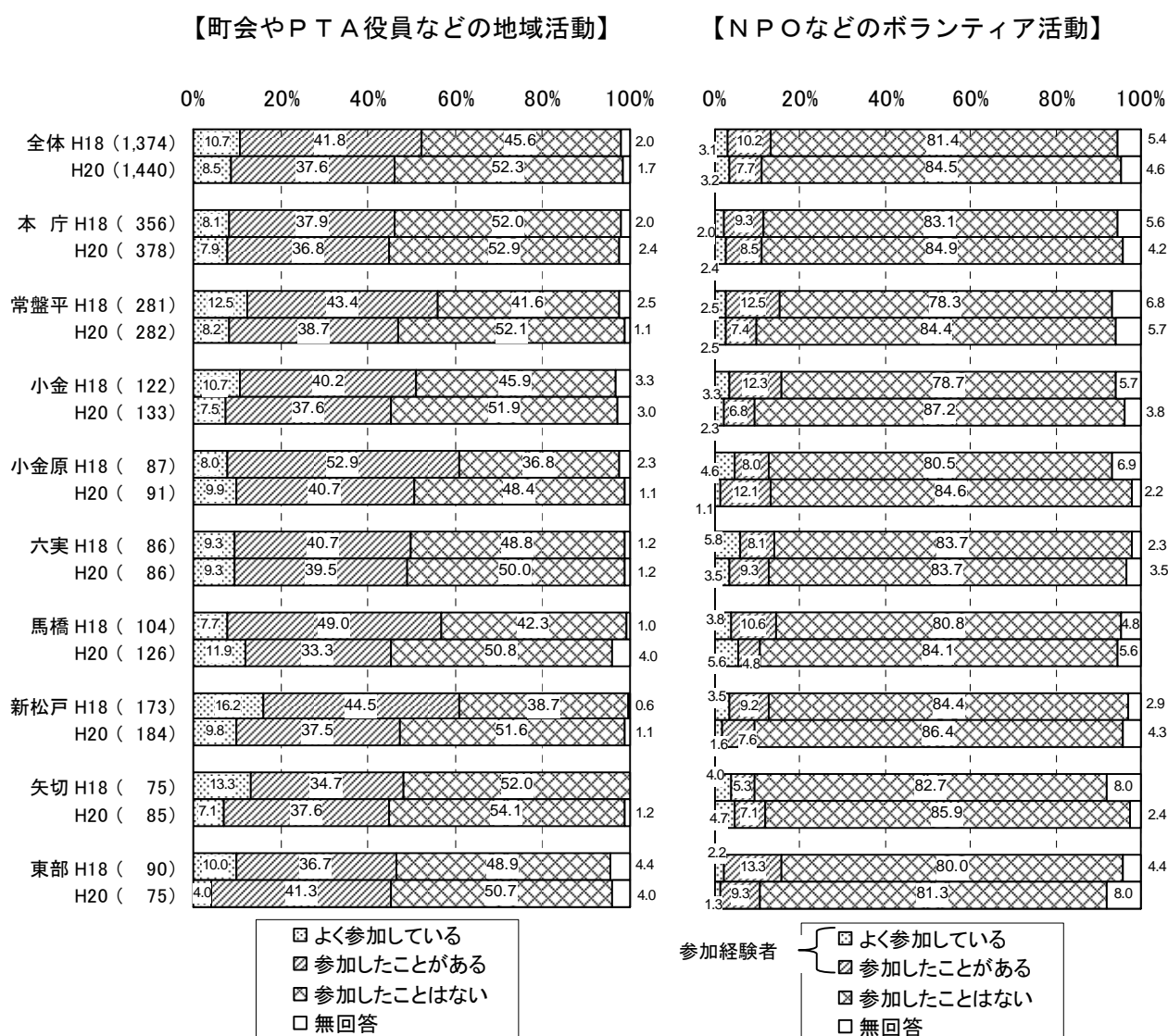
行政サービスの提供のあり方として相応しい方法としては、「行政サービスが拡大、市民負担は大きく増える」では、東部地区が最も高く 9.3%、本庁地区が最も低く 5.8%となっている。一方、「行政サービスは必要最小限、市民負担はできるだけ軽減する」では、東部地区が最も高く 45.3%、馬橋地区が最も低く 32.5%となっている。

(4) 地域活動やボランティアへの参加状況と参加意向

問5 平成10(1998)年のNPO法(特定非営利活動促進法)の施行後、NPO法人は増加し、市内で活動するNPOは、114団体になります(平成20年12月現在)。人口減少社会における市民の多様化するニーズに対応するためには、市役所などの行政がサービスを全てまかなうのではなく、市民の助け合いやNPOなどの活動によってニーズを充足させていくことが期待されています。

あなたは、普段の仕事や家事、育児のほかに、町会などの地域活動やNPOなどのボランティア活動に、どの程度、参加していますか。また、今後参加してみたいと考えていますか。(○は、現在・今後とも、アとイ、それぞれ1つずつ)

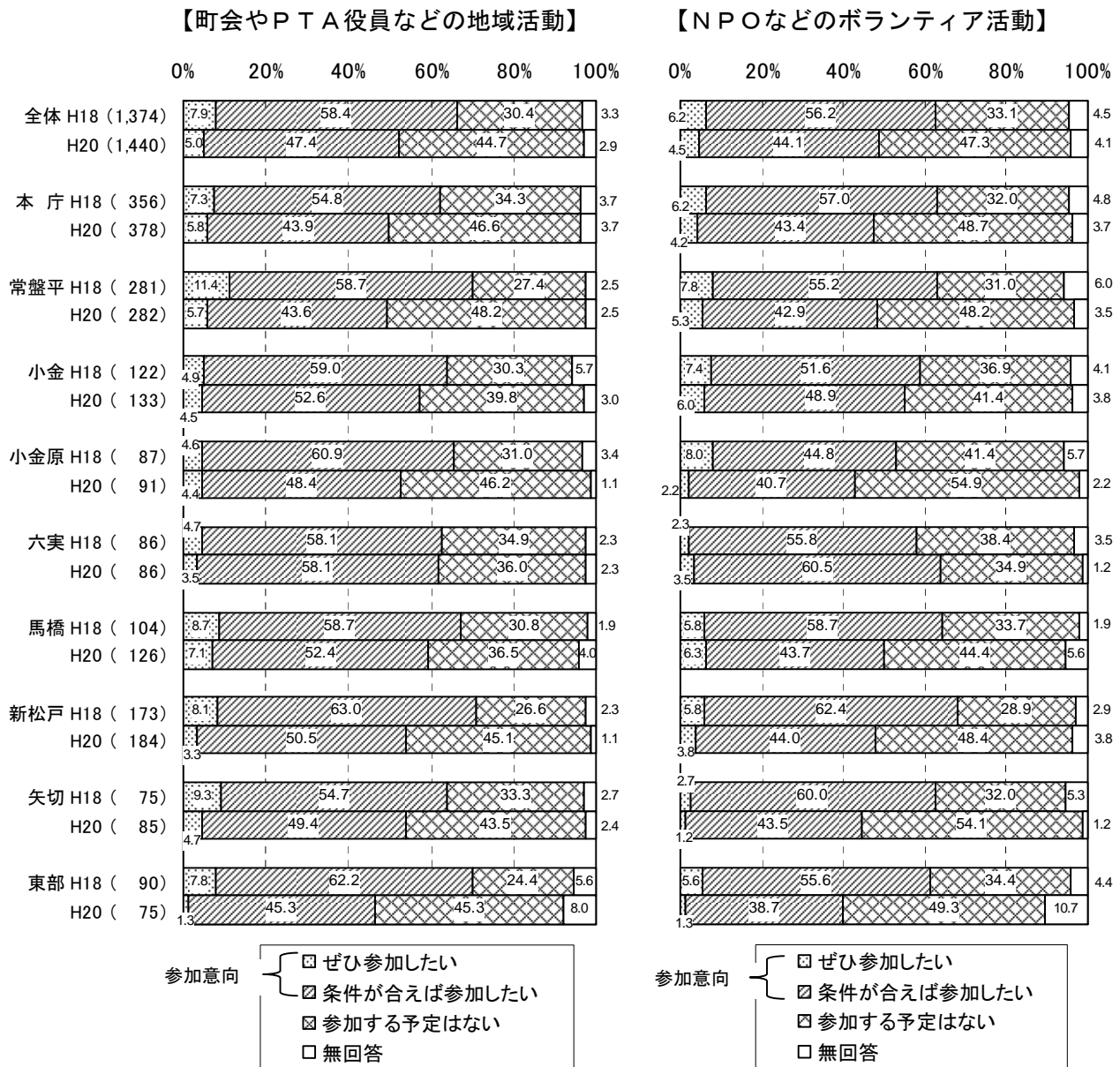
図2-4-1 現在の参加状況



現在の参加状況を地区別で見ると、〈町会やPTA役員などの地域活動〉において「よく参加している」は馬橋地区が11.9%で最も多く、次いで小金原地区の9.9%が続いている。全地区において、『参加経験者』の割合はH18年度調査よりも少なくなっている。

〈NPOなどのボランティア活動〉では、小金原地区で『参加経験者』の割合が13.2%で最も高くなっている。H18年度調査と比べると、小金原地区、矢切地区以外は、『参加経験者』の割合は少なくなっている。

図2-4-2 今後の参加意向



今後の参加意向を地区別で見ると、〈町会やPTA活動などの地域活動〉では、馬橋地区で「ぜひ参加したい」が7.1%と最も多いが、全地区においてH18年度よりも割合は低くなっている。

〈NPOなどのボランティア活動〉では、馬橋地区で「ぜひ参加したい」が6.3%で最も多く、小金地区の6.0%が続いている。馬橋地区と六実地区では、H18年度よりも「ぜひ参加したい」人の割合が高くなっている。

(5) 現状評価と重要度

問 10 松戸市が今後も発展し続けていくためには、社会・経済環境などの様々な「環境の変化」に的確に対応し、市民の皆さまのニーズが増えているところに重点的に資源配分していくことが重要と考えられます。そこで、松戸市がこうなっているとよいと思われる状態を次のように整理しました。

あなたは、それぞれの項目について、現状をどのように評価し(現状評価)、今後取り組むことがどのくらい重要(今後の重要度)だとお考えですか。松戸市に税金を納める立場として、どのようなことに税金が使われるべきかという観点でお答えください。

項目ごとに現状評価と重要度について、あなたのお考えに一番近い番号を「1～4」の中から、それぞれ1つ選んで、番号に○印をつけてください。

評価点は、「十分な状態である(重要である)」を4点、「まあまあ状態である(まあまあ重要である)」を2点、「やや不十分な状態である(あまり重要ではない)」を-2点、「不十分な状態である(重要ではない)」を-4点として、各選択肢の回答者数に乘じ、無回答を除く回答者数で除したものである。回答者全員が満足(重要)であれば、平均4点、回答者全員が不満(重要でない)であれば平均-4点となる。

現状評価・重要度の散布図の分析

各施策の分布状況については、現状評価を横軸に、重要度を縦軸にとり、24項目を相対的に評価するため、各平均値を境として、4つの領域に分類した。

また、スペースの関係で、図中の項目は省略した表記を用いているが、調査票上の表記は下記のとおりである。

調査票上の選択肢		図中
(ア)	市民と行政との協働のルールが確立されている	協働
(イ)	一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会になっている	人権
(ウ)	自らの健康に関心を持ちながら行動できる市民が多数いる	健康
(エ)	高齢者や障害を持つ人など生活支援が必要な市民が、地域の支え合いの中で自立した生活を送れるようになっている	生活支援（福祉）
(オ)	次の世代を担う子どもたちが、地域の支え合いの中で健やかに生まれ育っている	子育て
(カ)	地域の医療機関と役割分担し、市立病院が救命救急医療や小児医療などの充実を図っている	市立病院
(キ)	家庭、地域、学校の連携により、子どもたちが将来の目標を持てるように、一人ひとりにあった学習環境が用意されている	学校教育
(ク)	生涯学習やスポーツが、手軽に始められるようになっている	生涯学習・スポーツ
(ケ)	市内の身近なところで、松戸の歴史や文化が感じられるようになっている	歴史・文化
(コ)	市民一人ひとりが、災害発生時における自らの役割を自覚し、被害の軽減や復旧に向けての行動がとれるようになっている	防災
(サ)	地域社会の連携と協働により、火災等の災害による被害が軽減されている	火災対策
(シ)	より適切な救急救命処置ができるようになっている	救急救命
(ス)	もったいない精神が浸透し、自分のできる範囲で、環境にやさしい取り組みをしている	環境対策
(セ)	「自分のまちは自分たちで守る」という意識のもと、安全で快適なまちにするための助け合いをしている	安全・安心
(ソ)	緑が保全され、身近な緑と花が増えている	緑花
(タ)	地域産業が活性化し、市内で働く人が増えている	産業振興
(チ)	多様な職場が用意され、働きたい人が、働けるようになっている	就業支援
(ツ)	安全でゆとりのある住宅に住んでいる人が多数いる	住宅環境
(テ)	公共交通機関と道路のバリアフリー化が進み、誰もが気軽に外出できる街並みが増えている	交通
(ト)	身近に水と触れあえるきれいな河川が増えている	河川
(ナ)	いつでも安心して水道水が使えるようにする	水道
(ニ)	既存の都市基盤の維持管理や緑地や水辺など環境の保全が行われている	都市の維持
(ヌ)	行政は市民ニーズを把握し、わかりやすい目標をたて、効率的でより良いサービスを提供している	行政サービス
(ネ)	中・長期的な展望に立った健全財政が維持されている	健全財政

地区別 ①本庁

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」、「(テ) 交通」が高くなっている。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(カ) 市立病院」、「(オ) 子育て」が高くなっている。

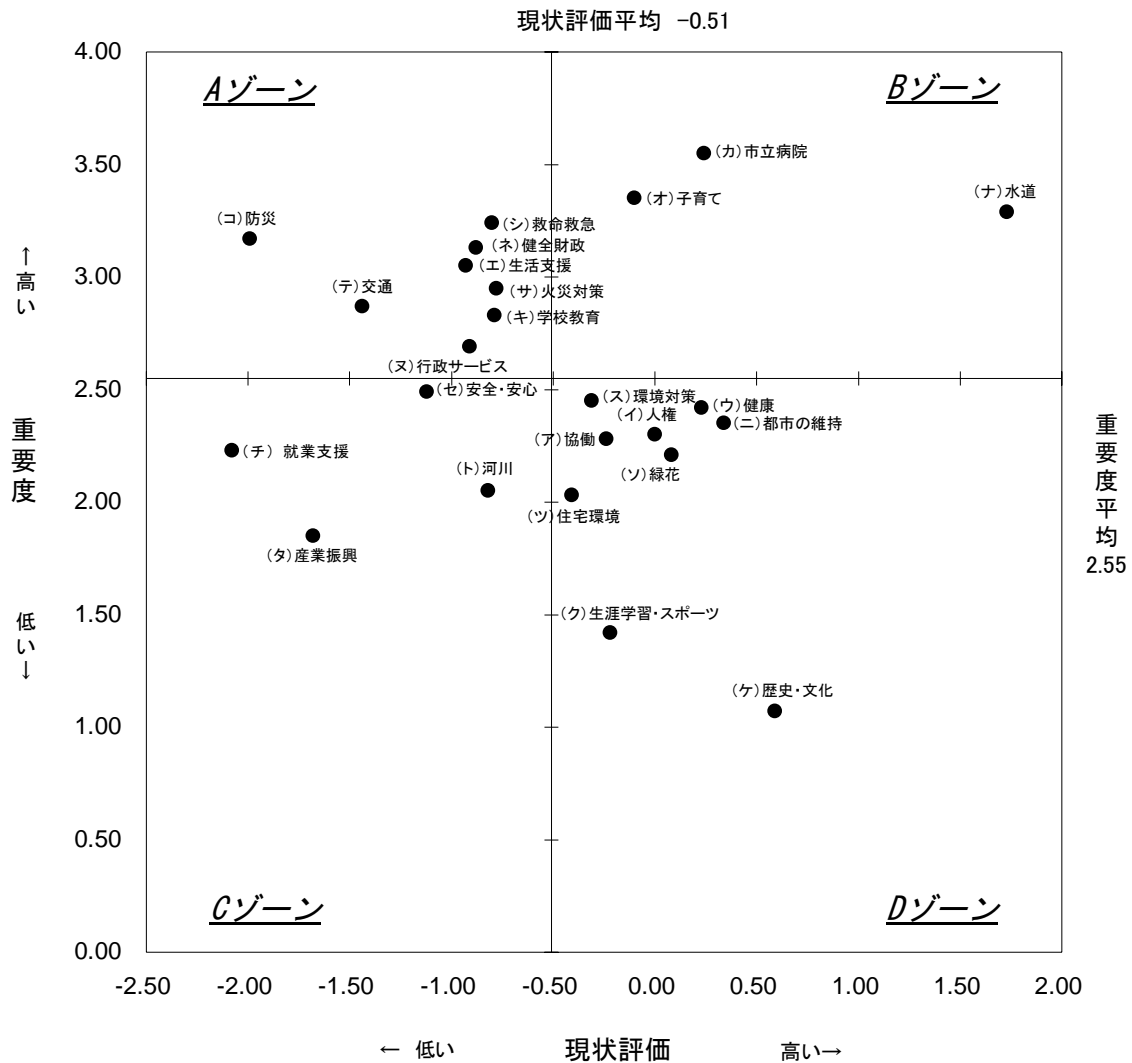
C：現状評価も重要度も低い項目

「(タ) 産業振興」、「(チ) 就業支援」があげられる。

D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」が高くなっている。

図 2-5-1 本庁



地区別 ②常盤平

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」、「(テ) 交通」のほか、「(エ) 生活支援」もあげられる。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(オ) 子育て」が高くなっている。

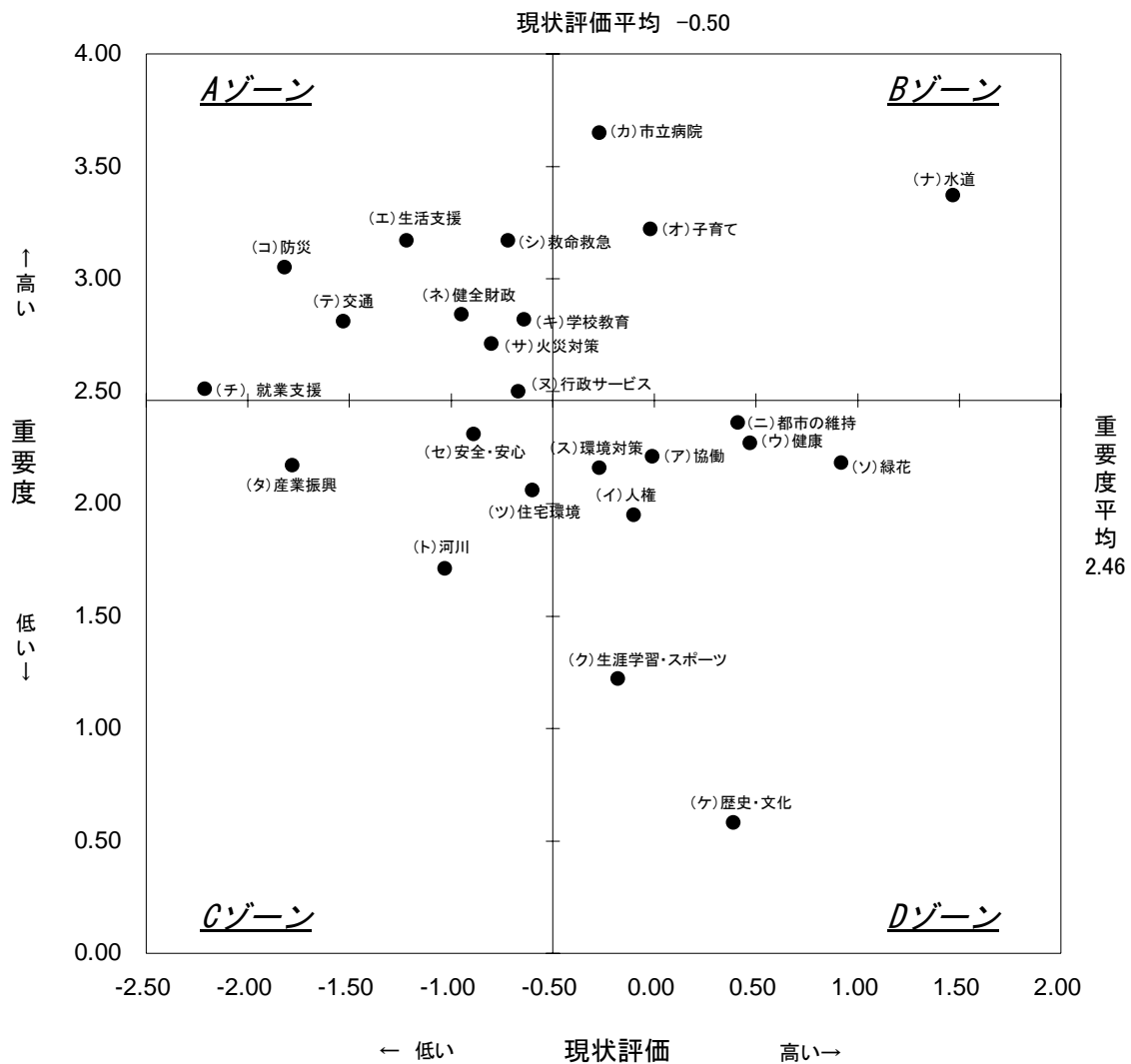
C：現状評価も重要度も低い項目

「(タ) 産業振興」、「(ト) 河川」があげられる。

D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」が高くなっている。

図 2-5-2 常盤平



地区別 ③小金

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」、「(テ) 交通」が高くなっている。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(カ) 市立病院」、「(オ) 子育て」が高くなっている。

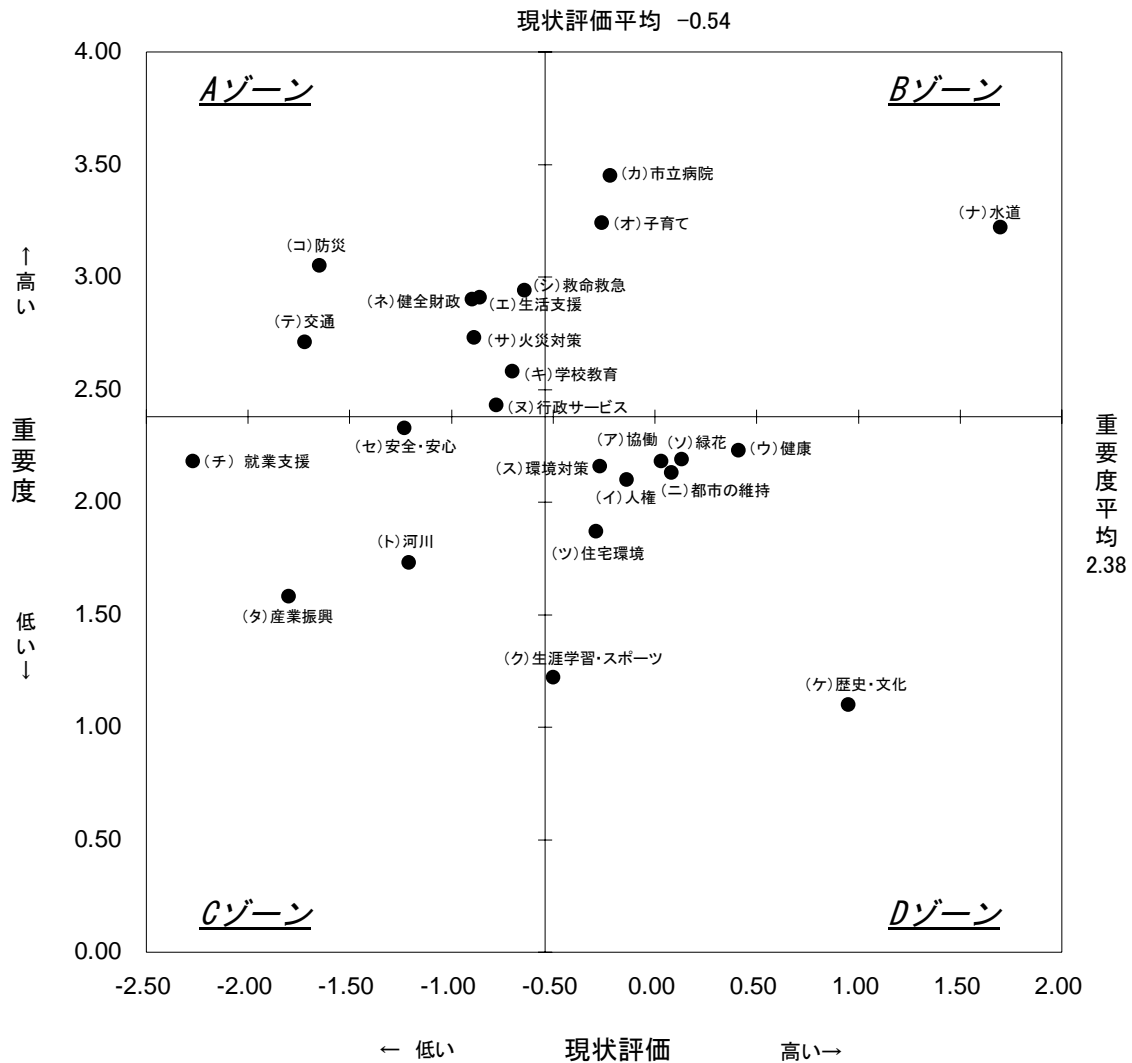
C：現状評価も重要度も低い項目

「(タ) 産業振興」、「(ト) 河川」があげられる。

D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」が高くなっている。

図 2-5-3 小金



地区別 ④小金原

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」、「(エ) 生活支援」、「(ネ) 健全財政」が高くなっている。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(オ) 子育て」があげられる。

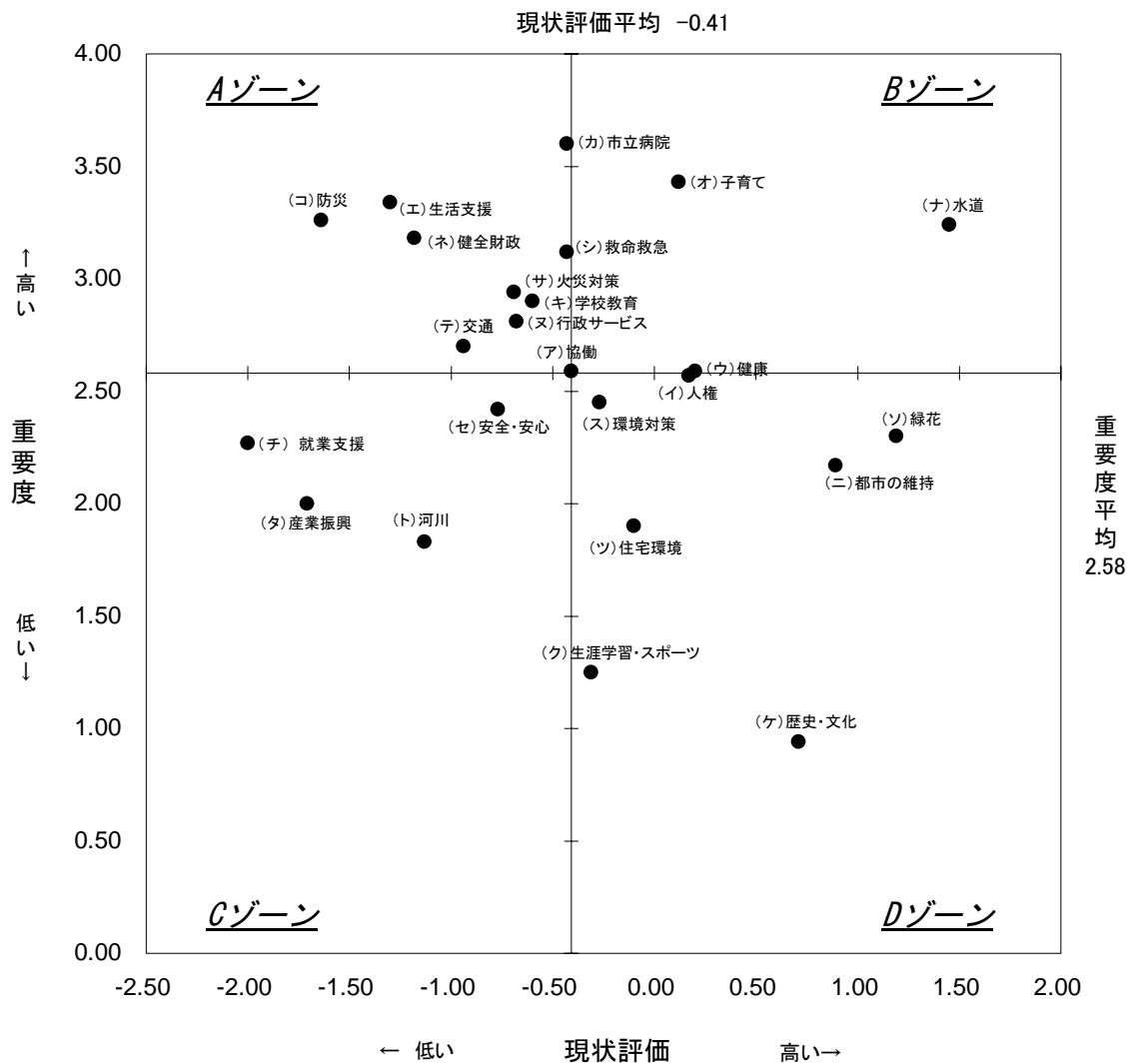
C：現状評価も重要度も低い項目

「(タ) 産業振興」、「(ト) 河川」があげられる。

D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」のほか、「(ニ) 都市の維持」が高くなっている。

図 2-5-4 小金原



地区別 ⑤六実

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」、「(ネ) 健全財政」が高くなっている。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(オ) 子育て」が高くなっている。

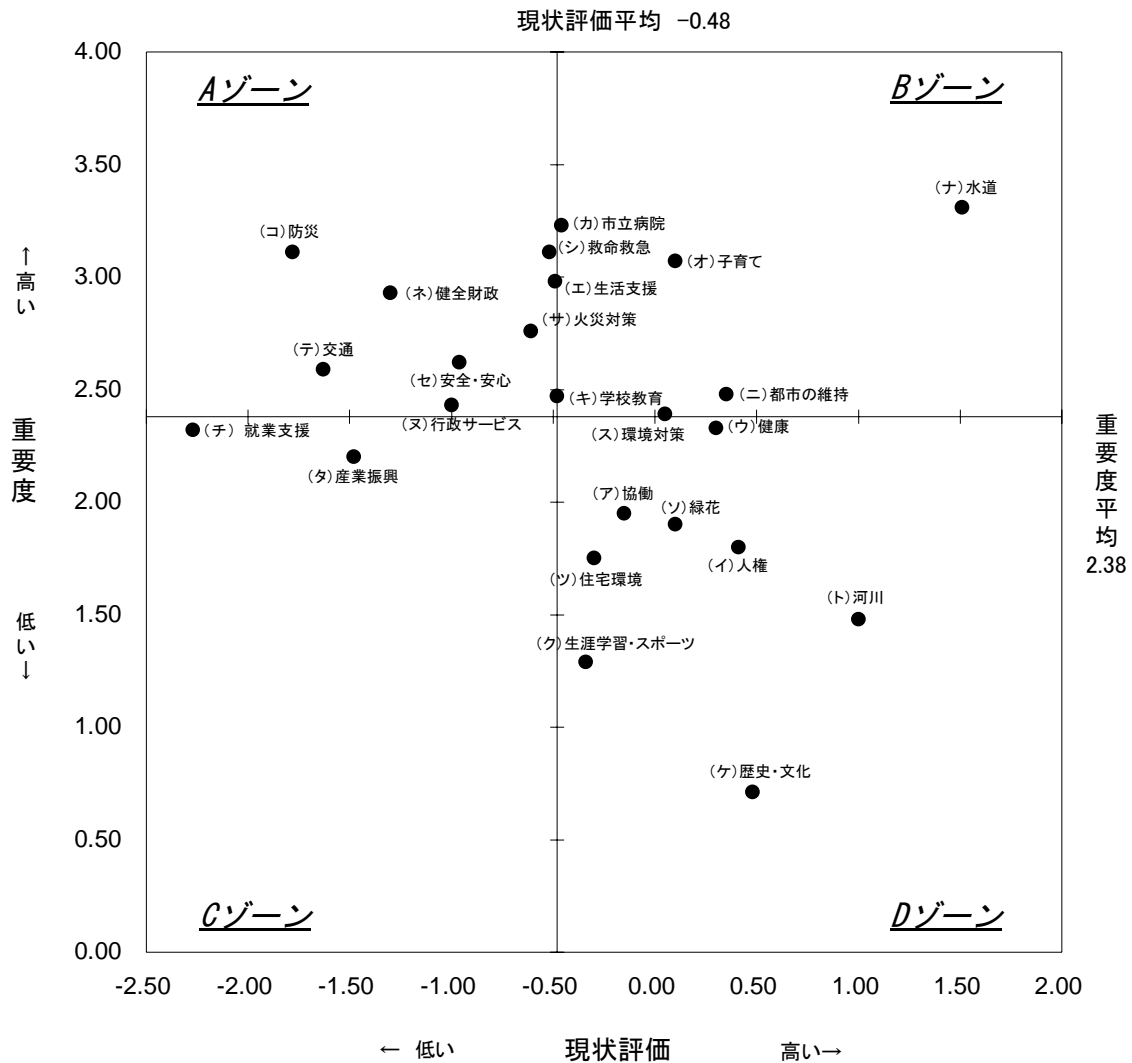
C：現状評価も重要度も低い項目

「(タ) 産業振興」があげられる。

D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」、「(ト) 河川」、「(イ) 人権」が高くなっている。

図 2-5-5 六実



地区別 ⑥馬橋

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」が高くなっている。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(カ) 市立病院」、「(オ) 子育て」が高くなっている。

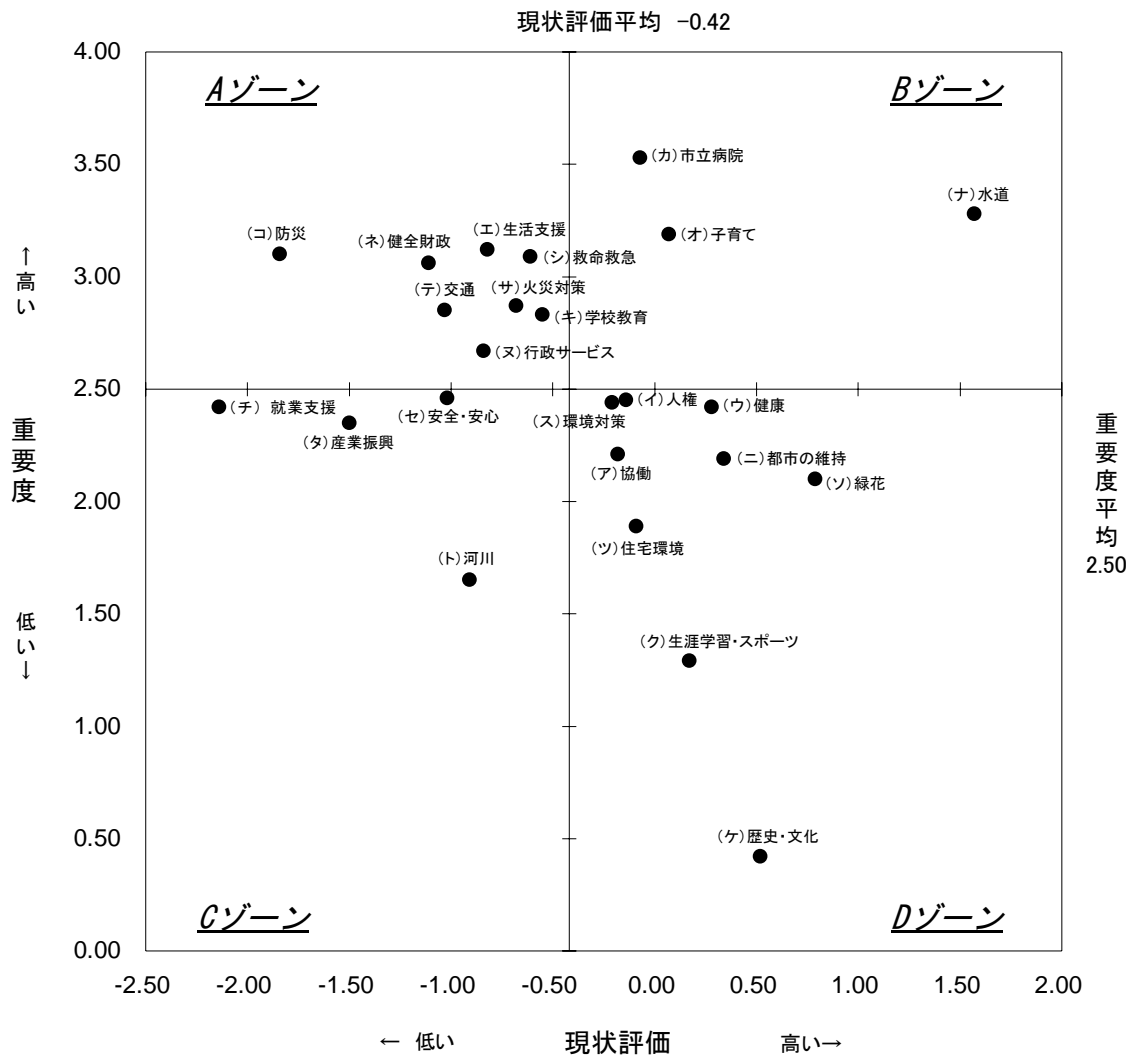
C：現状評価も重要度も低い項目

「(ト) 河川」があげられる。

D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」がとくに高くなっている。「(ク) 生涯学習・スポーツ」も高い。

図2-5-6 馬橋



地区別 ⑦新松戸

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」、「(ネ) 健全財政」などが高くなっている。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(オ) 子育て」が高くなっている。

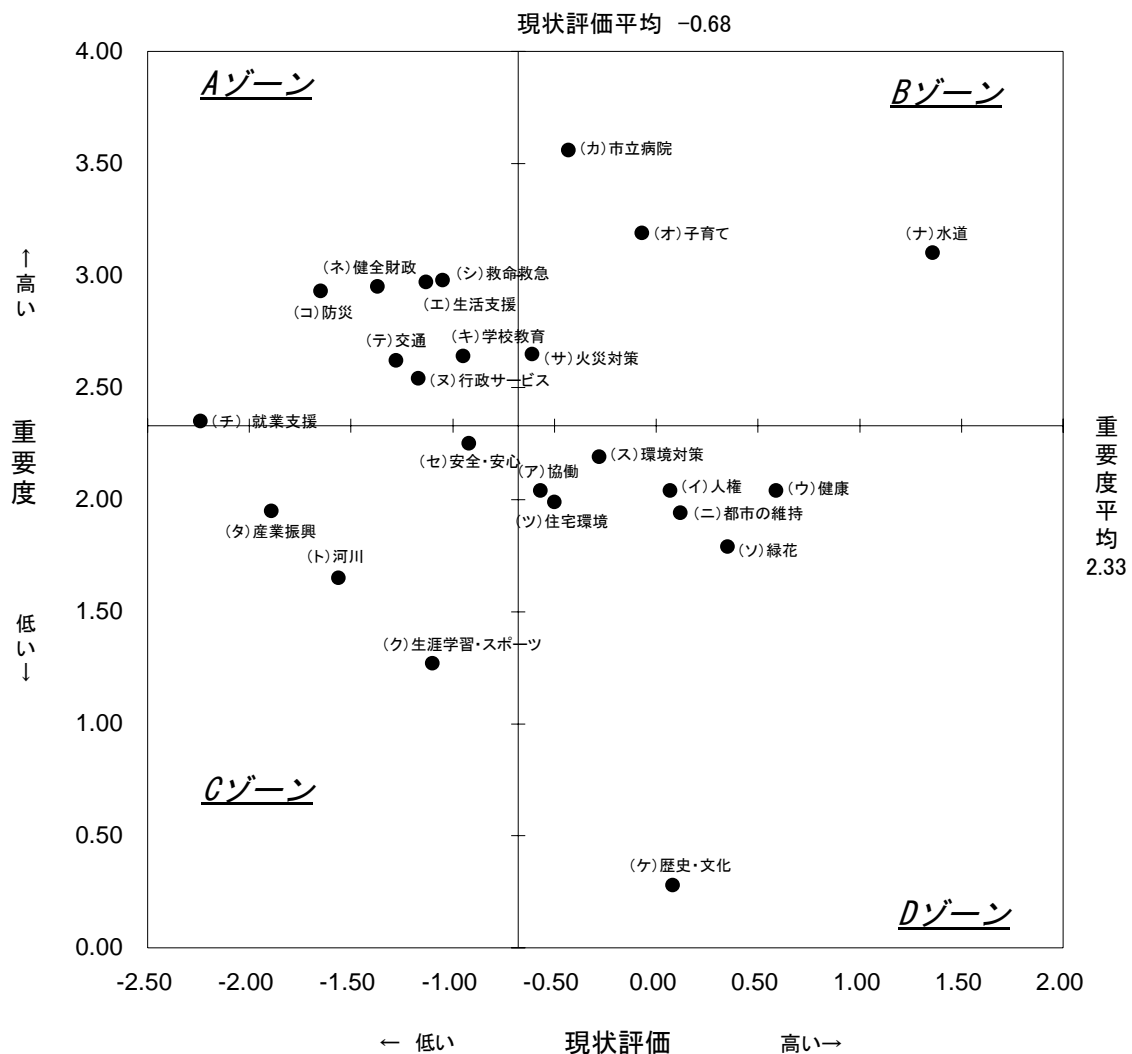
C：現状評価も重要度も低い項目

「(ト) 河川」、「(ク) 生涯学習・スポーツ」、「(タ) 産業振興」があげられる。

D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」が高くなっている。

図2-5-7 新松戸



地区別 ⑧矢切

A：現状評価が低く、重要度が高い項目

「(コ) 防災」などが高くなっている。

B：現状評価が高く、重要度も高い項目

「(ナ) 水道」、「(カ) 市立病院」、「(オ) 子育て」が高くなっている。

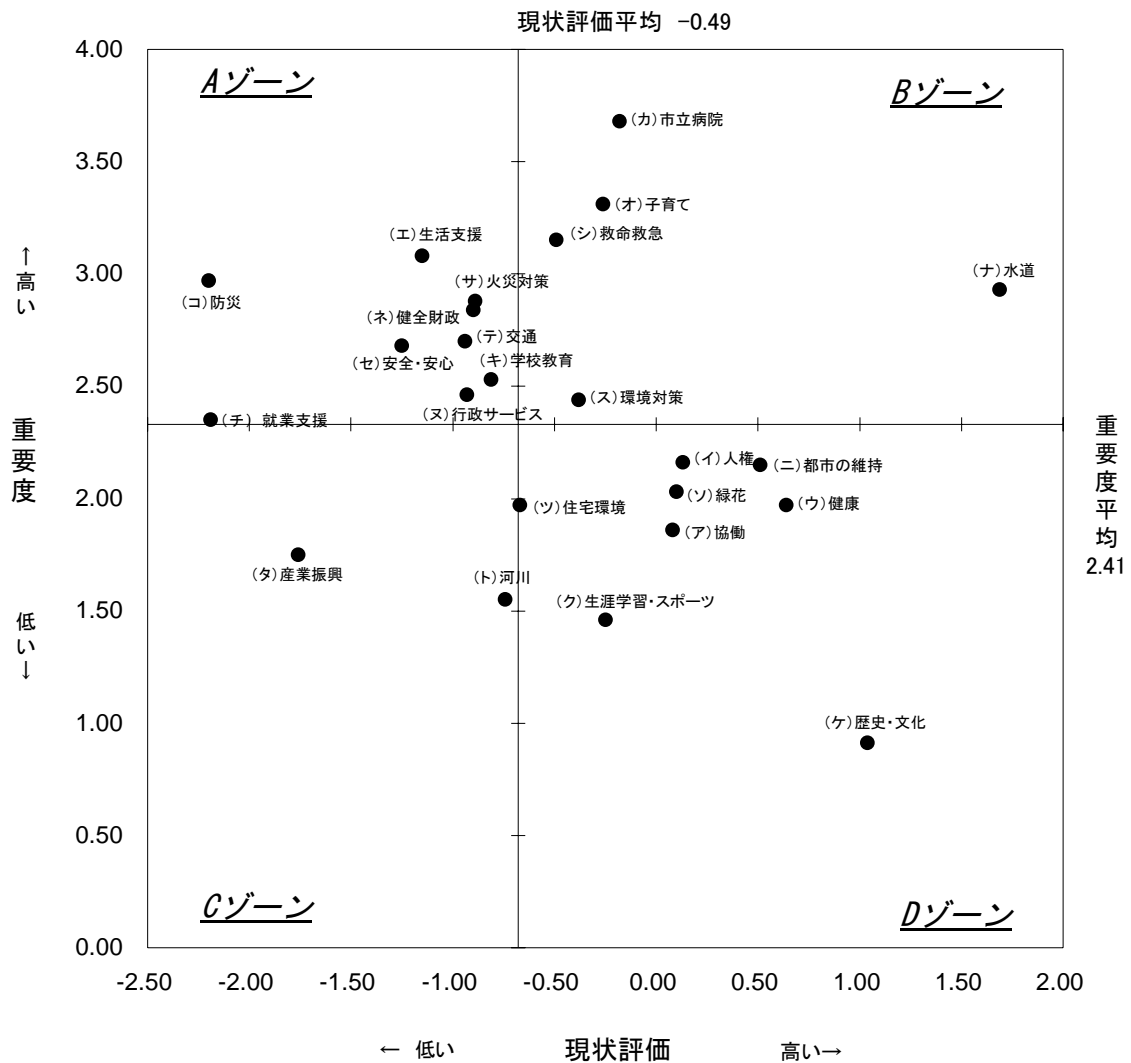
C：現状評価も重要度も低い項目

「(タ) 産業振興」があげられる。

D：現状評価が高く、重要度が低い項目

「(ケ) 歴史・文化」が高くなっている。

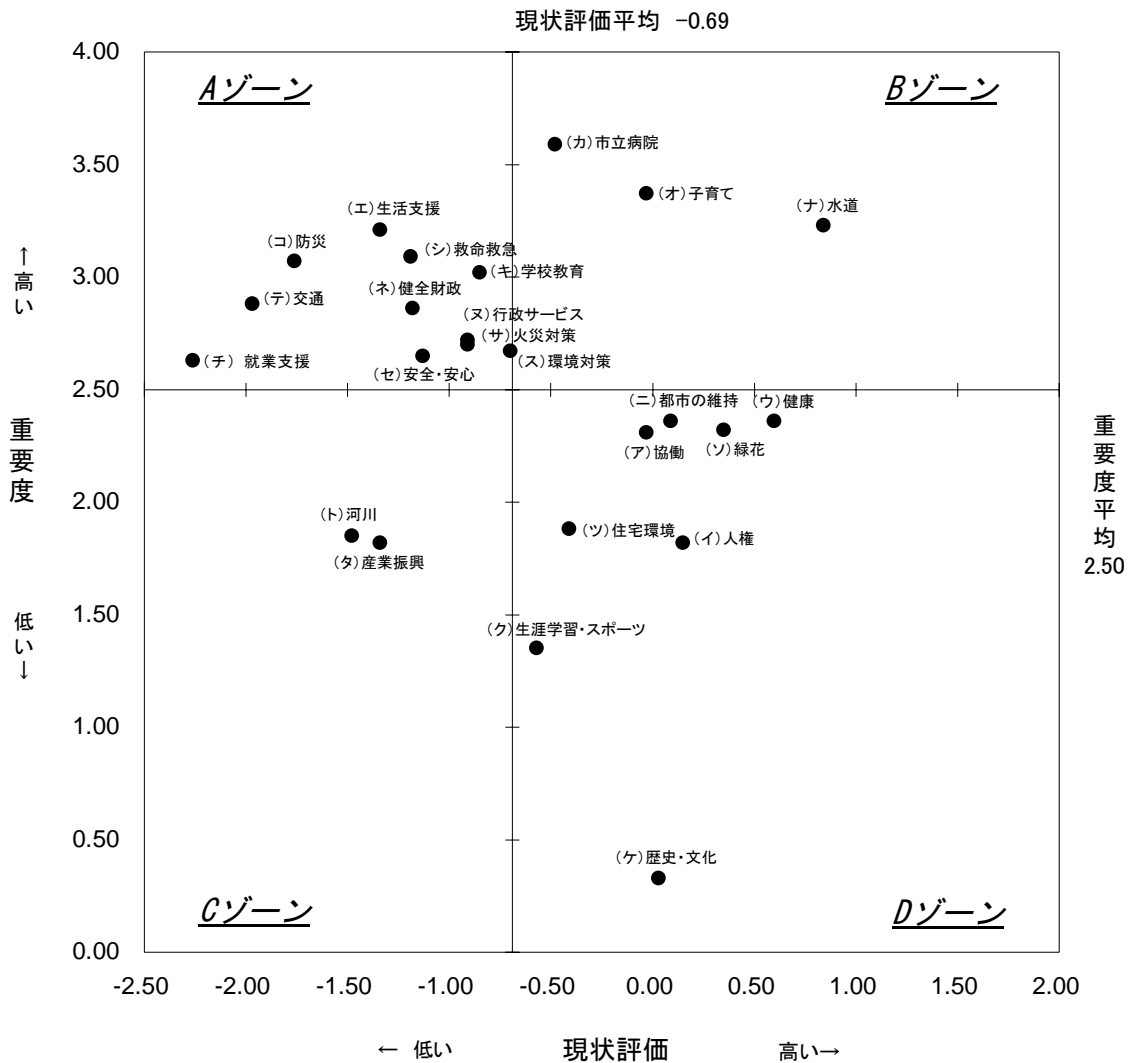
図2-5-8 矢切



地区別 ⑨東部

- A：現状評価が低く、重要度が高い項目
 「(コ) 防災」、「(テ) 交通」、「(エ) 生活支援」などが高くなっている。
- B：現状評価が高く、重要度も高い項目
 「(ナ) 水道」、「(オ) 子育て」が高くなっている。
- C：現状評価も重要度も低い項目
 「(タ) 産業振興」、「(ト) 河川」があげられる。
- D：現状評価が高く、重要度が低い項目
 「(ケ) 歴史・文化」が高くなっている。

図 2-5-9 東部

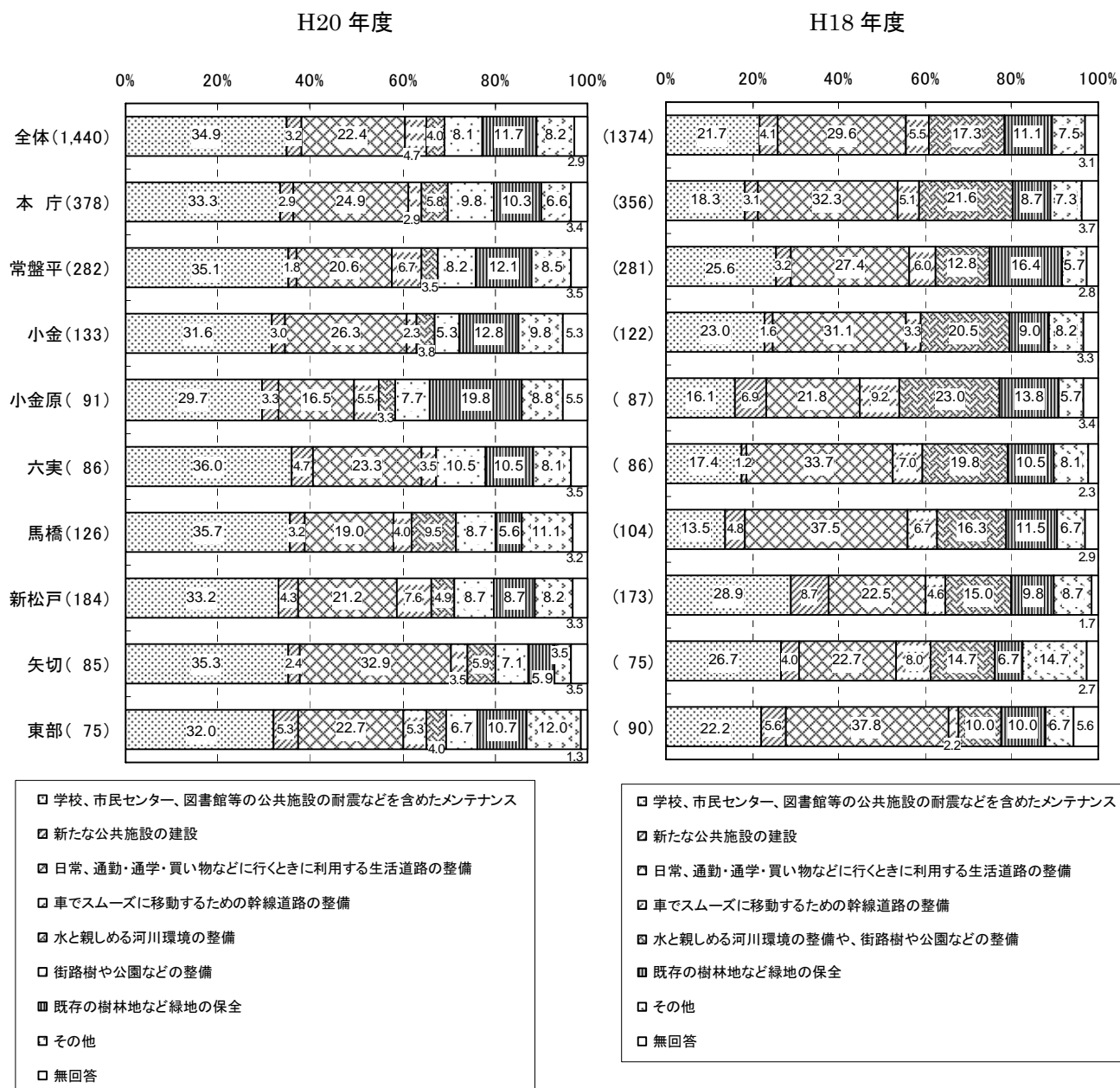


(6) 重点的に投資すべき都市基盤整備

問9 少子高齢化が進み、社会保障関係に必要な経費が年々増えており、それ以外に活用できる経費は、限られてきています。

今後の松戸市の都市基盤について、限られた財源の中で、どのようなところに重点的に投資すべきだと思いますか。(〇は1つだけ)

図2-6-1

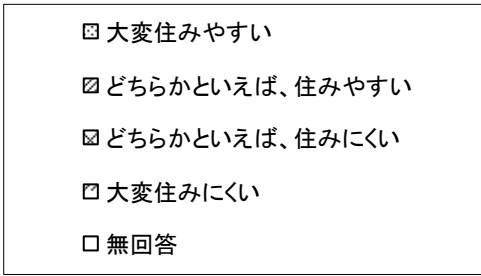
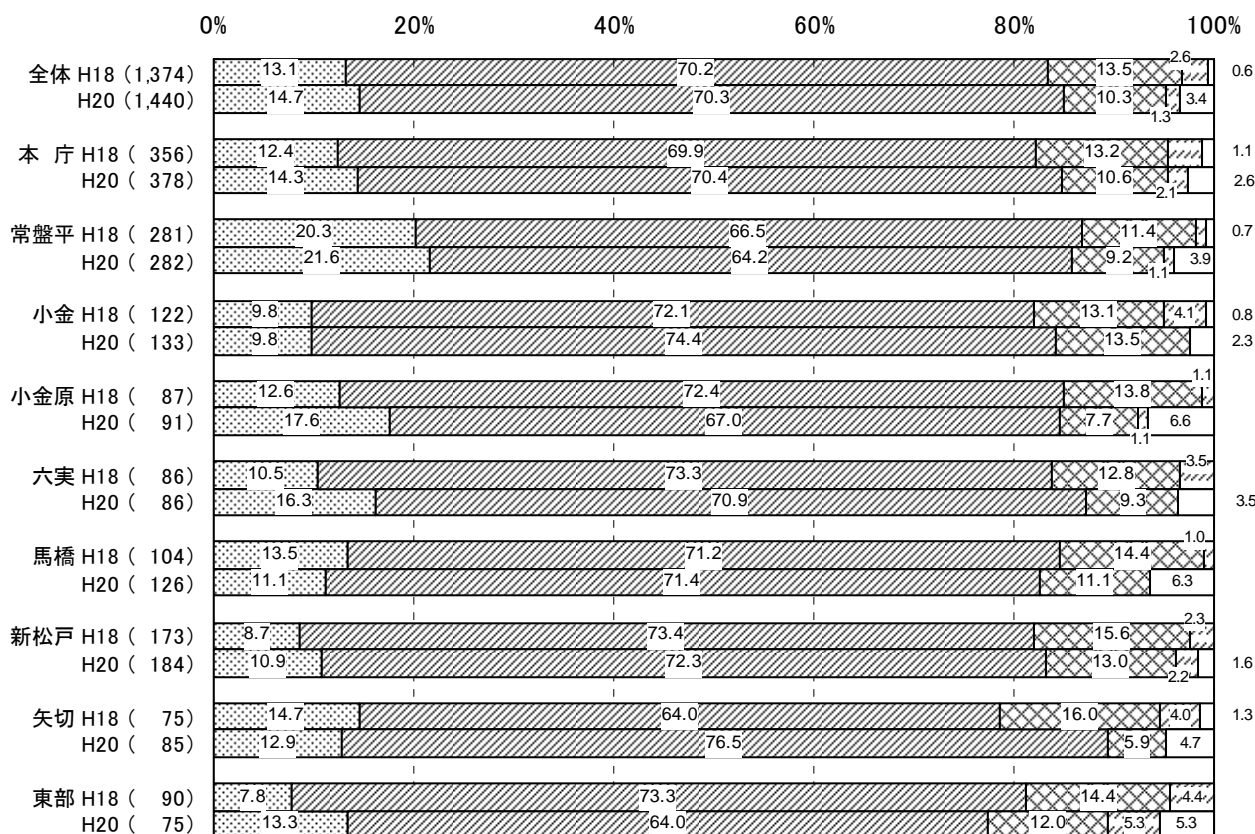


都市基盤について、限られた財源のなかで、重点的に投資すべき施設・設備としては、「生活道路の整備」では矢切地区が32.9%で最も高く、全体平均より10.5ポイント高くなっている。「河川環境の整備」では馬橋地区が9.5%で全体平均より5.5ポイント高くなっており、「緑地の保全」では小金原地区が19.8%で全体平均より8.1ポイント多くなっている。

(7) 住みやすさ

問 12 あなたにとって、松戸市は住みやすいですか。(〇は1つだけ)

図 2-7-1

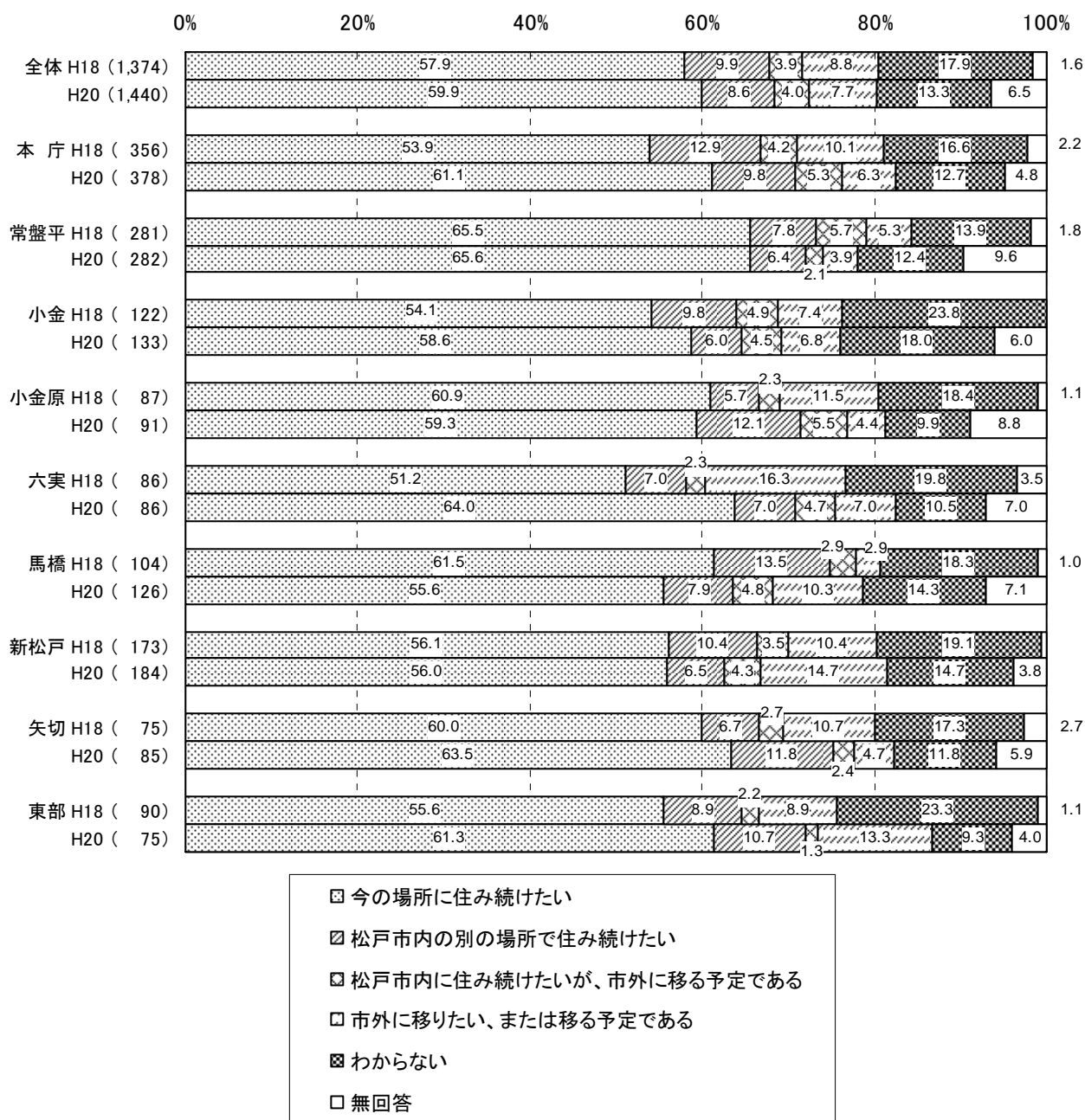


松戸市について、「大変住みやすい」では常盤平地区が 21.6%で最も多くなっており、次いで小金原地区が 17.6%、六実地区が 16.3%が続いている。「大変住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合では矢切地区が 89.4%で最も高く、次いで六実地区が 87.2%となっている。一方、最も低くなっているのは東部地区で、77.3%となっている。

(8) 定住意向

問 13 あなたは、今後も松戸市にお住みになりたいですか。(○は1つだけ)

図 2-8-1



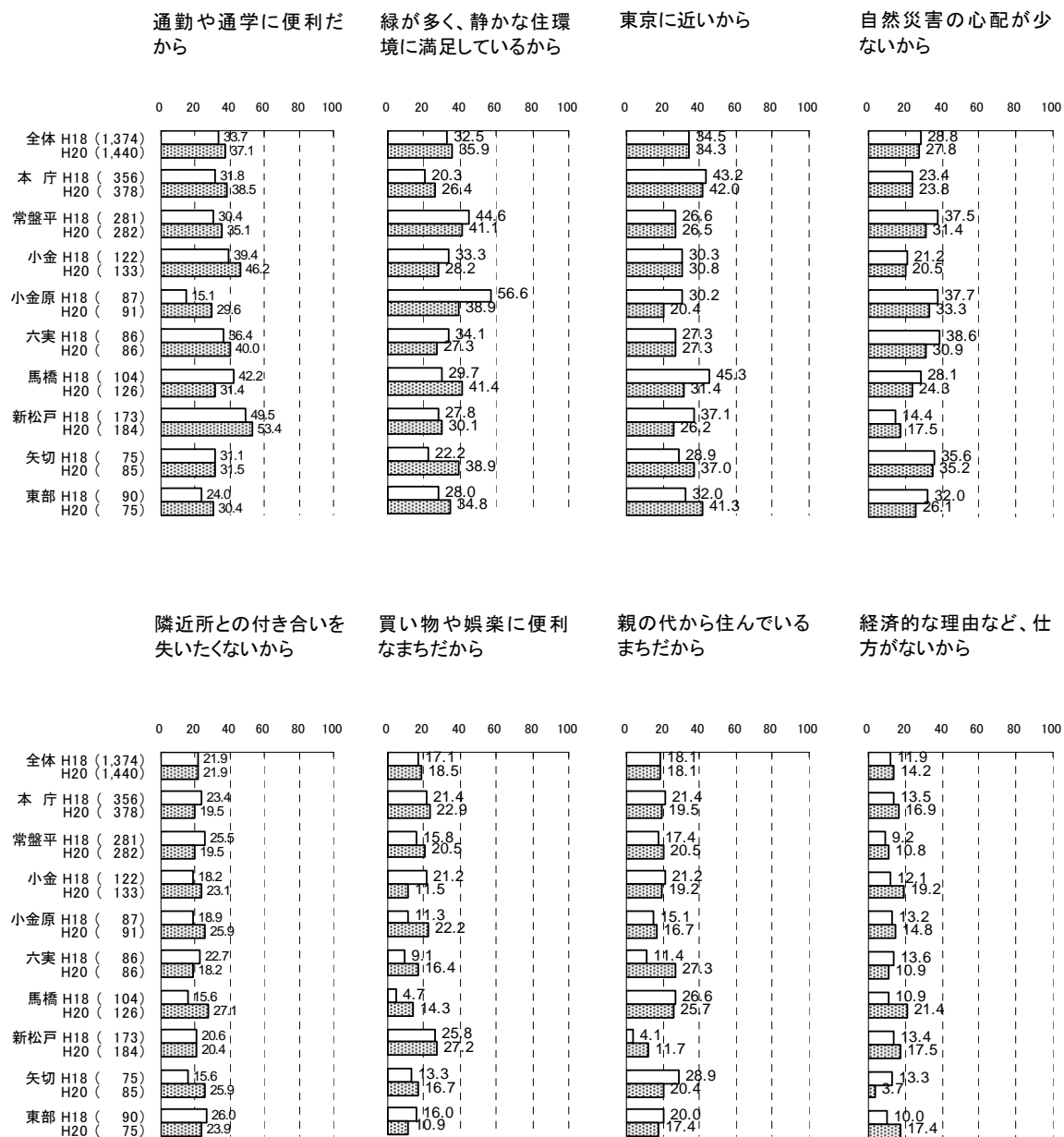
今後の松戸市への定住意向を聞いたところ、「今の場所に住み続けたい」では常盤平地区が 65.6%で最も多く、次いで六実地区が 64.0%、矢切地区が 63.5%であった。六実地区は、H18 年度調査と比べて 12.8 ポイントアップと、他地区と比べて上昇率が大きかった。

(8) - 1 定住理由

(問 13 で「1. 今の場所に住み続けたい」とお答えの方に)

問 13-1 今の場所に住み続けたい理由は何ですか。(○は3つまで)

図 2-9-1

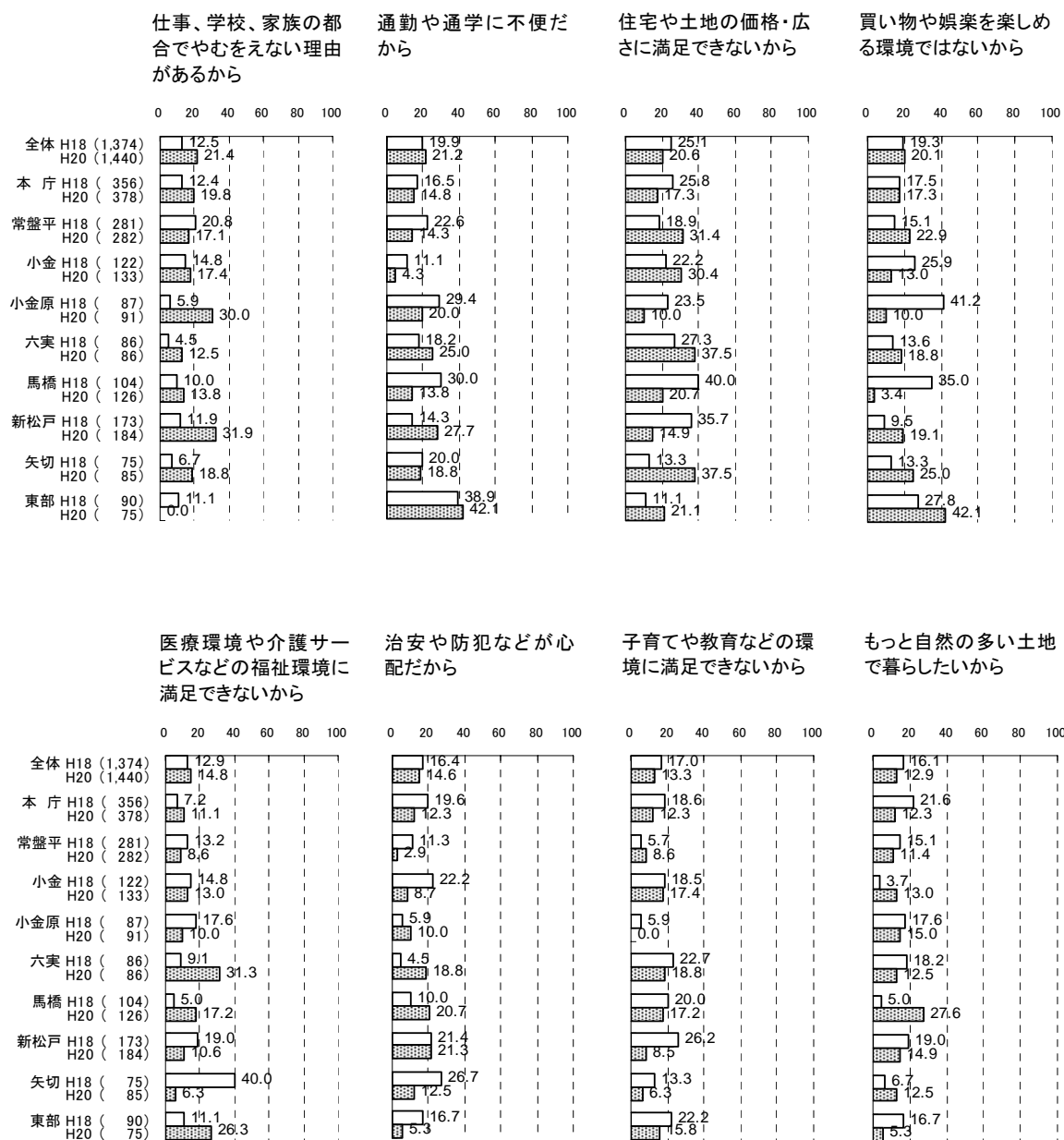


今の場所に住み続けたい理由を聞いたところ、「通勤や通学に便利だから」では新松戸地区が 53.4% で高くなっており、「緑が多く、静かな住環境に満足しているから」では馬橋地区が 41.4% で高くなっている。新松戸地区では、「自然災害の心配が少ないから」、「親の代から住んでいるまちだから」の割合が他地区に比べて低くなっている。

(8) - 2 転出理由

問 13-2 別の場所に移りたい、または移る予定の理由は何ですか。(〇は3つまで)

図2-10-1



別の場所に移りたい、または移る予定の理由を聞いたところ、「仕事、学校、家族の都合でやむをえない理由があるから」では新松戸地区が 31.9%、小金原地区が 30.0%で高くなっている。「通勤や通学に不便だから」、「買い物や娯楽を楽しめる環境ではないから」では東部地区が、「医療環境や介護サービスなどの福祉環境に満足できないから」では六実地区が、他地区に比べて高い割合となっている。

